

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治		2学期	1	2	1
	PLS110F	藤田 俊	1年			
	異文化理解の基礎		2学期	1	2	2
	ANT110F	神原 ゆうこ	1年			
	ことばの科学		2学期	1	2	3
	LIN110F	漆原 朗子	1年			
	国際学入門		2学期	1	2	4
	IRL100F	伊野 憲治	1年			
	生活世界の哲学		1学期	1	2	5
	PHR110F	高木 駿	1年			
	日本の防衛		2学期	1	2	6
	PLS111F	戸蒔 仁司	1年			
	生命と環境		1学期	1	2	7
	BIO100F	日高 京子 他	1年			
	情報社会への招待		2学期	1	2	8
	INF100F	中尾 泰士	1年			
	環境問題概論		1学期	1	2	9
	ENV100F	廣川 祐司	1年			
	環境問題概論		2学期	1	2	10
	ENV100F	廣川 祐司	1年			
可能性としての歴史		1学期	2	2	11	
HIS200F	藤田 俊	2年				
現代社会と文化		1学期	2	2	12	
ANT210F	神原 ゆうこ	2年				
言語と認知		2学期	2	2	13	
LIN210F	漆原 朗子 他	2年				
共生社会論		2学期	2	2	14	
SOW200F	伊野 憲治	2年				
共同体と身体		1学期	2	2	閉講	
PHR210F	閉講	2年				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	15
		2年			
	生命科学と社会 BIO200F 閉講	1学期	2	2	
		2年			
情報社会を読む INF200F 閉講	1学期	2	2		
	2年				
地域資源管理論 ENV200F 閉講	2学期	2	2		
	2年				
■教養演習科目	教養演習 A I (防衛セミナー) GES201F 戸蒔 仁司	1学期	2	2	16
		2年			
	教養演習 A I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	17
		2年			
	教養演習 A I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	18
		2年			
	教養演習 A II GES202F 高木 駿	2学期	2	2	19
		2年			
	教養演習 A II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	20
		2年			
教養演習 B I GES301F 閉講	1学期	3	2		
	3年				
教養演習 B II GES302F 閉講	2学期	3	2		
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	21
		1年			
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	22
		1年			
地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	23
		1年			
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	24
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	25
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	26
		1年			
	私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文化と表象 MCC001F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
言語とコミュニケーション LIN001F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期	1	2	27	
	1年				
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	28	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	29
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	1学期	1	2	30
		1年			
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	31
		1年			
	政治のなかの文化 ANT001F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	32
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 高木 駿	1学期	1	2	33
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	34
		1年			
	共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	法律の読み方 LAW002F 中村 英樹 他	2学期	1	2	35
		1年			
社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	36	
	1年				
企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	37	
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 休講	1学期	1	2	38
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	39
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	40
		1年 (2015年度以降入学生)			
	地域防災への招待 SSS001F 未定	1学期	1	2	41
		1年 (2015年度以降入学生)			
	現代の国際情勢 IRL003F 篠崎 香織 他	1学期	1	2	42
		1年			
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	43
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	44
		1年			
	テロリズム論 PLS001F 閉講	1学期	1	2	45
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	46
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	47
		1年			
国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	48	
	1年				
韓国の社会と文化 ARE010F 金 慶湖	2学期	1	2	49	
	1年				
エスニシティと多文化社会 IRL001F 閉講	1学期	1	2	50	
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	51	
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	52	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	45
		1年			
	戦後の日本経済 ECN002F 閉講	2学期	1	2	46
		1年			
	ものと人間の歴史 HIS003F 閉講	1学期	1	2	47
		1年			
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	48	
	1年				
■教職関連科目	ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	49
		1年			
	日本史 HIS110F 加藤 絢子	1学期	1	2	50
		1年			
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	51
		1年			
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	52
		1年			
	人文地理学 GEO110F 美谷 薫	2学期	1	2	53
		1年			
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	54
		1年			
地誌学 GEO112F 美谷 薫	2学期	1	2	55	
	1年				
日本国憲法 LAW120F 棟形 康平	2学期	1	2	56	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	57
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	58
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	59
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	55
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 豊田 直樹	1学期	1	2	56
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本 浩二	2学期	1	2	57
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	58
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	59
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	60
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	61
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	62
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	63
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	64
		1年			
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 八板 昭仁	1学期	1	1	65	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 八板 昭仁	2学期	1	1	66	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	67	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	68	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボー HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	69	
	1年				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	70
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 豊田 直樹	2学期	1	1	71
		1年			
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 真鍋 和博	1学期	1	2	72
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	73
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	74
		1年			
	コミュニケーション実践 CAR111F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	75
		2年			
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	76
		2年			
	地域の達人 CAR212F 休講	2学期	2	2	
		2年			
サービ斯拉ーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	77	
	1年				
サービ斯拉ーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	78	
	1年				
プロジェクト演習I CAR280F 閉講	1学期	2	2		
	2年				
プロジェクト演習II CAR281F 閉講	2学期	2	2		
	2年				
プロジェクト演習III CAR380F 閉講	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習IV CAR381F 閉講	2学期	3	2	
	3年				
■教養特講	教養特講I SPL001F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) SPL002F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	教養特講III SPL003F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	教養特講IV SPL004F 休講	2学期	1	2	
	1年				
■地域科目	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	79
	1年 (2016年度以降入学生)				
	地域の社会と経済 ECN170F 李 錦東	1学期	1	2	80
	1年 (2016年度以降入学生)				
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	2	2	81
	2年 (2016年度以降入学生)				
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	82
	2年 (2016年度以降入学生)				
	まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	83
	2年 (2016年度以降入学生)				
	まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	84
	3年 (2016年度以降入学生)				
■情報教育科目	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	
	2年				
	情報メディア演習 INF330F 閉講	1学期	3	2	
	3年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (英 1 - A) ENG101F アーノルド・ウエイン	1学期	1	1	85
	英 1 - A				
	英語I (英 1 - B) ENG101F クリスティン・マイスター	1学期	1	1	86
	英 1 - B				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (英 1 - C) ENG101F ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	87
		英 1 - C			
	英語I (英 1 - D) ENG101F アーノルド・ウエイン	1学期	1	1	88
		英 1 - D			
	英語II (国 1 - A、英 1 - A) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	89
		国 1 - A、英 1 - A			
	英語II (国 1 - B、英 1 - B) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	90
		国 1 - B、英 1 - B			
	英語II (国 1 - C、英 1 - C・ D) ENG111F 團迫 雅彦	2学期	1	1	91
		国 1 - C、英 1 - C・ D			
	英語III (英 1 - A) ENG102F クリスティン・マイスター	1学期	1	1	92
		英 1 - A			
	英語III (英 1 - B) ENG102F クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	93
		英 1 - B			
	英語III (英 1 - C) ENG102F ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	94
		英 1 - C			
	英語III (英 1 - D) ENG102F 藤下 友子	1学期	1	1	95
	英 1 - D				
英語IV (国 1 - A、英 1 - A) ENG112F マーニー・セイディ	2学期	1	1	96	
	国 1 - A、英 1 - A				
英語IV (国 1 - B、英 1 - B) ENG112F デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	97	
	国 1 - B、英 1 - B				
英語IV (国 1 - C、英 1 - C・ D) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	98	
	国 1 - C、英 1 - C・ D				
英語V (国 2 - A、英 2 - A・ B) ENG201F 木梨 安子	1学期	2	1	99	
	国 2 - A、英 2 - A・ B				
英語V (国 2 - B・ C、英 2 - C・ D) ENG201F 杉山 智子	1学期	2	1	100	
	国 2 - B・ C、英 2 - C・ D				
英語VI (英 1 - A) ENG211F クリスティン・マイスター	2学期	2	1	101	
	英 1 - A				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VI (英 1-B) ENG211F デニス・ジョーンズ	2学期	2	1	102
		英 1 - B			
	英語VI (英 1-C) ENG211F 藤下 友子	2学期	2	1	103
		英 1 - C			
	英語VI (英 1-D) ENG211F クリスティン・マイスター	2学期	2	1	104
		英 1 - D			
	英語VII (国 2-A、英 2-A・ B) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	105
		国 2 - A、英 2 - A・ B			
	英語VII (国 2-B・ C、英 2-C・ D) ENG202F マーニー・セイティ	1学期	2	1	106
		国 2 - B・ C、英 2 - C・ D			
	英語VIII (英 1-A) ENG212F カール・マックナマラ・ヘイジ	2学期	2	1	107
		英 1 - A			
	英語VIII (英 1-B) ENG212F リーサ ハンズバーガー	2学期	2	1	108
		英 1 - B			
	英語VIII (英 1-C) ENG212F カール・マックナマラ・ヘイジ	2学期	2	1	109
		英 1 - C			
英語VIII (英 1-D) ENG212F リーサ ハンズバーガー	2学期	2	1	110	
	英 1 - D				
英語IX (英中国済営比人律政 3年) ENG301F 伊藤 晃	1学期	3	1	111	
	英中国済営比人律政 3年				
英語X (英中国済営比人律政 3年) ENG311F 杉山 智子	2学期	3	1	112	
	英中国済営比人律政 3年				
英語XI (英中国済営比人律政 3年) ENG302F ロバート・マーフィ	1学期	3	1	113	
	英中国済営比人律政 3年				
英語XII (英中国済営比人律政 3年) ENG312F デビット・ニール・マクレラン	2学期	3	1	114	
	英中国済営比人律政 3年				
■第二外国語	中国語I CHN101F 板谷 秀子	1学期	1	1	115
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語I CHN101F 小椋 吾郎	1学期	1	1	116
		英 1 - 3・ 1 - 4			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語II CHN111F 板谷 秀子	2学期	1	1	117
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語II CHN111F 小椋 吾郎	2学期	1	1	118
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語III CHN102F 陳 青鳳	1学期	1	1	119
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語III CHN102F 未定	1学期	1	1	120
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語IV CHN112F 陳 青鳳	2学期	1	1	121
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語IV CHN112F 未定	2学期	1	1	122
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	123
		英済営人律政群 2年			
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	124
		英済営人律政群 2年			
	中国語VII CHN202F 未定	1学期	2	1	125
		英済営人律政群 2年			
	中国語VIII CHN212F 未定	2学期	2	1	126
		英済営人律政群 2年			
上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	127	
	英国済営比人 3年				
上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	128	
	英国済営比人 3年				
上級中国語III CHN302F 王 晨	1学期	3	1	129	
	英国済営比人 3年				
上級中国語IV CHN312F 王 晨	2学期	3	1	130	
	英国済営比人 3年				
朝鮮語I (1 - a) KRN101F 吳 香善	1学期	1	1	131	
	英中比人 1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅰ (1 - b)		1学期	1	1	132
	KRN101F	金 元正	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅰ (1 - c)		1学期	1	1	133
	KRN101F	安 滯珠	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅰ (1 - d)		1学期	1	1	134
	KRN101F	金 京姫	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅱ (1 - a)		2学期	1	1	135
	KRN111F	奈良 美香	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅱ (1 - b)		2学期	1	1	136
	KRN111F	金 慶湖	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅱ (1 - c)		2学期	1	1	137
	KRN111F	安 滯珠	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅱ (1 - d)		2学期	1	1	138
	KRN111F	金 京姫	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅲ (1 - a)		1学期	1	1	139
	KRN102F	金 惠媛	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅲ (1 - b)		1学期	1	1	140
	KRN102F	呉 珠熙	英中比人 1年			
朝鮮語Ⅲ (1 - c)		1学期	1	1	141	
KRN102F	安 滯珠	英中比人 1年				
朝鮮語Ⅲ (1 - d)		1学期	1	1	142	
KRN102F	金 光子	英中比人 1年				
朝鮮語Ⅳ (1 - a)		2学期	1	1	143	
KRN112F	金 惠媛	英中比人 1年				
朝鮮語Ⅳ (1 - b)		2学期	1	1	144	
KRN112F	呉 珠熙	英中比人 1年				
朝鮮語Ⅳ (1 - c)		2学期	1	1	145	
KRN112F	安 滯珠	英中比人 1年				
朝鮮語Ⅳ (1 - d)		2学期	1	1	146	
KRN112F	金 光子	英中比人 1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語V		1学期	2	1	147
	KRN201F	金 京姫	英中 2 年			
	朝鮮語VI		2学期	2	1	148
	KRN211F	金 京姫	英中 2 年			
	朝鮮語VII		1学期	2	1	149
	KRN202F	安 滯珠	英中 2 年			
	朝鮮語VIII		2学期	2	1	150
	KRN212F	安 滯珠	英中 2 年			
	上級朝鮮語I		1学期	3	1	151
	KRN301F	安 滯珠	英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語II		2学期	3	1	152
	KRN311F	安 滯珠	英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語III		1学期	3	1	153
	KRN302F	金 惠媛	英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語IV		2学期	3	1	154
	KRN312F	金 惠媛	英中国済営比人 3 年			
	ドイツ語I		1学期	1	1	155
	GRM101F	山下 哲雄	英中国 1 年			
	ドイツ語II		2学期	1	1	156
	GRM111F	山下 哲雄	英中国 1 年			
ドイツ語III		1学期	1	1	157	
GRM102F	山下 哲雄	英中国 1 年				
ドイツ語IV		2学期	1	1	158	
GRM112F	山下 哲雄	英中国 1 年				
ドイツ語V		1学期	2	1	159	
GRM201F	山下 哲雄	英中国済営比人律政 2 年				
ドイツ語VI		2学期	2	1	160	
GRM211F	山下 哲雄	英中国済営比人律政 2 年				
ドイツ語VII		1学期	2	1	161	
GRM202F	山下 哲雄	英中国済営比人律政 2 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	162
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	163
		英中国 1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	164
		英中国 1年			
	フランス語III FRN102F 小野 菜都美	1学期	1	1	165
		英中国 1年			
	フランス語IV FRN112F 小野 菜都美	2学期	1	1	166
		英中国 1年			
	フランス語V FRN201F 小野 菜都美	1学期	2	1	167
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VI FRN211F 小野 菜都美	2学期	2	1	168
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	169
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	170
		英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語I SPN101F 青木 文夫	1学期	1	1	171
		英 1 - 1・ 1 - 2			
スペイン語I SPN101F 宮城 志帆	1学期	1	1	172	
	英 1 - 3・ 1 - 4				
スペイン語II SPN111F 青木 文夫	2学期	1	1	173	
	英 1 - 1・ 1 - 2				
スペイン語II SPN111F 宮城 志帆	2学期	1	1	174	
	英 1 - 3・ 1 - 4				
スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	175	
	英 1 - 1・ 1 - 2				
スペイン語III SPN102F ミヨコ・ フジヨシ	1学期	1	1	176	
	英 1 - 3・ 1 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語Ⅳ SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	177
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	スペイン語Ⅳ SPN112F ミヨコ・ フジヨシ	2学期	1	1	178
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	スペイン語Ⅴ SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	179
		英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語Ⅵ SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	180
		英中国済営比人律政 2年			
スペイン語Ⅶ SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	181	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語Ⅷ SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	182	
	英中国済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語Ⅰ JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	183
		留学生 1年			
	日本語Ⅱ JSL102F 金 元正	1学期	1	1	184
		留学生 1年			
	日本語Ⅲ JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	185
		留学生 1年			
	日本語Ⅳ JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	186
		留学生 1年			
	日本語Ⅴ JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	187
		留学生 1年			
日本語Ⅵ JSL113F 小林 浩明	2学期	1	1	188	
	留学生 1年				
日本語Ⅶ JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	189	
	留学生 2年				
日本語Ⅷ JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	190	
	留学生 2年				
日本事情 (人文) A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	191	
	留学生 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情 (人文) B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	192
		留学生 1 年			
	日本事情 (社会) A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	193
		留学生 1 年			
	日本事情 (社会) B JPS104F 清藤 隆春 他	2学期	1	2	194
		留学生 1 年			
■専門教育科目 ■選択科目 ■法経科目群	国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	2	2	195
		2 年			
	国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	196
		2 年			
	国際金融論I ECN363M 前田 淳	1学期	3	2	197
		3 年			
	国際金融論II ECN364M 前田 淳	2学期	3	2	198
		3 年			
	国際取引法 LAW350M 八並 廉	集中	3	2	199
		3 年			
	国際私法 LAW252M 中林 啓一	1学期	3	2	200
		3 年			
	アメリカ経済 ECN351M 立石 剛	2学期	3	2	201
		3 年			
■英米文学・文化科目群	イギリス文学概論 LIT231M 濱 奈々恵	1学期	2	2	202
		2 年			
	アメリカ文学概論 LIT230M 前田 譲治	2学期	2	2	203
		2 年			
	イギリスの現代文学 LIT234M 濱 奈々恵	2学期	2	2	204
		2 年			
	アメリカの現代文学 LIT232M 江頭 理江	2学期	2	2	205
	2 年				
イギリスの18-19世紀文学 LIT235M 今川 京子	2学期	2	2	206	
	2 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■選択科目 ■英米文学・文化科目群	アメリカの18-19世紀文学 LIT233M 江頭 理江	1学期	2	2	207	
		2年				
	アメリカ文化史 ARE227M 寺田 由美	1学期	2	2	208	
		2年				
	アメリカの社会と文化 ARE222M デニス・ジョーンズ	2学期	2	2	209	
		2年				
	アメリカの都市文化 ARE224M 寺田 由美 他	1学期	2	2	210	
		2年				
	アメリカの大衆文化 ARE221M 前田 譲治	2学期	2	2	211	
		2年				
	■中国ビジネス科目群	中国社会経済史I HIS220M 山本 進	1学期	2	2	212
			2年			
中国社会経済史II HIS221M 山本 進		2学期	2	2	213	
		2年				
中国経済論I ECN253M 白石 麻保		1学期	2	2	214	
		2年				
中国経済論II ECN254M 白石 麻保		2学期	2	2	215	
		2年				
中国文化論 ARE110M 板谷 秀子		1学期	2	2	216	
		2年				
途上国開発論 PLC215M 吉田 舞		1学期	2	2	217	
		2年				
ビジネス中国語A CHN360M 野村 和代	1学期	3	2	218		
	3年					
ビジネス中国語B CHN361M 野村 和代	2学期	3	2	219		
	3年					
■演習・研究科目 ■ビジネス・コミュニケーション科	異文化間コミュニケーション概論 MCC212M 山崎 和夫	2学期	1	2	220	
		1年				
	ビジネス英語概論 ENG230M アショク アシタ	2学期	1	2	221	
		1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■ビジネス・コミュニケーション科	通訳基礎演習I ENG234M ノリス 志津代	1学期	2	2	222
		2年			
	通訳基礎演習I ENG234M ノリス 志津代	1学期	2	2	223
		2年			
	通訳基礎演習I ENG234M ノリス 志津代	1学期	2	2	224
		2年			
	通訳基礎演習II ENG235M ノリス 志津代	2学期	2	2	225
		2年			
	通訳基礎演習II ENG235M ノリス 志津代	2学期	2	2	226
		2年			
	通訳基礎演習II ENG235M ノリス 志津代	2学期	2	2	227
		2年			
	ビジネス英語演習 ENG231M オム ウォンソブ	1学期	2	2	228
		2年			
	英日翻訳演習 MCC219M 鮫島 千明	1学期	2	2	229
		2年			
英日翻訳演習 MCC219M 鮫島 千明	1学期	2	2	230	
	2年				
英日翻訳演習 MCC219M 鮫島 千明	1学期	2	2	231	
	2年				
異文化間コミュニケーション演習 MCC213M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	2	2	232	
	2年				
異文化フィールドワーク MCC214M ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	233	
	2年				
ビジネス英語研究 ENG232M ブルック 前田	2学期	2	2	234	
	2年				
■英語学・英語教育科目群	英文法I LIN230M 廣田 恵美	1学期	1	2	235
		1年			
	英文法II LIN231M 廣田 恵美	2学期	1	2	236
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■英語学・英語教育科目群	英語学概論 LIN232M ジェニファー・ラーソンホール	2学期	2	2	237
		2年			
	英語学研究I (音声学・音韻論) LIN233M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	2	2	238
		2年			
	英語学研究II (英語教育) LIN234M 雪丸 尚美	2学期	2	2	239
		2年			
英語史 LIN330M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	240	
	2年				
社会言語学研究 LIN310M 平野 圭子	2学期	2	2	241	
	2年				
■英米研究・メディア科目群	メディア英語演習 MCC215M アダム・ヘイルズ	1学期	2	2	242
		2年			
	アメリカ劇文化研究 MCC216M アーノルド・ウェイン	2学期	2	2	243
		2年			
	イギリス研究 MCC217M 木原 謙一	1学期	2	2	244
		2年			
	アメリカ研究 MCC218M アーノルド・ウェイン	2学期	2	2	245
	2年				
英米文化研究 MCC311M 伊藤 健一	2学期	3	2	246	
	3年				
イギリス劇文化研究 MCC310M アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	247	
	3年				
■ゼミ・卒業課題科目	異文化間コミュニケーションゼミA I SEM411M ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	248
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミA I SEM411M フィオナ・クリーサー	1学期	3	2	249
		3年			
異文化間コミュニケーションゼミA II SEM412M ロジャー・ウィリアムソン	2学期	3	2	250	
	3年				
異文化間コミュニケーションゼミA II SEM412M フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	251	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	通訳ゼミA I SEM411M 伊藤 健一	1学期	3	2	252
		3年			
	通訳ゼミA II SEM412M 伊藤 健一	2学期	3	2	253
		3年			
	翻訳ゼミA I SEM411M 鮫島 千明	1学期	3	2	254
		3年			
	翻訳ゼミA I SEM411M ローズマリー・リーダー	1学期	3	2	255
		3年			
	翻訳ゼミA II SEM412M 鮫島 千明	2学期	3	2	256
		3年			
	翻訳ゼミA II SEM412M ローズマリー・リーダー	2学期	3	2	257
		3年			
	ビジネス英語ゼミA I SEM411M 寺田 真一郎	1学期	3	2	258
		3年			
	ビジネス英語ゼミA I SEM411M ロドルフォ デルガド	1学期	3	2	259
		3年			
	ビジネス英語ゼミA I SEM411M アショク アシタ	1学期	3	2	260
		3年			
	ビジネス英語ゼミA I SEM411M オム ウォンソブ	1学期	3	2	261
		3年			
ビジネス英語ゼミA II SEM412M 寺田 真一郎	1学期	3	2	262	
	3年				
ビジネス英語ゼミA II SEM412M ロドルフォ デルガド	2学期	3	2	263	
	3年				
ビジネス英語ゼミA II SEM412M アショク アシタ	2学期	3	2	264	
	3年				
ビジネス英語ゼミA II SEM412M オム ウォンソブ	2学期	3	2	265	
	3年				
メディア英語ゼミA I SEM411M アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	266	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	メディア英語ゼミAII SEM412M アダム・ヘイルズ	2学期	3	2	267
		3年			
	アメリカ研究ゼミA I SEM411M アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	268
		3年			
	アメリカ研究ゼミA I SEM411M 齊藤 園子	1学期	3	2	269
		3年			
	アメリカ研究ゼミA II SEM412M アーノルド・ウェイン	2学期	3	2	270
		3年			
	アメリカ研究ゼミA II SEM412M 齊藤 園子	2学期	3	2	271
		3年			
	イギリス研究ゼミA I SEM411M 木原 謙一	1学期	3	2	272
		3年			
	イギリス研究ゼミA II SEM412M 木原 謙一	2学期	3	2	273
		3年			
	英語学ゼミA I SEM411M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	3	2	274
		3年			
	英語学ゼミA II SEM412M ジェニファー・ラーソンホール	2学期	3	2	275
		3年			
	英語教育ゼミA I SEM411M 雪丸 尚美	1学期	3	2	276
		3年			
英語教育ゼミA II SEM412M 雪丸 尚美	2学期	3	2	277	
	3年				
社会言語学ゼミA I SEM411M 平野 圭子	1学期	3	2	278	
	3年				
社会言語学ゼミA II SEM412M 平野 圭子	2学期	3	2	279	
	3年				
異文化間コミュニケーションゼミB I SEM413M フィオナ・クリーサー	1学期	4	2	280	
	4年				
異文化間コミュニケーションゼミB I SEM413M ロジャー・ウィリアムソン	1学期	4	2	281	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	異文化間コミュニケーションゼミBII SEM414M フィオナ・クリーサー	2学期	4	2	282
		4年			
	異文化間コミュニケーションゼミBII SEM414M ロジャー・ウィリアムソン	2学期	4	2	283
		4年			
	通訳ゼミBI SEM413M 伊藤 健一	1学期	4	2	284
		4年			
	通訳ゼミBII SEM414M 伊藤 健一	2学期	4	2	285
		4年			
	翻訳ゼミBI SEM413M 鮫島 千明	1学期	4	2	286
		4年			
	翻訳ゼミBI SEM413M ローズマリー・リーダー	1学期	4	2	287
		4年			
	翻訳ゼミBII SEM414M 鮫島 千明	2学期	4	2	288
		4年			
	翻訳ゼミBII SEM414M ローズマリー・リーダー	2学期	4	2	289
		4年			
	ビジネス英語ゼミBI SEM413M 寺田 真一郎	1学期	4	2	290
		4年			
	ビジネス英語ゼミBI SEM413M ロドルフォ デルガド	1学期	4	2	291
		4年			
ビジネス英語ゼミBI SEM413M ブルック 前田	2学期	4	2	292	
	4年				
ビジネス英語ゼミBI SEM413M アショク アシタ	1学期	4	2	293	
	4年				
ビジネス英語ゼミBII SEM414M 寺田 真一郎	1学期	4	2	294	
	4年				
ビジネス英語ゼミBII SEM414M ロドルフォ デルガド	2学期	4	2	295	
	4年				
ビジネス英語ゼミBII SEM414M ブルック 前田	2学期	4	2	296	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	ビジネス英語ゼミBII SEM414M アショク アシタ	2学期	4	2	297
		4年			
	メディア英語ゼミBI SEM413M アダム・ヘイルズ	1学期	4	2	298
		4年			
	メディア英語ゼミBII SEM414M アダム・ヘイルズ	2学期	4	2	299
		4年			
	アメリカ研究ゼミBI SEM413M アーノルド・ウェイン	1学期	4	2	300
		4年			
	アメリカ研究ゼミBI SEM413M 齊藤 園子	1学期	4	2	301
		4年			
	アメリカ研究ゼミBII SEM414M アーノルド・ウェイン	2学期	4	2	302
		4年			
	アメリカ研究ゼミBII SEM414M 齊藤 園子	2学期	4	2	303
		4年			
	イギリス研究ゼミBI SEM413M 木原 謙一	1学期	4	2	304
		4年			
	イギリス研究ゼミBII SEM414M 木原 謙一	2学期	4	2	305
		4年			
	英語学ゼミBI SEM413M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	4	2	306
		4年			
英語学ゼミBII SEM414M ジェニファー・ラーソンホール	2学期	4	2	307	
	4年				
英語教育ゼミBI SEM413M 雪丸 尚美	1学期	4	2	308	
	4年				
英語教育ゼミBII SEM414M 雪丸 尚美	2学期	4	2	309	
	4年				
社会言語学ゼミBI SEM413M 平野 圭子	1学期	4	2	310	
	4年				
社会言語学ゼミBII SEM414M 平野 圭子	2学期	4	2	311	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	基礎演習I ENG100M 伊藤 健一	1学期	1	2	312
		1-1			
	基礎演習I ENG100M 齊藤 園子	1学期	1	2	313
		1-2			
	基礎演習I ENG100M 齊藤 園子	1学期	1	2	314
		1-3			
	基礎演習I ENG100M 木原 謙一	1学期	1	2	315
		1-4			
	基礎演習II ENG110M ジェイムズ・ヒックス	2学期	1	2	316
		1-1			
	基礎演習II ENG110M ジェイムズ・ヒックス	2学期	1	2	317
		1-2			
	基礎演習II ENG110M クリストファー・オサリバン	2学期	1	2	318
		1-3			
	基礎演習II ENG110M 藤下 友子	2学期	1	2	319
		1-4			
	英会話演習A ENG251M ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	2	320
		1年			
	英会話演習A ENG251M ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	2	321
		1年			
英会話演習A ENG251M ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	2	322	
	1年				
英語リスニング演習A ENG255M 平野 圭子	1学期	1	2	323	
	1年				
英語リスニング演習A ENG255M 平野 圭子	1学期	1	2	324	
	1年				
英語リスニング演習A ENG255M 廣田 恵美	1学期	1	2	325	
	1年				
英会話演習B ENG252M ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	2	326	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	英語リスニング演習B ENG256M ジェイムズ・ヒックス	1学期	2	2	327
		2年			
	Reading and Discussion I ENG253M ケネス・ギブソン	2学期	2	2	328
		2年			
	Reading and Discussion I ENG253M ケネス・ギブソン	2学期	2	2	329
		2年			
	Reading and Discussion I ENG253M ケネス・ギブソン	2学期	2	2	330
		2年			
	Reading and Discussion II ENG254M デニス・ジョーンズ	1学期	2	2	331
		2年			
	Reading and Discussion II ENG254M 藤下 友子	1学期	2	2	332
		2年			
	Reading and Discussion II ENG254M 藤下 友子	1学期	2	2	333
		2年			
	日英翻訳演習 ENG233M ローズマリー・リーダー	1学期	2	2	334
		2年			
	日英翻訳演習 ENG233M ローズマリー・リーダー	1学期	2	2	335
		2年			
	日英翻訳演習 ENG233M ローズマリー・リーダー	1学期	2	2	336
		2年			
Presentation and Writing A ENG250M ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	337	
	2年				
Presentation and Writing A ENG250M ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	338	
	2年				
Presentation and Writing A ENG250M ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	339	
	2年				
Presentation and Writing B ENG350M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	340	
	3年				
Presentation and Writing B ENG350M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	341	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	Presentation and Writing B ENG350M クリストファー・オサリバン	2学期	3	2	342
	3年				
	英語リーディング演習I ENG351M 齊藤 園子	1学期	3	2	343
	3年				
	英語リーディング演習II ENG352M 木下 善貞	2学期	3	2	344
	3年				
	ビジネスコミュニケーション演習 ENG330M ロドルフォ デルガド	1学期	3	2	345
3年					
Advanced English I ENG353M デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	346	
4年					
Advanced English II ENG354M リーサ ハンズバーガー	2学期	4	2	347	
4年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	348
	1年				
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	349
	1年				
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	350
	2年				
	教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2	351
	3年				
	教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2	351
	3年				
	教育課程論 EDU360M 見玉 弥生	2学期	3	2	352
3年					
英語科教育法 A EDU250C 森 千鶴	1学期	3	2	353	
3年					
英語科教育法 B EDU251C 森 千鶴	2学期	3	2	354	
3年					
道徳教育指導論 EDU262M 船原 将太	2学期	2	2	355	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	特別活動論	2学期	2	2	356
	EDU263M 休講	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	
	EDU260M 休講	2年			356
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	
	EDU261M 休講	2年			
	教育相談	1学期	2	2	356
	EDU264M 山下 智也	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	356
	EDU380C 休講	3年			
教育実習 2	1学期	4	2	356	
EDU480C 休講	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	356	
EDU481C 休講	4年				
教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2	356	
EDU490C 休講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	357
	PSY220M 山下 智也	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	357
	PSY223M 休講	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	358
	EDU225M 恒吉 紀寿	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	359
	EDU228M 河嶋 静代	2年			
	生涯学習学	1学期	2	2	359
	EDU220M 休講	2年			
英語科教育法 A	1学期	3	2	359	
EDU250C 休講	3年				
英語科教育法 B	2学期	3	2	359	
EDU251C 休講	3年				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法 C	1学期	3	2	360
	EDU252C 雪丸 尚美	3年			
	英語科教育法 D	2学期	3	2	361
	EDU253C 雪丸 尚美	3年			
	教育工学	2学期	2	2	
	EDU265M 休講	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生活世界の哲学 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	362
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	363
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	364
	1年				
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	365	
1年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	366	
2年					
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	367
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	368
	1年				
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	369
	1年				
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	370
1年					
社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2		
1年					
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	371	
1年					
企業と社会 BUS001F 休講	1学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2	372
		1年			
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	373
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	374
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	375
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	376
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	377
		1年			
歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	378	
	1年				
そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	379	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	380	
	1年				
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	381	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	2学期	1	2	382
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	383
		1年			
■情報教育科目	データ処理 INF101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	384
		1年			
	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	385
		2年			
■専門教育科目 ■選択科目 ■中国ビジネス科目群	国際経済論I ECN240M 魏 芳	1学期	2	2	386
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■中国ビジネス科目群	国際経済論II	2学期	2	2	378
	ECN241M 魏 芳	2年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	379
	EDU111M 楠 凡之	1年			
	教育原理	1学期	1	2	380
	EDU110M 児玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	381
	PSY222M 税田 慶昭	2年			
	教育課程論	2学期	3	2	382
	EDU360M 児玉 弥生	3年			
	英語科教育法 A	1学期	3	2	383
	EDU250C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 B	2学期	3	2	384
	EDU251C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU252C 休講	3年			
	英語科教育法 D	2学期	3	2	
	EDU253C 休講	3年			
	道徳教育指導論	2学期	2	2	385
	EDU262M 船原 将太	2年			
	特別活動論	2学期	2	2	386
	EDU263M 楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	387
	EDU260M 下地 貴樹	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	388
	EDU261M 楠 凡之	2年			
	教育相談	1学期	2	2	389
	EDU264M 山下 智也	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	390
	EDU380C 児玉 弥生 他	3年			

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 2 EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	391
		4年			
	教育実習 3 EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	392
		4年			
	教職実践演習 (中・高) EDU490C 楠 凡之 他	2学期	4	2	393
		4年			
■選択科目	教育心理学 PSY220M 山下 智也	2学期	2	2	394
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY223M 税田 慶昭	2学期	2	2	395
		2年			
	教育社会学 EDU225M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	396
		2年			
	人権教育論 EDU228M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	397
		2年			
教育工学 EDU265M 休講	2学期	2	2		
	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標
「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史・「史実」・歴史学
- 第2回 第一次世界大戦―「新しい戦争」の衝撃と影響
- 第3回 白虹事件と関東大震災―「中立」化する言論、台頭する「世論」
- 第4回 政治の大衆化―二大政党制と劇場型政治
- 第5回 軍事の大衆化―戦争にまつわる文化、娯楽、記憶
- 第6回 北伐と革命外交―1920年代の日中関係
- 第7回 ロンドン海軍軍縮会議―「統帥権干犯」をめぐる政治とメディア
- 第8回 満洲事変―「生命線」としての満蒙権益と「熱狂」の創出
- 第9回 政党内閣の崩壊―「協力内閣」運動と五・一五事件
- 第10回 昭和陸軍と二・二六事件
- 第11回 日中戦争の諸相―謀略と和平工作
- 第12回 第二次欧州大戦と日本
- 第13回 新体制運動
- 第14回 日米開戦への道
- 第15回 太平洋戦争の終結と「聖断」

歴史と政治【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

（到達目標）

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 ささまざまな信仰心

第12回 宗教と近代化

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)60%、毎回の授業課題 40%

※毎回の授業課題は、提出時期や授業への貢献によって得点が変わります。

※一度も課題提出がない場合は評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの予習・復習のための課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ オンデマンド配信となので、時間割通りに受講する必要はありません。ですが、毎週課題があり、その課題は提出時期によって満点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 本講義で養われる「コミュニケーション能力」は、今後の実践の機会に向けた考え方を身に着けることを目指しています。授業では、記述を通じたコミュニケーションを実践する機会がありますが、発話を通じた実践機会はないので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

○○人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。¥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

ことばの科学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読

事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

生活世界の哲学【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田國江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・パトラー』, 育土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

日本の防衛【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※「評価不能(-)」は、小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

生命と環境 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス (日高・中尾)	
2回	自然科学の基礎 (1) ミクロとマクロ (日高・中尾)	【物質の単位】【自然科学】
3回	自然科学の基礎 (2) 宇宙で生まれた物質 (中尾)	【元素】【原子】【超新星爆発】
4回	自然科学の基礎 (3) 生命と分子 (日高)	【DNA】【タンパク質】
5回	生物の多様性 (1) 生物の分類と系統 (日高)	【種】【学名】【系統樹】
6回	生物の多様性 (2) ウイルスは生物か (日高)	【ウイルス】
7回	生物の多様性 (3) 単細胞生物と多細胞生物 (日高)	【細胞膜】【共生説】
8回	生物の多様性 (4) 生態系と進化 (日高)	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
9回	生物の多様性 (5) 多様な生命 (日高)	【生物多様性】
10回	遺伝子の多様性 (1) 遺伝子の名前 (日高)	【突然変異】【遺伝学】
11回	遺伝子の多様性 (2) 多様性を生む生殖 (日高)	【有性生殖】【減数分裂】
12回	科学的な方法とは (1) 科学と疑似科学 (日高・中尾)	【血液型】【星座】
13回	科学的な方法とは (2) 太陽と地球の環境 (中尾)	【太陽活動】【地球温暖化問題】
14回	科学的な方法とは (3) 人類の起源 (日高)	【ミトコンドリア】
15回	質疑応答とまとめ (日高)	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能 (一) です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高 (生物担当) および中尾 (物理担当) による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナリーシップ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

環境問題概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%

小レポート試験：20%

最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。

特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学(食物連鎖等)的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			環境問題概論 ENV100F

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか?」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか?」についての知識を生かし、SDGs (持続可能な開発目標) に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理 (治水・利水)、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

(到達目標)

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは?
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか?-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

環境問題概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%
小レポート試験：20%
最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学(食物連鎖等)的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を行っていたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

・本授業の到達目標

- 「知識」
→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 歴史学にとっての「もしも・・・」
- 第3回 この国のかたち—近代日本の国家構想
- 第4回 国民—「日本人」の形成
- 第5回 言語—「共通語」の創成
- 第6回 国土—変動する「国境」
- 第7回 首都—東京以外の選択肢
- 第8回 学校—戦前期日本の教育と「学歴」
- 第9回 軍隊—徴兵制と通過儀礼、兵営と地域社会、前線と統後
- 第10回 日中関係—和平の可能性
- 第11回 日米開戦— the Point of No Return はどこだったのか
- 第12回 原爆投下—マンハッタン計画、軍都小倉、本土決戦
- 第13回 敗戦と占領—異世界型「戦後日本」
- 第14回 天皇制—「象徴」の起源
- 第15回 まとめ—「可能性」としての歴史

可能性としての歴史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画(有料動画の場合もあります)を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化とその認識

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第9回 移動する人々と世界

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 中間テストの解説と授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストおよびそのほか課題 40%、期末テスト 60%

※課題の提出など、加点の対象となる活動が全くない場合は評価不能(一)です。

※受講人数、感染状況によってはテストがレポートになる可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ この授業は中間テストほか学期中にさまざまな課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、植民地主義、グローバリゼーション、近代、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			言語と認知	LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(授業形態)

メディア授業（学習マネジメントシステムMoodleによる遠隔授業（オンデマンド））

受講に必要な機器：パーソナルコンピューター、インターネット接続・通信に必要な環境（WiFi、光ファイバー等）

教科書 /Textbooks

Moodle上の配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

言語と認知【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序・授業の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第9回 ヒューマンエラー(松田)
- 第10回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(木山)
- 第12回 比喩は文学表現か(メタファー)(木山)
- 第13回 文は語彙の足し算か(構文文法論)(木山)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者からの課題の講評など(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% (最終)課題 16% x 5 = 80%

すべての教員の(最終)課題を提出しない限り評価不能(一)となります。
なお、各回の確認クイズ・小課題が最終課題に含まれるかどうかは各担当教員によって異なります。
各担当教員の説明にしたがってください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:担当教員あるいはコーディネイターが指示した文献等の講読
事後学習:担当教員ごとの確認クイズ・小課題・レポート等の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。
*「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

(到達目標)

【知識】 共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。

レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に対しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3．健康と福祉」「16．平和と公正」「17．パートナーシップ」

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

戦争論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回（ゴールデンウィーク明けから）招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回 日本の防衛と自衛隊 (戸蒔)
- 3回 陸海空自衛隊について (戸蒔)
- 4回 自衛隊の任務、総論 (戸蒔)

5回～14回 自衛官の招聘、各論のレクチャー

現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する予定。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

※3回以上の無断欠席、レポート未提出の場合、いずれも「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

※授業の運営方法、評価方法、コロナ対応などについて、初回のガイダンスで詳しく話しますので、履修を希望する人は絶対に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養演習 AI	GES201F

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史的変遷【歴史的変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本（1）障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本（2）構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本（3）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析学的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本（4）行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本（5）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本（6）余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。
課題への対応70%。
出席が全くない受講者に対しては、一（評価不能）評価とする。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関してインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

教養演習 AI 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養演習 A II	GES202F

授業の概要 /Course Description

この授業では、ゼミ形式で、ジェンダー論・フェミニズム論に関連する1冊の図書を通読していきます。図書は、研究書レベルのものになります。複数図書の候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。なお、毎回1200字程度のレジュメ作成が必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
《コミュニケーション力》他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
《技能》設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。
*教科書の価格は～4,000円ほどのものを予定しています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション①：この授業について、課題図書の決定
- 第2回 イン트로ダクション②：レジュメの作り方、進め方
- 第3回 演習
- 第4回 演習
- 第5回 演習
- 第6回 演習
- 第7回 演習
- 第8回 演習
- 第9回 授業の中間まとめ
- 第10回 演習
- 第11回 演習
- 第12回 演習
- 第13回 演習
- 第14回 演習
- 第15回 まとめ：レポートについて

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 各回のレジюме作成 100%
- * レジюмеを4回以上提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジюмеの作成
- ・ 前回範囲の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決めるので必ず参加してください。
- ・ この授業では、毎回1200字程度のレジюмеの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%
- ・すべてのレポート(小論もふくむ)を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 到津の森公園、文学部 竹川大介
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ (外部講師講演)

動物のみかた 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%
・ レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

現代人のこころ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（複数の小テストまたはレポート）・・・100%
各担当教員の指定する課題を提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているのか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

人間と生命【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ	【RNA】【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】【遺伝病】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
8回	細胞の社会(1)そのとき染色体は	【細胞周期】【染色体異常】
9回	細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	関連ビデオ鑑賞	
12回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【早老症】【テロメア】
13回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
14回	体を守るしくみ(3)私たちと微生物	【腸内細菌】
15回	質疑応答・まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

- SDGsとの関連：
 3. すべての人に健康と福祉を

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
石川 敬之 / 地域共生教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
		環境都市としての北九州	
		ENV001F	

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼう、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔授業（オンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。一部、ライブで収録する回もありますが、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円（税込み）
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

環境都市としての北九州【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(外部講師)
- 3回 北九州の自然と環境(基盤教育センター・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 6回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 7回 環境ビジネスとエコタウン事業(大学院マネジメント研究科・松永)
- 8回 施設見学(環境ミュージアム)
- 9回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 10回 環境問題とNPO①(都市交通、外部講師)
- 11回 環境問題とNPO②(フードバンク、外部講師)
- 12回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 13回 特別講義(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(地域共生教育センター・石川)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・20%
 授業ごとの課題への取り組み(確認テスト・ミニレポート等)・・・70%
 期末レポート・・・10%
 課題・レポートの提出が全くない場合は評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
 事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

施設見学(環境ミュージアム等)は原則として必須とする。
 ・見学は授業期間中、レポート提出に間に合うよう、各自で行うこと。
 ・環境首都検定は12月11日(日)の予定。
 *スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
 *見学にかかる交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市
 SDGsとの関連について
 7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAISHI / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。	
			未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自律的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。オンラインでのグループワークを行うので、スマートフォンではなく、パソコンを利用するのがのぞましい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割
- 第2回：未来を創る空調技術【建築学からのアプローチ】
- 第3回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第4回：未来を創る経済学【経済学からのアプローチ】
- 第5回：人工知能と超スマート社会【情報学からのアプローチ】
- 第6回：未来を創る植物学【生物学からのアプローチ】
- 第7回：未来を予知する保全技術【機械工学からのアプローチ】
- 第8回：北九州市の温暖化対策について【官】
- 第9回：2050年カーボンニュートラル実現に向けてのグリーン成長戦略【官】
- 第10回：再生可能エネルギーの産業【産】
- 第11回：日本における風力発電【産】
- 第12回：洋上風力発電の産業【産】
- 第13回：地域活性化につながる洋上風力発電事業開発のあり方【学】
- 第14回：エネルギーを“つくる”と“つかう”【学】
- 第15回：再生可能エネルギーのメンテナンスとリスクマネジメント【学】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

必要事項は、moodleに掲載するので、定期的に確認すること。また、都合により、授業のスケジュールを変更することがある。オンラインでのグループワークも行うので、積極的にディスカッションに参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における環境エネルギー政策、特に、次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係性を浮かび上がらせる。また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって拡がる同時代の動きにつなげてみる。毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」

美術手帖編集部 美術出版社 2009

「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014

「アート・パワー」現代企画室 ボリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017

「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

芸術と人間【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在/不在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ 彫刻のあり方いろいろ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(2回)・ ・ 50% 毎回moodle上で課題をあげます。15回のうち2回分を選んで回答を送ってください。
レポート・ ・ 40% 13-14回目の授業動画とmoodle アナウンスメントで出題します。学内メール添付で提出してください。
日常の授業への取り組み(出欠、提出物の形式が的確かどうか)・ ・ 10%
課題2回とレポートの提出がそろって評価可能となります。提出ゼロは評価不能、課題のみ、レポートのみではD評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、反戦・反原発、プライベート/パブリック、プロジェクト

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集会的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

民主主義とは何か【昼】

担当者名 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集会的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活しているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業であるため、学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

到達目標

【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『生活からみる社会のすがた』, 稲月正・加来和典・牧野厚史・三隅一人編, 学文社, 2022年3月刊行予定

○ 『現代の社会学的解読』, 山本努・辻正二・稲月正著, 学文社, 2014年, ¥2640 (古書)

『最新 社会福祉士養成講座◎ 社会学と社会システム』, 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編, 中央法規, 2021年, ¥2,750

その他、講義の中で、適宜、紹介する

社会学的思考 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN【社会、社会学】
- 2 社会学的な考え方とは【記述、説明、行為、規範、制度、集団、構造】
- 3 社会学の歴史的展開1 - E.デュルケムの方法【集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
- 4 社会学の歴史的展開2 - M.ウェーバーの方法【理解社会学、社会的行為、意図せざる結果】
- 5 復習と課題解説
- 6 変容する家族【近代家族、核家族、夫婦家族、直系家族、定位家族、生殖家族、小家族化と家族の多様化】
- 7 社会集団と組織【ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、第1次集団、第2次集団、準拠集団、官僚制】
- 8 逸脱と社会統制【機能主義、正機能、逆機能、顕在的機能、潜在的機能、アノミー、ラベリング理論】
- 9 都市【産業都市、都市問題、脱工業化、情報化、分極化した都市、世界都市、アーバニズム、下位文化理論】
- 10 社会階層と社会移動【階級、階層、不平等、社会的資源、ジニ係数、社会移動、開放性係数、地位の非一貫性】
- 11 生活困窮（貧困）と社会的排除【経済的困窮、社会的孤立、社会的排除】
- 12 戦後日本の社会変動【高度経済成長、安定成長、戦後日本型循環モデル、性別役割分業】
- 13 大衆社会とファシズム【ナチズム、社会的性格、権威主義的パーソナリティ、機械的画一性への逃げ込み】
- 14 グローバル化と移民【国際労働力移動、移住システム論、顔の見えない定住化、排外主義】
- 15 授業のまとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト... 40%、課題レポート... 60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。
確認小テスト、課題レポートを1回も提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権問題」といえば特別なものというイメージを抱くかもしれないが、実際には誰にとっても非常に身近なものであって、「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念や現存する人権問題、その社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権問題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は自宅・大学などからインターネットを接続して、自身のPCやスマートフォンで、(または大学のPC自習室でイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』(横田耕一著/(公社)福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|--|
| 1 「自分にとっての人権課題」 | オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。 |
| 2 「人権とは何か」 | 人権とは何かについて解説する。 |
| 3 「人権獲得の歴史」 | 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。 |
| 4 「世界人権宣言と人権条約」 | 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。 |
| 5 「平和と人権」 | 戦争・平和についての解説。 |
| 6 「ハンセン病について」 | ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。 |
| 7 「教育と人権～識字問題」 | 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。 |
| 8 「教育と人権～夜間中学」 | 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。 |
| 9 「部落問題について」 | 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。 |
| 10 「部落問題について」 | 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。 |
| 11 「在日外国人と人権課題」 | 在日外国人の現状と人権課題を解説する。 |
| 12 「在日コリアンについて」 | 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。 |
| 13 「障害者と人権」 | 障害者の立場からみる人権課題を知る。 |
| 14 「アジアの人権状況」 | アジアの人権問題を事例を交えて解説する。 |
| 15 「まとめ」 | 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。 |

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に取り組む姿勢（毎回の課題）【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。
- ・ 出席率（課題提出）7割以上の学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を認める。
- ・ 出席が7割に満たない場合の評価は（D）、5割に満たない場合は評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 講義配信後、毎回の課題提出有り、締め切りは厳守のこと
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。
- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権問題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

代筆などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。
7割以上の出席が満たされない場合は、単位が取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。
コロナの影響で、昨年に引き続きオンデマンドで講義を行います。何度でも視聴できるなど、オンデマンドの利点をいかして、講義にのぞんで欲しい。質問や問い合わせには個人メールで常時対応します。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

「女性はわきまえているべき」、「男性は強くあるべき」、こんな言葉をどこかで耳にしたことはありませんか。みなさんの性自認がどうであれ、これを聞いて、納得した人もいるかもしれませんが、違和感を覚えた人もいるでしょう。しかし、どうして納得したり、違和感を覚えたりするのでしょうか。それは、私たちはだれもが、「女性はこういうものだ」「男性はこういうものだ」という性差、知識や規範、すなわち「ジェンダー」を意識しているからです。

本講義では、このジェンダーが何なのかを、思想、歴史、政治、社会運動などとの関係から理解することを目指します。そのなかで、多様な理解を得るためや、現状を知るために、ジェンダー平等やLGBTQをめぐる第一線で活躍する有識者や運動家へのインタビューも行います。

この講義は、遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

《思考・判断・表現力》ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

《自律的行動力》ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村敏子『女性差別はどう作られてきたか』、集英社新書、2021
- 西井開『『非モテ』からはじめる男性学』、集英社新書、2021
- 森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』、ちくま新書、2017
- 千田有紀ら『ジェンダー論をつかむ』、有斐閣、2013

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：ジェンダーって何？
- 第2回 ジェンダー規範①：近代国家と家長制
- 第3回 ジェンダー規範②：家族と母性
- 第4回 フェミニズムの変遷
- 第5回 ライフプラン教育と性の管理
- 第6回 ジェンダー規範③：新しいジェンダー規範、モテ
- 第7回 ポストフェミニズムと女子力：
- 第8回 ジェンダー規範④：男らしさ、非モテ
- 第9回 確認テスト①
- 第10回 ジェンダーとセックス
- 第11回 セクシャルマイノリティ
- 第12回 ジェンダーとセクシャリティ：排除の構造
- 第13回 セクシャルマイノリティの排除の実例と包摂の試み
- 第14回 トランスジェンダーバッシング
- 第15回 確認テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 5. ジェンダー平等、SDG 10. 不平等をなくす

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

（到達目標）

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS～D評価。未提出者に関しては一評価。

障がい学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に興味をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科, 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。	
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			法律の読み方	LAW002F

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
【思考・判断・表現力】 法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
【自律的行動力】 社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する（事前にMoodleにアップロードされる場合もあるので確認すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

法律の読み方 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 おからはゴミなのか、劇物を輸入規制しなくていいのか-行政法解釈入門
- 第3回 信じる者は救われる?-法治主義と信頼保護原則
- 第4回 自殺や自傷行為を止めさせると犯罪か?
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか?-AIと法
- 第7回 電気は「物」か?-物に関する法
- 第8回 契約とは何か?-約束と契約の違い・両者の限界等について
- 第9回 あなたを狙う投資マルチ-マルチ商法と消費者法
- 第10回 保険契約制度により自然災害等に対応できるか?
- 第11回 会社の存在意義は何か?
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由?-自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家-ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。
事前に資料等の配布がある場合は、授業前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 3. 健康と福祉を、SDG 10. 不平等をなくす、SDG 16. 平和と公正

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

市民活動論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は自宅ないし大学からインターネットに接続して、パソコンやスマートフォン等で授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

- 【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
- 三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴の結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

企業と社会【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8.働きがい・経済成長、SDGs12.作る・使う責任、SDGs15.環境保全、等の問題と強く関連する。

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを考察するための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。

都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。

「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個々人での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

【到達目標】

「知識」都市と地域の概念を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 「思考・判断・表現力」都市と地域の概念を用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。
 「自律的行動」都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目はオンラインにて遠隔開講（オンデマンド方式）される予定である。Office365のStreamによる講義配信とMoodleによる課題実施が行われる。このため各自がこれらへの十分なアクセスを準備ないし確保する必要がある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

都市と地域【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念:『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例(LQによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

各週の課題(合計) ... 40% 最終クイズ(2回合計) ... 60%

地域最終クイズまたは都市最終クイズのいずれか一つでも回答の提出がない場合は最終成績が評価不能(-)となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ講義形式で行われます。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、毎週の(Moodleによる)課題への回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になる。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
 SDGs 11.まちづくり

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年(2015年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
					○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
			地域防災への招待
			SSS001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標

地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。

北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。

また、参加が必須となる北九州市防災公開講座(対面形式の予定)が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011): 自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006): 心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012): 人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2015年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
					○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
		地域防災への招待	
		SSS001F	

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。
北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。
また、参加が必須となる北九州市防災公開講座(対面形式の予定)が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011): 自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006): 心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012): 人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor	篠崎 香織 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科 大平 剛 / 国際関係学科, ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科 久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科																																			
履修年次 1年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年																												
対象入学年度 /Year of School Entrance	<table border="1"> <tr> <th>2011</th><th>2012</th><th>2013</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>												2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022			○	○	○	○	○	○				
2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022																									
		○	○	○	○	○	○																													

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義はメディア授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

現代の国際情勢【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(篠崎)オリエンテーション
- 第2回(北)日系アメリカ人の歴史と今日(1)概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第3回(北)日系アメリカ人の歴史と今日(2)現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第4回(阿部)米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
- 第5回(政所)国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
- 第6回(政所)国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
- 第7回(久木)2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
- 第8回(久木)2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
- 第9回(篠崎)世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
- 第10回(大平)東南・南アジアにおける安全保障と開発【一帯一路】【Quad】【債務の罠】
- 第11回(デルガド) Becoming an International Citizen in Japan: Carlos Ghosn success story and experience. 【International, Citizen, Japan】
(※英語での講義です)
- 第12回(白石)中進国としての中国経済【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回(柳)朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回(柳)北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回(下野)台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%
- 小テストを1度も受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

- SDGsとの関連
- 第4回(阿部)9. 産業・技術革命
- 第5回、第6回(政所)16. 平和と公正
- 第7回(久木)3. 健康と福祉を
- 第8回(久木)10. 不平等をなくす
- 第9回(篠崎)11. まちづくり
- 第11回(デルガド)9. Innovation and Infrastructure (産業・技術革命)
- 第12回(白石)17. グローバル・パートナーシップ
- 第15回(下野)5. ジェンダー平等、10. 不平等をなくす、16. 平和と公正

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

グローバル化する経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン - グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学(2)【文化と感情】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。
学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

- 【知識】 国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート 50% テスト 50%
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
 - ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

韓国の社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート	40%
毎回のコメントカード	30%
その他、小レポートなど	30%

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょうか。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* () の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 絢子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		日本史	HIS110F

授業の概要 /Course Description

【授業内容】一口に「日本史」といっても、時代によってその国家形態・領土・領民は異なる。本授業では日本の国家形成過程と、その統治下でどのような人たちが日本の歴史に関わってきたのかについて、構造的かつ空間的に学ぶ。
【到達目標】歴史学的手法や、日本史研究の重要なトピックを学び、歴史学的視点から日本史をとらえ、教えることができる能力を身に付けることを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「日本史」とは：歴史学的手法と、隣接学問分野から
- 第2回：稲作文化の伝来と小国家の分立
- 第3回：ヤマト王権による統合
- 第4回：中央集権化と日本の律令制
- 第5回：武家政権と朝廷の併存
- 第6回：中世における多元的支配
- 第7回：「天下統一」から幕藩体制へ：身分・宗教・対外意識
- 第8回：開国と国境画定
- 第9回：明治立憲体制
- 第10回：本国と植民地の関係
- 第11回：敗戦と占領
- 第12回：日本国憲法の制定
- 第13回：境界地域：沖縄と北海道
- 第14回：移動する人々：出稼ぎ・移民・引揚げ・旧植民地出身者
- 第15回：「日本」の歴史を学ぶ意味

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題（30％）と期末試験（70％）によって評価する。
6回以上欠席した場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布する資料や、紹介する参考書などを事前・事後学習として読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。
本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 4回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 5回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 6回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 7回 前漢前期(3) -呂后-
 - 8回 前漢中期(1) -武帝-
 - 9回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 10回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 11回 前漢後期(1) -元帝-
 - 12回 前漢後期(2) -成帝-
 - 13回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 14回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 15回 まとめ
- 期末試験(場合によってはレポートなどの課題提出に変更する)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%
*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。
定期試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする。

東洋史 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)
予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。
講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
- 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
- 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
- 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
- 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
- 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
- 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
- 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
- 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
- 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
- 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
- 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
- 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
- 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
- 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)
試験を受けなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

人文地理学は、地表上のさまざまな人文・社会現象を、特に地域的差異という視点から明らかにしようとする学問分野です。そのような定義からすると、研究の対象が極めて広範なものに及ぶことから、科学というよりは「ものの見方」に近いものであるとも言えるかもしれません。本講義では、人文地理学の諸分野における基礎概念や研究事例を取り上げ、地域を見る「ツール」としての「地理学的なものの見方や考え方」を習得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。
上野和彦・椿真智子・中村康子編 2015. 『地理学基礎シリーズ1 地理学概論 [第2版]』朝倉書店.
○浮田典良編 2003. 『最新地理学用語辞典改訂版』原書房.
○中村和郎・手塚 章・石井英也 1991. 『地理学講座4 地域と景観』古今書院.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：人文地理学の体系と歴史
- 第2回 人文地理学の基礎概念（1）：地域①（地域概念、等質地域と機能地域）
- 第3回 人文地理学の基礎概念（2）：景観
- 第4回 人文地理学の基礎概念（3）：地域②（地域構造、認知地域）
- 第5回 人文地理学の基礎概念（4）：環境
- 第6回 人文地理学の基礎概念（5）：分布と伝播
- 第7回 人間と社会の地理学（1）：人口
- 第8回 人間と社会の地理学（2）：村落
- 第9回 人間と社会の地理学（3）：都市①（都市概念、都市化、都市システム）
- 第10回 人間と社会の地理学（4）：都市②（都市空間構造、都市変化）
- 第11回 産業と経済の地理学（1）：農業
- 第12回 産業と経済の地理学（2）：工業
- 第13回 産業と経済の地理学（3）：商業
- 第14回 産業と経済の地理学（4）：流通
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題：40点、学期中に実施する作業レポート：20点、期末レポート：40点の合計100点満点で評価します。6回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが，授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は，次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので，出席に際しては，色鉛筆（12色程度），定規，電卓（スマートフォンのアプリで構いません）を用意してください。履修条件はありませんが，全体として作業量の多い講義ですので，その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の「地理学」の内容を紹介する際に，よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については，講義中に説明をしますが，高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必須で、地図は「地理学の言語」と言われるほど重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法を学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社, 2017年, 1650円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観1 【地図記号が示す景観】
- 7回 地図記号と景観2 【地図を読む楽しみ】
- 8回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 9回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 10回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 12回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 13回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 14回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 15回 衛星データを利用して地表の環境を調べる

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

地理学は大きく系統地理学と地誌学（地域地理学）の2分野に分けられることが多いですが、系統地理学（自然地理学や人文地理学）がさまざまな事象の地域的差異とその要因を探索するものであるのに対して、地誌学は、それらの知識を活用しながら、地域ごとの特性を明らかにしようとする学問分野です。
本講義では、身近な地域の事例としての北九州市や福岡県、また、より広域の地域としての九州・沖縄地方、日本の諸地域を取り上げながら、地域の特徴を明らかにするための地誌学的な手法を習得することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。
菊池俊夫編 2011. 『世界地誌シリーズ1 日本』朝倉書店.
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編 2020. 『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論 [第2版]』朝倉書店.
山本正三・谷内 達・菅野峰明・田林 明・奥野隆史編 2006. 『日本総論II (人文・社会編)』, 朝倉書店.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN(1): 地域の見方・考え方
- 第2回 インTRODクシヨN(2): 北九州市を説明する
- 第3回 身近な地域の見方(1): 北九州市と福岡県の自然環境
- 第4回 身近な地域の見方(2): 北九州市と福岡県の歴史・文化環境
- 第5回 身近な地域の見方(3): 北九州市と福岡県の社会・経済環境
- 第6回 広域スケールの地誌(1): 九州・沖縄地方①
- 第7回 広域スケールの地誌(2): 九州・沖縄地方②
- 第8回 広域スケールの地誌(3): 中国・四国地方①
- 第9回 広域スケールの地誌(4): 中国・四国地方②
- 第10回 日本の諸地域(1): 近畿地方
- 第11回 日本の諸地域(2): 中部地方
- 第12回 日本の諸地域(3): 関東地方
- 第13回 日本の諸地域(4): 東北地方
- 第14回 日本の諸地域(5): 北海道地方
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題: 40点, 学期中に実施する作業レポート: 20点, 期末レポート: 40点の合計100点満点で評価します。
6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが、授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は、次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので、出席に際しては、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリで構いません）を用意してください。履修条件はありませんが、全体として作業量の多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「人文地理学」と同様の内容ですが、大学の「地理学」の内容を紹介する際に、よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については、講義中に説明をしますが、高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 /Instructor 棟形 康平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

日本国憲法の基本的な考え方について概説する。
講義では、現実の政治や社会の諸問題にも触れつつ、日本国憲法が保障する人権の内容や統治機構の仕組みが理解できるように努める。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法〔第2版〕』（弘文堂、2021年）2,530円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 内山奈月・南野森『憲法主義』（PHP研究所、2014年）
- 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
- 安西文雄ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 憲法とは何か・立憲主義
- 第3回 違憲審査制
- 第4回 国民主権・民主主義
- 第5回 人権総論
- 第6回 幸福追求権
- 第7回 法の下での平等
- 第8回 思想良心の自由・信教の自由
- 第9回 表現の自由
- 第10回 経済的自由
- 第11回 国会
- 第12回 内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 憲法改正
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100%）
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書・参考書等の該当箇所を読み、予習・復習をする。
また、講義内容についてのノートを作成するなどして復習を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立憲主義、基本的人権、統治機構、国民主権、民主主義
SDG 5. ジェンダー平等、SDG 16. 平和と公正

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

なお、授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【自律的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第5回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神疾患】
- 第7回 映画から見るメンタルヘルス
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ・小テスト

メンタル・ヘルスI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50% 日常の授業への取り組み(課題の提出) 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 小テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業内で出した課題をMoode上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は遠隔(オンデマンド)授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
			フィジカル・ヘルスI
			HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実技）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウエイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) 生涯スポーツ①(バドミントン)
- 10回 (実習) 生涯スポーツ②(アルティメット)
- 11回 (実習) 生涯スポーツ③(卓球)
- 12回 (講義) 身体活動と生活習慣病
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し、怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し、怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...70% レポート...30%

4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実技）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心して暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標

【自律的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（基盤教育セ・日高）
- 2回 社会人のマナー（地域連携・木村）
- 3回 身体の健康（保健室看護師）
- 4回 心の健康（相談室・臨床心理士）
- 5回 スポーツと健康（基盤教育セ・山本）
- 6回 災害への備え（基盤教育セ・村江）
- 7回 自転車の交通安全（課題研究）
- 8回 犯罪防止・薬物乱用防止（小倉南警察署・市民文化スポーツ局）
- 9回 消防と救急（消防局予防課・救急課）
- 10回 ブラックバイト（福岡労働局雇用環境）
- 11回 消費者トラブル（消費生活センター）
- 12回 大学生とお金（福岡県金融広報委員会）
- 13回 ハラスメント防止（総務局男女共同参画推進課）
- 14回 市民生活の基本（行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業ごとの課題（確認テスト、ミニレポート等）70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等）20%
 - ・ 期末レポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が
目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

SDG3 健康と福祉を, SDG5 ジェンダー平等, SDG8 働きがい・経済成長, SDG11 まちづくり, SDG13 気候変動対策

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅ですぐに運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

- < 到達目標 >
- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
 - 【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(-)とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。
テニスに関してはグラウンドの状況上「バドミントン」に変更の可能性があります。第1回ガイダンスで説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体幹トレーニング (1)
- 3回 体幹トレーニング (2)
- 4回～7回 バレーボール (ソフトバレーボール)
- 8回～9回 選択種目 (1) 【バドミントン】 【卓球】スキル確認テスト①
- 10回～11回 選択種目 (2) 【バスケットボール】 【トレーニング】スキル確認テスト②
- 12回～13回 選択種目 (3) 【バレーボール】 【バドミントン】スキル確認テスト③
- 14回 女性のためのエクササイズ (1)
- 15回 女性のためのエクササイズ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (ー) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%
4回以上欠席した場合は評価不能(－)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践していただくこと。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

- < 到達目標 >
【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストローウクの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
 4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生活をより充実させるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ① 社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ② 将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を頂きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

※この授業はメディア授業(オンデマンド方式)で実施します。Moodle上にコンテンツを提示します。履修方法については第1回目の授業コンテンツで説明をしますので、必ず見てください。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 全体ガイダンス
- ② 学びのアップデート
- ③ 日本の「キャリアデザイン」
- ④ 日本が迎える大きな変化
- ⑤ 情報革命
- ⑥ 日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦ 中間振り返り
- ⑧ お金と情報
- ⑨ ビジネスと就活
- ⑩ もう一つのキャリアデザイン
- ⑪ 「働き方」の最新事情
- ⑫ 日本の潮流、世界の潮流
- ⑬ 誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭ キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮ 全体振り返り

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%
※授業内レポート、まとめレポートを1度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて「いま何をすべきか」ということを考える授業を行います。皆さんの将来は独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは、皆さんのキャリアに直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。

本授業では、ゲストスピーカーによる講演会も数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

キャリア・デザイン 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価（100％）
レポートとしての体裁を成していない場合は、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能（-）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

SDGsとの関連について

3. 健康と福祉を 5. ジェンダー平等 8. 働きがい・経済成長

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・。具体的には大学生の本分である学びの深掘、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

< 進め方 >

- ①一つ前の授業での学びを授業開始までに実践し、振り返っておく。
- ②授業開始前に「大福帳」を入手し、指定された席に着席する（毎回グループはシャッフルされます）。
- ③授業の冒頭に、実践と振り返りを「大福帳」に記述する。
- ④冒頭のグループワークで、先週の課題の実践と振り返りを発表し、共有する。
- ⑤講義
- ⑥授業終了後、大福帳を提出する。
- ⑦次週までに授業での学びを実践しておく。

以上のように、授業での学び実践し、振り返り、メンバーで共有することを繰り返します。授業の内容は第12回「オタクと心理的安全性」以外はすべて教科書「新しいキャリアデザイン」に書かれていますので、該当するページ（数ページです）を授業前に一読しておいてください（第12回のみMoodleに資料をアップしておきます）。

< 目標 >

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。よって、本授業の成績は「経験学習モデル」を体得できたかが基本となります。それぞれの授業で提示された課題を実践し、そこからの学びをルーブリックと照らし合わせて採点します。

（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

キャリア・デザイン 【昼】

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会 (税込1,980円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 渡辺三枝子『新版 キャリアの心理学【第2版】-キャリア支援への発達のアプローチ-』ナカニシヤ出版
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな(自己表現)のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリューススコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- ポール・R・ドーアティほか『HUMAN+MACHINE 人間+マシン: AI時代の8つの融合スキル』東洋経済新報社
- ジェームズ・E・コテほか『若者のアイデンティティ形成-学校から仕事へのトランジションを切り抜ける』東信堂
- 日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房
- 松尾睦『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- ジェームズ W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- エリン・メイヤー『異文化理解力-相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版
- 安斎勇樹ほか『問いのデザイン: 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織-「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・アイデンティティ資本
- 2回 経験から学ぶ力
- 3回 マインドセットとグリット
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 問いを立てる力
- 9回 クリエイティブシンキング
- 10回 デジタルトランスフォーメーション
- 11回 新しい企業団体研究
- 12回 オタクと心理的安全性
- 13回 異文化理解力
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(学びの実践レポート)・・・70%
最終レポート・・・30%
採点対象のレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- <通常授業> 授業での学びを次の授業までに実践し、言語化しておいてください。
- <最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

- <基本事項>
- ※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
- ※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくはほかの教員の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
- ※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。
- <履修者調整について>
- ※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「心が震える瞬間」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊かにする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさんの学生の履修をお待ちしております。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。

<進め方>

- ① 授業が始まる前に講演者の企業団体および仕事について、各団体のwebサイトの読み込みはもちろん、図書館所蔵の書籍や雑誌、新聞などを予習して、質問を用意しておきます。
- ② 授業開始後、指定する席に着席し、グループで本日、特にどんなことを知りたいのかについて議論し、講演者に発表します。
- ③ 講演が始まります。第1セッションは「コロナ禍の影響を踏まえた、事業内容」。終了後、質疑応答の時間を作ります。以下、第2セッション「どんな仕事で、やりがいは何か?」、第3セッション「学生時代の何が、今に繋がっているか?」と続き、すべて質疑応答の時間を取ります。
- ④ ラストメッセージのあと、得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

(到達目標)【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。パワーポイントは後日頂いて、Moodleにアップしておきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

登壇する企業団体にまつわる記事などが載っている書籍や雑誌、新聞を図書館で探して読んでください。

例：日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、日経MJなど。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

<2021年度> Men Impossible (オランダのラーメン屋)、SALASUSU、リ・インベンション、井上純子氏(北九州市議会議員)、タカギ、ペンシル、ETIC、サイバーエージェント、日本放送協会、ソニーコンシューマーセールス、アクセンチュア、九州大学出版会、パデコ、スノーピーク
<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空(JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会(NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug
<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグヴ・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(事前課題)・・・35%
毎回の授業での学び(振り返りレポート)・・・35%
最終レポート・・・30%
なお、採点対象の事前課題やレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 登壇する企業団体への質問を用意してください。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメを読んでおいてください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

2022年度より、A101の大人数授業からC教室でのグループワーク主体の形式に変更していますのでご注意ください。さらにソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は2年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ3年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことで「課題解決スキル」、具体的には、課題にグループで挑戦することを通して、セルフマネジメントおよびリーダーシップを発揮し、試行錯誤を繰り返して、新しい成果を生み出す人材になることを目指します。
本授業の位置づけや狙いは以下の2点です。

1) インターンシップの授業バージョン。企業団体との新しい接点

経団連は2021年3月卒業生から「採用選考に関する指針」を策定しないと発表。つまり、採用活動は自由化・通年化しました。だからこそ3年生は、インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、自分に合う企業はどこか、試行錯誤する必要があります。また、2年生も通年採用だからこそ、3年生同様インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、そのために残りの大学生活をどう過ごせばいいのかが、試行錯誤するべきでしょう。しかし、授業期間中に長期のインターンシップに行くのは本末転倒。本授業なら、授業を通してインターンシップ同様の体験ができます。

2) 将来必ず必要となる、答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力

従来のように講義で学ぶだけの授業では、その知識をテストには活用できても、実際の現場で活用することは難しいでしょう。近年のグローバル化した知識基盤社会において、また高度成長時代を終えた現代日本において望まれる力は、多様で複雑な課題に対応しつつ、イノベーションを創出できる力です。答えのある課題ばかりをこなしていた学生よりも、答えのない課題に対し、グループで対話しながら、提案し、フィードバックをもらって修正し、諦めず有意な提案を行おうとする学生を、企業や団体は望んでいます。本授業はその力の修得を目指して設計されています。

<授業の進め方>

- ①第1回にてガイダンスを実施します。課題提供団体の理解を深めます。
- ②第2回にて、課題提供団体からの3つの課題を提示します。この間に挑戦する課題を吟味してください。
- ③第3回までにグループピングと挑戦する課題決定をします。その後第6回まで、課題解決のために役立つスキルについて講義をします。
- ④第7回にて教員への相談会を実施します。そして期日に企画書を提出して頂きます。
- ⑤第8回にて、課題提供団体からのフィードバックを解説します。
- ⑥第9～12回にて、課題解決のために役立つスキルについて講義し、第13回にて教員への相談会を実施します。
- ⑦第14・15回にて、課題提供団体に、最終プレゼンテーションを行い、フィードバックを頂きます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体に実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。(到達目標)【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

プロフェSSIONALの仕事II【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
- 大嶋祥誉『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 3つの課題提示と解説 ★ゲスト登壇
- 第03回 課題解決に資する情報提供①ロジカルシンキング
- 第04回 課題解決に資する情報提供②問いを立てる力
- 第05回 課題解決に資する情報提供③クリエイティブシンキング
- 第06回 課題解決に資する情報提供④デジタルトランスフォーメーション
- 第07回 教員への相談会
- 第08回 中間発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第09回 課題解決に資する情報提供⑤課題解決のケーススタディ
- 第10回 課題解決に資する情報提供⑥課題解決のケーススタディ
- 第11回 課題解決に資する情報提供⑦課題解決のケーススタディ
- 第12回 課題解決に資する情報提供⑧プレゼン資料の作り方
- 第13回 教員への相談会
- 第14回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第15回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇

※参考

<2021年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

課題①北九大の学生全員がフォローしなくなる！コンテンツ（ツイッター企画）を考える

課題②コロナ禍でもできる！子ども向けリアルイベント

課題③どう伝える？どう残す？大学生が考える戦争伝承

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…56%

最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…30%

最終レポート…14%

なお、採点対象のリフレクションを一度も提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームで授業での学びを言語化してください。

履修上の注意 /Remarks

※第3回で挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体験することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

実務経験のある教員による授業

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、以下の点を目的としています。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

また、この講義が目指す到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

地域貢献活動の経験を自らの学びや成長につなげていくための授業となります。
関心を持たれた方は受講して下さい。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

サービスラーニング入門I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良い市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」（55%）+「授業内での小テスト+授業への取り組み」（45%）=合計100%評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能（-）とします。

また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能（-）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。

講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。

受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加（ボランティア活動の実施）を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」（ボランティア）を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」（1500字程度）として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。	
			サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

(到達目標)

- 【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 計画発表会①
- 計画発表会②
- 実践報告①
- 実践報告②
- 実践報告③
- 実践報告④
- 受講生による振り返り
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100点評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能(-)とします。
また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能(-)となります。

サービスラーニング入門II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の文化と歴史を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の文化と歴史を知ることを通じ、地域の特長・課題を分析・考察できるようにする。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	北九州・下関地域など、自ら関わる地域の文化や歴史に対して継続的に関心を持つ意欲を涵養する。
			地域の文化と歴史
			HIS170F

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

なお、2022年度において本講義は遠隔(オンデマンド)授業での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の文化と歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》古代の地域
- 第 4 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 5 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 6 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回： 《歴史》昭和期以降の地域
- 第 8 回： 《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
- 第 9 回： 《文化》文芸活動等による地域への政策効果
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 12 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 13 回： 《文化》地域の文化財
- 第 14 回： 《文化》地域の文学
- 第 15 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考： 2021年度のゲストの所属組織例（2022年度も概ね同様の予定だが、変更となる可能性がある）（順不同）

《 北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課 など 》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す課題への取り組み状況）： 100%

※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能（-）とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。

事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域の社会と経済【昼】

担当者名 李 錦東 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年(2016年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域の社会と経済
			ECN170F

授業の概要 /Course Description

この授業は、北九州地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指しています。

本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、皆さんの出身地が北九州であってもその他の地域であっても、学生生活を過ごす北九州地域への理解を深め、また、皆さんのキャリア形成等にとってもためになるお話を聞きます。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

■要注意!

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の社会と経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※講義の内容及び順番は、ゲストスピーカーの都合などにより変更しますので、あらかじめご理解ください。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：北九州の産業と40年周期説
- 第3回：統計からみる北九州の産業
- 第4回：地域の企業①【地元企業関係者等による説明】
- 第5回：地域の企業②【地元企業関係者等による説明】
- 第6回：地域の企業③【地元企業関係者等による説明】
- 第7回：地域の企業④【地元企業関係者等による説明】
- 第8回：地域の企業⑤【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の起業環境【NPO等の専門家による説明】
- 第10回：地域のコミュニティ【NPO等の専門家による説明】
- 第11回：地域の取り組み【市役所など行政関係者による説明】
- 第12回：地域の環境ビジネス【関連活動をしている関係者による説明】
- 第13回：地域社会を新しく考えるための思考【NPO等の専門家による説明】
- 第14回：北九州市の人口と未来
- 第15回：まとめー住みたいまち 北九州 -

※地域の企業とは今後日程などの調整が必要です。ご参考までに、2021年度にご登壇していただいた企業(の方)は、次の通りです。①プレミアホテル門司港総支配人、②極東ファティ㈱代表取締役社長、③ヤフージャパン株式会社 エリアリーダー、④クラウン製パン株式会社総務部、⑤株式会社井筒屋、⑥シャボン玉石けん株式会社社長、などです。

成績評価の方法 /Assessment Method

各回ごとのショートレポート(14回)：100%

※ ショートレポートのが、授業や講演内容を反映していない・質問などの趣旨とは異なる・内容がチンプンカンプンでよくわからない(理解不能、未提出含む)などと評価された回数が、5回以上だと評価不能になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。平素より地域の現状と変化などについてアンテナを張って、本授業の事前・事後に情報収集に努めましょう。活字新聞、TV、インターネット等も有効に利用してください。また、授業中に興味を持った事項については、皆さんのキャリア形成や知見を広めるなどのために、各自調べて理解を深めていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

※※ 授業計画及び内容は、ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容を変更しますので、予めご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの大学時代の4年間を過ごす「北九州」ですが、本科目『(北九州)地域の社会と経済』を受講することで、北九州に対する理解はもちろん、北九州地域への関心や愛着、愛郷心をもてるようになります。また、皆さんの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や知恵、刺激などを得ることができるよう。ゲストスピーカーは、地域や産業の第一線で活躍活躍している方が多く、彼らの話を聞くことで、皆さんが地域の現状と課題とビジョンを理解し、地域に密着した人材として、地域での活躍ができる切っ掛けやステップを見つけることにつながります。私は、皆さんが大学を卒業した後、4年間過ごしたまちについて、愛着をもって語れる人になってほしいと思っています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化
SDGs8 . 働きがい・経済成長、SDGs11 . まちづくり

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年(2016年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解し、地域に対する愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関する課題を現状に則して把握・分析し、課題解決に向けた方策の検討を行える力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域のにぎわいづくり RDE270F

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を理解し、自らの考えをまとめ、考察すること等を通じ、地域への理解を深め、にぎわいづくりに関する視野を広げることを目指す。

2022年度においては、行政および地域の各種団体等の協力のもと、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興等に着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。

(実施方法について)

2022年度において本講義はメディア授業(遠隔授業)での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

全15回の授業のうち、2ないし3回はリアルタイムのライブ方式(同時双方向型)での実施を予定し、残りの回はオンデマンド方式での実施を予定している。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。詳細については第1回授業で説明する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関して論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域のにぎわいづくり 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
 ※第3回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり① 【地域社会活性化】
- 第 6回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり② 【地域経済活性化】
- 第 7回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 8回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
 ※第8回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第10回 《文化芸術》MICEによるにぎわいづくり
- 第11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第13回 《観光等》商業振興によるにぎわいづくり
- 第14回 《観光等》食を活かしたにぎわいづくり
- 第15回 企業の視点からみたにぎわいづくり

※ゲスト(にぎわいづくりの実務家)の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。
 ※ライブ方式(同時双方向型)の回を上記よりも1回増やして計3回とする可能性がある。第1回授業で説明する。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。

※参考：2021年度のゲストの所属組織の例(2022年度においては一部変更を行う)
 《北九州市役所(観光課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室、世界体操・新体操選手権推進室)、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州、福岡北九州フェニックス株式会社、毎日新聞》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(各回で課す課題への取り組み状況)：100%
 ※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能(-)とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
 事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることが出来る授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や企業・地域団体等でのにぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

北九州市の都市政策 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州市の都市政策全般についての知識を習得し、分野ごとの個別政策について理解を深めることで、地域への愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州市の都市政策を知り、地域の政策課題を見極めることで、課題解決に向けた総合的な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	北九州市の都市政策を知り、現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高めることで、社会的責任と倫理観を持って行動することができる素養を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			北九州市の都市政策
			PLC270F

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

※2022年度はすべてメディア授業(オンデマンド方式)で実施します。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

北九州市の都市政策【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第3回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第4回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第5回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第6回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第7回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第8回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第9回 門司区のまちづくり【区政、門司港レトロ、観光】
- 第10回 地元就職【就職支援、UIJターン】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州工コタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% 毎回の授業レポート・・・30% 期末レポート・・・50%

- ・ 欠席（毎回レポートの不提出を欠席とみなします）が5回以上の場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。（必要な学習時間の目安は60分）
授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は60分）

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業特性や現況を認識し、地域企業の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の課題を認識し、論理的に考察・分析を行い、課題解決を図る基礎力を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことを自己認識し、目的意識をもって主体的に行動する力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			まなびと企業研究 I
			CAR270F

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」(3年次)の準備講座としての役割も果たしています。

(到達目標)

- 【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとびあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2~15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
- 第15回 まとめ

まなびと企業研究I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
質疑応答、議論・・・10%
レポートを7回以上提出しない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、こういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域(社会)貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業実習を通して企業特性や現況を実践的に捉え、地域企業(現場)の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の事象から問題を見抜き、課題を発見し、論理的に考察・分析を行い、解決策を表現することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことに目的意識をもち、主体的に行動することで、成果に結びつく力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域や社会の情勢に関心を抱き、的確に捉え、課題解決のための学びを持続することができる。
	コミュニケーション力	●	自己の考えを他者に分かりやすく説明する意欲を高め、積極的に相互関係を築く力を身に付ける。
		まなびと企業研究II CAR370F	

授業の概要 /Course Description

<目的> 北九州市や下関市および周辺の企業団体を題材にしながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。
2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。みんなと一緒に合同企業説明会に行つて進路を選ぶ時代は終わり、自分で進路を見出し、手繰り寄せる時代にすでに変わりました。
そして新型コロナウイルスの流行により、時代の変化は加速しました。コロナ禍における企業倒産は、資金繰り対策や持続化給付金、雇用調整助成金、特別定額給付金などの緊急政策によって抑制できたものの、対人接触業務が前提である「コロナ対人4業種」(宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業)においては、コロナ感染拡大時に採られた「接触7~8割削減」政策は「対人3割経済」となり、売上現状は止まらず、債務が膨大しています。なお「コロナ対人4業種」は地産地消型なので、地域内の他業種への影響も大きく、地域内の小売り・卸売りに携わる中小企業への影響も否定できません。その突破口となるのが、感染拡大予防に加え国民の福祉を向上させ、かつ新たな機会を生み出す「攻めと守りを両立」させた、暮らしや社会のデジタル化(DX)です。DXによって適切な情報提供・支援提供により安心して暮らせる生活を維持(守り)しながら、同時にDXによってピンチをチャンスと捉え新しいビジネスを創造(攻め)することが、ニューノーマル時代のビジネスの基本路線と言えるでしょう。同時に企業団体は、DXを提案できる力はもちろん、人間にしかできない質の高いコミュニケーションスキルや、答えのない課題に果敢に挑戦するマインド、そしてAIには思いつかない創造性を持つ大学生が求められ、逆にDXを提案する力を持たず、低いコミュニケーション能力や指示されたことしかできない低いマインド、本やネットに載っていることを真似ることしかできない大学生は、社会のどこからも求められないでしょう。

では今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用しつつ、様々な企業団体について可能な限りアクセスし、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手(企業団体)を知る」、さらに夏のインターシップなどに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方> 形式は問題基盤型学習(Problem-based-Learning)です。
【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。
【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自分を知る(自己分析)、相手を知る(企業団体研究)、就職活動のプランを創る。
(到達目標) 【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自律的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- キャロルS.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- J.D.克蘭ボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスクヴァー・トウエンティワン
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- 宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 マインドセット
- 4回 計画された偶発性
- 5回 企業団体研究事例①DX
- 6回 インターンシップ対策(経験学習)
- 7回 グリット(やり抜く力)
- 8回 企業団体研究事例②グリット
- 9回 問いを立てる力
- 10回 デザイン思考
- 11回 企業団体研究事例③VUCA
- 12回 GD対策(アイデアの作り方)
- 13回 自己分析(アイデンティティ資本)
- 14回 面接対策(インプロビゼーション)
- 15回 最終プレゼンテーション(企業団体研究成果発表会)

成績評価の方法 /Assessment Method

通常授業のプレゼンテーション...39%
最終プレゼンテーション...28%
振り返りレポート...28%
最終レポート...5%
なお、採点対象のプレゼンを行わなかった場合や、レポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。
【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

3年生の場合は、就職活動のブラッシュアップとお考え下さい。4年生の場合は、就職活動中であればそのまま活用できる内容です。すでに内定をお持ちの場合は、残る大学時代をどう過ごすかについて考える機会にしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

英語I (英 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく1つの到達目標
技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics that we hope will be of interest to you, including animals, the environment, health and fitness, fashion, and economics.

You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. You will, to a lesser extent, do speaking and listening activities, but the major focus of the course will be on improving your accuracy and fluency in reading, and your fluency in writing.

Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

教科書 /Textbooks

Baker, Lida & Westbrook, Carolyn. (2018). Prism Reading 2 Student's Book with Online Workbook. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction to the course
- 2 Unit 1: Animals
Reading 1: Endangered Species; Language development
- 3 Unit 1: Animals
Reading 2: Losing the Battle for Survival; Language development
- 4 Unit 2: The Environment
Reading 1: Our Changing Planet; Language development
- 5 Unit 2: The Environment
Reading 2: The Causes & Effects of Deforestation; Language development
- 6 Unit 4: Customs & Traditions
Reading 1: Customs around the World; Language development
- 7 Unit 4: Customs & Traditions
Reading 2: Nontraditional Weddings; Language development
- 8 Unit 5: Health & Fitness
Reading 1: Exercise; Language development
- 9 Unit 5: Health & Fitness
Reading 2: Tackling Obesity; Language development
- 10 Unit 6: Discovery & Invention
Reading 1: The Magic of Mimicry; Language development
- 11 Unit 6: Discovery & Invention
Reading 2: Technology of the Future; Language development
- 12 Unit 7: Fashion
Reading 1: Is Fast Fashion Taking Over?; Language development
- 13 Unit 7: Fashion
Reading 2: Offshore Textile Production; Language development
- 14 Unit 8: Economics
Reading 1: Investing: Two Alternatives To Consider; Language development
- 15 Unit 8: Economics
Reading 2: What Has Happened to the American Dream?; Language development

成績評価の方法 /Assessment Method

60-100% attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination/project. PLEASE NOTE: It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (ー) とします。

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (ー).

Any plagiarism (copying/stealing from the internet) will result in a grade of (D)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance. Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (英 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく1つの到達目標

技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics that we hope will be of interest to you, including animals, the environment, health and fitness, fashion, and economics.

You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. You will, to a lesser extent, do speaking and listening activities, but the major focus of the course will be on improving your accuracy and fluency in reading, and your fluency in writing.

Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

教科書 /Textbooks

Baker, Lida & Westbrook, Carolyn. (2018). Prism Reading 2 Student's Book with Online Workbook. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction to the course
- 2 Unit 1: Animals
Reading 1: Endangered Species; Language development
- 3 Unit 1: Animals
Reading 2: Losing the Battle for Survival; Language development
- 4 Unit 2: The Environment
Reading 1: Our Changing Planet; Language development
- 5 Unit 2: The Environment
Reading 2: The Causes & Effects of Deforestation; Language development
- 6 Unit 4: Customs & Traditions
Reading 1: Customs around the World; Language development
- 7 Unit 4: Customs & Traditions
Reading 2: Nontraditional Weddings; Language development
- 8 Unit 5: Health & Fitness
Reading 1: Exercise; Language development
- 9 Unit 5: Health & Fitness
Reading 2: Tackling Obesity; Language development
- 10 Unit 6: Discovery & Invention
Reading 1: The Magic of Mimicry; Language development
- 11 Unit 6: Discovery & Invention
Reading 2: Technology of the Future; Language development
- 12 Unit 7: Fashion
Reading 1: Is Fast Fashion Taking Over?; Language development
- 13 Unit 7: Fashion
Reading 2: Offshore Textile Production; Language development
- 14 Unit 8: Economics
Reading 1: Investing: Two Alternatives To Consider; Language development
- 15 Unit 8: Economics
Reading 2: What Has Happened to the American Dream?; Language development

成績評価の方法 /Assessment Method

60-100% attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination/project. PLEASE NOTE: It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any plagiarism (copying/stealing from the internet) will result in a grade of (D)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance. Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (英 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく1つの到達目標

技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics that we hope will be of interest to you, including animals, the environment, health and fitness, fashion, and economics.

You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. You will, to a lesser extent, do speaking and listening activities, but the major focus of the course will be on improving your accuracy and fluency in reading, and your fluency in writing.

Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

教科書 /Textbooks

Baker, Lida & Westbrook, Carolyn. (2018). Prism Reading 2 Student's Book with Online Workbook. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

英語I (英 1 - C) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction to the course
- 2 Unit 1: Animals
Reading 1: Endangered Species; Language development
- 3 Unit 1: Animals
Reading 2: Losing the Battle for Survival; Language development
- 4 Unit 2: The Environment
Reading 1: Our Changing Planet; Language development
- 5 Unit 2: The Environment
Reading 2: The Causes & Effects of Deforestation; Language development
- 6 Unit 4: Customs & Traditions
Reading 1: Customs around the World; Language development
- 7 Unit 4: Customs & Traditions
Reading 2: Nontraditional Weddings; Language development
- 8 Unit 5: Health & Fitness
Reading 1: Exercise; Language development
- 9 Unit 5: Health & Fitness
Reading 2: Tackling Obesity; Language development
- 10 Unit 6: Discovery & Invention
Reading 1: The Magic of Mimicry; Language development
- 11 Unit 6: Discovery & Invention
Reading 2: Technology of the Future; Language development
- 12 Unit 7: Fashion
Reading 1: Is Fast Fashion Taking Over?; Language development
- 13 Unit 7: Fashion
Reading 2: Offshore Textile Production; Language development
- 14 Unit 8: Economics
Reading 1: Investing: Two Alternatives To Consider; Language development
- 15 Unit 8: Economics
Reading 2: What Has Happened to the American Dream?; Language development

成績評価の方法 /Assessment Method

60-100% attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination/project. PLEASE NOTE: It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any plagiarism (copying/stealing from the internet) will result in a grade of (D)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance. Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (英 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく1つの到達目標

技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics that we hope will be of interest to you, including animals, the environment, health and fitness, fashion, and economics.

You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. You will, to a lesser extent, do speaking and listening activities, but the major focus of the course will be on improving your accuracy and fluency in reading, and your fluency in writing.

Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

教科書 /Textbooks

Baker, Lida & Westbrook, Carolyn. (2018). Prism Reading 2 Student's Book with Online Workbook. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

英語I (英 1 - D) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction to the course
- 2 Unit 1: Animals
Reading 1: Endangered Species; Language development
- 3 Unit 1: Animals
Reading 2: Losing the Battle for Survival; Language development
- 4 Unit 2: The Environment
Reading 1: Our Changing Planet; Language development
- 5 Unit 2: The Environment
Reading 2: The Causes & Effects of Deforestation; Language development
- 6 Unit 4: Customs & Traditions
Reading 1: Customs around the World; Language development
- 7 Unit 4: Customs & Traditions
Reading 2: Nontraditional Weddings; Language development
- 8 Unit 5: Health & Fitness
Reading 1: Exercise; Language development
- 9 Unit 5: Health & Fitness
Reading 2: Tackling Obesity; Language development
- 10 Unit 6: Discovery & Invention
Reading 1: The Magic of Mimicry; Language development
- 11 Unit 6: Discovery & Invention
Reading 2: Technology of the Future; Language development
- 12 Unit 7: Fashion
Reading 1: Is Fast Fashion Taking Over?; Language development
- 13 Unit 7: Fashion
Reading 2: Offshore Textile Production; Language development
- 14 Unit 8: Economics
Reading 1: Investing: Two Alternatives To Consider; Language development
- 15 Unit 8: Economics
Reading 2: What Has Happened to the American Dream?; Language development

成績評価の方法 /Assessment Method

60-100% attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination/project. PLEASE NOTE: It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any plagiarism (copying/stealing from the internet) will result in a grade of (D)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance. Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国 1-A、英 1-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-A、英 1-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいいて、学初級レベルで、常活のニーズを充することができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントをいいる。（Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 やり抜く
- 3回 分の好きな仕事
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境問題
- 9回 TOEIC演習(2)【法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【問題】
- 12回 オンライン教育
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（あるいは期末課題）...30%、平常の学習状況（小テストや課題実施状況を含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストや課題の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指に従うこと。

英語II (国 1-A、英 1-A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回 の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語II (国 1-B、英 1-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-B、英 1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Realise Japan
Colin Joyce (金星堂、2019) 9784764740419
(本体1,900円+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方と予習の仕方について説明
- 第2回 Unit 1 Best Behaviour
- 第3回 Unit 1 Best Behaviour
- 第4回 Unit 2 Things That Make Me Seem Odd
- 第5回 Unit 2 Things That Make Me Seem Odd
- 第6回 Unit 3 Before the Olympics
- 第7回 Unit 4 Devilish Hard Work
- 第8回 Unit 5 Similarly Different
- 第9回 Unit 6 Reporting Tokyo
- 第10回 Unit 7 Educational "Horses for Courses"
- 第11回 Unit 8 Funny Japanese
- 第12回 Unit 9 Cultural Pitfalls
- 第13回 Unit 10 A Note for Dissent
- 第14回 Unit 11 Football Japanese Style
- 第15回 授業のまとめと試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

演習という授業の性格上、出席を重視します。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

英語II (国 1-B、英 1-B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習を重視しますが、やり方については第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国 1-C、英 1-C・D) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-C、英 1-C・D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST-TOEIC L&Rテスト攻略の鍵（金星堂）（¥2,090 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るところだけ！（アルク）小石裕子・Dorey, Paul（著）（¥1,980 [税込]）

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,320 [税込]）

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るところだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,760 [税込]）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life [文型・品詞]
- 第3回 Unit 2 Shopping [代名詞・疑問詞]
- 第4回 Unit 3 Parties & Events [形容詞・副詞]
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel [前置詞]
- 第6回 Unit 5 Office Work [接続詞]
- 第7回 Unit 6 Marketing & ICT [名詞・主語と動詞の一致]
- 第8回 Unit 1～6 の振り返り / Review Test 1
- 第9回 Unit 7 Production & Logistics [助動詞]
- 第10回 Unit 8 Employment [時制]
- 第11回 Unit 9 Personnel [受動態]
- 第12回 Unit 10 Business [分詞・分詞構文]
- 第13回 Unit 11 Health & Environment [不定詞・動名詞]
- 第14回 Unit 12 Finance [関係詞]
- 第15回 全体のまとめ / Review Test 2

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (英 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor クリステイン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

DP 技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。
Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for writing a short research paper. During the course, we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code
Cengage Learning Mari Vargo, Laurie Blass.
ISBN 9781337624923

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Further reading may be recommended as the course progresses.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . Introduction: Course Goals and Outline
 - 2 . 1A Social Relationships
 - 3 . 1B Social Relationships
 - 4 . 2A Science and Investigation
 - 5 . 2B Science and Investigation
 - 6 . 3A City Solutions
 - 7 . 3B City Solutions
 - 8 . Short individual presentations
 - 9 . 4A Danger Zones
 - 10 . 4B Danger Zones
 - 11 . 5A The Travel Business
 - 12 . 5B The Travel Business
 - 13 . Presentations on research paper topics A
 - 14 . Presentations on research paper topics B
 - 15 . Presentations on research paper topics C
- Schedule and pace may be altered to fit the needs of the class. Further explanation will be given in the first session.

英語III (英 1 - A) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper/Presentation: (50 %)

Short individual presentation: (20 %)

Homework Activities : (30 %)

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Should this be the case the percentages listed directly above will be modified as appropriate. Further explanation will be given when the course begins.

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能 (-) とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Week 2 on, students should prepare for each class by carefully reading through the assigned text a day or two before we meet. Homework assignments will be used to review course content. Re-reading of assigned texts after each class is also encouraged.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (英 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

DP 技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for writing a short research paper. During the course, we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code
Cengage Learning Mari Vargo, Laurie Blass.
ISBN 9781337624923

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Further reading may be recommended as the course progresses.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . Introduction: Course Goals and Outline
- 2 . 1A Social Relationships
- 3 . 1B Social Relationships
- 4 . 2A Science and Investigation
- 5 . 2B Science and Investigation
- 6 . 3A City Solutions
- 7 . 3B City Solutions
- 8 . Short individual presentations
- 9 . 4A Danger Zones
- 10 . 4B Danger Zones
- 11 . 5A The Travel Business
- 12 . 5B The Travel Business
- 13 . Presentations on research paper topics A
- 14 . Presentations on research paper topics B
- 15 . Presentations on research paper topics C

Schedule and pace may be altered to fit the needs of the class. Further explanation will be given in the first session.

英語III (英 1 - B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper/Presentation: (50 %)

Short individual presentation: (20 %)

Homework Activities : (30 %)

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Should this be the case the percentages listed directly above will be modified as appropriate. Further explanation will be given when the course begins.

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能 (-) とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Week 2 on, students should prepare for each class by carefully reading through the assigned text a day or two before we meet. Homework assignments will be used to review course content. Re-reading of assigned texts after each class is also encouraged.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (英 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

DP 技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for writing a short research paper. During the course, we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code
Cengage Learning Mari Vargo, Laurie Blass.
ISBN 9781337624923

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Further reading may be recommended as the course progresses.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . Introduction: Course Goals and Outline
- 2 . 1A Social Relationships
- 3 . 1B Social Relationships
- 4 . 2A Science and Investigation
- 5 . 2B Science and Investigation
- 6 . 3A City Solutions
- 7 . 3B City Solutions
- 8 . Short individual presentations
- 9 . 4A Danger Zones
- 10 . 4B Danger Zones
- 11 . 5A The Travel Business
- 12 . 5B The Travel Business
- 13 . Presentations on research paper topics A
- 14 . Presentations on research paper topics B
- 15 . Presentations on research paper topics C

Schedule and pace may be altered to fit the needs of the class. Further explanation will be given in the first session.

英語III (英 1 - C) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper/Presentation: (50 %)

Short individual presentation: (20 %)

Homework Activities : (30 %)

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Should this be the case the percentages listed directly above will be modified as appropriate. Further explanation will be given when the course begins.

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能 (-) とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Week 2 on, students should prepare for each class by carefully reading through the assigned text a day or two before we meet. Homework assignments will be used to review course content. Re-reading of assigned texts after each class is also encouraged.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (英 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

DP 技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for writing a short research paper. During the course, we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code
Cengage Learning Mari Vargo, Laurie Blass.
ISBN 9781337624923

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Further reading may be recommended as the course progresses.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . Introduction: Course Goals and Outline
- 2 . 1A Social Relationships
- 3 . 1B Social Relationships
- 4 . 2A Science and Investigation
- 5 . 2B Science and Investigation
- 6 . 3A City Solutions
- 7 . 3B City Solutions
- 8 . Short individual presentations
- 9 . 4A Danger Zones
- 10 . 4B Danger Zones
- 11 . 5A The Travel Business
- 12 . 5B The Travel Business
- 13 . Presentations on research paper topics A
- 14 . Presentations on research paper topics B
- 15 . Presentations on research paper topics C

Schedule and pace may be altered to fit the needs of the class. Further explanation will be given in the first session.

成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper/Presentation: (50 %)

Short individual presentation: (20 %)

Homework Activities : (30 %)

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Should this be the case the percentages listed directly above will be modified as appropriate. Further explanation will be given when the course begins.

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能 (-) とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Week 2 on, students should prepare for each class by carefully reading through the assigned text a day or two before we meet. Homework assignments will be used to review course content. Re-reading of assigned texts after each class is also encouraged.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (国 1-A、英 1-A) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-A、英 1-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2B (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13032-2

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

英語IV (国 1-A、英 1-A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (国 1-B、英 1-B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 国 1-B、英 1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅳ
			ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 1B - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

「税込価格：3,091円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Housing for the Future 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Housing for the Future 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Exploring Space 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Exploring Space 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：Creative Arts 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Creative Arts 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：Our Relationship with Nature 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：Our Relationship with Nature 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：How can we Communicate 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：How can we Communicate 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Consolidation [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Presentation 3 [Speaking Skills] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to submit all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based learning

英語Ⅳ (国1-C、英1-C・D) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1-C、英1-C・D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)
【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

World English 2B Third Edition
L. Johansen, M. Milner & R. Tarver Chase
Cengage
3025yen
ISBN 97803571303

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Internet access and a dictionary is required

英語Ⅳ (国 1-C、英 1-C・D) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 7 Things that Matter (A)
Week 3 Unit 7 Things that Matter (B)
Week 4 Unit 8 Conservation (A)
Week 5 Unit 8 Conservation (B)
Week 6 Unit 9 Life Now and In The Past (A)
Week 7 Unit 9 Life Now and In The Past (B)
Week 8 Review of Units 7-9
Week 9 Unit 10 Travel (A)
Week 10 Unit 10 Travel (B)
Week 11 Unit 11 Careers (A)
Week 12 Unit 11 Careers (B)
Week 13 Unit 12 Celebrations (A)
Week 14 Unit 12 Celebrations (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to helping you study English.

キーワード /Keywords

英語V (国2-A、英2-A・B) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2-A、英2-A・B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主にTOEIC L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

基礎的な文法・語法学習並びにリーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「600点」です。(このスコアは前年度を参考に出しています)

教科書 /Textbooks

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST : INTERMEDIATE
番場直之 / 小山克明 共著 金星堂 ¥2,200(税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

英語V (国 2 - A、英 2 - A・ B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・30%、e-learning 学習状況・・・20%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

英語V (国2-B・C、英2-C・D) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2 単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - B・C、英2 - C・D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

DEVELOP GRAMMATICAL COMPETENCE FOR THE TOEIC(R) L & R TEST (松柏社) ISBN978-4-88198-758-2 2,090円
ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時、あるいは moodle 上で指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の基礎的力をつける)	読解 (単語と文法の基礎的力をつける)
3回	聴解 (単語と文法の初歩的力をつける)	読解 (単語と文法の初歩的力をつける)
4回	聴解 (単語と文法の応用的力をつける)	読解 (単語と文法の応用的力をつける)
5回	聴解 (単語と文法の発展的力をつける)	読解 (文脈を考える①) 【言語表現に注目する】
6回	聴解 (英語の音に注目する 単語)	読解 (文脈を考える②) 【既出情報に注目する】
7回	聴解 (英語の音に注目する 語句)	読解 (文脈を考える③) 【まとめ】
8回	聴解 (英語の音に注目する 文)	読解 (言語外の知識を利用する①) 【経験からの類推】
9回	聴解 (英語の音に注目する まとめ)	読解 (言語外の知識を利用する②) 【社会的・文化的背景に注目する】
10回	聴解 (多様な英語に注目する①) 【英・豪英語に注目する】	読解 (言語外の知識を利用する③) 【まとめ】
11回	聴解 (多様な英語に注目する②) 【北米英語に注目する】	読解 (言外の意味を捉える①) 【皮肉・冗談など】
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①) 【言語表現に注目する】	読解 (言外の意味を捉える②) 【比喩表現など】
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②) 【既出情報に注目する】	読解 (言外の意味を捉える③) 【まとめ】
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ)
15回	まとめ	

英語V (国 2 - B · C 、 英 2 - C · D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 70%
課題 10%
指定 e-learning の学習状況 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
また、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時、あるいは moodle 上で指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。また、初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (英 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop listening, speaking and critical thinking skills.

The focus of the course will be Sustainable Development Goals (SDGs), we will look at why SDGs are important, how we can support SDGs on a personal, local, national, and global scale.

Students will learn how to put critical thinking skills into practice and how to analyze problematic issues surrounding implementation of the SDG goals set out by the United Nations as well as improve their listening and speaking skills.

Whilst it is not possible for all of the SDG goals to be discussed during this semester students are strongly recommended to take a look at the United Nations University home page in order to familiarize themselves with all of the SDG goals not only those covered in class.

Link to the United Nations University: <https://unu.edu/explore>

教科書 /Textbooks

SDGs x Discussion by Reiko Yoshihara, Chiyo Hayashi, Emi Itoi, Noriko Iwamoto, Audrey Morrell

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Introduction to the class

Week 2. #1: No Poverty

Week 3. #2: Zero Hunger

Week 4. #3: Good health and well-being

Week 5. #4: Quality Education

Week 6. #5: Gender Equality

Week 7. #6: Clean Water and Sanitation

Week 8. #7: Affordable and Clean Energy

Week 9. #8 Decent Work and Economic Growth/

Week 10. #9 Industry, Innovation and Infrastructure

Week 11. #10 Reduced Inequalities

Week 12. #11& #12 Sustainable Cities and Communities/ Responsible Consumption and Communities

Week 13.#13: Climate Action

Week 14. #14& #15: Life Below Water/ Life on Land

Week 15. # 16: Peace, Justice, and Strong Institutions

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 20%
Group Presentations/ Discussions 20%
Homework Assignment 20%
40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.*

授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。
If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).
試験を受験しない場合は、評価不能(－)とします。
Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Relax, enjoy, have fun learning about SDGs. I am looking forward to seeing you in class.

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Discussion, Presentation

英語VI (英 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor Denis・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop listening, speaking and critical thinking skills.

The focus of the course will be Sustainable Development Goals (SDGs), we will look at why SDGs are important, how we can support SDGs on a personal, local, national, and global scale.

Students will learn how to put critical thinking skills into practice and how to analyze problematic issues surrounding implementation of the SDG goals set out by the United Nations as well as improve their listening and speaking skills.

Whilst it is not possible for all of the SDG goals to be discussed during this semester students are strongly recommended to take a look at the United Nations University home page in order to familiarize themselves with all of the SDG goals not only those covered in class.

Link to the United Nations University: <https://unu.edu/explore>

教科書 /Textbooks

SDGs x Discussion by Reiko Yoshihara, Chiyo Hayashi, Emi Itoi, Noriko Iwamoto, Audrey Morrell

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Introduction to the class

Week 2. #1: No Poverty

Week 3. #2: Zero Hunger

Week 4. #3: Good health and well-being

Week 5. #4: Quality Education

Week 6. #5: Gender Equality

Week 7. #6: Clean Water and Sanitation

Week 8. #7: Affordable and Clean Energy

Week 9. #8 Decent Work and Economic Growth/

Week 10. #9 Industry, Innovation and Infrastructure

Week 11. #10 Reduced Inequalities

Week 12. #11& #12 Sustainable Cities and Communities/ Responsible Consumption and Communities

Week 13.#13: Climate Action

Week 14. #14& #15: Life Below Water/ Life on Land

Week 15. # 16: Peace, Justice, and Strong Institutions

英語VI (英 1 - B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 20%
Group Presentations/ Discussions 20%
Homework Assignment 20%
40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.*

授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。
If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).
試験を受験しない場合は、評価不能(－)とします。
Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Relax, enjoy, have fun learning about SDGs. I am looking forward to seeing you in class.

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Discussion, Presentation

英語VI (英 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop listening, speaking and critical thinking skills.

The focus of the course will be Sustainable Development Goals (SDGs), we will look at why SDGs are important, how we can support SDGs on a personal, local, national, and global scale.

Students will learn how to put critical thinking skills into practice and how to analyze problematic issues surrounding implementation of the SDG goals set out by the United Nations as well as improve their listening and speaking skills.

Whilst it is not possible for all of the SDG goals to be discussed during this semester students are strongly recommended to take a look at the United Nations University home page in order to familiarize themselves with all of the SDG goals not only those covered in class.

Link to the United Nations University: <https://unu.edu/explore>

教科書 /Textbooks

SDGs x Discussion by Reiko Yoshihara, Chiyo Hayashi, Emi Itoi, Noriko Iwamoto, Audrey Morrell

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Introduction to the class

Week 2. #1: No Poverty

Week 3. #2: Zero Hunger

Week 4. #3: Good health and well-being

Week 5. #4: Quality Education

Week 6. #5: Gender Equality

Week 7. #6: Clean Water and Sanitation

Week 8. #7: Affordable and Clean Energy

Week 9. #8 Decent Work and Economic Growth/

Week 10. #9 Industry, Innovation and Infrastructure

Week 11. #10 Reduced Inequalities

Week 12. #11& #12 Sustainable Cities and Communities/ Responsible Consumption and Communities

Week 13.#13: Climate Action

Week 14. #14& #15: Life Below Water/ Life on Land

Week 15. # 16: Peace, Justice, and Strong Institutions

英語VI (英 1-C) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 20%
Group Presentations/ Discussions 20%
Homework Assignment 20%
40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.*

授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。
If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).
試験を受験しない場合は、評価不能(－)とします。
Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Relax, enjoy, have fun learning about SDGs. I am looking forward to seeing you in class.

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Discussion, Presentation

英語VI (英 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2学期 /Semester 単位 /Credits 1単位 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop listening, speaking and critical thinking skills.

The focus of the course will be Sustainable Development Goals (SDGs), we will look at why SDGs are important, how we can support SDGs on a personal, local, national, and global scale.

Students will learn how to put critical thinking skills into practice and how to analyze problematic issues surrounding implementation of the SDG goals set out by the United Nations as well as improve their listening and speaking skills.

Whilst it is not possible for all of the SDG goals to be discussed during this semester students are strongly recommended to take a look at the United Nations University home page in order to familiarize themselves with all of the SDG goals not only those covered in class.

Link to the United Nations University: <https://unu.edu/explore>

教科書 /Textbooks

SDGs x Discussion by Reiko Yoshihara, Chiyo Hayashi, Emi Itoi, Noriko Iwamoto, Audrey Morrell

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Introduction to the class

Week 2. #1: No Poverty

Week 3. #2: Zero Hunger

Week 4. #3: Good health and well-being

Week 5. #4: Quality Education

Week 6. #5: Gender Equality

Week 7. #6: Clean Water and Sanitation

Week 8. #7: Affordable and Clean Energy

Week 9. #8 Decent Work and Economic Growth/

Week 10. #9 Industry, Innovation and Infrastructure

Week 11. #10 Reduced Inequalities

Week 12. #11& #12 Sustainable Cities and Communities/ Responsible Consumption and Communities

Week 13.#13: Climate Action

Week 14. #14& #15: Life Below Water/ Life on Land

Week 15. # 16: Peace, Justice, and Strong Institutions

英語VI (英 1-D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 20%
Group Presentations/ Discussions 20%
Homework Assignment 20%
40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.*

授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。
If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).
試験を受験しない場合は、評価不能(－)とします。
Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Relax, enjoy, have fun learning about SDGs. I am looking forward to seeing you in class.

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Discussion, Presentation

英語VII (国 2 - A、英 2 - A・ B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 国 2 - A、英 2 - A・ B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,200円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Education 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Personal Stories 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Personal Stories 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：Style and Fashion 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Style and Fashion 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：Interesting Lives 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：Interesting Lives 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Our World 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：Our World 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Organizing your time [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Presentation 3 [Speaking Skills] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

英語VII (国 2 - B・ C、英 2 - C・ D) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - B・ C、英 2 - C・ D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in one on one discussion style debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will allow them to express their opinions and influence others through logical, reasoned discussion. この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class. Curriculum is based on class handouts and student generated materials

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to Discussion and Debate
- 2回 Critical Thinking Skills: Providing Facts / Opinions / Supporting Ideas
- 3回 Responding to Facts & Opinions: Agreeing, Disagreeing & Giving Reasons
- 4回 Organization & Structure: Starting the Discussion / Matching Ideas / Ending the Discussion
- 5回 Positive Persuasive Discussion: Writing Time
- 6回 Positive Persuasive Discussion: Pair Presentation 1
- 7回 Pro / Con Discussion: Research & Write
- 8回 Pro / Con Debate Discussion: Peer Editing & Practice
- 9回 Pro / Con Debate Discussion: Pair Presentation 2
- 10回 Argumentative Debate: Research & Write
- 11回 Argumentative Debate: Presentation Skills & Practice
- 12回 Argumentative Debate: Pair Presentation 3
- 13回 Spontaneous Debate Challenge
- 14回 Final Test Preparation: Stage 1
- 15回 Final Test Preparation: Stage 2

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 20%, Presentations 30%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to have regular attendance and take part fully in class writing and speaking exercises. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be working closely with group members and will have to fulfill many tasks together. As student absence will affect pair and group success, all students are required to be present and active at all times.

キーワード /Keywords

英語VIII (英 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor カール・マックナマラ・ペイジ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

In this course I will help you learn and practice techniques to give more effective presentations. In our globalized world, learning presentation and communication skills is increasingly important. During the class, we will try several different kinds of presentations such as introducing a good friend, a favorite place, and a prized possession. We also learn many techniques such as body language, eye contact, and gestures.

Students will have some opportunities to give presentations in the class.

教科書 /Textbooks

Powell, Mark. (2011). "Presenting in English - how to give successful presentations -" Student Book (128 pp) with Audio CDs (2). CENGAGE Learning ISBN 978-1-111-83227-8.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will advise you when necessary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introductions
2. Section 1: Getting Started -Stating Your Purpose -
3. Section 1: Getting Started - Effective Openings, Signposting, Survival Tactics -
4. Section 2: Exploiting Visuals - Visuals, Change and Development -
5. Section 2: Exploiting Visuals - Change and Development, Cause Effect and Purpose -
6. Section 3: Using Your Voice - Articulation, Chunking, Stress -
7. Section 3: Using Your Voice - Pacing, Intonation,Sound Scripting -
8. Section 4: Basic Techniques - Emphasis, Focusing -
9. Section 4: Basic Techniques - Softening, Repetition -
10. Section 5: Further Techniques - Rhetorical Questions, Dramatic Contrasts, Tripling -
11. Section 5: Further Techniques - Machine-gunning, Build-ups, Knock-downs, Simplification, Creating Rapport -
12. Section 6: Key Language - Business Terms -
13. Section 6: Key Language - Formality, Useful Expressions -
14. Section 7: Handling Questions - Clarification -
15. Section 7: Handling Questions - Dealing with Questions-, Wrap-up

(The schedules and contents are subject to change.)

成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

Class participations: 50%; Presentation Grades: 50%

※ 5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。 If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lessons topic.

Following each lesson you need to review what you learned in the lesson.

履修上の注意 /Remarks

In conjunction with Kitakyushu University guidelines, please note the following:

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (-).

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

If you do not complete your work yourself or if you plagiarise any part of your work, you will receive a failing grade (-).

自分で課題を完成させない場合、または課題の一部を剽窃した場合は、評価不能 (-) とします。

If you do not complete more than 75% of your assignments, you will receive a failing grade (-).

課題の75%以上を完了できなかった場合、不合格となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive presentation in English after this course.

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Power Point, English

英語VIII (英 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor リーサ ハンズバーガー / Lisa M. Hunsberger / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

In this course I will help you learn and practice techniques to give more effective presentations. In our globalized world, learning presentation and communication skills is increasingly important. During the class, we will try several different kinds of presentations such as introducing a good friend, a favorite place, and a prized possession. We also learn many techniques such as body language, eye contact, and gestures.

Students will have some opportunities to give presentations in the class.

教科書 /Textbooks

Powell, Mark. (2011). "Presenting in English - how to give successful presentations -" Student Book (128 pp) with Audio CDs (2). CENGAGE Learning ISBN 978-1-111-83227-8.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will advise you when necessary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introductions
2. Section 1: Getting Started -Stating Your Purpose -
3. Section 1: Getting Started - Effective Openings, Signposting, Survival Tactics -
4. Section 2: Exploiting Visuals - Visuals, Change and Development -
5. Section 2: Exploiting Visuals - Change and Development, Cause Effect and Purpose -
6. Section 3: Using Your Voice - Articulation, Chunking, Stress -
7. Section 3: Using Your Voice - Pacing, Intonation,Sound Scripting -
8. Section 4: Basic Techniques - Emphasis, Focusing -
9. Section 4: Basic Techniques - Softening, Repetition -
10. Section 5: Further Techniques - Rhetorical Questions, Dramatic Contrasts, Tripling -
11. Section 5: Further Techniques - Machine-gunning, Build-ups, Knock-downs, Simplification, Creating Rapport -
12. Section 6: Key Language - Business Terms -
13. Section 6: Key Language - Formality, Useful Expressions -
14. Section 7: Handling Questions - Clarification -
15. Section 7: Handling Questions - Dealing with Questions-, Wrap-up

(The schedules and contents are subject to change.)

英語VIII (英 1 - B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

Class participations: 50%; Presentation Grades: 50%

※ 5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。 If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lessons topic.

Following each lesson you need to review what you learned in the lesson.

履修上の注意 /Remarks

In conjunction with Kitakyushu University guidelines, please note the following:

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (-).

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

If you do not complete your work yourself or if you plagiarise any part of your work, you will receive a failing grade (-).

自分で課題を完成させない場合、または課題の一部を剽窃した場合は、評価不能 (-) とします。

If you do not complete more than 75% of your assignments, you will receive a failing grade (-).

課題の75%以上を完了できなかった場合、不合格となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive presentation in English after this course.

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Power Point, English

英語VIII (英 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor カール・マックナマラ・ペイジ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

In this course I will help you learn and practice techniques to give more effective presentations. In our globalized world, learning presentation and communication skills is increasingly important. During the class, we will try several different kinds of presentations such as introducing a good friend, a favorite place, and a prized possession. We also learn many techniques such as body language, eye contact, and gestures.

Students will have some opportunities to give presentations in the class.

教科書 /Textbooks

Powell, Mark. (2011). "Presenting in English - how to give successful presentations -" Student Book (128 pp) with Audio CDs (2). CENGAGE Learning ISBN 978-1-111-83227-8.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will advise you when necessary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introductions
2. Section 1: Getting Started -Stating Your Purpose -
3. Section 1: Getting Started - Effective Openings, Signposting, Survival Tactics -
4. Section 2: Exploiting Visuals - Visuals, Change and Development -
5. Section 2: Exploiting Visuals - Change and Development, Cause Effect and Purpose -
6. Section 3: Using Your Voice - Articulation, Chunking, Stress -
7. Section 3: Using Your Voice - Pacing, Intonation,Sound Scripting -
8. Section 4: Basic Techniques - Emphasis, Focusing -
9. Section 4: Basic Techniques - Softening, Repetition -
10. Section 5: Further Techniques - Rhetorical Questions, Dramatic Contrasts, Tripling -
11. Section 5: Further Techniques - Machine-gunning, Build-ups, Knock-downs, Simplification, Creating Rapport -
12. Section 6: Key Language - Business Terms -
13. Section 6: Key Language - Formality, Useful Expressions -
14. Section 7: Handling Questions - Clarification -
15. Section 7: Handling Questions - Dealing with Questions-, Wrap-up

(The schedules and contents are subject to change.)

英語VIII (英 1 - C) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

Class participations: 50%; Presentation Grades: 50%

※ 5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。 If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lessons topic.

Following each lesson you need to review what you learned in the lesson.

履修上の注意 /Remarks

In conjunction with Kitakyushu University guidelines, please note the following:

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (-).

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

If you do not complete your work yourself or if you plagiarise any part of your work, you will receive a failing grade (-).

自分で課題を完成させない場合、または課題の一部を剽窃した場合は、評価不能 (-) とします。

If you do not complete more than 75% of your assignments, you will receive a failing grade (-).

課題の75%以上を完了できなかった場合、不合格となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive presentation in English after this course.

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Power Point, English

英語VIII (英 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor リーサ ハンズバーガー / Lisa M. Hunsberger / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

In this course I will help you learn and practice techniques to give more effective presentations. In our globalized world, learning presentation and communication skills is increasingly important. During the class, we will try several different kinds of presentations such as introducing a good friend, a favorite place, and a prized possession. We also learn many techniques such as body language, eye contact, and gestures.

Students will have some opportunities to give presentations in the class.

教科書 /Textbooks

Powell, Mark. (2011). "Presenting in English - how to give successful presentations -" Student Book (128 pp) with Audio CDs (2). CENGAGE Learning ISBN 978-1-111-83227-8.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will advise you when necessary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introductions
2. Section 1: Getting Started -Stating Your Purpose -
3. Section 1: Getting Started - Effective Openings, Signposting, Survival Tactics -
4. Section 2: Exploiting Visuals - Visuals, Change and Development -
5. Section 2: Exploiting Visuals - Change and Development, Cause Effect and Purpose -
6. Section 3: Using Your Voice - Articulation, Chunking, Stress -
7. Section 3: Using Your Voice - Pacing, Intonation,Sound Scripting -
8. Section 4: Basic Techniques - Emphasis, Focusing -
9. Section 4: Basic Techniques - Softening, Repetition -
10. Section 5: Further Techniques - Rhetorical Questions, Dramatic Contrasts, Tripling -
11. Section 5: Further Techniques - Machine-gunning, Build-ups, Knock-downs, Simplification, Creating Rapport -
12. Section 6: Key Language - Business Terms -
13. Section 6: Key Language - Formality, Useful Expressions -
14. Section 7: Handling Questions - Clarification -
15. Section 7: Handling Questions - Dealing with Questions-, Wrap-up

(The schedules and contents are subject to change.)

英語VIII (英 1 - D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

Class participations: 50%; Presentation Grades: 50%

※ 5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。 If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lessons topic.

Following each lesson you need to review what you learned in the lesson.

履修上の注意 /Remarks

In conjunction with Kitakyushu University guidelines, please note the following:

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (-).

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

If you do not complete your work yourself or if you plagiarise any part of your work, you will receive a failing grade (-).

自分で課題を完成させない場合、または課題の一部を剽窃した場合は、評価不能 (-) とします。

If you do not complete more than 75% of your assignments, you will receive a failing grade (-).

課題の75%以上を完了できなかった場合、不合格となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive presentation in English after this course.

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Power Point, English

英語Ⅸ (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国济営比人律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

Mark D. Stafford, successful keys to the TOEIC listening and reading test 2, 桐原書店, 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Unit 1 Daily life
- 第 2 回 Unit 2 Places
- 第 3 回 Unit 3 People
- 第 4 回 Unit 4 Travel
- 第 5 回 Unit 5 Business
- 第 6 回 Unit 6 Office
- 第 7 回 Technology
- 第 8 回 Personnel
- 第 9 回 Management
- 第 10 回 Purchasing
- 第 11 回 Finances
- 第 12 回 Media
- 第 13 回 Entertainment
- 第 14 回 Health
- 第 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・90% 授業への取り組み・・・10%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。
リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

この授業は、応用的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

TOEIC 5分間ドリル リスニング3 (マクミラン・ランゲージハウス) ISBN978-4-7773-6258-5 1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の力をつける①)	読解 (単語と文法の力をつける①)
3回	聴解 (単語と文法の力をつける②)	読解 (単語と文法の力をつける②)
4回	聴解 (単語と文法の力をつける③)	読解 (単語と文法の力をつける③)
5回	聴解 (単語と文法の力をつける④)	読解 (文脈を考える①)
6回	聴解 (英語の音に注目する①)	読解 (文脈を考える②)
7回	聴解 (英語の音に注目する②)	読解 (文脈を考える③)
8回	聴解 (英語の音に注目する③)	読解 (言語外の知識を利用する①)
9回	聴解 (英語の音に注目する④)	読解 (言語外の知識を利用する②)
10回	聴解 (多様なアクセントに注目する①)	読解 (言語外の知識を利用する③)
11回	聴解 (多様なアクセントに注目する②)	読解 (言外の意味を捉える①)
12回	聴解 (多様なアクセントに注目する③)	読解 (言外の意味を捉える②)
13回	聴解 (多様なアクセントに注目する④)	読解 (言外の意味を捉える③)
14回	聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ)	読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
また、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

英語X (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英中国済営比人律政 3 年 /English Law and Economics 3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

授業の概要 /Course Description

This is a "deep thinking in English" class at the English XI level.
We will work together and enjoy conversations in English.
You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

ENGLISH XI is an "Active Learning" style course for English XI level students.
We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.
We will then assess each other and make our own videos.
You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

英語XIのレベルにあわせた動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。
英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

英語XI (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
- (b) Chapter 2 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
- (c) Chapter 3 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
- (d) 試験(Final Essay) 25%
- (e) *Active Learning努力点 (± 20%) の変動が加わります。

数式は $[(a+b+c+d)÷4] ±20%$ です。

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-)

*1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

*Active Learning努力点が ± 20%の「変動力」もあるので、Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので(遠隔一対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語XIのレベルにあわせ、学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

英語XII (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語Ⅱ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion during and after class. The focus will be on developing critical thinking skills and academic writing ability.

教科書 /Textbooks

English Central (4 Month Academic Premium)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Case Study 1 - and discussion in class [Speaking, Skills] [Writing Skills]
- 第 3 回: Case Study 2 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 4 回: Case Study 3 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 5 回: Student Presentations (1) [Group Presentation] [Writing Skills]
- 第 6 回: Case Study 4 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 7 回: Case Study 5 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 8 回: Case Study 6 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 9 回: Case Study 7 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 10 回: Student Presentations (2) [Group Presentation] [Writing Skills]
- 第 11 回: Case Study 8 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 12 回: Case Study 9 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 13 回: Case Study 10 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 14 回: Case Study 11 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 15 回: Student Presentations (3) [Group Presentation] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

英語XII (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Topic based discussion and writing

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1-1・1-2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・60% 小テスト・・20% 日常の授業への取り組み・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2．教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英1 - 3・1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・60% 小テスト・・20% 日常の授業への取り組み・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2．教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・ 1 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 3・ 1 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やししながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・ 1 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2．教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英1 - 3・1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・ 1 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・ 40% 暗誦・ 30% 日常の授業への取り組み・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 3・ 1 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)

事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------|------------|
| 1回 | 第九課 | ポイント説明 |
| 2回 | 第九課 | 宮島と下関(本文) |
| 3回 | 第十課 | ポイント説明 |
| 4回 | 第十課 | 九州(本文) |
| 5回 | 第十一課 | ポイント説明 |
| 6回 | 第十一課 | 福岡(本文) |
| 7回 | 第十二課 | ポイント説明 |
| 8回 | 第十二課 | 佐賀(本文) |
| 9回 | 第十三課 | ポイント説明 |
| 10回 | 第十三課 | 長崎(本文) |
| 11回 | 第十四課 | ポイント説明 |
| 12回 | 第十四課 | 四国(本文) |
| 13回 | 第十五課 | ポイント説明 |
| 14回 | 第十五課 | 仙台と北海道(本文) |
| 15回 | 総合練習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第九課	宮島と下関(会話)
2回	第九課	練習
3回	第十課	九州(会話)
4回	第十課	練習
5回	第十一課	福岡(会話)
6回	第十一課	練習
7回	第十二課	佐賀(会話)
8回	第十二課	練習
9回	第十三課	長崎(会話)
10回	第十三課	練習
11回	第十四課	四国(会話)
12回	第十四課	練習
13回	第十五課	仙台と北海道(会話)
14回	第十五課	練習
15回	総合練習	

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
到達目標
中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。

参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

(到達目標)
【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期

- 第1回 授業説明、基礎復習
- 第2回 第1課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第3回 第1課② 会話、リスニング、作文練習
- 第4回 第2課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第5回 第2課② 会話、リスニング、作文練習
- 第6回 第3課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第7回 第3課② 会話、リスニング、作文練習
- 第8回 場面の体験1
- 第9回 第4課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第10回 第4課② 会話、リスニング、作文練習
- 第11回 第5課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第12回 第5課② 会話、リスニング、作文練習
- 第13回 第6課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第14回 第6課② 読む、会話、作文練習
- 第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%
※ 5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、
評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCIT初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、 翻訳力 作文力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語II	CHN311 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
到達目標
中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

到達目標）
【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

第1回の授業時に説明する。（前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する予定。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期	
第1回	第7課① 文法、翻訳、聴解練習
第2回	第7課② 会話、リスニング、作文練習
第3回	第8課① 文法、翻訳、聴解練習
第4回	第8課② 会話、リスニング、作文練習
第5回	場面の体験1
第6回	第9課① 文法、翻訳、聴解練習
第7回	第9課② 会話、リスニング、作文練習
第8回	第10課① 文法、翻訳、聴解練習
第9回	第10課② 会話、リスニング、作文練習
第10回	場面の体験2
第11回	第11課① 文法、翻訳、聴解練習
第12回	第11課② 会話、リスニング、作文練習
第13回	第12課① 文法、翻訳、聴解練習
第14回	第12課② 会話、リスニング、作文練習
第15回	場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%
 ※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、
 評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習する必要がある。
 欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BC T初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、考え力、ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、初級、中級を一通り終えた学習者が、さらに中国人に問いかけ、自由に話し合い、そして纏まった表現で自分の意志を話せるように図る。

授業内容は、日本を舞台にした、極めて身近な材料を取り上げ、自分のことから、家族、そして周囲の人への話題を広めていく。

講義の進み方

一課を二回に分けて進む。

一回目、必要な単語や文法表現を説明し、本文の音読練習と一問一答(ピンインなしの会話文を用いる)の形で日本語文意の確認を行う。

二回目、参考文の音読練習、と日本語文意を確認し、「自由会話」に挙げられたタイトルの一つを選び、発表する。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

教科書：『中国語実習コース』白水社

著作者：張 乃方

出版日：2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ガイダンスで説明を行う。

上級中国語Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回
授業ガイダンス
1学習内容の説明
2成績判定基準の説明
3中国語能力確認「自己紹介」
- 第二回
第一課「自己紹介」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第三回
第一課「自己紹介」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第四回
第二課「家庭」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第五回
第二課「家庭」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第六回
第三課「父母」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第七回
第三課「父母」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第八回
第四課「友達」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第九回
第四課「友達」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十回
第五課「居住」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十一回
第五課「居住」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十二回
第六課「通勤通学」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十三回
第六課「通勤通学」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十四回
第七課「飲み物」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十五回
第七課「飲み物」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1 平常点50% (日常の授業への取り組み10%、課題の成績40%)

成績評価の方法 /Assessment Method

2 定期試験50%

ただし、通期で遠隔授業を行う場合、また、対面試験を行う条件に満たさない場合、最終成績評価は平常点に基づいて算出する。

評価不能の基準について

- 1、5回以上無断欠席する場合（5回を含む）
- 2、期末試験に無断欠席する場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1 事前学習：新出単語や会話文を勉強する前に、本文音源を聞き、出来るだけ真似して発声練習する。
- 2 事後学習：配る練習プリントやテキスト練習問題を用い、授業にて学習した知識をこまめに復習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国に関する情報や中国人に関することに、より関心を持つようになるのは望ましい。

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、初級、中級を一通り終えた学習者が、さらに中国人に問いかけ、自由に話し合い、そして纏まった表現で自分の意志を話せるように図る。

授業内容は、日本を舞台にした、極めて身近な材料を取り上げ、自分のことから、家族、そして周囲の人への話題を広めていく。

講義の進み方

一課を二回に分けて進む。

一回目、必要な単語や文法表現を説明し、本文の音読練習と一問一答(ピンインなしの会話文を用いる)の形で日本語文意の確認を行う。

二回目、参考文の音読練習、と日本語文意を確認し、「自由会話」に挙げられたタイトルの一つを選び、発表する。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

教科書：『中国語実習コース』白水社

著作者：張 乃方

出版日：2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ガイダンスで説明する。

上級中国語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回
後期授業ガイダンス
第八課「休日」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第二回
第八課「休日」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第三回
第九課「送り迎え-電話の会話」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第四回
第九課「送り迎え-電話の会話」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第五回
第十課「病気」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第六回
第十課「病気」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第七回
第十一課「入院」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第八回
第十一課「入院」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第九回
第十二課「旅行」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十回
第十二課「旅行」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十一回
第十三課「手紙」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十二回
第十三課「手紙」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十三回
第十四課「ローン」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十四回
第十四課「ローン」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十五回
総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1 平常点50% (日常の授業への取り組み10%、課題の成績40%)
 - 2 定期試験50%
- ただし、通期で遠隔授業を行う場合、また、対面試験を行う条件に満たさない場合、最終成績評価は平常点に基づいて算出する。

成績評価の方法 /Assessment Method

評価不能の基準について

- 1、5回以上無断欠席する場合（5回を含む）
- 2、期末試験に無断欠席する場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1 事前学習：新出単語や会話文を勉強する前に、本文音源を聞き、出来るだけ真似して発声練習する。
- 2 事後学習：配る練習プリントやテキスト練習問題を用い、授業にて学習した知識をこまめに復習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国に関する情報や中国人に関することに、より関心を持つようになるのは望ましい。

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法を確実に理解し、暗記すること。

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語IIIと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。

この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

巖基珠、金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年。2200円+税。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭 『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年。2500円+税。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音】
- 4回 文字の発音及び書き順3【濃音】【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 文字の発音及び書き順4【母音2】
- 6回 文字の発音及び書き順5【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 7回 発音の法則【連音化】【激音化】【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】単語読みと書き取りのドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 指示・人称代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど】
- 13回 かしこまった丁寧形 用言活用の仕組み
- 14回 数詞のまとめ 【漢字語数詞、固有語数詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%) 日常の授業への取り組み + 小テスト(2回) + 課題 (50%)

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

朝鮮語I (1 - c) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい韓国語授業にしたいと思います。そうするためには皆様の手も必要ですので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。

受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。

また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】

朝鮮語の語彙や文法を学び自己紹介、簡単な挨拶表現や簡単な文章を読んで理解できることを目標としています。

教科書 /Textbooks

巖基珠・金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業案内、朝鮮語の概要、文字の構成、挨拶表現、基本母音字
- 2回 基本母音字のドリル、基本子音字の練習、音節と単語読み
- 3回 激音と濃音
- 4回 複合母音
- 5回 ハングルの終声(パッチム)
- 6回 発音変化
- 7回 ハングル表記法及び話してみましよう。
- 8回 第11課 大学生ですか？
- 9回 第12課 会社員ではありません。
- 10回 第13課 どこで学びますか。
- 11回 11～13課までの復習
- 12回 第14課 暑くありませんか。
- 13回 第15課 誕生日はいつですか。
- 14回 14～15課までの復習
- 15回 助詞のまとめ及び総復習

朝鮮語I (1 - d) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 定期試験：50%
 - ・ 日常の授業への取り組み：40% (小テスト4回)
 - ・ レポート：10%
- ※成績評価の対象としない場合(評価不能)について
- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能とします。
 - ・ 定期試験を受験しなかった場合は評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。
- ①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。
 - ②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。
- 復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと
- ①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。
 - ②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。
 - ③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 奈良 美香 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111 F

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（叢基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上がりますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語II (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Iで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

朝鮮語II (1 - b) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%
※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

巖基珠、金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年。2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの学習内容確認、復習
- 2回 用言の否定表現
- 3回 丁寧形I、エヨ・イエヨ・アエヨ。
- 4回 漢字語・固有語固数字【誕生日】【年齢】【時刻】
- 5回 助詞のまとめ
- 6回 丁寧形2 - 1【打ち解けた丁寧形】
- 7回 丁寧形2 - 2【打ち解けた丁寧形】ドリル
- 8回 尊敬表現1【用言】
- 9回 尊敬表現2【特殊な尊敬語、名詞、助詞】
- 10回 尊敬表現敬3【数字と敬語を使った場面会話練習】
- 11回 過去形【합니다体の過去】【해요体の過去】
- 12回 過去形のドリル【日記作成】
- 13回 好みを尋ね合う【注文場面の会話練習】
- 14回 希望・勧誘・提案表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、日常の授業への取り組み+小テスト(2回)+課題(50%)
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回する予定の練習問題をノートに予習すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅳの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文法をしっかり勉強すると会話が楽しくなりますので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。

受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。

また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

巖基珠・金三順ほか『韓国語初歩(三訂版)』白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 16課 どこに住んでいますか。(打ち解けた丁寧形)
- 3回 17課 先生いらっしゃいますか。(かしこまった尊敬形)
- 4回 18課 何をお探ですか。(打ち解けた尊敬形)
- 5回 16～18課の復習、小テスト
- 6回 19課 何をしましたか。(過去形)
- 7回 20課 何を召し上がりますか。
- 8回 19～20課の復習、小テスト
- 9回 21課 何時にお会いしましょうか。
- 10回 22課 水泳をしています。(進行形)
- 11回 21～22課の復習 我が家に一度遊びに来てください。
- 12回 23課 我が家に一度遊びに来てください。24課 市庁から近いですが。
- 13回 24課 市庁から近いですが。22～24課の復習、小テスト
- 14回 23～24課の復習小テスト
- 15回 総まとめ

朝鮮語Ⅱ (1 - d) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験：50%
- ・ 授業への取り組み：40点（小テスト4回）
- ・ レポート：10%

成績評価の対象としない場合（評価不能（-））について

- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能（-）とします。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進度状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の実践的運用や韓国文化理解の第一歩として、朝鮮語の基礎力・基礎知識を習得することを目標に、講義を進める。朝鮮語学習の初級段階において最も重要な発音の訓練に重点を置き、ハングル文字について解説する。発音や文字に慣れる作業と並行して、基礎的な語彙・文法、簡単な挨拶文や会話表現を紹介する。授業においては毎回、発音練習を課す。また基礎的な語彙や文章表現の暗誦・作文などを課す。
・到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）。その他、授業において提示する資料。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

金恵媛・李文相・朴賢珠(2007)『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』白帝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化の紹介【映像資料】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【自己紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・平常点：20%、小テスト(3回)：30%、課題(2回)：20%、発表(1回)：10%、期末テスト：20%
- ・授業時間数の3分の2以上を出席していない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容についての事前学習、授業内容についての事後学習を推奨する。

履修上の注意 /Remarks

関連の講義を幅広く受講することにより、朝鮮語スキルのより高いレベルを目指すことができます。

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%

授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%

学期末試験・・・50%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滌珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ!韓国語』白水社 2014年。2300円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【かしまった「です・ます」体の作り方】
- 11回 韓国文化紹介【映画鑑賞】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 13回 家族紹介【存在詞を使ってペアで質問と応答】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで趣味・専攻などを質問と応答】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、平常の学習状況+小テスト(2回)+課題(50%)。
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

朝鮮語Ⅲ (1 - c) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていきますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - d) 【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中比人 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・ 40% レポートや課題・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲの履修を受け、朝鮮語の実践的運用や韓国文化理解のために、朝鮮語の基礎力・基礎知識を学習する。授業内容は、朝鮮語Ⅲをステップアップした内容で、ハングル表記をマスターする。応用的な語彙・文法を習得し、少し長めの文章・平易な会話表現などを習得することを目標とする。

・到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）。授業において提示する資料。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金恵媛・李文相・朴賢珠 (2007) 『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』 白帝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいからですか】【買い物】】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】】
- 5回 丁寧形2【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字2【おいくつですか】】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【相づち】】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしながらしていますか】】
- 12回 否定及び不可能表現【ペアの質問と応答練習】【【못~,~지 못해요】】】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요】【~지 못했어요】】
- 14回 グループ発表(会話)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・平常点：20%、小テスト(3回)：30%、課題(2回)：20%、発表(1回)：10%、期末テスト：20%
- ・授業時間数の3分の2以上を出席していない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容についての事前学習、授業内容についての事後学習を推奨する。

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

関連の朝鮮語授業を並行して受講することによって復習効果が得られるとともに、朝鮮語のコミュニケーション能力を向上させることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%
※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ!韓国語』白水社 2014年。2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、助詞と疑問詞のまとめ復習
- 2回 うちとけた「です・ます」体(해요体)の作り方
- 3回 月日の言い方【何曜日・何月何日】【韓国の記念日】
- 4回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 5回 【僕の一週間の予定】発表
- 6回 不規則な「해요体」
- 7回 動詞・形容詞の否定文、行為目的表現【～しに行く・来る】
- 8回 好き・嫌いを尋ね合う、場所の単語を覚える
- 9回 韓国文化紹介【言語表現・しぐさ】
- 10回 過去形のドリル
- 11回 希望表現【日記作成・発表】
- 12回 反対語・関連語で単語を覚える練習
- 13回 予定・推測表現
- 14回 理由や根拠、動作の進行・状態を表す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 50%、日常の授業への取り組み+小テスト(2回)+課題... 50%。

5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ!韓国語』 金順玉・阪堂千津子 (白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利ほか (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか?】
- 3回 疑問詞を使った表現【~は何/どこですか?】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ~しますか?】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか?】
- 7回 用言の否定形【~しません、~くありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【~に~しに行きます】好みの表現【~が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は?いくらですか?】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【~ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【~するつもりです】動作の進行【~しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

朝鮮語Ⅴ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%
※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などは調べること。
また、授業終了後は復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。
朝鮮語Ⅶと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%
※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、次回までに復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。

朝鮮語VIIと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 英中2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 . オリエンテーション
- 2回 . 第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回 . 第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回 . 第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回 . 第2課動作の順序【-L은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回 . 第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回 . 第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回 . 第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回 . 第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回 . 第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回 . 第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回 . 第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回 . 第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回 . 第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回 . 第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・小テスト(2回)・課題...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-ㄹ/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 かしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄹ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回)...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

池谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．授業概要、オリエンテーション（韓国語で自己紹介を含む）
- 2回．読解【私の新年計画、韓国で人気のある職業】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-가이 되다, -(으)려고, -는 동안(에)】
- 4回．作文発表【夢と将来の計画について】
- 5回．読解【韓国社会人の悩み、進路についての悩み】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-는 건 어때요?/-는 게 좋겠다/-때문에】
- 7回．作文発表【悩みについて】
- 8回．読解【自分の願望のために現在やっていること】
- 9回．聞き取り、会話・文型練習【-기 위해서/ -거나/-(으)면 좋겠다】
- 10回．読解【大衆文化、韓国映画】
- 11回．韓国映画鑑賞
- 12回．読解【韓国の住居環境、部屋探し】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-보다/-지요/-중에서】
- 14回．作文発表【自分が今住んでいる家と将来住みたい家】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ... 50%
5回以上欠席した場合、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 . オリエンテーション
- 2回 . 読解【韓国の交通手段、道路標識】
- 3回 . 聞き取り、会話・文型練習【-(으)로 해서, -(으)르까요?, -(으)르 것 같다】
- 4回 . 作文発表【自分の国と他の国の交通事情を比較】
- 5回 . 読解【宿泊先の予約】
- 6回 . 聞き取り、会話・文型練習【-기 때문에, -(으)로, 밖에】
- 7回 . 作文発表【宿泊先に予約のメールを送る】
- 8回 . 韓国の観光事情について話し合う
- 9回 . 読解【インターネットバンキング、銀行事情】
- 10回 . 聞き取り、会話・文型練習【-고 나서, -(으)려면, -에다(가)】
- 11回 . 作文発表【自分の国と他の国のインターネット事情を比較】
- 12回 . 読解【終了式】
- 13回 . 聞き取り、会話・文型練習【-(으)는지, -(으)르 게요】
- 14回 . 作文発表【学期を終えての感想を発表】
- 15回 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

課題提出の締め切りをしっかりと守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『Enjoy!! 韓国の文化と言語』(自主制作出版物により、授業時に案内)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 第1課 ビビンバが美味しい理由
- 第4回目 会話に役立つ文法①
- 第5回目 フリートーク①
- 第6回目 第2課 韓服と着物
- 第7回目 会話に役立つ文法②
- 第8回目 フリートーク②
- 第9回目 ドラマで学ぶ韓国の社会と文化
- 第10回目 第3課 便利なマンション暮らし
- 第11回目 会話に役立つ文法③
- 第12回目 フリートーク③
- 第13回目 第4課 いつでもどこでもデリバリー
- 第14回目 会話に役立つ文法④
- 第15回目 フリートーク④ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 60% 期末レポート... 40%

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

フリートーキングや発表を多く取り入れます。間違いを恐れずに、積極的に取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『Enjoy!! 韓国の文化と言語』(自主制作出版物により、授業時に案内)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 第5課 恋愛と結婚
- 第4回目 会話に役立つ文法①
- 第5回目 フリートーキング①
- 第6回目 第6課 「オッパ」ってお兄さん？ 彼氏？
- 第7回目 会話に役立つ文法②
- 第8回目 フリートーキング②
- 第9回目 ドラマで学ぶ韓国の社会と文化
- 第10回目 第7課 スキンシップを好む韓国人
- 第11回目 会話に役立つ文法③
- 第12回目 フリートーキング③
- 第13回目 第8課 「みんな一緒に」と「おひとりさま」
- 第14回目 会話に役立つ文法④
- 第15回目 フリートーキング④ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 60% 期末試験... 40%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

フリートーキングや発表を多く取り入れます。間違いを恐れずに、積極的に取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書きます、それを発音します。

例えば、

Um wie viel Uhr gehen Sie ins Bett?

Ich gehe um elf Uhr ins Bett.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぶつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となる。

ドイツ語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」)とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

到達目標

日常生活の行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「昨日何時に寝ましたか。」とその答え。
Um wie viel Uhr sind Sie ins Bett gegangen?
Ich bin um elf Uhr ins Bett gegangen.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

ドイツ語II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君のお父さんの職業は何ですか。」とその答え。
Was ist dein Vater von Beruf?
Mein Vater ist Angestellter.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

ドイツ語Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は週末に何をしましたか。」とその答え。
Was hast du am Wochenende gemacht?
Ich habe gejoggt.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

自分の日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。

Was isst du zu Mittag?

Ich esse Udon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

ドイツ語Ⅴ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。

Freust du dich schon auf Weihnachten?

Ja, schon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスツッキーの作り方。
- 15回 まとめ

ドイツ語VI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

ドイツ語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

ドイツ語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
日本では「欧米」と一言で括られがちなフランスと英米との言語的、文化的な違いなども交えながら、皆さんがご自身の専攻する言語とは異なる外国・外国語について発見する機会にしたいと思います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

ニコラ・ガイヤール他『カフェ・フランセ』、朝日出版、2400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や、必要に応じて、授業中に紹介致します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、Leçon 1, Dialogue 1, 自己紹介、アルファベットの読み方
- 第2回：Leçon 1, Dialogue 2 / 子音の発音、数字1～20
- 第3回：Leçon 2, Dialogue 1 / 職業の言い方、数字21～39
- 第4回：Leçon 2, Dialogue 2 / 母音の発音
- 第5回：Leçon 3, Dialogue / 国籍と否定形、不定冠詞
- 第6回：言語、数字30～49、複合母音の発音
- 第7回：小テスト①、数字50～69、鼻母音
- 第8回：Leçon 4, Dialogue 1 / 疑問文、
- 第9回：Leçon 4, Dialogue 2 / 動詞avoirと年齢の言い方、半母音
- 第10回：Leçon 5, Dialogue / 所有形容詞、形容詞の性と数
- 第11回：Leçon 6, Dialogue 1 / 場所を表す語句、
- 第11回：Leçon 6, Dialogue 2 / 疑問詞、定冠詞、
- 第12回：Leçon 7, Dialogue / 縮約、代名詞ça
- 第13回：小テスト②、数字70～100
- 第14回：Leçon 8, Dialogue / 色、比較級、
- 第15回：指示形容詞、非人称構文、p.32～35 (フランスの地方、郷土料理、年間行事)

※上記は目安であり、実際の授業は習熟度に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(口頭) 15%×2回 = 30%
授業中の取り組み(毎回の授業の初めに行う口頭の復習や筆記のミニテストを含みます) 30%
期末試験(筆記) 40%
ただし出席が前提となります。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習をしっかりとってきて下さい。

履修上の注意 /Remarks

必ず仏和辞書を持参して下さい(紙の辞書、電子辞書どちらでも構いません)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
日本では「欧米」と一言で括られがちなフランスと英米との言語的、文化的な違いなども交えながら、皆さんがご自身の専攻する言語とは異なる外国・外国語について発見する機会にしたいと思います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

ニコラ・ガイヤール他『カフェ・フランセ』、朝日出版、2400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や、必要に応じて、授業中に紹介致します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：前期の復習
 - 第2回：Leçon 9, Dialogue 1 / 中性代名詞en, siとnon, 動詞faire
 - 第3回：Leçon 9, Dialogue 2 / 不定冠詞と部分冠詞、動詞prendre
 - 第4回：Leçon 10, Dialogue 1 / 曜日、場所、動詞aller, mettre, vouloir, pouvoir
 - 第5回：Leçon 10, Dialogue 2 / 乗り物と期間、縮約、中性代名詞、疑問詞combien
 - 第6回：小テスト①、代名動詞
 - 第7回：Leçon 11, Denisの一日 / 時刻の言い方
 - 第8回：Leçon 12, Dialogue 1 / 目的語人称代名詞、動詞connaître
 - 第9回：Leçon 12, Dialogue 2 / 疑問詞pourquoi, quand、動詞voir
 - 第10回：Leçon 13, Dialogue / 複合過去 (avoir)
 - 第11回：半過去
 - 第12回：Leçon 14, Dialogue / 複合過去(être)
 - 第13回：小テスト②、主語on
 - 第14回：Leçon 15, Dialogue / 命令形
 - 第15回：近接未来、近接過去、形容詞の位置
- ※上記は目安であり、実際の授業は習熟度に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(口頭) 15%×2回 = 30%
授業中の取り組み(毎回の授業の初めに行う口頭の復習や筆記のミニテストを含みます) 30%
期末試験(筆記) 40%
ただし出席が前提となります。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

フランス語Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習をしっかりとってきて下さい。

履修上の注意 /Remarks

すでに半年間フランス語を学んだ学生のみを履修対象としています（フランス語Ⅰ,Ⅲの両方、もしくはいずれか）。
必ずノートと仏和辞書を持参して下さい（紙の辞書、電子辞書、どちらでも構いません）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

松村博史他『クロワッサン 2』、朝日出版 2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：1課Dialogue、自己紹介
 - 第2回：複合過去の復習
 - 第3回：2課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語
 - 第4回：強制形、
 - 第5回：小テスト① 3課Dialogue、代名動詞
 - 第6回：代名動詞の複合過去
 - 第7回：4課Dialogue、中性代名詞、
 - 第8回：指示代名詞
 - 第9回：小テスト②、5課Dialogue
 - 第10回：前未来
 - 第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態
 - 第12回：小テスト③、所有代名詞
 - 第13回：6課
 - 第14回：7課Dialogue、複合過去と半過去
 - 第15回：大過去
- ※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

フランス語Ⅴ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習をしっかりと行うこと

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
VIではLe petit prince (『星の王子さま』) のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

村松博史『クロワッサン2』、朝日出版、2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：7課までの復習
- 第2回：8課Dialogue、時を表す接続詞
- 第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
- 第4回：長文読解(歌詞)
- 第5回：9課Dialogue、条件法現在
- 第6回：条件法過去
- 第7回：12課
- 第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
- 第9回：強調構文
- 第10回：11課Dialogue、接続法
- 第11回：小テスト③、リスニング
- 第12回：長文読解(『星の王子さま』狐の話)
- 第13回：長文読解(『星の王子さま』献辞)
- 第14回：長文読解(『星の王子さま』第1章)
- 第15回：長文読解(『星の王子さま』バオバブの話)

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

フランス語VI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律 政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (総括)
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) unité 5 : どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (2回)・・・40%

期末テスト・・・40%

授業中の取り組み・・・20%

ただし出席が前提です。

4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰(前半)
- 2) unité 6：誰(後半)
- 3) unité 6：誰(総括)、リスニング
- 4) unité 7：何(前半)
- 5) unité 7：何(後半)
- 6) unité 7：何(総括)、小テスト
- 7) unité 8：どのように(前半)
- 8) unité 8：どのように(後半)
- 9) unité 8：どのように(総括)、読解
- 10) unité 9：過去について(前半)
- 11) unité 9：過去について(後半)
- 12) unité 9：過去について(総括)、小テスト
- 13) unité 10：仮定、条件(前半)
- 14) unité 10：仮定、条件(後半)
- 15) 後期の復習、プレゼンテーション

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・20%
小テスト(2回)・・・40%
プレゼンテーション・・・20%
レポート・・・20%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、またはプレゼンテーションを行わなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・ 1 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（含む1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。

具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

（到達目標）

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』
青木文夫、辻博子、マリア・エルナンデス（共著）、弘学社
このテキストをIスペイン語I・II、V・VIと続けて2年間使用します。
補助教材はMoodleで配布します。

スペイン語I【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典(小学館)
新スペイン語(研究社)
現代スペイン語辞典(白水社)
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)
他多数有。
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)
クラウン和西辞典(三省堂)
その他
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)
スペイン(増田監修：新潮社)
スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)
スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)
スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)
電子辞書やPCダウンロードの辞書も奨めます。これについては、最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞の確認テスト
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形練習問題
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの活用と用法
- 13 serとestarの練習問題
- 14 復習(スペイン語で書いてみよう)
- 15 復習(スペイン語で書いてみよう)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。
定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。
定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。
出欠について：全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。
評価不能：定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。
なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習して、次回の授業の臨みましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

最初の数回は基礎になる重要な事項が多いので、休まずに理解して下さい。

北九大ポータル(moodle)からプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp（北九大メールではなく、こちらに送ってください）

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語を初めて学ぶ学生が対象の講義です。文法事項を中心に練習問題や会話文、文化紹介も扱うテキストを使用し、基礎的なスペイン語文法を学習します。授業で新しく学ぶ内容は次週の学習内容のベースとなり、その繰り返しでスペイン語を身につけていきます。そのため復習と予習を毎週しっかりと行って下さい。授業ではスペイン語圏の文化についても紹介する予定です。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピゲータ 一実りのスペイン語I』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※初版は2017年ですが、今年改訂版が発行されています。授業では2022年の改訂版を使うので、購入時にしっかり確認して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書を必ず準備して下さい。ただ詳細は初回授業で説明しますので、購入はその後で大丈夫です。

iPhoneやiPadの使用者には「辞書by物書堂」というアプリをお勧めします。アプリ内ストアで、小学館の『西和中辞典』と『和西辞典』がセットになった辞書コンテンツ「小学館 西和中辞典・和西辞典」を買うことができます。Android用としてはLogoVista提供のアプリに白水社『現代スペイン語辞典・和西辞典 改訂版』があります。

また代表的な中型辞書として小学館『西和中辞典』、白水社『現代スペイン語辞典』、研究者『プエルタ新スペイン語辞典』、三省堂『クラウン西和辞典』などがあります。小型辞書は小学館『プログレッシブ スペイン語辞典<第2版>カレッジエディション』『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』、三省堂『デイリーコンサイズ 西和・和西辞典』などがあります。書店や生協で購入可能です。

電子辞書の使用者には、スペイン語辞書の追加コンテンツもあります。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン、文字と発音
- 第2回 音節分け、アクセント
- 第3回 名詞の性数、冠詞、形容詞
- 第4回 主格人称代名詞、ser動詞、文の構造
- 第5回 指示語、estar動詞
- 第6回 小テスト1 (1 ~ 3 課)、形容詞、hay
- 第7回 現在形規則活用
- 第8回 規則活用の練習、日付、時間
- 第9回 現在形不規則活用 (語幹母音変化)
- 第10回 直接目的格人称代名詞、muyとmucho
- 第11回 小テスト2 (4 ~ 6 課)、現在形不規則活用 (yo不規則、複合型)
- 第12回 現在形不規則活用 (その他)、間接目的格人称代名詞
- 第13回 gustar型動詞、前置詞格人称代名詞
- 第14回 gustar型動詞の練習、天候
- 第15回 小テスト3 (7・8 課)、地図を使った学習、文化演習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、小テスト (3回) 30%
※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト (<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>) やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語という新しい言語との出会いを楽しみましょう。そのために授業ではスペイン語を使う上での基本ルール (= 文法) を覚えていきます。音楽や映画、書籍、絵画、料理、スポーツなど様々なテーマでスペイン語圏の文化に積極的に触れてみましょう。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・ 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Ⅰのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思かもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』
青木文夫、辻博子、マリア・エルナンデス（共著）、弘学社
（スペイン語Ⅰ（前期）の続きです。4課から始めます）
このテキストをスペイン語Ⅰ・Ⅱ、Ⅴ・Ⅵ（2年次）の2年間続けて使用します
プリントなどはmoodleから送ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
辞書についてはスペイン語Ⅰで述べたのを参考にしてください。

スペイン語II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(文法)

- 1 前期の確認と、後期の導入
- 2 不規則動詞の現在形の活用といくつかの動詞の用法と文型テスト
- 3 不規則動詞の現在形の活用といくつかの動詞の用法と文型テスト
- 4 与格と対格の代名詞といくつかの動詞
- 5 与格と対格の代名詞といくつかの動詞
- 6 与格と対格の代名詞のまとめと確認テスト
- 7 数詞を使って：身長と体重、価格
- 8 数詞を使って：日付、時刻
- 9 数詞を使って：電話番号、住所
- 10 不定語の用法
- 11 天気の表現
- 12 スペイン語で書いてみよう
- 13 スペイン語で書いてみよう
- 14 まとめと確認テスト(文法)
- 15 まとめと確認テスト(表現)

上記はテキストの順序に従って記したが、実際の授業では、進度に応じて少し順序を変えるかもしれません。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について：全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能：定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用が複雑になります。活用をしっかりと復習、暗記して次回の授業の臨みましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語(スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など)に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

北九大ポータル(moodle)からプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールでなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 3・ 1 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

1学期の「スペイン語Ⅰ」に引き続き、初級文法の学習を進めます。現在形の再帰動詞及び過去形と完了形を中心に扱います。未来形や接続法も導入することにより、修了後の更なる学習へ繋がるレベルを目指します。スペイン語圏の文化やニュースについても紹介します。(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピギータ 一実りのスペイン語Ⅰ』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※1学期「スペイン語Ⅰ」と同じテキストの続きを扱います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期で用意した辞書を引き続き使います。その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期の復習、再帰動詞
- 第2回 無人称文、接続詞que
- 第3回 点過去形規則活用
- 第4回 点過去形規則活用の練習
- 第5回 小テスト1(9・10課)、点過去形不規則活用
- 第6回 点過去形不規則活用の練習、関係代名詞que、所有形容詞後置形
- 第7回 小テスト2(10・11課)、点過去形の練習
- 第8回 現在分詞、不定語・否定語
- 第9回 過去分詞、現在完了形、受動態
- 第10回 小テスト3(12・13課)、比較級
- 第11回 最上級、関係副詞donde
- 第12回 線過去形、過去形の使い分け
- 第13回 小テスト4(14・15課)、過去形の練習、未来形の紹介
- 第14回 過去未来形・命令形・接続法の紹介
- 第15回 2学期の総復習、地図を使った学習、文化演習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(4回)30%

※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト

(<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>) やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「スペイン語II」では過去形や完了形など現在形以外の時制も学びます。辞書にも慣れ表現できることの幅が広がるだけでなく、好きな曲の歌詞が理解できるようになったり、憧れのスポーツ選手のプロフィールやインタビューが読めるようになったりします。覚えることはたくさんありますが、自分の「好き」をスペイン語で楽しむ体験を積み重ねていって欲しいと思います。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・ 1 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1課 スペイン語とスペイン語圏について、スペイン語のアルファベット、発音、アクセント
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの確認、挨拶、数字「おはよう。」
- 3回 2課 名詞、冠詞「ロス・アンヘレス」
- 4回 名詞・冠詞の確認
- 5回 3課 形容詞、主語、ser動詞「私は学生です」
- 6回 ser動詞の確認「どちらの出身ですか」
- 7回 ser動詞確認テスト、4課 規則活用動詞「スペイン語を話しますか」
- 8回 規則活用動詞と頻度表現「私は週に2度スペイン語を習います」
- 9回 5課 指示詞、所有詞「これはわたしのです」
- 10回 日付、時間表現「今何時ですか」
- 11回 6課 estar動詞、ser動詞との違い「あの人は今日怒っている」
- 12回 hay、estar動詞との違い「今家にいますか」
- 13回 ser、estar、hayのまとめテスト「今日の恰好はともすてきだね」
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう
- 15回 まとめ

スペイン語Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I (文法) の授業を履修しながら (あるいはすでに過去に履修など) であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。

また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国营放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、アルファベットと発音の対応から始め、スペイン語の基礎的文法の確実な習得を目指す。また、現在形を用いながら基本的な会話(自己紹介、など)、を修得するとともに、スペイン語圏の文化習慣等も併せて学習する。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの19カ国の人々やアメリカ合衆国に在住のヒスパニックの人々等を含む4億人以上の人々が母語として使っている言語である。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会うきっかけになることを期待している。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

山道佳子、Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

スペイン語Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(直接法現在形)

- 第1回 ガイダンス
授業の目標と進め方。基本的な挨拶。
- 第2回 発音
アルファベット・発音・アクセントの位置。
- 第3回 名詞の作り方
男性名詞、女性名詞、単数名詞、複数名詞。
冠詞+名詞+形容詞
- 第4回 名詞 (2)
指示・所有、形容詞・代名詞
- 第5回 つなぎのSER動詞、
自己紹介、国籍、職業等。物や人物の描写
- 第6回 つなぎのESTAR動詞
健康状態、場所の説明。0~15の基数。
- 第7回 HAY動詞、
SER/ESTAR/HAY動詞の使い分け
- 第8回 規則活用動詞
~AR、~ER、~IR動詞の活用、重要な表現。
- 第9回 前置詞、疑問詞
前置詞の意味、使い方。
- 第10回 不規則動詞変化形 1 (e→ie)
~したい、~する予定、~し始める。
16~100の基数。
- 第11回 不規則動詞変化形 2 (o→ue)
~できる、~かもしれない。
時刻の表現。予定を言う。
- 第12回 不規則動詞変化形 3 (e→i)
頼み方、依頼するための表現、
101~億の基数。曜日、月日、季節。
- 第13回 不規則動詞変化形 4 (1人称単数だけ)
~しなければならない。~できる。
- 第14回 不規則動詞変化形 5
近い未来の表現。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・ 1 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、文法事項の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすく口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課 不規則活用動詞1、時間表現2「電車は午後3時に出ます」
- 2回 直接目的格人称代名詞、間接疑問文「ルイスはどこに住んでいるか知っていますか」
- 3回 8課 不規則活用動詞2「コーヒーがほしいですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、2つの目的格人称代名詞のまとめ「誰にそれをあげるの」
- 5回 9課 不規則活用動詞3「兄弟はいますか」
- 6回 不規則活用動詞まとめ、前置詞格人称代名詞
- 7回 gustarとgustar型動詞
- 8回 7課～9課 まとめテスト、10課 不定語・否定語、天候表現「今日は寒い」
- 9回 比較表現「私はラウルより背が高い」
- 10回 11課 再帰動詞「私は朝7時に起きます」
- 11回 再帰動詞確認「もう帰っちゃうの」
- 12回 後期まとめ
- 13回 スペイン語のビデオを見てみよう1
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう2
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

スペイン語Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国营放送)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲに引き続き、直接法現在形の基礎文法、過去形や未来形などの時制も学びます。 現在形の動詞を用いた基本的な会話を基礎として、さらにスペイン語圏でサバイバルできる程度の会話能力を身につけることを目指します。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの人々やアメリカ合衆国在住のヒスパニックの人々等をなぞ4億人以上の人々が母語として使っている言語であり、第2言語や第1外国語として使う人も入れるとさらに多くの人々が使っている。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会おうきっかけになることを期待している。

また授業終了後も、サッカーなどスポーツのスペイン語中継や様々な分野のスペイン語でのインタビューなどへの興味を維持し、自主的にスペイン語学習を継続してスペイン語を使う国々や人々の理解へつながることを期待している。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

山道佳子、 Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語をお願いします)」
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

スペイン語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
スペイン語Ⅲの復習。
- 第2回 直接目的格人称代名詞
[~を]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第3回 間接目的格人称代名詞
[~に]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第4回 GUSTAR形 動詞
~が好きだ、~と思う、~が痛い。
- 第5回 再帰動詞
他動詞の自動詞化、~し合う。
無人称・受身の表現
- 第6回 時刻表現と天候の表現。
- 第7回 比較級、絶対最上級
- 第8回 点過去形
過去の出来事を説明する。
- 第9回 線過去形
過去の習慣、祭り、など。
- 第10回 点過去形と線過去形比較対照
- 第11回 現在完了形
完了、経験、継続を表す。
- 第12回 現在進行形
~している。~してきた。~し続ける。
- 第13回 命令形
~してください。~しなさい。
- 第14回 未来形
~しようと思う。未来の計画について話す。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

昨年度（1年次）の続きとして、中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

（到達目標）

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIBUSPAIN語辞典（小学館）
 級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 スペイン語の動詞活用の全体像について
- 5 点過去・線過去・現在完了の用法(1)
- 6 同上(2)
- 7 同上(3)
- 8 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 9 未来形・過去未来・過去完了(1)
- 10 同上(2)
- 11 同上(3)
- 12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文(副詞節・形容詞節)(1)
- 13 同上(2)
- 14 同上(3)
- 15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について：全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能：定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナウイルスの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。

最後にスペイン語版のアニメ（題材未定）を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典 (小学館)

新スペイン語 (研究社)

現代スペイン語辞典 (白水社)

プログレッシブスペイン語辞典 (小学館)

パスポート初級スペイン語辞典 (白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典 (高橋編) は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典:

和西辞典 (宮城、コントレラス監修: 白水社)

クラウン和西辞典 (三省堂)

その他

図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編: 河出書房新社)

スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著: 昭和堂)

スペイン (増田監修: 新潮社)

スペインの社会 (寿里、原編: 早稲田大学出版)

スペインの政治 (川成、奥島編: 早稲田大学出版)

スペインの経済 (戸門、原編: 早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本 (寿里著: 東洋書店)

スペイン語基礎文法 (ロボ、大森、広康共訳: ピアソンエデュケーション)

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 前期を含め、様々な構文のまとめ(受け身、使役、放任、比較など)(1)
 - 2 同上(2)
 - 3 時制の一致
 - 4 再帰動詞(1)
 - 5 同上(2)
 - 6 いくつかの文法事項(感嘆文、比較表現)
 - 7 同上(2)
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法(1)
 - 10 同上(2)
 - 11 同上(3)
 - 12 スペイン語版アニメ(題材未定)による聞き取りと訳
 - 13 同上(2)
 - 14 同上(3)
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について: 全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能: 定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集しており、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 現在形と再帰動詞
- 2回 1課 SNSと余暇
- 3回 2課 gustarの用法と不定詞を伴う表現
- 4回 2課 スペインのテニス選手
- 5回 3課 過去時制の使い分け 現在完了と点過去
- 6回 3課 世界で最も古いレストラン
- 7回 4課 過去時制の使い分け 線過去
- 8回 4課 ファッション
- 9回 5課 過去時制の使い分け 点過去・線過去・過去完了
- 10回 5課 養子縁組
- 11回 6課 未来と過去未来 不定詞を伴う助動詞的表現
- 12回 6課 風力発電
- 13回 7課 不定詞を伴う助動詞的表現 おいしいコーヒーの入れ方
- 14回 8課 比較級 エラスムス留学制度
- 15回 まとめ

スペイン語Ⅶ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際になにがしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集してあり、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』（1学期と同じものを使用）中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期復習 9課 接続法現在1
- 2回 9課 ホンジュラスの交番
- 3回 10課 接続法現在2
- 4回 10課 育休取得
- 5回 11課 接続法現在3
- 6回 11課 アポロフォビア
- 7回 12課 接続法現在4
- 8回 12課 日本語学習のアドバイス
- 9回 13課 接続法過去1
- 10回 13課 スペインの安楽死
- 11回 14課 接続法過去2
- 12回 14課 チュッパチャップスの歴史
- 13回 15課 条件文
- 14回 15課 地中海に沈んだ夢
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際になにがしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の1カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 %
ポートフォリオ評価 ... 50 % (自己評価30%/ピア評価20%)

- ・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 アドバイスを求める【PCメール】
- 4回 問い合わせる【PCメール】
- 5回 依頼する【PCメール】
- 6回 依頼される【PCメール】
- 7回 報告する【PCメール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【携帯&PCメール】
- 10回 誘う【携帯メール】
- 11回 誘われる【携帯メール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 伝言する【メモ】
- 14回 募集する【チラシ】【掲示】
- 15回 【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...70% 期末テスト...30%
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題はMoodleで提出する。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...50%
ポートフォリオ評価 ...50%(自己評価...30% ピア評価...20%)

・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。
(到達目標)
・ 大学生活での学び方を理解し、資料を分析し、発信するなど主体的に学ぶためのスキルを身につけている
・ 仲間と協働し、コミュニケーションし課題解決できる
・ 「論理的思考力」をもとに、自分の意見や主張を相手に伝えることができる

教科書 /Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語口ジカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)アクティブラーニングをやってみよう	論理的思考力(1)リストアップ・マッピング
3回	スタディスキル(2)テーマからトピックを取り出そう	論理的思考力(2)イラストを見て考える
4回	スタディスキル(3)インターネットで情報を探そう	論理的思考力(3)表・グラフの内容を読み取る
5回	スタディスキル(4)本を手にして読んでみよう	論理的思考力(4)マッピングしながら読む
6回	スタディスキル(5)図解で考えよう	論理的思考力(5)登場人物になったつもりで読む
7回	スタディスキル(6)表・グラフを描いてみよう	論理的思考力(6)どちらがいいか考えながら読む
8回	スタディスキル(7)議論の方法を知ろう	論理的思考力(7)理由を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの文章の特徴を知ろう	論理的思考力(8)意味を考えて読んでみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成してみよう	論理的思考力(9)イラストを見て書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本を知ろう	論理的思考力(10)定義を試してみる
12回	スタディスキル(11)発表の資料を作ろう(テーマ決め・準備)	論理的思考力(11)理由を考えて書いてみる 1
13回	スタディスキル(12)発表をやってみよう(レジュメ作成・準備)	論理的思考力(12)理由を考えて書いてみる 2
14回	スタディスキル(13)発表をやってみよう(発表と自己評価)	
15回	総括 1年間(半期)の学びをふりかえろう(評価)	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておく。事後学習としては、授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ何が足りていないかをふりかえり、どうしたら目標を達成できるかなどについて考える。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

日本語Ⅴ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(－)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学に必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

(到達目標)

- ・ 書かれている内容をさまざまな角度から検討し、批判的に読むことができる
- ・ 書き手の思考の筋道を追いながら問題を探し出し、明確な問いを立て、文章を吟味しながら読む技術を身につけている
- ・ 自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞きながら仲間と協働的に学ぶことができる

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子監修、竹田悦子他編著 くろしお出版) ¥1,900

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ:日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み(課題を含む)...60%

- ・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進める。事後学習としては、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなう。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング 批判的読み メタ・コンテンツ 全体把握 言語タスク 認知タスク

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

・授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

・ 授業への3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、「境目」「母性」と「父性」の間をゆれる」「ことばと文化を結ぶために」の3つの読み物を題材とする。これらの題材を、各自の考えをまとめるためのリソースや共通の土台としながら、クラス内で議論していく。最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

(到達目標)

- ・ 複数のリソースをもとに、自分自身の考えをつくっていくことができる
- ・ クラス内での対話を通して自分の考えをつかみ、相手にわかるように表現できる
- ・ 文化に対する問題意識や価値観を認識し、自分の考えをレポートとしてまとめる

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

- ・ 三分の一の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めておく。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換 対話

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、それぞれの事柄を多角的にとらえ、自国の現状と比較しながら自分たちの問題として考えていく。

各テーマやトピックについて主体的に学び、知識を得ることで自分自身の考えや意見を持つ。また、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

(到達目標)

- ・ 幅広い分野から日本について知る
- ・ 様々なテーマについて主体的に学び、自分自身の意見を持つ
- ・ クラスで意見交換することで、分析能力やコミュニケーション能力を身につける

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異文化を理解する①」(概要・事例・理解)
- 3回 「異文化を理解する②」(比較・考える・表現する)
- 4回 「多文化共生社会①」(概要・事例・理解)
- 5回 「多文化共生社会②」(比較・考える・表現する)
- 6回 「コロナ社会①」(概要・事例・理解)
- 7回 「コロナ社会②」(比較・考える・表現する)
- 8回 「就職活動①」(概要・事例・理解)
- 9回 「就職活動②」(比較・考える・表現する)
- 10回 「日本社会と子ども①」(概要・事例・理解)
- 11回 「日本社会と子ども②」(比較・考える・表現する)
- 12回 「無縁社会①」(概要・事例・理解)
- 13回 「無縁社会②」(比較・考える・表現する)
- 14回 「発表」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...40% 授業への取り組み・発表...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能 (-) とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマについて調べ、自分の考えをまとめてくること。
事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしておく。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業であるが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められる。必ず初回のオリエンテーションには参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいください。

キーワード /Keywords

文化 社会 多様性 課題 分析

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清藤 隆春 / 国際教育交流センター, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
友松 史子 / 国際教育交流センター, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1) 日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2) 留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1) 自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2) 自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1) 論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2) 共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法I

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

到達目標は、

【知識】 国際法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

となります。

具体的には、

- 国際法とは何を指すのか、慣習国際法の問題も含め、説明できる、
- 国際法がどのように作られるのか、その定立のプロセスを法制度として、説明できる、
- 締結された国際約束が国内社会でどのように取り扱われているのか、また国際約束の目的の実現のために国際社会が国内社会に対してどのように働きかけているのか、説明できる、
- 国際法における任意規範と強行規範の議論を、条約の無効の問題も含め、説明できる、
- 国際法への違反があった場合、どのような責任が発生するのか、紛争を処理するためにどのような国際制度があるのか、力による解決は認められるのか、それらの課題も含め、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の効力
- 第5回 条約の国内適用

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第10回 国際責任の成立
- 第11回 国際責任の追及と解除
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習（事前学習課題）、復習（事後学習課題）および学期末試験で評価します。

予習（事前学習）課題...16.5% 復習（事後学習）課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

学期末試験を受験しなかった場合には、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】、【SDGs_Goal 16】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

到達目標は、

- 【知識】国際法に関する知識を体系的に身につけている
 - 【技能】国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
 - 【思考・判断・表現力】国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。
- となります。

具体的には、

- 国家システム(state system)の現状と課題を把握し、説明できる、
- 国際社会における主権国家の機能や役割を正しく理解し、説明できる、
- 国益、共通利益、国際社会の公益について、自らの問題として、積極的に考えることができる、
- 国家の基本的権利や義務の議論を正しく理解し、説明できる、
- 個人が国際法においてどのように取り扱われてきているか、その主体性について説明できる、
- 領域に対する国家の権限を正しく理解し、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010）2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年）1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

第2回 国家と国家承認

第3回 政府承認

第4回 国家の基本的権利

第5回 国家の基本的義務

第II部「国際法主体としての個人」

第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定

第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援

第8回 国際犯罪

第9回 国際刑事裁判所(ICC)

第III部「陸・海・空と国際法」

第10回 陸と国際法：領土取得の権原

第11回 陸と国際法：領域主権

第12回 海と国際法：海上交通

第13回 海と国際法：海洋資源

第14回 空と国際法

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習(事前学習)課題、復習(事後学習)課題、学期末試験で評価します。

予習(事前学習)課題...16.5% 復習(事後学習)課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

学期末試験を受験しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は北方モデルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】【承認】【国家の基本的権利・義務】【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】【SDGs_Goal16】

国際金融論I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I

ECN363M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。なお、各講義の最後に、練習問題を解答・提出し、次の回でその解説をして理解を深めることがある。

(到達目標)

【知識】 国際金融に関する幅広く基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】 国際金融の諸問題を理解するために必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 国際金融の諸問題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥田宏司ほか編 (2020) 『深く学べる国際金融』(法律文化社)、2400円+税(価格は変更の可能性あり)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
- 3回 国際収支表 【フロー統計】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
- 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
- 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
- 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
- 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
- 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
- 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
- 15回 まとめと総復習 【24時間ダイニング】

※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。授業の後には、講義内容を承けて、ノートを加筆修正すること。(予習、復習それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることがを目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

(到達目標)

【知識】 国際金融に関する専門的かつ応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 国際金融の諸問題について、自分の見解を導き出すために必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 国際金融の諸問題について、総合的かつ論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の意見を適切な方法で発信することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥田宏司ほか編 (2020) 『深く学べる国際金融』法律文化社、2400円 + 税 (価格は変更の可能性あり)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
- 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
- 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
- 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
- 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
- 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
- 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
- 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
- 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
- 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
- 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
- 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーデンス政策】
- 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
- 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。(予習、復習、それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること（URLなどは最初の授業で説明する）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際取引法 【昼】

担当者名 八並 廉 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際取引法

LAW350M

授業の概要 /Course Description

本講義では、物品・資金・技術の移転や役務の提供が国境を越えて行われる取引に関する法律問題を検討する。
国家法や国際法に限らず、国際取引に関わるソフト・ローや国際慣習についても議論する。
最終的には、具体的な国際取引の事実関係から、法律問題を発見し、その解決方法を考察することができるようになることを目的とする。

(到達目標)

- 【知識】 国際取引法に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】 国際取引法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】 国際取引法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業担当教員による解説 (レジューメ・板書・パワーポイントを使用) を主とした形態であり、適宜、学生との問答を通じて、関連する知識を深めていく (講義形式) 。学生の理解度を把握しながら進めるため、Moodle等によりコメントを寄せてもらうこともある。

- 第1回：ガイダンス・国際取引法総論
- 第2回：国際物品売買契約
- 第3回：インコタームズ
- 第4回：ウィーン売買条約
- 第5回：国際運送
- 第6回：保険
- 第7回：国際支払・信用状
- 第8回：生産物責任
- 第9回：代理店 / 販売店
- 第10回：世界貿易機関
- 第11回：国際知的財産
- 第12回：国際取引と環境訴訟
- 第13回：ブロックチェーン / スマートコントラクト
- 第14回：文化財の国際取引
- 第15回：総括・法の多元化と国際取引

上記授業計画は適宜調整することがある。また、受講者の関心に合わせて、議題を追加 / 調整することも検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、Moodle等によるコメント25%、日常の授業への取り組み25%で、総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜参考文献を紹介するので、予習・復習に活用してほしい。また、授業中の発言やMoodle等で寄せられた質問には、フィードバックするので復習に活用してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際私法【昼】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際私法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際私法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際私法

LAW252M

授業の概要 /Course Description

この講義を履修することによって、たとえば以下のような問題を解決できるようになることが期待される。

1. 日本人が外国人と婚姻をすると日本人の苗字はどうか。
2. 日本人同士がハワイで法律上有効な婚姻をした場合、あらためて日本法上の婚姻届を提出することが必要か。
3. 外国企業に雇用された日本人がその解雇をめぐる日本の裁判所で争うことができるか。
4. 日本人同士が外国で言い争って負傷した場合、その損害賠償額の算定基準はどうか。
5. 裁判による離婚しか認められない国出身の外国人と離婚する場合に、日本で協議離婚は可能か。

現在では国境を越えることは比較的容易であるから、私法上の問題（契約や婚姻など）も国境を越えて生じることがある。国際私法はこのような問題を解決する法（準拠法）を決定するための国内法である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ身近な具体例を用いながら考えてみたい。

（到達目標）

【知識】国際私法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】国際私法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】国際私法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

使用しません（授業時の口頭説明や板書等）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野村美明ほか編『新・ケースで学ぶ国際私法（第2版）』（法律文化社、2020年）

中西康ほか著『国際私法（第2版）』（有斐閣、2018年）○

国際私法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 2回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 3回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 4回 婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 5回 離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 6回 国際家族法上のその他の問題【氏、相続など】
- 7回 契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 8回 契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 9回 不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 10回 自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 11回 国際財産法上のその他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 12回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 13回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の学修は特に必要としないが、参考文献やレジュメを中心に事後の学修をおこなうことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

国際私法では、他の分野ではあまり聴くことのない独特の概念が多発する(たとえば実体法ってよく聞くけど、実質法とはなに?)。重要なポイントについては繰り返し言及するので、ノートをとること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生殖補助医療(代理出産)や親による子の奪い合いなど、国際私法に関連する時事的な話題にも言及したいと思っています。

キーワード /Keywords

国際私法、国際契約、国際家族法

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor 立石 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	米国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	米国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ経済

ECN351M

授業の概要 /Course Description

本講義では、アメリカ経済がどのような過程で経済大国になったのか、そしてアメリカ経済は世界各国の模範となる経済モデルなのかという問題意識に基づいて、建国から現在までのアメリカ経済の発展の歴史について講義します。
到達目標については、上記問題意識に加えてアメリカ経済の現状及び今後の動向について、基礎的知識を踏まえ、歴史的観点から俯瞰しながら考察し評価することができる能力の形成を目標とします。具体的には以下の到達目標を設定します。
【知識】アメリカ経済に関する専門的な知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】アメリカ経済について総合的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
【自立的行動力】アメリカ経済への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。
そのために本講義では、アメリカ経済の歴史を、第I部1492～1790年の建国期、第II部1790～1865年の南北戦争までのアメリカの統一期、第III部1865～1914年のアメリカの対内発展期、第IV部1914～1939年のアメリカの対外膨張期、第V部では1940～のアメリカの覇権国期、第VI部1990～2008年のグローバル化期、そして第VII部2009年以降の長期停滞期に分けて学修します。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。講義内容に関連した文献、講義レジュメ、その他を配布して講義を行います。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、講義時に別途示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 第I部1492～1790年 インディアンと植民地の経済
- 2回目 第I部1492～1790年 アメリカ革命の経済学
- 3回目 第II部1790～1865年 南部奴隷制の経済学
- 4回目 第II部1790～1865年 西部への入植と交通革命
- 5回目 第II部1790～1865年 南北戦争の政治経済学
- 6回目 第III部1865～1914年 西部農業の発展とポピュリスト運動
- 7回目 第III部1865～1914年 大量生産・新移民・海外市場
- 8回目 第IV部1914～1939年 消費者資本主義の発展
- 9回目 第IV部1914～1939年 大恐慌とニューディール政策
- 10回目 第IV部1914～1939年 大恐慌と国際関係
- 11回目 第V部1940～1989年 第二次世界大戦とブレトンウッズ体制の形成
- 12回目 第V部1940～1989年 冷戦下の高度経済成長と限界
- 13回目 第VI部1990～2008年 アメリカ経済の自由化と再編
- 14回目 第VI部1990～2008年 グローバル化と金融危機
- 15回目 第VII部2009～2019年 長期停滞・経済格差・バクスマリカーナの後退

アメリカ経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は小テスト及び定期試験の合計で成績を評価します。
授業ごとに内容の理解を確認するための小テストを実施します（15回実施、計75％）。
到達目標を確認するために定期試験を実施します（25％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：Moodleにアップした講義資料を学修しておくこと。（1.5時間）
事後学修：授業内容を踏まえながら、自主学習資料に基づき事後学修を行うこと。（1.5時間）

履修上の注意 /Remarks

現代史に関する科目、アメリカに関する科目、国際関係に関する科目、基礎的な経済学に関する科目、国際経済に関する科目、そして国際金融に関する科目等を先に履修しておくこと、本講義の理解がより深いものになります。
講義資料はMoodleにアップしておきますので、必ず確認し、必要な学修を行ったうえで、講義を受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質問は対面授業後、メール、Moodleにて受け付けます。
メール：t-tateishi01@kitakyu-u.ac.jp

キーワード /Keywords

アメリカ経済、経済史、経済発展論、比較制度論、国際関係論

イギリス文学概論【昼】

担当者名 濱 奈々恵 / HAMA NANAE / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリス文学を理解するための基礎的な知識を習得している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリス文学の研究方法を身につけている。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリス文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス文学概論

LIT231M

授業の概要 /Course Description

『ハリー・ポッター』、『ピーター・パン』、『クマのプーさん』、『ピーター・ラビット』…。これらは全てイギリスで生まれた作品です。作家はどのような時代を生き、どのような作品を残したのでしょうか。そこには何が書かれているのでしょうか。

この授業では、「今」の英文学を知ることから始め、その後で1500年以上に及ぶ英文学史を追いかけていきます。各時代の特徴、代表的な作家とその作品を概観しながら、原書（あるいは邦訳）の一部や映像などを使って英文学の知識を深めていきます。過去の作品や英文学の流れを知ることで、「今」の作品を楽しむ素養を身につけていきます。

到達目標

【知能】 イギリス文学史に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 イギリスの文学作品を読むための英語力を身につけている。

【思考・判断・表現力】 イギリスの文学作品を歴史的な観点で分析すると同時に、様々なテーマで読解し、作品を論じることができる。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浦野郁他 『よくわかるイギリス文学史』(ミネルヴァ書房、2020) ¥2,750

○石塚久郎他 『イギリス文学入門』(三修社、2014) ¥3,580

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、ノーベル文学賞とブッカー賞
- 2回 中世前期：古英語『ベオウルフ』
- 3回 中世後期：中英語『カンタベリー物語』、『アーサー王物語』
- 4回 ルネッサンス：演劇(シェイクスピア)の時代
- 5回 ピューリタニズム：『失楽園』
- 6回 王政復古：『天路歷程』
- 7回 古典主義の興隆と衰退：デフォー、スウィフト
- 8回 小説誕生：リチャードソン、フィールディング
- 9回 ロマン主義(1)：ブレイク、ワーズワス、コールリッジ
- 10回 ロマン主義(2)：バイロン、シェリー、キーツ
- 11回 19世紀(1)：オースティン、ブロンテ姉妹、ディケンズ、ギャスケル
- 12回 19世紀(2)：エリオット、ハーディ、キャロル、コナン・ドイル
- 13回 20世紀(1)：ウェルズ、ジョイス、ウルフ、ロレンス、フォースター、オーウェル
- 14回 20世紀(2)：グリーン、ウォー、「怒れる若者たち」、マードック、スパーク
- 15回 現代：ポストコロニアリズム および全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・70% レポートおよび日常の授業への取り組み・・30%
* 欠席が5回に達した時点で学期末試験を受けられなくなり、「-」（評価不能）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行ってください（授業前でも後でも構いません）。

履修上の注意 /Remarks

近代イギリス文学に興味がある学生は「英米の近代文学I」を、現代イギリス文学に興味がある学生は「英米の現代文学I」の受講をお勧めします。また授業には必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。知的怠慢は禁止です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内で扱った作品を自分で読んだり見たりして、自分なりの楽しみ方を見つけてください。

キーワード /Keywords

ノーベル文学賞 / ブッカー賞 / 英文学史 / 詩 / 演劇 / 小説

アメリカ文学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ文学を概括的に理解する上で必要な基礎的な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカ文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文学概論

LIT230M

授業の概要 /Course Description

本講義で取り扱うのはアメリカ文学である。そのアメリカ文学全体を時代を越えて貫いている複数の特徴を確認することにより、アメリカ文学の全体像を把握してもらおう。さらには、アメリカ文学の特徴が、ハリウッド映画によっても共有されている事実を、実際に映像を見ながら確認する。次いで、そのような、アメリカ文学とハリウッド映画の共通性が生じた理由を、アメリカの社会・歴史・文化の特質に目を向けることにより明らかにする。講義を通して、文学と映画という、一見、全く異質に見える存在が、同一の社会背景の下に誕生した以上、同根の存在となる点を理解してもらえれば幸いである。また、アメリカ文学を文化的背景と絡めて分析する視点も身につけてもらえたらと考えている。

(到達目標)

- 【知識】アメリカ文学に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】アメリカ文学の分析を行う基礎的スキルを身につけている。
- 【思考・判断・表現力】アメリカ文学について自分の考えを明確に表現できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてアメリカ文学の作品からの抜粋やレジュメをプリント形式で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
- 『アメリカ文学史 1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
- 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
- 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 アメリカ文学に関する基礎知識
- 3回 アメリカ文学に読み取れるアメリカ人としての自意識
- 4回 ハリウッド映画に読み取れるアメリカ人としての自意識と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 5回 アメリカ文学における暴力描写
- 6回 ハリウッド映画における暴力描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 7回 アメリカ文学における移動描写
- 8回 ハリウッド映画における移動描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 9回 アメリカ文学における恋愛・結婚描写
- 10回 ハリウッド映画における恋愛・結婚描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 11回 アメリカ文学における超常現象描写
- 12回 ハリウッド映画における超常現象描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 13回 アメリカ文学における社会意識
- 14回 ハリウッド映画における社会意識と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 15回 補足説明、総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100% 持ち込みは一切不可とする。
定期試験を受験しなかった場合は、－(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる作家と作品名は事前に知らせますので、参考書等を講義前に参照し、作者と作品に関する基礎的な情報を確認しておいてください。同様に、講義で取り上げる映画も事前に周知しますので、各自で事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。
授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義テーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの現代文学 【昼】

担当者名 濱 奈々恵 / HAMA NANAE / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの現代文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスの現代文学の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリスの現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの現代文学

LIT234M

授業の概要 /Course Description

この授業では、歴代のノーベル文学賞とブッカー賞受賞者の中から、英・英連邦と関わりのある作家を選び、毎回一人の作家に注目しながら、(1)作家の経歴と時代背景、(2)主要作品の概要、(3)評価された点について学んでいきます。授業で取りあげる作品は、作家の評価を決めるにあたって特に重要だと思われる作品で、原書、訳本、映像（インタビュー映像や、映画・ドラマ）なども積極的に使用します。この授業を通して、現代英文学を理解するには、時代と国の枠組みを超える必要があること、作品には常に「誰かの価値観」が関わっていることを読み取っていきます。また、作品理解に必要な用語や概念も、適宜、学んでいきます。

到達目標

- 【知能】 イギリスの現代文学に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】 イギリスの現代文学作品を読むための英語力を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 文学作品をテーマに基づいて分析し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 都甲幸治他 『ノーベル文学賞にもっとも近い作家たち』（青月社、2014）¥1,650
- 高本孝子他 『新世紀の英語文学—ブッカー賞総覧〈2001-2010〉』（開文社、2011）¥3,080
- 吉田徹夫他 『ブッカー・リーダー—現代英国・英連邦小説を読む』（開文社、2005）¥2,400

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ブッカー賞とノーベル文学賞の基本情報
- 2回 ウィリアム・ゴールディング(1911-1993)：人間に潜む二面性
- 3回 ドリス・レスリング(1919-2013)：女性たちの経験
- 4回 V.S.ナイポール(1932-2018)：標準英語への対抗
- 5回 マーガレット・アトウッド(1939-)：管理社会とディストピア
- 6回 J.M.クッツェー(1940-)：西欧的支配への批判
- 7回 ピーター・ケアリー(1943-)：奪われた土地と声
- 8回 マイケル・オンダーチェ(1943-)：暴力とロマン
- 9回 ジュリアン・バーンズ(1946-)：ポストモダンと記憶の改ざん
- 10回 サルマン・ラシュディ(1947-)：闘争とマジック・リアリズム
- 11回 イアン・マキューアン(1948-)：倫理観の倒錯
- 12回 ヒラリー・マンテル(1952-)：歴史の再構築
- 13回 カズオ・イシグロ(1954-)：記憶と記録
- 14回 アンナ・バーンズ(1962-)：アイルランドの宗教対立
- 15回 番外編(C.アディーチェ) および全体のまとめ

イギリスの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 70% レポートおよび日常の授業への取り組み・ ・ 30%
* 欠席が5回に達した時点で学期末試験を受けられなくなり、「-」（評価不能）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行ってください（授業前でも後でも構いません）。

履修上の注意 /Remarks

現代アメリカ文学に興味がある学生は、「英米の現代文学II」の受講をお勧めします。また授業には必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。知的怠慢は禁止です。各賞決定時期の前後には、一部、授業内容に変更が生じる可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内で扱った作品を自分で読んだり見たりして、自分なりの楽しみ方を見つけてください。

キーワード /Keywords

ノーベル文学賞 / ブッカー賞 / (旧) 植民地 / 体制批判 / 記憶と記録 / 歴史

アメリカの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの現代文学の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの現代文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの現代文学に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカの現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの現代文学

LIT232M

授業の概要 /Course Description

英米の現代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解する上で必要な専門的知識を習得する。また、英米の現代文学の基本的な研究方法に加え、この分野に関する課題発見力、解決力を身につける。

現代の第一次世界大戦後の荒廃をロス・ジェネレーションの世代として二ヒリズムの虚無と闘ったE・Hemingwayの作品をはじめ、ユダヤ系文学、南部文学、第二次世界大戦後のポストモダニズム文学やマイノリティの文学を読んで、現代アメリカ文学を中心に、その背景と関連ある文化への理解を深めていく。

なお、この授業の到達目標は以下の通りである。

「知識」アメリカ現代文学についての基本的な知識を身につけている。

「技能」文学を社会背景を踏まえながら読み解くスキルを身につけている。

「思考・判断・表現力」文学を通じた現代社会への理解を通じて、現代社会の課題と文学の役割に関する考察を行う力を身につけている

教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature II』（英宝社） 早瀬博範・江頭理江 編著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一他編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：授業のイントロダクション

第2回：Ernest Hemingway: A Short Happy Life of Francis Macomber

第3回：Ernest Hemingway: The Old Man and the Sea Hemingwayのテーマは何か？

第4回：John Steinbeck: Of Mice and Men

第5回：John Steinbeck: Of Mice and Men テーマは何か？

第6回：F・S Fitzgerald : The Great Gatsby

第7回：F・S Fitzgerald : The Great Gatsby テーマは何か？

第8回：William Faulkner: A Rose for Emily

第9回：William Faulkner: A Rose for Emily テーマは何か

第10回：Saul Bellow: Seize the Day

第11回：Saul Bellow: Seize the Day テーマは何か？

第12回：Hisae Yamamoto: Seventeen Syllables

第13回：Leslie Maron Silko:

第14回：全体を通して、ポストモダニズムの文学をいかに読むべきかを考察する。

第15回：授業全体のまとめ

定期試験

アメリカの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 毎回の課題レポート 50%

なお、課題レポートを提出すべき回数の3分の1以上未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと (必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの18-19世紀文学【昼】

担当者名 /Instructor 今川 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの18-19世紀文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスの18-19世紀文学の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	イギリスの18-19世紀文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリスの18-19世紀文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの18-19世紀文学

LIT235M

授業の概要 /Course Description

イギリスの7世紀から始め、18-19世紀文学を中心に講義を展開します。西洋の文学や精神文化を理解するうえで知っておくべき作家・作品については特に詳しく掘り下げていきます。また、時代背景や作品理解、宗教観を深めるため、適宜映像作品や洋楽などを紹介し、ディスカッションの場を設けながら講義を進めていきます。テキスト参照および教員が作成した資料とスライドを事前にMoodleにアップロードしたものを参照しながら講義を進める形になります。Moodleにアップする資料は教員が印刷して配布することは致しません。必要に応じて受講者個人で印刷してください。枚数が多くなることが予想されますので、印刷する・しないは個人の自由です。また、期末試験の一部には、論述課題として指定した映画（図書館蔵）を事前に個人で鑑賞して与えられたテーマに基づき自身の考えを論理的に記述する、という課題を課します。

教科書 /Textbooks

『イギリス小説入門』川口喬一 著（研究社出版）ISBN: 978-4-327-37505-8

適宜、講義資料はMoodleにアップロードしていきます。教員は印刷・配布は致しません。必要と判断すれば各自で印刷してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶイギリス文学史』神山妙子 編著（ミネルヴァ書房）ISBN: 4-623-01873-3

『イギリス文学史』平井正穂・海老池俊治 著（明治書院）ISBN: 4-625-48028-0

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. イギリス文学の登場
3. 14・15世紀の文学
4. 16世紀の文学（1）
5. 16世紀の文学（2）
6. 17世紀の文学（1）
7. 17世紀の文学（2）
8. 王政復古～18世紀前半の文学（1）
9. 王政復古～18世紀前半の文学（2）
10. 18世紀後半の文学（1）
11. 18世紀後半の文学（2）
12. 19世紀初期の文学（1）
13. 19世紀初期の文学（2）
14. 19世紀中期の文学
15. 19世紀後期～20世紀初期の文学

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニクイズ（第13・14回授業週にMoodle上で実施）40%

期末試験60%

ミニクイズ（第13・14回授業週にMoodle上で実施）および期末試験を受験しなかった場合は評価不能（-）とします。

イギリスの18-19世紀文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義のなかで紹介した映像作品や楽曲についてはなるべく自身で視聴しましょう。また、取り上げた楽曲の歌詞については講義のなかで指摘したキーワードを手掛かりに自分なりの理解・解釈を深める習慣をつけてください。自筆ノートを作りながら講義を受けましょう。

履修上の注意 /Remarks

講義中の私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前にMoodleにアップロードされている資料を確認する習慣をつけましょう。文学作品の背後にはリアル社会に息づく人間の脈打つ鼓動や普遍的な人間心理があることを肝に銘じ、人間の歩んだきた過去・あなたの現在・未来を思いながら作品に触れていきましょう。

キーワード /Keywords

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの18-19世紀文学の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの18-19世紀文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの18-19世紀文学に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカの18-19世紀文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの18-19世紀文学

LIT233M

授業の概要 /Course Description

英米の近代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解するうえで必要な専門的知識を習得する。同時に英米の近代文学の基本的な研究方法や課題発見力及び解決力を身につける。

特にアメリカ文学に注目し、アメリカ文学の古典であり、アメリカ植民地時代のピューリタニズムとアメリカの独立の時代を見事に描いた Nathaniel Hawthorne の文学、超絶主義 (Transcendentalism) を唱え、アメリカの独自思想の構築に貢献した R.L. Emerson、民主主義の国アメリカの新しい、独立心の強い女を描いた Henry James の Daisy Miller、アメリカの国民的作家であり、Minority の問題に真正面から取り組んだ Mark Twain などの小説の一節を読んで、アメリカ文学の特徴とその背景にある文化、社会的状況への理解を深めていく。

なお、この授業の到達目標は以下の通りである。

「知識」アメリカ近代文学についての基本的な知識を身につけている。

「技能」文学を社会背景を踏まえながら読み解くスキルを身につけている。

「思考・判断力・表現力」文学を通じた社会や歴史への理解を通じて、文学と社会の関わりについて幅広い視点から考察する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature I』 (英宝社) 早瀬博範・江頭理江 編著
適宜テキストの補充資料なども配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概要のとおり、授業回ごとに作品をピックアップし、作品の特徴や背景について学ぶ。また、文学作品特有の英語表現についても触れていく。

(【 】はキーワードを表す)

第1回：授業全体のイントロダクション

第2回：Nathaniel Hawthorne: Short Stories

第3回：Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letterをどう読むか？

第4回：Nathaniel Hawthorne: テーマは何なのか？

第5回：R・W・Emerson: 超絶主義とは？

第6回：R・W・Emerson: 超絶主義 Nature

第7回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn イン트로ダクション

第8回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn 31章をどう読むか

第9回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn 最終章をどう読むか？

第10回：Henry James: Daisy Miller イン트로ダクション

第11回：Henry James: Daisy Miller テーマは何なのか？

第12回：Edgar Allan Poe イン트로ダクション

第13回：Edgar Allan Poe The Black Cat

第14回：Edgar Allan Poe 他の作品の主題との関連

第15回：授業全体のまとめ

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 毎回の課題レポート 50%
課題レポートを提出すべき回数の3分の1以上未提出の場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習は必ず行ってください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化史【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ文化理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカ文化に見られる諸問題について、発見・分析できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ文化史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文化史

ARE227M

授業の概要 /Course Description

21世紀に入り20年余りが経過した現在でも、アメリカ社会は相変わらず、人種や民族の問題を抱えている。人種や民族をめぐる問題は、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な一面をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、日系人の歴史的背景に関する知識を修得したうえで、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考え、的確に表現する力を養成する。

(到達目標)

【知識】アメリカの歴史に関する専門的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】アメリカ社会について論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

開講時及び授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
- 第3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会
- 第4回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立と黒人の抵抗運動
- 第5回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の否定
- 第6回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動の進展
- 第7回 アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
- 第8回 小括
- 第9回 日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
- 第10回 日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
- 第11回 日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
- 第12回 日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
- 第13回 日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
- 第14回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：ブラセロ計画と1965年移民法
- 第15回 まとめ：人種・民族をとりまく今日の状況

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(80%)に授業後のFormsを使った簡単な質問への回答(20%)を加味して評価を行う。学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連するものを中心にニュースに目を通す。

アメリカ文化史【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会と文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会と文化についての諸問題について、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会と文化の諸問題を正しく理解し、情報の収集や分析ができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) アメリカの社会と文化	ARE222M
(国関) 地域研究特講	ARE200M

授業の概要 /Course Description

Against the backdrop of Black Lives Matter, as well as the attack on the US Capitol building by supporters of Donald Trump, this course looks at the American tradition of protest -- individuals, groups, and movements that have opposed existing institutions and sought to create social and political alternatives. Topics covered include religious dissent and the first colonies, protests against English rule and the American Revolution, Utopian communities, slave uprisings by Nat Turner and others, Native American resistance to settlers, the women's movement, the 60s anti-war demonstrations, Civil Rights Black Power and Black Lives Matter (BLM), the Stonewall demonstrations and LGBTQ+, and the rise of the new anti-government populism.

教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

"Revolts, Protests, Demonstrations, and Rebellions in American History: An Encyclopedia. 3 volumes."
Editor Steven L. Danver

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction -- Approaches to American Society and Cultures
- Week 2 Dissenters - Puritan Protest against Church of England
- Week 3 Colonial protest and the American Revolution
- Week 4 Abolitionists and the fight against slavery
- Week 5 The South, Secessionists and the Civil War
- Week 6 Suffragists -- the first modern protest movement
- Week 7 Modern Civil Rights Movement and the March on Washington
- Week 8 Anti-Vietnam War Demonstrations
- Week 9 Sixties Counter-Culture -- Hippies and Dropping Out as Protest
- Week 10 Women's Liberation Movement
- Week 11 From Wounded Knee to AIM (American Indian Movement)
- Week 12 Gay Liberation Movement: Stonewall to LBBTQ
- Week 13 Black Lives Matter (BLM)
- Week 14 Proud Boys, Oath Keepers and the Alt Right
- Week 15 Protest and Progress? Protest and Division?

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 30%
In-class writing assignments 30%
Final test 40%

Please note that credit will not be awarded in event of four or more absences.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should review material covered on weekly basis..

履修上の注意 /Remarks

Students are expected to attend on weekly basis.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course offers students an opportunity to learn about various kinds of opposition and protest that have shaped American society and to understand conflicts that continue to divide Americans.

キーワード /Keywords

American cultures and societies, dissent, resistance, rebellion, revolt, revolution, utopia, protest, Native Americans, African Americans, youth culture, gender, LGBTQ+

アメリカの都市文化 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ都市文化理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ都市文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカ都市文化に関する諸問題について、発見・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ都市文化に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの都市文化

ARE224M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生み出される社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。授業を通して、アメリカの歴史や社会に関する知識を修得したうえで、現代のアメリカ社会の問題について考え、それを的確に表現する力を身につける。

(到達目標)

【知識】アメリカの歴史や文化に関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】アメリカ社会について総合的に思考し、自分の意見を的確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000) ; 竹田有『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年) ; リチャード・プランツ『ニューヨーク 都市居住の社会学』(鹿島出版会、2005年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに(寺田)
2. シカゴの近代建築 1 : スカイスクレーパーの誕生 (福田)
3. シカゴの近代建築 2 : 世界の都市に影響を与えたシカゴの超高層建築(福田)
4. シカゴの近代建築 3 : シカゴ建築に見る新たな建築様式(福田)
5. ニューヨークの近代建築 1 : ネオコシックからアールデコ超高層へ(福田)
6. ニューヨークの近代建築 2 : モダニズムからポストモダニズム超高層へ(福田)
7. ニューヨークの近代建築 3 : 新たな超高層建築 / 小括:都市と建築 (福田)
8. 歩き回れる都市の変容 1 : 20世紀初頭アメリカにおける産業化・都市化(寺田)
9. 歩き回れる都市の変容 2 : 20世紀初頭アメリカにおける移民の流入 (寺田)
10. メトロポリスの形成 1 : エスニシティと階級(寺田)
11. メトロポリスの形成 2 : 人種と階級(寺田)
12. 都市における対立と隔離の発生 1 : 20世紀初頭の 아프리카系アメリカ人の北上(寺田)
13. 都市における対立と隔離の発生 2 : 1919年シカゴ人種暴動(寺田)
14. 郊外における中産階級の再生産 : オークパーク(寺田)
15. 総括 : 都市と人びとの営み(寺田)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、レポートまたは試験(福田・50%、寺田・50%)に日常の授業への取り組みを加味して評価を行う。レポートの未提出、および学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

アメリカの都市文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業で紹介された参考文献等を積極的に読んだり見たりする。事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連したものを中心に、ニュースをチェックする。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの大衆文化の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの大衆文化の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの大衆文化に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカの大衆文化の特質に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの大衆文化

ARE221M

授業の概要 /Course Description

日本人も接する機会が多いハリウッド映画をアメリカ大衆文化の素材として取りあげ、映画の中にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。この視点からの分析を行うことによって、映画とアメリカ文化との関係に対する理解を深めてもらう。講義では、アメリカ文化の特性を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。また、アメリカ人の価値観や美意識の独自性に関しても概説する。最終的には、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、講義を通して体得してもらえればと考えている。

(到達目標)

【知識】アメリカ大衆文化に関する応用的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】アメリカ大衆文化について専門的見地から自分の考えを表現できる。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『映画で学ぶアメリカ文化』、八尋春海、スクリーンプレイ (映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から)
- 『映画で楽しむアメリカ文学』、八尋春海、金星堂 (アメリカ文学と映画の比較の視点から)
- 『映画で楽しむアメリカの歴史』、八尋春海、金星堂 (映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から)
- 『サーカスが来た!』、亀井俊介、岩波書店 (サーカス、ターザン、ハリウッド)
- 『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介、研究社 (ランボー、ロッキー)
- 『アメリカの大衆文化』、清水知久、明石書店 (映画、音楽、スポーツ、広告)
- 『アメリカの大衆文化』、亀井俊介、研究社 (テレビ、漫画、音楽、映画)
- 『アメリカが見えてくる』、越智道雄、サイマル出版会 (アメリカ社会の諸現象と映画の関連性)

アメリカの大衆文化 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の内容の説明
- 2回 『ビッグ』を全編鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 『アイ・アム・サム』、『ターミネーター2』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の子供描写の特徴
- 5回 アメリカ映画の子供描写の特徴と、アメリカ史との関係
- 6回 『アナと雪の女王』、『モンスターズ・インク』、『タイタニック』、『魔法にかけられて』に見る階級制
- 7回 アメリカ映画における階級制の位置づけと、アメリカ文化との関係
- 8回 『ホーム・アローン』、『レオン』、『アイ・ロボット』、『A.I.』に見る権力描写
- 9回 アメリカ映画の権力描写と、アメリカ文化との関係
- 10回 『フォレスト・ガンブ』、『チャーリーとチョコレート工場』、『プラダを着た悪魔』の金銭の位置付け
- 11回 アメリカ映画の金銭の位置付けと、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『スター・ウォーズ』、『ダーティハリー2』の銃描写の特徴
- 13回 アメリカ映画の銃描写と、アメリカ史との関係
- 14回 『フェイス/オフ』、『メン・イン・ブラック』、『ミッション・インポッシブル』の変身描写の特質
- 15回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100% 持ち込みは一切不可とする。
定期試験を受験しなかった場合は、－(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史I 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会経済史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会経済史に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会経済史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国社会経済史 I

HIS220M

授業の概要 /Course Description

この講義では古代から近世までの中国史を主として社会経済の側面から教授する。但し中国史の概説的知識を持たない受講生が大多数を占めるため、社会経済史以外の分野やトピックも適宜織り交ぜて、分かりやすく説明する。

到達目標

【知識】中国および周辺国の社会経済史に関する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】中国および周辺国の社会経済史に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。

【自立的行動力】中国および周辺国の社会や経済への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

Moodleに各回の講義レジュメをupする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 中国文明の誕生
- 第3回 中国の生活文化(1)...食
- 第4回 中国の生活文化(2)...衣と住
- 第5回 前近代の中国(1)...唐代まで
- 第6回 前近代の中国(2)...宋元明清
- 第7回 近代中国
- 第8回 現代中国
- 第9回 世界史における資本主義
- 第10回 商品生産発達史
- 第11回 明清市場史
- 第12回 明清商業史
- 第13回 明清財政史
- 第14回 明清身分制度史
- 第15回 中国の民族主義

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%
- 小テストを1回も受けなかった者は一評価となる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習は特に不要。但し高校世界史レベルの基礎知識を必要とするので、何らかの概説書で中国史の流れを予習しておくこと、講義がより分かりやすくなると思う。

履修上の注意 /Remarks

授業中、講義レジュメは配布しない。各自でダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史II 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会経済史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会経済史に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会経済史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国社会経済史II

HIS221M

授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

到達目標

- 【知識】中国および周辺国の社会経済史に関する専門的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】中国および周辺国の社会経済史に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。
- 【自立的行動力】中国および周辺国の社会や経済への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。ビデオと講義レジユメ(Moodleにup)を中心教材とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 立間祥介『諸葛孔明』岩波新書、1990年
- 『三国演義』(VHS)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学と白話小説
- 第2回 中国の都市空間と市場
- 第3回 地方財政の不在と賄賂
- 第4回 関羽の商業神化
- 第5回 儒教倫理としての孝
- 第6回 長江中流域の特徴
- 第7回 中国人の名前
- 第8回 中国の葬儀と埋葬
- 第9回 三顧の礼
- 第10回 能力の表象としての面子
- 第11回 赤壁の戦いと関羽の報恩
- 第12回 貴族制社会と士大夫社会との違い
- 第13回 漢人政権の衰退と五胡の擡頭
- 第14回 諸葛亮の評価
- 第15回 封建社会と専制国家

成績評価の方法 /Assessment Method

第1回小テスト30%
第2回小テスト30%
第3回小テスト40%
小テストを1回も受けなかった者は一評価となる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

三国志の話を知らない受講生は小説や漫画・映画でも構わないから事前にあらすじを予習しておくこと。事後には小テスト対策も兼ねてレジюме・口頭説明の内容を再確認すること。

履修上の注意 /Remarks

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。
三国志のあらすじは小説などで事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジюме・口頭説明の内容を再確認すること。
授業中、講義レジюмеは配布しない。各自でダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

劉備 関羽 諸葛亮 徐庶 孫権 赤壁 五丈原

中国経済論I【昼】

専門教育科目
選択科目
中国ビジネス科目群

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国経済に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国経済に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国経済に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済論 I

ECN253M

授業の概要 /Course Description

中国経済の仕組み・特徴や企業の行動を理解することを本講義の目的とします。
中国経済論Iでは、中国における高度経済成長・市場経済化の経験、2010年代に入ってから展開について理解を深めます。
より深く理解するために初歩的な（ミクロ・マクロ）経済学の知識も併せて学びます。

到達目標

「知識」

中国経済に関する専門的な知識を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国経済に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。

「自立的行動力」

中国経済の現状への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年

岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年

白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年

伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年

他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 経済発展とは【経済成長】【新興国】
- 3回 中国の行政の仕組みと特徴【「戸籍」】【都市】【農村】
- 4回 中国経済の概観(1)【SNA】
- 5回 中国経済の概観(2)【所有】
- 6回 中国経済を見る視点と枠組(1)【供給曲線】【利潤最大化】【需要曲線】
- 7回 中国経済を見る視点と枠組(2)【完全競争】
- 8回 中国経済を見る視点と枠組(3)【独占】
- 9回 中間総括：インターミッション
- 10回 市場経済化(1)【工業化】【生産性】
- 11回 市場経済化(2)【インセンティブ】【工業化】【民営化】
- 12回 市場経済化(3)【国有企業】【民営企業】【規制緩和】
- 13回 リーマンショック後の中国経済(1)【国進民退】
- 14回 リーマンショック後の中国経済(2)【上場企業】
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

70%：定期試験 30%：講義及び講義中に課される課題への取り組み

この科目の定期試験が実施されるケースにおいて、その試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。この科目の定期試験が実施されないケースでは、定期試験の代替措置として課される課題(講義中に課される課題とは別です)の提出が認められない場合に評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。

事後学習：経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてください。

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてください。

配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ・ノートもあわせて内容を整理してください。

講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済(学)関連の科目や各国地域の経済社会に関する講義を受講することが望ましい。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国経済に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国経済に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国経済に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済論II

ECN254M

授業の概要 /Course Description

本講義では経済改革が多くの分野について一応の終結をみた2000年以降に、中国で形成された市場経済の特徴、特質について、主として金融、為替の動向を例に挙げながら議論していきます。
またリーマンショック前後での相違点に付いても言及し、以上の議論を踏まえて中国経済が直面する課題を整理していきます。

到達目標

「知識」

中国経済に関する専門的な知識を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国経済に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

「自立的行動力」

中国経済の現状への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年

岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年

白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年

伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年

他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国の経済発展の特徴(1)【改革開放】【市場経済化】
- 3回 中国の経済発展の特徴(2)【財政政策】【金融政策】
- 4回 政策の実行とその影響(1)【地方政府】【企業】
- 5回 政策の実行とその影響(2)【経済改革】
- 6回 金融政策と金融システム(1)【間接金融】【直接金融】【中央銀行】
- 7回 金融政策と金融システム(2)【引き締め政策】【緩和政策】
- 8回 金融政策と金融システム(3)【金融政策の方法と中国での効果】
- 9回 通貨・為替制度の変遷(1)【変動相場制】【為替レート】
- 10回 通貨・為替制度の変遷(2)【輸出】【輸入】【人民元】
- 11回 通貨・為替制度の変遷(3)【国際資本移動】【金融政策】
- 12回 為替の動向と金融政策の効果 【国際金融のトリレンマ】
- 13回 中国経済が直面する課題(1)
- 14回 中国経済が直面する課題(2)
- 15回 まとめ

* 講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

70%：定期試験 30%：講義・課題への取り組み

この科目の定期試験が実施されるケースにおいて、その試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。この科目の定期試験が実施されないケースでは、定期試験の代替措置として課される課題(講義中に課される課題とは別です)の提出が認められない場合に評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。

事後学習：経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてみてください。

配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ・ノートもあわせて内容を整理してみてください。

講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済(学)関連の科目や各国地域の経済社会に関する講義を受講することが望ましい。

キーワード /Keywords

中国文化論【昼】

専門教育科目
選択科目
中国ビジネス科目群

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国文化に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国文化に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国文化に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国文化論

ARE110M

授業の概要 /Course Description

中国文化を古代文明から現代に至るプロセスの中で、キーワードを拾い、それを解明することで独自性と普遍性を見つけてみる。
(到達目標)

【知識】中国文化に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】中国文化に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

【自立的行動力】中国文化への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『図説 中国文化百華』全18巻 農文協

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 古代文明遺跡が伝えるもの 「三星堆」に見る揚子江文明
- 第2回 中国シャーマニズムに現れる仮面劇
- 第3回 「十二支」という暦の考え方
- 第4回 古代楽器が伝えたもの
- 第5回 孔子の存在 儒教の意義
- 第6回 中国に於ける仏教文化の変遷
- 第7回 書道の意義
- 第8回 絵画の伝統
- 第9回 国技としての気功、太極拳
- 第10回 漢語のパワー
- 第11回 科学文明の受容 ①写真、映画
- 第12回 科学文明の受容 ②家電、携帯電話
- 第13回 科学文明の受容 ③IT産業
- 第14回 東洋医学の現況
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

※原則として、出席が足りていない場合、レポートの提出がなかった場合に評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された課題を予習し、毎回学習内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

授業前に書物またはインターネット情報から該当事項に関する概要を捉えておく。授業後、講義中に指摘された項目についてノートにまとめておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 途上国において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

授業の概要 /Course Description

本授業では、グローバル化と途上国開発という視点から、社会を読み解く視点や方法を修得します。具体的には、担当教員がこれまでフィリピンと日本で行ってきたフィールドワークの事例を中心に、グローバル化のなかでの都市（国）づくりが、そこに暮らす人々にどのような影響を及ぼしているのかについて考えます。そのために、都市で生活する人々の経済、社会、政治、政策などさまざまな側面について理解していきます。後半は、グローバルな「開発」を念頭に、私たちの生活に身近な問題について、メディア資料などを通して理解する力を養います。

- { 知識 } 途上国の政治経済の現状を理解している
- { 技能 } 途上国の政治経済上の情報を入手し、分析できる
- { 思考・判断・表現力 } 途上国の持続可能な開発に理解を示し、積極的に支援する

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日下渉『反市民の政治学：フィリピンの民主主義と道徳』2013, 世界思想社.
- 山口恵子ほか『グローバル化のなかの都市貧困』2020, ミネルヴァ書房.
- 吉田舞『先住民の労働社会学：フィリピン市場社会の底辺を生きる』2018, 風響社.
- ニール・スミス『ジェントリフィケーションと報復都市：新たな都市のフロンティア』原口剛訳, 2014, ミネルヴァ書房.
- 長田華子『バングラデシュの工業化とジェンダー：日系縫製企業の国際移転』2014, 御茶の水書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス：今「途上国」でなにが起きているのか【コロナと途上国】
- 第2回開発とはなにか：開発概念の検討【開発と貧困】
- 第3回フィリピンにおける開発研究の歴史的経緯【植民地経験と近代化】
- 第4回グローバル化と都市開発① ギグ・エコノミーと渋滞問題【ジェントリフィケーション】
- 第5回グローバル化と都市開発② スクオッターと強制撤去【住居問題】
- 第6回グローバル化と都市開発③ 美化政策と路上の人びと【ホームレスの国際比較】
- 第7回グローバル化と都市開発④ 美化政策と物売りの人びと【公共空間の利用と階層化】
- 第8回グローバル化と都市開発⑤ 都市統治と道徳的イデオロギー【近代的都市づくり】
- 第9回グローバル化と地域開発① 先住民の生業と労働【観光開発】
- 第10回グローバル化と地域開発② 資本主義のハビトゥス【価値変容】
- 第11回グローバル化と地域開発③ 包摂・排除される人々【開発政策】
- 第12回日本からアジアをみる①990円のジーンズのカラクリ: 映画『True cost』から考える【ファストファッション】
- 第13回日本からアジアをみる② 途上国開発と移民労働者【出稼ぎ労働者】
- 第14回日本からアジアをみる③ 「国際貢献」と外国人受け入れ政策【経済連携】
- 第15回まとめ：開発と援助

途上国開発論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト50%、課題レポート20%、ワーク 30%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心を向け、その概要を把握すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数や問題関心などにより授業内容を一部変更することがあります。私語厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています！

キーワード /Keywords

途上国、開発、路上、生活と仕事

ビジネス中国語 A 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	
	その他言語力	● ビジネス中国語に関して、基礎レベルのコミュニケーション能力を身につけている。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語A

CHN360M

授業の概要 /Course Description

本授業では、

- ①基礎的な中国語コミュニケーション能力、さらにコミュニケーションを可能にする文法力の充実を目指す。
すでに中国語を1～2年間学び、一定の知識は身につけていると思うが、
中国語検定3級レベルの中国語をマスターできるよう、さらにブラッシュアップしていく。
 - ②3年目の中国語として、ビジネス上必要な内容や基礎会話を知り、使えるようにしていく。
これまで学んだ中国語は学校や旅行の場面、或いは中国理解に役立つ内容を持つものだったので、この授業では、
今後、中華圏のみならず、シンガポールをはじめ、東南アジアや欧米の華人社会と関連のある仕事に就く
可能性を感じる学生諸君のニーズに応える「ビジネス中国語」の授業としていく。
 - ③中国文化・中国事情に関する理解の深化。
これまで中国や中国人に関する知識は習得してきたであろうが、
さらに中国人とコミュニケーションする際に知っておきたい知識にも触れる。
- 以上の3点を目標とする。

※授業科目名は「ビジネス中国語」ではあるが、まずは①を充実させることを主眼にして授業を進める予定である。

教科書 /Textbooks

『ストーリーで学ぶビジネス中国語』
山田留里子 賀南 于梅 長野由季 共著
駿河台出版社
¥2,200+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 概説 中国文化・中国事情を学ぶ
- 第二回 基礎文法確認 第1課(1)本文「赴任のあいさつ」 文法ポイント
- 第三回 基礎文法確認 第1課(2)ビジネス豆知識；肩書き 練習問題
- 第四回 基礎文法確認 第2課(1)本文「電話連絡」 文法ポイント
- 第五回 基礎文法確認 第2課(2)ビジネス豆知識；中国人の名前 練習問題
- 第六回 基礎文法確認 第3課(1)本文「ランチタイム」 文法ポイント
- 第七回 基礎文法確認 第3課(2)ビジネス豆知識；中国料理 練習問題
- 第八回 中国文化・中国事情を学ぶ
- 第九回 基礎文法確認 第4課(1)本文「面談の予約」 文法ポイント
- 第十回 基礎文法確認 第4課(2)ビジネス豆知識；電話の常用表現 練習問題
- 第十一回 基礎文法確認 第5課(1)本文「Eメール」 文法ポイント
- 第十二回 基礎文法確認 第5課(2)ビジネス豆知識；中国の祝日 練習問題
- 第十三回 基礎文法確認 第6課(1)本文「出張の準備」 文法ポイント
- 第十四回 基礎文法確認 第6課(2)ビジネス豆知識；出張の常用表現 練習問題
- 第十五回 一学期のまとめ

※進度は若干前後する場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席は点数に直結しないが、授業を三分の一以上欠席すると定期試験を受ける資格を失い、「判定不能」という評価になるので注意。
定期テスト... 60% 提出物(宿題)... 20% 授業への取り組み(授業中の発音・発表)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

宿題をやり、当該の授業内容をしっかり復習すること。
文法に関して忘れていた部分があれば、1年時に使っていた教科書を見直し確認する事が重要。
教科書の会話はCDを聞き、何回も音読し、中国語のリズムに慣れ、スムーズに発音できるように。

履修上の注意 /Remarks

原則として、1年次の第2外国語・中国語を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に教科書を聞くだけでは力にならないので、授業時間以外にも一定時間の中国語学習の時間を取らなければいけない。学生諸君には負担の大きい授業だという認識があるかも知れないが、しっかりマスターすれば、英語+αとして、職場でもプライベートでもとても役に立つ内容になると思われる。
せっかく1年2年で中国語を選択したのであれば、もう一歩レベルアップを目指してがんばろう。

キーワード /Keywords

中国語

ビジネス中国語 B 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	
思考・判断・表現	その他言語力	● ビジネス中国語に関して、基礎レベルのコミュニケーション能力を身につけている。
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語B

CHN361M

授業の概要 /Course Description

本授業では、

- ①基礎的な中国語コミュニケーション能力、さらにコミュニケーションを可能にする文法力の充実を目指す。
すでに中国語を1～2年間学び、一定の知識は身につけていると思うが、
中国語検定3級レベルの中国語をマスターできるよう、さらにブラッシュアップしていく。
 - ②3年目の中国語として、ビジネス上必要な内容や基礎会話を知り、使えるようにしていく。
これまで学んだ中国語は学校や旅行の場面、或いは中国理解に役立つ内容を持つものだったので、この授業では、
今後、中華圏のみならず、シンガポールをはじめ、東南アジアや欧米の華人社会と関連のある仕事に就く
可能性を感じる学生諸君のニーズに応える「ビジネス中国語」の授業としていく。
 - ③中国文化・中国事情に関する理解の深化。
これまでも中国や中国人に関する知識は習得してきたであろうが、
さらに中国人とコミュニケーションする際に知っておきたい知識にも触れる。
- 以上の3点を目標とする。

※授業科目名は「ビジネス中国語」ではあるが、まずは①を充実させることを主眼にして授業を進める予定である。

教科書 /Textbooks

『ストーリーで学ぶビジネス中国語』
山田留里子 賀南 于梅 長野由季 共著
駿河台出版社
¥2,200 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日辞典

ビジネス中国語B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 概説 中国文化・中国事情を学ぶ
- 第二回 基礎文法確認 第7課(1) 本文「空港出迎え」 文法ポイント
- 第三回 基礎文法確認 第7課(2) ビジネス豆知識；タクシー乗車の際の常用表現 練習問題
- 第四回 基礎文法確認 第8課(1) 本文「歓迎宴」 文法ポイント
- 第五回 基礎文法確認 第8課(2) ビジネス豆知識；外食の常用表現 練習問題
- 第六回 基礎文法確認 第9課(1) 本文「工場の視察」 文法ポイント
- 第七回 基礎文法確認 第9課(2) ビジネス豆知識；環境汚染や食品安全に関する流行語 練習問題
- 第八回 中国文化・中国事情を学ぶ
- 第九回 基礎文法確認 第10課(1) 本文「ビジネスレター」 文法ポイント
- 第十回 基礎文法確認 第10課(2) ビジネス豆知識；手紙 練習問題
- 第十一回 基礎文法確認 第11課(1) 本文「価格交渉」 文法ポイント
- 第十二回 基礎文法確認 第11課(2) ビジネス豆知識；買い物の常用表現 練習問題
- 第十三回 基礎文法確認 第12課(1) 本文「苦情処理」 文法ポイント
- 第十四回 基礎文法確認 第12課(2) ビジネス豆知識；お土産に関する常用表現 練習問題
- 第十五回 二学期のまとめ

※進度は若干前後する場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席は点数に直結しないが、授業を三分の一以上欠席すると定期試験を受ける資格を失い、「判定不能」という評価になるので注意。
定期テスト...60% 提出物(宿題)...20% 授業への取り組み(授業中の発音・発表)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

宿題をやり、当該の授業内容をしっかり復習すること。
文法に関して忘れていた部分があれば、1年時に使っていた教科書を見直し確認する事が重要。
教科書の会話はCDを聞き、何度も音読し、中国語のリズムに慣れ、スムーズに発音できるように。

履修上の注意 /Remarks

原則として、1年次の第2外国語・中国語を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に教科書を開くだけでは力にならないので、授業時間以外にも一定時間の中国語学習の時間を取らなければいけない。学生諸君には負担の大きい授業だという認識があるかも知れないが、しっかりマスターすれば、英語+αとして、職場でもプライベートでもとても役に立つ内容になると思われる。
せっかく1年2年で中国語を選択したのであれば、もう一歩レベルアップを目指してがんばろう。

キーワード /Keywords

中国語

異文化間コミュニケーション概論 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化間コミュニケーション概論 MCC212M

授業の概要 /Course Description

日本と主にアメリカを例に取り、異文化接触に伴うコミュニケーション（非言語も含む）の衝突、摩擦の事例を考察し、そのメカニズムを言語的、社会的、文化的要因に分解しながら解明していく。その中で異文化コミュニケーションの関する実践的方法論などにも触れる。

教科書 /Textbooks

授業最初のコースワークの説明の時に知らせる。また必要な資料は授業において適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

チャールズ・プリブル『科学としての異文化コミュニケーション』ナカニシヤ出版
ヘレン・スペンサー＝オアティー編著『異文化理解の語用論』
E.M. Rogers & T.M. Steinfatt, Intercultural Communication Wadsworth Press
Samovar & Potter, Intercultural Communication

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 第3回 異文化コミュニケーションの諸相
- 第4回 ことばと文化とコミュニケーション（言語相対性論仮説を含む）
- 第5回 日本語と英語の構造に起因するコミュニケーション・ギャップ
- 第6回 事例観察 各事例とその基となる日米文化の差異（直感的な観察）
- 第7回 Hofstedeの文化次元の把握とそれに基づく日米の文化差
- 第8回 ハイコンテキスト、ローコンテキストに基づく分析
- 第9回 日本人の謝罪文化
- 第10回 事例研究 実践方法（バーランド）の手順（「私的自己、公的自己」「防御の方策」）
- 第11回 非言語コミュニケーション（Proxemics, Kinesics）
- 第12回 広告、翻訳に見る異文化コミュニケーション
- 第13回 異文化適応、カルチュラル・アシミレーター
- 第14回 E.Meywerの文化指標を用いたグローバルビジネスでのmanagementを考察
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動（課題を含む）55% 期末試験45%
※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とします。
※試験を受験しない場合は、評価不能（－）とします。
※所定のレポートを提出しない場合は評価不能（－）とします、剽窃の場合も同様に評価不能（－）とします。

異文化間コミュニケーション概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前) 「文化とコミュニケーション」に関する総括的な文献に目を通しておくこと。
(事後) グローバル社会におけるコミュニケーションのあり方を各自確認すること。

履修上の注意 /Remarks

授業は日本語で行うが、英語の文献を多用する。各テーマに応じて文献を参照し課題に取り組むことにより、知識を深めることを主眼とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語概論 【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	物事をグローバルに考え、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語概論

ENG230M

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students understand the overview of business studies. For this purpose, the course is designed as a collection of introductory parts of main business study areas, such as marketing, operations, business ownership, and finance.

The class style is not a one-way lecture, but rather discussions on frameworks and case studies.

Students do not need any prerequisite studies for this course.

Any students, not only ones who are focusing on business studies but also the ones who are just curious about business, can enjoy this course.

教科書 /Textbooks

DK. (2022). HOW BUSINESS WORKS: THE FACTS visually explained. Penguin Random House.

Be sure to get the 2022 edition.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will introduce materials when needed.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. What are business studies?
2. Marketing Mix
3. Marketing Approaches
4. Outbound/Inbound Marketing
5. Business Development
6. Management
7. Supply Chain
8. Mid-term Quiz and Review
9. Business Ownership
10. Start-ups
11. Who's who
12. Corporate Structure
13. Financial Accounting
14. Raising Finance
15. Final Quiz and Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation - 20%
Presentation, Discussion - 40%
Quiz (twice) - 40%

Note: Students may be assessed as unable-to-evaluate (—) in case of more than one-third deficiency in any assessment criteria, including class participation, assignments and quizzes etc.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be encouraged to review the class materials to understand the frameworks and case studies.
Students have to take two quizzes.

履修上の注意 /Remarks

Students do not need any prerequisite studies, but need skills to make slides for their presentation.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Enjoy

キーワード /Keywords

Business Studies, Marketing, Operations, Business ownership, Accounting, Finance

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標

技能：通訳の基礎的な技能を身につけている。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

自律的行動力：専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythm に着目し、どのような音が「聞き取りにくい音・聞き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聞き取れるリスニング力を養成する。正しく聴こえない音への対策として、(1)口頭リピート練習とディクテーションを通し「正しく意味化」する練習を行う。ディクテーションでは、構文知識を活用し、自力で聞き間違い箇所を見つけ、聞こえた音にこだわらずに修正する方法を学ぶ。(2)リンキング箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。聴覚情報を視覚情報に転換することで記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聞き方を強化する。「その結果・一方で」などのつなぎ言葉の挿入方法を学び、ロジックの展開を追いつながりながら聴く癖をつける。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(リズム再生、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレーズ(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。暗唱教材については、暗唱速度を学期末までに毎分速度で約30語短縮することを目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。
- 第2回 聴き間違いやすい音、聴き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降毎週継続)。
- 第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聴き取り難い=言い難い音の確認)。
- 第4回 パラフレージング(自分の言葉化)。「英語学習方法」の紹介。ディクテーション提出開始。
- 第5回 導入部の予測、口頭リピート・暗唱・ディクテーション修正練習(以降随時行う)。
- 第6回 パラグラフの展開予測。内容について日本語1分スピーチの通訳。
- 第7回 「エーなし」前だし訳。「つなぎ言葉」挿入練習。訳した内容を紙を見ずにパラフレージング。
- 第8回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳完成。オーバーラッピング訳体験。
- 第9回 ディクテーションの聴き間違いを自己修正。リズム再生・暗唱中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーションの自己修正版提出。シャドーイング。
- 第11回 リズム再生・暗唱の速度チェック。毎分速度で約30語短縮の確認。
- 第12回 長文逐次通訳練習。ディクテーション試験練習。
- 第13回 長文逐次通訳練習。学習データ表の提出。
- 第14回 長文逐次通訳練習。リズム再生・暗唱完成。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、ディクテーションほか提出物 10%、期末テスト70%
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
定期試験を受験しない場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

リンキングと音の消失、リズム再生と暗唱、ディクテーション、シャドーイング、映像処理、展開予測、パラフレージング(自分の言葉化)、つなぎ言葉、英語戻し

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標

技能：通訳の基礎的な技能を身につけている。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

自律的行動力：専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythm に着目し、どのような音が「聞き取りにくい音・聞き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聞き取れるリスニング力を養成する。正しく聴こえない音への対策として、(1)口頭リピート練習とディクテーションを通し「正しく意味化」する練習を行う。ディクテーションでは、構文知識を活用し、自力で聞き間違い箇所を見つけ、聞こえた音にこだわらずに修正する方法を学ぶ。(2)リンキング箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。聴覚情報を視覚情報に転換することで記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聞き方を強化する。「その結果・一方で」などのつなぎ言葉の挿入方法を学び、ロジックの展開を追いつながりながら聴く癖をつける。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(リズム再生、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレーズ(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。暗唱教材については、暗唱速度を学期末までに毎分速度で約30語短縮することを目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。
- 第2回 聴き間違いやすい音、聴き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降毎週継続)。
- 第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聴き取り難い=言い難い音の確認)。
- 第4回 パラフレージング(自分の言葉化)。「英語学習方法」の紹介。ディクテーション提出開始。
- 第5回 導入部の予測、口頭リピート・暗唱・ディクテーション修正練習(以降随時行う)。
- 第6回 パラグラフの展開予測。内容について日本語1分スピーチの通訳。
- 第7回 「エーなし」前だし訳。「つなぎ言葉」挿入練習。訳した内容を紙を見ずにパラフレージング。
- 第8回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳完成。オーバーラッピング訳体験。
- 第9回 ディクテーションの聴き間違いを自己修正。リズム再生・暗唱中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーションの自己修正版提出。シャドーイング。
- 第11回 リズム再生・暗唱の速度チェック。毎分速度で約30語短縮の確認。
- 第12回 長文逐次通訳練習。ディクテーション試験練習。
- 第13回 長文逐次通訳練習。学習データ表の提出。
- 第14回 長文逐次通訳練習。リズム再生・暗唱完成。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、ディクテーションほか提出物 10%、期末テスト70%
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
定期試験を受験しない場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

リンキングと音の消失、リズム再生と暗唱、ディクテーション、シャドーイング、映像処理、展開予測、パラフレージング(自分の言葉化)、つなぎ言葉、英語戻し

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標

技能：通訳の基礎的な技能を身につけている。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

自律的行動力：専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythm に着目し、どのような音が「聞き取りにくい音・聞き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聞き取れるリスニング力を養成する。正しく聴こえない音への対策として、(1)口頭リピート練習とディクテーションを通し「正しく意味化」する練習を行う。ディクテーションでは、構文知識を活用し、自力で聞き間違い箇所を見つけ、聞こえた音にこだわらずに修正する方法を学ぶ。(2) リンキング箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語の Prosody (強弱、長短、高低、明瞭曖昧) に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。聴覚情報を視覚情報に転換することで記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聞き方を強化する。「その結果・一方で」などのつなぎ言葉の挿入方法を学び、ロジックの展開を追いつながりながら聴く癖をつける。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(リズム再生、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレーズ(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。暗唱教材については、暗唱速度を学期末までに毎分速度で約30語短縮することを目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。
- 第2回 聴き間違いやすい音、聴き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降毎週継続)。
- 第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聴き取り難い=言い難い音の確認)。
- 第4回 パラフレージング(自分の言葉化)。「英語学習方法」の紹介。ディクテーション提出開始。
- 第5回 導入部の予測、口頭リピート・暗唱・ディクテーション修正練習(以降随時行う)。
- 第6回 パラグラフの展開予測。内容について日本語1分スピーチの通訳。
- 第7回 「エーなし」前だし訳。「つなぎ言葉」挿入練習。訳した内容を紙を見ずにパラフレージング。
- 第8回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳完成。オーバーラッピング訳体験。
- 第9回 ディクテーションの聴き間違いを自己修正。リズム再生・暗唱中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーションの自己修正版提出。シャドーイング。
- 第11回 リズム再生・暗唱の速度チェック。毎分速度で約30語短縮の確認。
- 第12回 長文逐次通訳練習。ディクテーション試験練習。
- 第13回 長文逐次通訳練習。学習データ表の提出。
- 第14回 長文逐次通訳練習。リズム再生・暗唱完成。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、ディクテーションほか提出物 10%、期末テスト70%
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
定期試験を受験しない場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかりと確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

リンキングと音の消失、リズム再生と暗唱、ディクテーション、シャドーイング、映像処理、展開予測、パラフレージング(自分の言葉化)、つなぎ言葉、英語戻し

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習II

ENG235M

授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標

知識：通訳理論と実技に関する総合的な知識を身につけている。

技能：基礎的な通訳技能を身につけている。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力向上と英日同時通訳の初歩訓練を行うため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。

リスニングの情報処理では、句・節単位の情報を4コマ漫画のように映像化し、それを日本語で「実況中継する」方法を学ぶ。同時通訳では、高速で情報が流れていくので、逐一言葉を訳しては間に合わない。心に浮かぶ情報を伝えるように要点を実況中継する練習を行う。情報への反応を高めるために、内容についての知識と語彙を高めると同時に、前出し訳では「エー」など不要な言葉を挟まずにまとめていく練習を徹底する。前出し訳の速度は、学期末では毎分40語～50語の短縮を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。
- 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳練習。
- 第4回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前だし訳完成。日英パラフレージング。
- 第5回 映像化：ポーズ入りオーバーラッピング訳。日英要約練習。
- 第6回 Syntax処理：文頭から品詞展開予測。オーバーラッピング訳。
- 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
- 第8回 映像処理：実況中継風オーバーラッピング練習。拾う情報と捨てる情報。
- 第9回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前出し訳。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版1回目提出。前出し訳。自分の言葉で内容解説。
- 第11回 実践逐次通訳練習1：関連資料読み、ぶっつけ逐次訳に挑戦。
- 第12回 実践逐次通訳練習2：ディクテーション試験練習。
- 第13回 実践逐次通訳練習3：同通基礎練習。ディクテーション試験練習。データ表の提出。
- 第14回 実践逐次通訳練習4：同通基礎練習。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、提出物 10%、期末テスト70%
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
定期試験を受験しない場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは？」と絶えず自問自答し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、実況中継、つなぎ言葉、ロジック線、パラフレージング、前出し訳、オーバーラッピング訳、同時通訳基礎訓練、ディクテーション

通訳基礎演習II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習II

ENG235M

授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標

知識：通訳理論と実技に関する総合的な知識を身につけている。

技能：基礎的な通訳技能を身につけている。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力向上と英日同時通訳の初歩訓練を行うため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。

リスニングの情報処理では、句・節単位の情報を4コマ漫画のように映像化し、それを日本語で「実況中継する」方法を学ぶ。同時通訳では、高速で情報が流れていくので、逐一言葉を訳しては間に合わない。心に浮かぶ情報を伝えるように要点を実況中継する練習を行う。情報への反応を高めるために、内容についての知識と語彙を高めると同時に、前出し訳では「エー」など不要な言葉を挟まずにまとめていく練習を徹底する。前出し訳の速度は、学期末では毎分40語～50語の短縮を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。
- 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳練習。
- 第4回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前だし訳完成。日英パラフレーズ。
- 第5回 映像化：ポーズ入りオーバーラッピング訳。日英要約練習。
- 第6回 Syntax処理：文頭から品詞展開予測。オーバーラッピング訳。
- 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
- 第8回 映像処理：実況中継風オーバーラッピング練習。拾う情報と捨てる情報。
- 第9回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前出し訳。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版1回目提出。前出し訳。自分の言葉で内容解説。
- 第11回 実践逐次通訳練習1：関連資料読み、ぶっつけ逐次訳に挑戦。
- 第12回 実践逐次通訳練習2：ディクテーション試験練習。
- 第13回 実践逐次通訳練習3：同通基礎練習。ディクテーション試験練習。データ表の提出。
- 第14回 実践逐次通訳練習4：同通基礎練習。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、提出物 10%、期末テスト70%
5 回以上欠席した場合は、評価不能 (一)とします。
定期試験を受験しない場合は、評価不能 (一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは？」と絶えず自問自答し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、実況中継、つなぎ言葉、ロジック線、パラフレーズ、前出し訳、オーバーラッピング訳、同時通訳基礎訓練、ディクテーション

通訳基礎演習II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習II

ENG235M

授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標

知識：通訳理論と実技に関する総合的な知識を身につけている。

技能：基礎的な通訳技能を身につけている。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力向上と英日同時通訳の初歩訓練を行うため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。

リスニングの情報処理では、句・節単位の情報を4コマ漫画のように映像化し、それを日本語で「実況中継する」方法を学ぶ。同時通訳では、高速で情報が流れていくので、逐一言葉を訳しては間に合わない。心に浮かぶ情報を伝えるように要点を実況中継する練習を行う。情報への反応を高めるために、内容についての知識と語彙を高めると同時に、前出し訳では「エー」など不要な言葉を挟まずにまとめていく練習を徹底する。前出し訳の速度は、学期末では毎分40語～50語の短縮を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。
- 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳練習。
- 第4回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前だし訳完成。日英パラフレージング。
- 第5回 映像化：ポーズ入りオーバーラッピング訳。日英要約練習。
- 第6回 Syntax処理：文頭から品詞展開予測。オーバーラッピング訳。
- 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
- 第8回 映像処理：実況中継風オーバーラッピング練習。拾う情報と捨てる情報。
- 第9回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前出し訳。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版1回目提出。前出し訳。自分の言葉で内容解説。
- 第11回 実践逐次通訳練習1：関連資料読み、ぶっつけ逐次訳に挑戦。
- 第12回 実践逐次通訳練習2：ディクテーション試験練習。
- 第13回 実践逐次通訳練習3：同通基礎練習。ディクテーション試験練習。データ表の提出。
- 第14回 実践逐次通訳練習4：同通基礎練習。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、提出物 10%、期末テスト70%
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
定期試験を受験しない場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは？」と絶えず自問自答し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、実況中継、つなぎ言葉、ロジック線、パラフレージング、前出し訳、オーバーラッピング訳、同時通訳基礎訓練、ディクテーション

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語演習

ENG231M

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

- 【知識】国際経営に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】国際経営に関する理解を基にケースの分析を行なうことができる。
- 【自律的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course introduces the key concepts of international business and management. The course covers a wide range of topics in intermediate international business, including international trade, regional cooperation, foreign exchange, and global marketing and management. The course will focus on introducing keywords relevant to international business and international business practices - including the background and aftermath of international business actions. By the end of the semester, students are expected to have developed familiarity with the key concepts of international business, and understand the mechanisms of international business strategies.

教科書 /Textbooks

Carpenter, M. A., & Dunung, S. P. (2011). International Business. This book is an open textbook, and available at:
<https://open.umn.edu/opentextbooks/textbooks/international-business>

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will suggest appropriate references as needed.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction (Chap. 1: Definition of international business, Globalization)
2. International Trade Theory (Chap. 2-1: Comparative advantage, Factors of production, Relative price, Heckscher-Ohlin theory)
3. Trade Systems and FDI (Chap. 2-2,3: Institution, International investment)
4. World Economies (Chap. 4: GDP, HDI, Developing & developed, Emerging countries)
5. Regional Cooperation & International Monetary System (Chap. 5 & 6: GATT, WTO, IMF, World Bank)
6. Foreign Exchange (Chap. 7: Currency, Foreign exchange, Global capital)
7. Case Study Discussion
8. Review & Exam I
9. Import and Export (Chap. 9: Import, Export, Countertrade, Global sourcing)
10. International Business Strategy (Chap. 10: SWOT, Economies of scale & scope, International strategy)
11. Talent Management (Chap. 12: Human resources, Selection and placement, Payment)
12. Global Innovation (Chap. 13: R&D, IPR, Types of innovation)
13. Global Marketing (Chap. 14: 4 P's, Marketing mix, Supply-chain management)
14. Case Study Discussion
15. Review & Exam II

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 30%, Exam I 35%, Exam II 35%.

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).
- ・ 試験を受験しない場合は、評価不能(一)とします。
Failure to take an exam will result in a failing grade (一).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Previewing and reviewing key concepts will not only help understanding, but also save time during mid-term and final exam seasons. If you preview the class materials, you will be more comfortable and more productive in class discussions, which will eventually lead to a higher grade.

履修上の注意 /Remarks

Previewing the materials will greatly help you to enjoy the classes as the classes will be interactive.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

If you have any questions regarding the course material before the semester, or need any help regarding the course during the semester, send me an email. I will be more than happy to assist you in your studies.

キーワード /Keywords

International Business, Business Management, Globalization, International Trade, Business Strategy

英日翻訳演習 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英文を正確に翻訳するために必要なものが何かを見つけ出し、正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性の探求をすることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、日本と違った価値観や伝統、制度を持った異文化に積極的にかかわっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英日翻訳演習

MCC219M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。

思考・判断・表現力：正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性を探求することができる。

自律的行動力：英語力を生かし異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。

本授業では、機械的翻訳のような「文法と意味」の置き換えではなく、「感情・印象」の翻訳を試み、創造的・文化的翻訳を目指す。これは、ただ文法通り英語を日本語に置き換える作業ではなく、英語でその場面を経験したときに生じる感情を、日本語に置き換えて表現することである。つまり、直訳的な意味を伝えるのではなく、元の文章にある喜怒哀楽を伝えるということである。このため、韻律やリズムが重視される詩や歌を題材にしたり、怪談など日本の古い情調を伝える民話を扱う予定である。また、学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、柔軟に対応する。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

- 1回 インロダクション
- 2回 翻訳演習【翻訳】"The Disastrous Life of Saiki K."
- 3回 翻訳演習【発表】"The Disastrous Life of Saiki K."
- 4回 翻訳演習【翻訳】Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
- 5回 翻訳演習【発表】Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
- 6回 翻訳演習【翻訳】Dara O'Briain, "Controlling Children"
- 7回 翻訳演習【発表】Dara O'Briain, "Controlling Children"
- 8回 翻訳演習【翻訳】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents'
- 9回 翻訳演習【発表】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents'
- 10回 翻訳演習【翻訳】The Beatles, "A Hard Day's Night"
- 11回 翻訳演習【発表】The Beatles, "A Hard Day's Night"
- 12回 翻訳演習【翻訳】Lafcadio Hearn, "Yukionna"
- 13回 翻訳演習【発表】Lafcadio Hearn, "Yukionna"
- 14回 翻訳演習【翻訳】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'Pooh invents a New Game'
- 15回 翻訳演習【発表】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'Pooh invents a New Game'

英日翻訳演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...60%

レポート...40%

5回以上欠席した場合やレポートを提出しなかった場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの興味に合わせて柔軟に翻訳対象を選ぶ予定です。リクエストがあれば遠慮なくお知らせくださいね。

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
	英語力	● 英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 英文を正確に翻訳するために必要なものが何かを見つけ出し、正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性の探求をすることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、日本と違った価値観や伝統、制度を持った異文化に積極的にかかわっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英日翻訳演習

MCC219M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。
思考・判断・表現力：正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性を探求することができる。
自律的行動力：英語力を生かし異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。

本授業では、機械的翻訳のような「文法と意味」の置き換えではなく、「感情、印象」の翻訳を試み、創造的・文化的翻訳を目指す。これは、ただ文法通り英語を日本語に置き換える作業ではなく、英語でその場面を経験したときに生じる感情を、日本語に置き換えて表現することである。つまり、直訳的な意味を伝えるのではなく、元の文章にある喜怒哀楽を伝えるということである。このため、韻律やリズムが重視される詩や歌を題材にしたり、怪談など日本の古い情調を伝える民話を扱う予定である。また、学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、柔軟に対応する。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

- 1回 インタロダクション
- 2回 翻訳演習【翻訳】"The Disastrous Life of Saiki K."
- 3回 翻訳演習【発表】"The Disastrous Life of Saiki K."
- 4回 翻訳演習【翻訳】Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
- 5回 翻訳演習【発表】Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
- 6回 翻訳演習【翻訳】Dara O'Briain, "Controlling Children"
- 7回 翻訳演習【発表】Dara O'Briain, "Controlling Children"
- 8回 翻訳演習【翻訳】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents'
- 9回 翻訳演習【発表】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents'
- 10回 翻訳演習【翻訳】The Beatles, "A Hard Day's Night"
- 11回 翻訳演習【発表】The Beatles, "A Hard Day's Night"
- 12回 翻訳演習【翻訳】Lafcadio Hearn, "Yukionna"
- 13回 翻訳演習【発表】Lafcadio Hearn, "Yukionna"
- 14回 翻訳演習【翻訳】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'Pooh invents a New Game'
- 15回 翻訳演習【発表】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'Pooh invents a New Game'

英日翻訳演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...60%

レポート...40%

5回以上欠席した場合やレポートを提出しなかった場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの興味に合わせて柔軟に翻訳対象を選ぶ予定です。リクエストがあれば遠慮なくお知らせくださいね。

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英文を正確に翻訳するために必要なものが何かを見つけ出し、正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性の探求をすることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、日本と違った価値観や伝統、制度を持った異文化に積極的にかかわっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英日翻訳演習

MCC219M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。
思考・判断・表現力：正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性を探求することができる。
自律的行動力：英語力を生かし異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。

本授業では、機械的翻訳のような「文法と意味」の置き換えではなく、「感情、印象」の翻訳を試み、創造的・文化的翻訳を目指す。これは、ただ文法通り英語を日本語に置き換える作業ではなく、英語でその場面を経験したときに生じる感情を、日本語に置き換えて表現することである。つまり、直訳的な意味を伝えるのではなく、元の文章にある喜怒哀楽を伝えるということである。このため、韻律やリズムが重視される詩や歌を題材にしたり、怪談など日本の古い情調を伝える民話を扱う予定である。また、学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、柔軟に対応する。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

- 1回 インタロダクション
- 2回 翻訳演習【翻訳】"The Disastrous Life of Saiki K."
- 3回 翻訳演習【発表】"The Disastrous Life of Saiki K."
- 4回 翻訳演習【翻訳】Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
- 5回 翻訳演習【発表】Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
- 6回 翻訳演習【翻訳】Dara O'Briain, "Controlling Children"
- 7回 翻訳演習【発表】Dara O'Briain, "Controlling Children"
- 8回 翻訳演習【翻訳】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents'
- 9回 翻訳演習【発表】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents'
- 10回 翻訳演習【翻訳】The Beatles, "A Hard Day's Night"
- 11回 翻訳演習【発表】The Beatles, "A Hard Day's Night"
- 12回 翻訳演習【翻訳】Lafcadio Hearn, "Yukionna"
- 13回 翻訳演習【発表】Lafcadio Hearn, "Yukionna"
- 14回 翻訳演習【翻訳】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'Pooh invents a New Game'
- 15回 翻訳演習【発表】A. A. Milne, "Winnie the Pooh", 'Pooh invents a New Game'

英日翻訳演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...60%

レポート...40%

5回以上欠席した場合やレポートを提出しなかった場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの興味に合わせて柔軟に翻訳対象を選ぶ予定です。リクエストがあれば遠慮なくお知らせくださいね。

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practical クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学びまうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化間コミュニケーション演習

MCC213M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識: バイリンガリズムに関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: バイリンガリズムの観点から思考・論理的な分析を行うことができる。

自律的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course is intended to introduce you to research conducted into how people become bilingual and what the characteristics are of children and adults who use two languages. There are some myths about bilinguals, the foremost being that bilinguals must be equally fluent in both languages. This is rarely the case, and we will use the definition that any person who uses two languages regularly can be defined as a bilingual. Bilinguals are not the same as two monolinguals in one person, and in this class we will explore the research done on how language is manifest in the minds of bilinguals. The goal of the course is to introduce students to the research that has been done into bilingualism with a goal of further understanding how language works in the mind and how it is used in society.

教科書 /Textbooks

King, K. & Mackey, A. (2007). The bilingual edge: Why, when and how to teach your child a second language. Harper Perennial.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Baker, C. (2001). Foundations of bilingual education and bilingualism (3rd edition). Multilingual Matters.

○ Garcia, O. & Baker, C. (Editors). (2007). Bilingual education: An introductory reader.

異文化間コミュニケーション演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction (defining the word 'bilingual')
Week 2: The role of age in language learning
Week 3: Myths and misconceptions about learning a second language
Week 4: Charting the course through 'normal' language learning stages
Week 5: Mixing and switching languages (code-switching)
Week 6: Quiz #1
Week 7: Bilingual language learning in the home
Week 8: Bilingual language learning in the school
Week 9: Individual differences + resisting the second language
Week 10: Language learning through edutainment
Week 11: Quiz #2; The bilingual mind: Two systems or one?
Week 12: Two system or one (continued); Trilingualism
Week 13: Metalinguistic awareness & bilingual advantages
Week 14: Bilinguals and literacy
Week 15: Quiz #3; Being bilingual and bicultural

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework (answers to weekly questions): 40%
Quizzes (3 of them): 45%
Class presentation: 15%

- ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
- ・ 小テスト(Quizzes)2回を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read chapters in the book every week and answer the reading questions. These will be checked in class. Students will prepare one presentation during the semester on a topic of their choice in the syllabus.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

After taking this class you will be an expert at how to encourage and maintain bilingualism. You will have the knowledge to consult with people about rising bilingual children and give them research-based advice.

キーワード /Keywords

second language acquisition, bilingualism, learning

異文化フィールドワーク【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化フィールドワーク

MCC214M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識: 海外経験を通して異文化間コミュニケーションに関する知識を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力: 異文化間コミュニケーションの知識を活かして判断表現することができる。

コミュニケーション力: 海外経験を通して高い英語コミュニケーション力を身につけている。

この科目は、学生の自主的な異文化体験を「生きた学習」として認め、それに対して一定の評価を与え、学生の積極的な異文化体験を促進する目的のために開講されている。受講開始時において、原則として1年以内に1ヶ月以上の海外滞在経験を持ち、撮ってきた写真を使って異文化体験を報告することができることが受講条件となる。

教科書 /Textbooks

特にテキストは定めない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指摘。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
 - 第2回 学生による異文化体験プレゼンテーション1(タコマなど)
 - 第3回 ディスカッション1(タコマなど)
 - 第4回 学生による異文化体験プレゼンテーション2(カーディフなど)
 - 第5回 ディスカッション2(カーディフなど)
 - 第6回 学生による異文化体験プレゼンテーション3(オックスフォード・ブルックスなど)
 - 第7回 ディスカッション3(オックスフォード・ブルックスなど)
 - 第8回 学生による異文化体験プレゼンテーション4(アジア諸国など)
 - 第9回 ディスカッション4(アジア諸国など)
 - 第10回 学生による異文化体験プレゼンテーション5(フォート・ルイスなど)
 - 第11回 ディスカッション5(フォート・ルイスなど)
 - 第12回 学生による異文化体験プレゼンテーション6(ハワイなど)
 - 第13回 ディスカッション6(ハワイなど)
 - 第14回 Paper outline guidance
 - 第15回 Submission of final paper and discusson
- ※()内の渡航先は暫定的で、未定です。各学生の行った場所によって変わります。

成績評価の方法 /Assessment Method

海外滞在体験報告のプレゼンテーションと、それを簡単に文にまとめたレポートによって成績を出す。

レポート - 50% 参加 / プレゼンテーション - 50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能（－）とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能（－）となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備：海外滞在経験を示す写真等のマテリアルを用意すること。

復習：授業で行ったディスカッションと発表を参考にして、レポートとしてまとめること。

履修上の注意 /Remarks

All Instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：国際貿易とファイナンスに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：国際貿易の観点からの分析をもとに、自分の意見を明確に発現することができる。

自立的行動力：国際貿易への関心とキャリア意識を持ち続け、実践的な知識を有している。

In this course students will learn about the basic concepts in trade and finance from an international perspective. The benefits of foreign trade and trade restrictions will be discussed, followed by a look at exchange rates and the foreign exchange market. This knowledge will be applied to discussions about the current global situation and analysis of case studies.

教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed during class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional references may be recommended during class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Basic concepts in economics: The production possibility frontier, comparative advantage
3. The costs and benefits of trade
4. Imports, exports and the balance of trade
5. Restrictions on trade
6. The current global trade situation
7. Group presentations: 1
8. Foreign exchange markets and exchange rates
9. Factors which affect exchange rates 1
10. Factors which affect exchange rates 2
11. Exchange rate risk
12. International investment decisions and foreign operations
13. Case studies, vocabulary test
14. Group presentations: 2
15. Group presentations: 2

(Note: Class schedule could be changed)

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	20%
Group presentation 1	20%
Group presentation 2 & Group report	40%
Vocabulary test	20%

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (－). 5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the preparation handout, which includes a vocabulary list, before coming to each class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Knowledge of economics and finance is not required, as the material will be taught at a beginners level.

キーワード /Keywords

Economics, Finance, Trade.

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法I

LIN230M

授業の概要 /Course Description

この授業では、主に動詞、tenseとaspect、不定詞・動名詞・分詞などの性質や使い方を学習していきます。いわゆる「受験文法」とは異なり、テキストの内容を題材に、「なぜそうなるのか?」「実際にどう使いこなせばいいのか?」などを実践的に考えていきます。また、教員を目指す人や教える仕事に関わっている人のために、実際に授業の場でも使えるような具体例も交えて説明していきます。なお、授業内容や授業ペースは、学習者の関心や学力・授業形態により、適宜変更する可能性があります。

英文法I◎△ 英文法に関する基礎的な知識を身につけている。英文法の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

『英文法のエッセンス』（江藤裕之著）、大修館書店 2015年 1,400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』（豊永 彰著）、南雲堂 2009年 1,400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概説、1. 動詞の基本時制 現在が表すもの
- 2回 過去、未来を表す様々な表現
- 3回 現在完了（1）現在完了の基本概念、tenseとaspect
- 4回 現在完了（2）現在完了と過去の違い
- 5回 過去完了、未来完了
- 6回 進行形（1）進行の基本概念、現在進行
- 7回 進行形（2）過去進行、未来進行、完了進行
- 8回 助動詞（1）それぞれの助動詞が持つ本質的意味
- 9回 助動詞（2）それぞれの助動詞の使い方
- 10回 仮定法（1）仮定法の基本概念
- 11回 仮定法（2）仮定法の使い方、不定詞（1）
- 12回 不定詞（2）、動名詞 不定詞と動名詞の使い分け
- 13回 分詞（1）分詞の働き
- 14回 分詞（2）分詞構文、不定詞・動名詞・分詞の共通項目
- 15回 今学期の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...20% 定期試験...80%（ただし、授業形態により変更する可能性あり）
なお、無届けでの欠席が5回以上になった場合や定期試験を受験しなかった場合は評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された次回の学習予定箇所を必ず読んでおくこと。また復習としてはテキストやノートを読み返しておくこと。(必要な学習時間の目安は予習60分以上、復習60分以上)

履修上の注意 /Remarks

授業時に辞書(紙または電子)を持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動詞句、tenseとaspect

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法II

LIN231M

授業の概要 /Course Description

1学期の「英文法I」と同じテキストの後半の内容を学習します。この授業では、名詞・冠詞・形容詞・副詞・接続詞・関係詞など、特に英語を書く際を知っておきたい文法項目に重点を置きます。授業の進め方は1学期と同様、内容を説明しながら、皆さんと一緒に各項目について考えていく形式です。また今期からの受講もどうぞ。なお、受講者の関心や授業形態により、適宜、授業内容や授業ペースを変更する可能性があります。

英文法II ◎△ 英文法に関する基礎的な知識を身につけている。英文法の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

『英文法のエッセンス』（江藤裕之著）大修館書店 2015年 1,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』（豊永 彰著）南雲堂 2009年 1,400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概説、名詞の種類
- 2回 数えられる名詞・数えられない名詞
- 3回 不定冠詞、定冠詞(1) theの基本概念
- 4回 定冠詞(2) theの具体的用法、zero article
- 5回 形容詞(1) 形容詞の用法、形容詞の並べ順
- 6回 形容詞(2) 形容詞の並べ順の続き、副詞(1)副詞とは
- 7回 副詞(2)副詞の位置、比較(1)比較表現
- 8回 比較(2)比較の用法
- 9回 接続詞 接続詞の性質
- 10回 関係詞(1) 関係詞の注意すべき用法
- 11回 関係詞(2) 前置詞+関係詞、関係副詞の性質
- 12回 関係詞(3) 関係副詞の使い方
- 13回 前置詞(1) 前置詞のcore meaning
- 14回 前置詞(2) 前置詞の用法
- 15回 今学期の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...20% 定期試験...80% 但し、授業形態によって変更する可能性があります。なお、無届けの欠席が5回以上となった場合や定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習予定個所の項目を必ず読んでおくこと。復習としては、テキストとノートを読み返すこと。(必要な学習時間の目安は予習60分以上、復習60分以上)

履修上の注意 /Remarks

授業時に必ず辞書（紙または電子）を持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

名詞句、"使える英文法"

英語学概論 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行い、それを英語で発信することができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語に関する情報や知識を駆使し、英語学の諸問題を複眼的に思考することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学概論

LIN232M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識: 英語学に関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: 英語学の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。

自律的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course gives an overview of many different areas of linguistics including:

- ・Phonology
- ・Morphology
- ・Syntax
- ・Pragmatics
- ・Semantics
- ・Sociolinguistics
- ・First and second language acquisition
- ・Animal communication

It is meant to give students a taste of the many different areas of study that are contained within the umbrella term "linguistics".

You should be able to give a sound answer to the questions given in the following areas after taking this course:

- ・Phonetics: What is the phonetic alphabet? What is a voiced sound?
- ・Morphology: What kinds of parts can we divide words into?
- ・Syntax: How is meaning shown by the structure of sentences?
- ・Pragmatics: How do people mean more than what they say?
- ・Semantics: How do we know what words mean?
- ・Sociolinguistics: How do word choices relate to peoples' different social groups or situations?
- ・First and second language acquisition: How do human beings learn a first language and is that different from how they learn a second language?
- ・Animal communication: How does animal communication differ from human language? Can any animals 'speak' to us?

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class because I have not been able to find anything appropriate. Therefore, you will have to rely heavily on your notes for this class, making it even more important to come to class and to understand what we are doing. I will have readings available which may help you to understand better what I am saying in class, but the things covered in class may not always be exactly the same as the readings. Take a look at them and see if they are helpful for you for understanding each chapter.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Fromkin, V. & Rodman, R. An Introduction to Language.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Reading IPA
Week 3: Phonetics
Week 4: Morphology (words)
Week 5: Prefixes and Suffixes
Week 6: Sentences
Week 7: Syntax and Ambiguity
Week 8: Midterm Review
Week 9: Midterm Exam
Week 10: First Language acquisition
Week 11: Second Language acquisition
Week 12: Sociolinguistics
Week 13: Pragmatics
Week 14: Animal Communication
Week 15: Review for final exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes: 30%
Homework: 20%
Midterm exam: 25%
Final exam: 25%

- ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
- ・ Midterm + Final 試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework will be given out and answers may be checked online. Doing homework will prepare students for weekly quizzes on the material.

履修上の注意 /Remarks

This class moves fast. Be prepared to work hard to keep up with the large amount of information that we cover.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

My hope for this class is that you learn a little bit about a number of areas of linguistics in order to correct some mistaken ideas you may have about language. Also, if you are interested in any of the areas we cover, we offer further in-depth classes in these areas so this class is like tasting a little bit of linguistics and seeing which things appeal to you the most!

キーワード /Keywords

linguistics, foundation

英語学研究I (音声学・音韻論) 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な音声学に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	音声学の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) 英語学研究 I (音声学・音韻論)	LIN233M
(比文) 英語音声学	LIN233M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

知識: 音声学・音韻論に関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: 音声学・音韻論の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。

自律的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The purpose of this course is to introduce you

to the analysis of physical sounds, a study called

Phonetics. Japanese students can benefit from understanding how the sounds of English are related to the spelling of English, which in turn can

help them better pronounce English words (although probably not become better spellers!). Since neither English nor Japanese has letters

adequate to precisely convey the sounds of English, we will learn a different alphabet called the International Phonetic Alphabet, which can

actually describe the sounds of any language in the world. In addition, in every language, speakers think they are saying sounds that they actually

are not, so that their psychological view of the sounds of language differs from the physical sounds of language. We will learn to categorize sounds

so as to better understand the patterns of this psychological organization of sounds, which is called phonology.

The goals of this course are:

- 1) To help you understand how English spelling and sounds are related
- 2) To help you better pronounce English
- 3) To describe sounds (phones) with a formal system (called the International Phonetic Alphabet)
- 4) Identify the phones (sounds) of English
- 5) Learn what a phoneme is and how they differ from phones

教科書 /Textbooks

Avery, Peter & Ehrlich, Susan. (1992). Teaching American English Pronunciation. Oxford Handbooks for Language Teachers.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Roach, P. English phonetics and phonology: A practical course (2nd edition).
- Wells, J. C. Sounds fascinating: Further observations on English phonetics and phonology.
- Carr, P. 英語音声学・音韻論入門

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Spelling and pronunciation
Week 3: Vowels
Week 4: Short vs. long vowels
Week 5: Voicing, manner and place of articulation for consonants
Week 6: Identifying consonants by categories
Week 7: Place of articulation for vowels
Week 8: Review for midterm exam
Week 9: Midterm
Week 10: The shape of English words
Week 11: English sounds in context
Week 12: Word stress and vowel reduction
Week 13: English syllabus structure
Week 14: Problems of pronunciation for Japanese speakers of English
Week 15: Review for final

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes: 35%
Homework: 20%
Midterm Test:20%
Final Exam:25%

- ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
- ・ Midterm + Final 試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework will be given out and answers may be checked online. Doing homework will prepare students for weekly quizzes on the material.

履修上の注意 /Remarks

This class moves fast. Be prepared to work hard to keep up with the large amount of information that we cover.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

linguistics, phonetics, spelling

英語学研究II (英語教育) 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英語教育についての諸問題について、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英語教育の諸問題を正しく理解し、英語による情報の収集や分析を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● グローバルな視野から英語教育の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学研究II (英語教育)

LIN234M

授業の概要 /Course Description

本授業は外国語（英語）教育に関する専門的な知識と実践的な技能の涵養を目的とする。取り扱うテーマは、主に教材作成とテストイングおよび評価である。予習した内容に基づき、外国語（英語）教育に関するさらなる理解を目指して講義を行う。教室内外での教材作成や、オンラインで課題の提出を課す。また、テスト問題作成課題のピアレビューのほかグループでの議論や発表を頻繁に行うため、授業への積極的な参加が求められる。

教員志望に限らず、外国語（英語）教育に関心のある学生を対象とする。教員免許取得を目指す学生は、本授業を受講することで、2～3年次開講の「英語科教育法」での学びがより深まると思われる。

また、1学期開講の「Second Language Acquisition」では第二言語習得や英語教育に関する基礎的な知識を学習する。本授業で扱うテーマに必須の知識となるため、あわせての受講を強く勧める。

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識: 言語指導に関する基本的な知識を身につけている。

技能: 言語指導を行うスキルを身につけている。

コミュニケーション力: 学習者と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

教科書 /Textbooks

笠原究、佐藤臨太郎『英語テスト作成入門効果的なテストで授業を変える!』（2017年、金星堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 新多了、馬場今日子『はじめての第二言語習得論講義: 英語学習への複眼的アプローチ』（2016年、大修館書店）

○ 廣森友人『英語学習のメカニズム - 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』（2015年、大修館書店）

○ 手島良『これからの英語文字指導』（2019年、研究社）

その他、必要に応じて授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション・テスト作成の概要
2. 英語のユニバーサルデザイン授業
3. 定期テスト作成課題のレビュー
4. アルファベット文字の導入と定着
5. 単語の読み書き指導の工夫
6. 文の読み書き指導の工夫
7. 板書・掲示物の作成
8. プリント教材の作成
9. テスティングと評価の概要・プリント教材のピアレビュー
10. テストの妥当性・信頼性・波及効果・実用性
11. 妥当性・信頼性を考慮した問題の作成
12. 多肢選択問題の作成・ピアレビュー
13. 語彙テスト・文法テストの作成・ピアレビュー
14. リーディングテスト・ライティングテストの作成・ピアレビュー
15. 総括 (定期テスト作成課題の提出・ピアレビュー)

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は (1) 授業参加に対する積極性10% , (2) 毎週の課題への取り組み30% , (3) 教材作成 (ワークシートやテスト) 60% によって評価する。

※ 対面授業の場合、4回以上欠席したものは評価不能 (ー) とする。

※ オンライン授業となった場合、評価の内容を変更する可能性がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

< 事前学習 > 授業内容に関する資料を読み、教材やテストを作成したり、予習をMoodleで提出したりする。資料の指定は授業中に行う。毎回1時間程度。

< 事後学習 > 授業内容に関する課題をMoodleで提出する。授業で扱った内容に関する文献を読み、理解を深める。毎回30分～1時間程度。

履修上の注意 /Remarks

原則として英米学科の学生を対象とするが、他学部・学科の学生も歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題の提出が多い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語史 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor 山口ウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英語の理論構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行い、それを英語で発信することができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語に関する情報や知識を駆使し、英語史の諸問題を複眼的に思考することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語史

LIN330M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
英語史に関する基礎的な知識を身につけている。
英語史の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。
スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This class focuses on the history of English from the earliest times that we have writings about the language until the present day.

It is an introduction to the topic of language change in general, but this topic is illustrated through the examination of specific changes in the English language from Old English to Middle English to contemporary English.

In addition, we will discuss various other varieties of English spoken around the world, language change, and language death. Through this course you will understand how languages may change across time, geography, and culture.

このクラスは、英語の初期の時代から現代の英語への歴史に焦点を当てています。一般的な言語変化の話題を紹介しますが、このクラスでは特に古英語から中級英語、現代英語への英語の具体的な変化を説明します。このコースをとおして言語が時間、地理、文化にどのように変化するかを理解します。

教科書 /Textbooks

Schmitt, Norbert & Marsden, Richard. (2006). "Why is English like that?". Michigan Teacher Training.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 永野芳郎 『英語学要説』英宝社。
Crystal, David and 西出, 公之. (2000). A History of the English Language [英語の歴史]. 単行本.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction: The World of Old English
 Week 2: Introduction: The World of Old English & IPA Consonants in English
 Week 3: Sound change: Major differences from Old to Early Modern
 Week 4: English Grammar: What is grammar?/Morphological change
 Week 5: Sources of new vocabulary in Old and Middle English
 Week 6: Morphological Change
 Week 7: Syntactic Change
 Week 8: Mid-term exam
 Week 9: The Sounds of Modern English
 Week 10: How language change occurs
 Week 11: Writing and written records
 Week 12: Dialects of English (Many Englishes)
 Week 13: Language contact (Spanglish)
 Week 14: Dialects of English around the World
 Week 15: English in the Future

1週目：はじめに：古英語の世界
 2週目：はじめに：古英語の世界と英語のIPA子音
 3週目：音の変化：古代から近世への大きな相違
 4週目：英文法：文法とは/形態変化
 5週目：古英語・中英語と新しい語彙の根源
 6週目：形態変化
 7週目：構文変化
 8週目：中間試験
 9週目：現代英語の音
 10週目：言語の変化がどのように生じるか
 11週目：書体と記録
 12週目：英語の方言（様々な英語）
 13週目：言語接触（スパングリッシュ）
 14週目：世界中の英語の方言
 15週目：将来の英語

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework 50%; Midterm exam 25%; Final exam 25%

5回以上欠席した場合は、評価不能（－）とします。
 If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (－).

試験を受験しない場合は、評価不能（－）とします。
 Failure to take an exam will result in a failing grade (－).

盗用したり、学業不正に従事したりする学生は、深刻な結果に直面します。制裁には、課題の失敗、成績の低下、またはコースの失敗が含まれますが、これらに限定されません。
 Students who plagiarize or otherwise engage in academic dishonesty face serious consequences. Sanctions may include, but are not limited to, failure on an assignment, grade reduction or course failure.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. I

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Linguistics, English language, history of English, historical linguistics, Old English, Modern English

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会言語学研究に必要な基礎的・専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	● 社会と言語の関係を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会と言語の諸問題を学際的、複眼的に思考し解決策を採求できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) 社会言語学研究	LIN310M
(比文) 社会言語学	LIN310M

授業の概要 /Course Description

本講義は社会言語学の基礎知識を学び、日常における様々な言語現象を観察し理解する力を身につけることが目的です。ことばは様々な要因によって影響を受け、変化やバリエーションが生じます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはことばをどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。ことばと社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。

(到達目標)

- 【知識】社会言語学に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】社会言語学の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。
- 【自律的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回社会言語学とは
- 2 回英語の地域変種
- 3 回標準英語と非標準英語
- 4 回ことばと社会階級
- 5 回ことばと性(1) コミュニケーションとジェンダー
- 6 回ことばと性(2) バリエーションとジェンダー
- 7 回ことばと年齢
- 8 回ことばと人種・民族
- 9 回ことばとソーシャルネットワーク
- 10 回ことばとスタイル
- 11 回ことばの変化
- 12 回方言接触(1) 第二方言習得
- 13 回方言接触(2) コイネ化
- 14 回言語接触
- 15 回小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題...70%; 小テスト...20%; 平常の学習状況...10%
欠席・遅刻はマイナス評価とし、欠席が授業回数の3分の1を超えた場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後に講義内容を復習し、関連する言語現象を観察してください。

履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。単位取得には3分の2以上の出席が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持続することができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

メディア英語演習

MCC215M

授業の概要 /Course Description

DP に基づく 3 つの到達目標

知識: メディア・コミュニケーション研究に関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: メディア・コミュニケーション研究の観点から思考・論理的な分析を行うことができる。

自律的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course will provide an English-language introduction to Media Studies. Classes will be built upon analysis of newspaper articles, websites, radio programmes, television programmes and films in the light of key elements of media theory.

Weekly homework assignments will be given to allow students to grow accustomed to the themes and language covered in class.

教科書 /Textbooks

Julian McDougall & Claire Pollard, Media Studies: The Basics, 2nd edition (London & New York: Routledge, 2019)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suitable secondary reading will be discussed during the first class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Different approaches to studying media
3. The history of media and Media Studies
4. Theoretical concepts used by students of media
5. Reading media
6. Film analysis 1
7. Powerful media
8. Advertisement analysis
9. Global media
10. Film analysis 2
11. Changing media
12. Media now! Class discussion
13. Making media
14. Advertisement analysis 2
15. Review and final discussion

メディア英語演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of regular written assignments ... 100%

Please note that if you are absent from more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to do preparatory reading on a regular basis.

So as to encourage acquisition of the language and ideas covered in the course, rereading of course materials after each class is strongly recommended.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ劇文化研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ劇文化研究

MCC216M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標:

知識: 映画に通じ、それを通して社会を考える力を身につけている。

思考・判断・表現力: 映像表現を通して社会や文化を分析し、考えを発信することができる。

自律的行動力: 専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

Film and Society is a course designed to use American films as a means by which we can analyze and discuss important social and cultural topics related to both personal and public life in the United States. We will be reading sections of and watching parts of three famous American plays that have been made into movies in order to introduce various topics/themes for discussion.

This lecture course is designed to encourage students to learn about a variety of aspects concerning American culture and social issues. We will study how films are used to depict certain social and cultural concerns—both positively and negatively—in order to better understand how these issues impact or represent current day United States. Through different approaches of looking at these theatrical play/films, this course will help broaden student understanding concerning the importance of the cinema in the following three areas: social issues (including gender, race, class and religion), political issues, and cultural issues. Every class will include sections from Hollywood film versions of the three plays as well as reading sections of the play for analysis.

The objective is to have you broaden your understanding of how cinema is an important medium through which cultural and social issues can be represented. We will consider the following questions: Is the cinema a good way to examine these various issues? Do the cinematic representations help us understand the situation of other people? In every class, we will use the following content for our weekly topic: 1) weekly theme; 2) language focus; and, 3) output. In all classes, you will be required to bring your homework to the class in order to participate with classmates. I am interested in helping students further develop their critical thinking skills. Creativity is crucial to “thinking outside the box,” and through our examination of these plays, I hope that we will learn new ways of viewing different aspects of our global society.

教科書 /Textbooks

No text book required. Every week, on Moodle there will be sections of the play that you need to read for homework. There will also be a Japanese version of the text to help you understand the English version. You will also be required to watch the DVD movie in the library.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The library has DVD movie version of all three movies we will be discussing. You need to watch each movie in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course
2. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 1
3. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 2
4. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 3
5. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 4
6. American Film and Society: Quiz 1, A Streetcar Named Desire, Part 1
7. American Film and Society: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 2
8. American Film and Society: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 3
9. American Film and Society: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 4
10. American Film and Society: Quiz 2, Fences, Part 1
11. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 2
12. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 3
13. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 4
14. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 5
15. Quiz 3, Final analysis essay due.

成績評価の方法 /Assessment Method

3 major quizzes: 45%;
4 character analyses: 15%;
4 Listening activities: 15%;
Final Analysis Essay: 25%.

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any form of plagiarism on homework or final analysis essay (i.e. copying from the internet) will result in a final grade of (D).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能(一)となります。
Failure to submit a report will result in a failing grade (一).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

Students will be expected to attend all classes.

履修上の注意 /Remarks

This class will be taught in English.

We will be watching the Hollywood movie versions of these plays. Each week, I will lecture for about 30-40 minutes on a specific topic; we will then watch a section of the film. It is very important that you watch the entire film outside of the class. The better you understand the film/play, the better you will do on the quizzes and homework. All three films are located in the library, so you can watch them there. Or, you can easily find the movies online or at a rental store and watch them in your home.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

During the semester, you must watch the film version of the play. The DVD of the film version is in the library.

キーワード /Keywords

Theatre
American culture
Social topics

イギリス研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な知識を得ることによってイギリス文化を理解することができる。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) イギリス研究	MCC217M
(比文) イギリス文化論	ARE234M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：英国の社会、文化、歴史等について基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力：文化的また歴史的観点から総合的に思考し分析することができる。

自律的行動力：スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The course is taught mainly in English, but at the beginning of each class a brief summary of the previous class and the topic of the day are explained in Japanese.

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalism. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, media, ideology, economy, sexuality, science, technology, nationalism and religion.

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

We will focus on 9 important era-defining figures from 18th century till today that shaped the times, some of which are listed not because they are important in British history but as significant keys to consider each period: William Shakespeare, John Bunyan, Oliver Cromwell, Daniel Defoe, Erasmus Darwin, Mary Shelley, Isambard Kingdom Brunel, Charles Darwin, William Morris, Conan Doyle, D. H. Lawrence, A. A. Milne and John Lennon.

Class 1: Introduction

Class 2: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (1) 【media, coffee house, luna society】

Class 3: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (2) 【industrial revolution, national roads, canal, network, Josiah Wedgewood】

Class 4: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (1) 【exploration, science and religion】

Class 5: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (2) 【romanticism, feminism】

Class 6: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (1) 【George & Robert Stevenson, railway and media】

Class 7: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (2) 【British Empire, globalization, colonialism】

Class 8: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (1) 【mechanism and organism, romanticism】

Class 9: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (2) 【leading spirit, survival of the fittest】

Class 10: William Morris and the British Style 【arts and crafts movement, socialism, romanticism】

Class 11: Conan Doyle's Sherlock Homes and the End of the Century: 19th Century Occultism and Science 【mystery and occultism, London, urbanism】

Class 12: D. H. Lawrence's Lady Chatterley's Lover and the Idea of Obscenity 【class, sex, violence, reason, instinct】

Class 13: A. A. Milne's Winnie the Pooh and the Age of Wars: What Exists Where There is Nothing? 【humour, comedy, the idea of nothingness, war】

Class 14: John Lennon and the Rock Music: Pop, Youth and Identity in the Postcolonial World 【subculture, counterculture, freedom, love and peace movement】

Class 15: General Overview

成績評価の方法 /Assessment Method

Examination 70%

Class Contribution 30%

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Each student will read the given material before each class.

Each student will review the class.

履修上の注意 /Remarks

Students must prepare for the class by reading the suggested materials and doing some research in advance.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な知識を得ることによってアメリカ文化を理解することができる。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカと関連する問題を正しく分析し、解決することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	学生が興味をもつゆえ、生涯にわたりアメリカに対して関心を示すこと。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) アメリカ研究	MCC218M
(比文) アメリカ文化論	ARE223M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標:

知識: アメリカに関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: アメリカと関連する問題を正しく分析し、社会の諸問題を学術的、複眼的に思考できる。

自律的行動力: 国際人らしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。

American Studies will look at American culture from various historical perspectives. The course is designed to follow trends in American history and how specific events helped shape and change American culture. We will start with the early settlers in the New Land and move through important periods. One of the goals of the course will be to make the events in America’s past relevant to present day issues.

This lecture course examines American culture from various perspectives. The story of the United States can be traced through many historical materials, such as The Declaration of Independence and important political speeches. We will examine the path the United States has taken and the significance of these events in present day America. Through this course, students will gain applicable knowledge about the United States and acquire the ability to analyze noteworthy trends.

The objective is to broaden your understanding of how the United States has been transforming over the last 400 years. Through learning about these events, you will better understand how America works as a country as well as comprehend why certain events still impact present-day United States.

In this course, students will:

- Learn about the origins of American political thought
- Better understand how America’s past has lasting impact into present-day life
- Advance your understanding of American culture and regional differences
- Learn new vocabulary related to historical, political, social, and cultural topics

Major requirements:

- Regular attendance, including bringing a question each week about the topic
- Six minor quizzes, of which the lowest grade will be dropped; there are no make-up quizzes (unless you have a university-approved reason for being absent)
- Homework readings, including answering the questions at the end of the textbook reading
- A final three-page essay on any three topics we discussed (you choose which topics interest you the most)

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

Additionally, there will be a weekly news/history article that you will need to read online.

There will be TWO readings every week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Information regarding required reading will be provided on the course syllabus given to you on the first day of class.

Please do NOT miss the first day of class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 The Civil War
- 8回 The Great Depression
- 9回 The Second World War and The United States
- 10回 The 1960's Counterculture
- 11回 The Industrial Revolution
- 12回 Women's Rights in the United States
- 13回 The Civil Rights Movement
- 14回 Immigration and Continuing Immigration
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Moodle question on that week's class topic/theme 20%;
Six minor quizzes: 50%;
Final analysis essay (3+ pages): 30%;

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any form of plagiarism on homework or final analysis essay (i.e. copying from the internet) will result in a final grade of (D).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能(一)となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (一).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Please familiarize yourself with the topics and vocabulary by reading through assigned textbook chapters before class and answering the questions assigned.

Review: Be careful to review English vocabulary relating to each chapter.

履修上の注意 /Remarks

This lecture course will be taught in English. Lecture notes will be provided to aid review for quizzes. The quizzes will be in English and will emphasize English language vocabulary and ideas relating to American culture. Students are expected to read before class the English-language textbook chapter and any additional homework readings relating to each week's topic to gain historical background understanding.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

In this course, we will be learning about important historical events and trends across the history of the United States. Every week, you will be required to read two different texts relating to the topic of the week. You will need to purchase the following text: S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992. Additionally, there will be an online article that you must print and read each week before coming to class.

キーワード /Keywords

American Dream;
Democracy;
the wild west;
Industry vs. Agriculture;
Racial tensions;
immigration;
racism;

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を維持することができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文化研究

MCC311M

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語の背後にある文化を学ぶために用意されたものです。まず第1回の授業で、比較文化論の方法論を踏まえて異文化を読み解くにはどのようなことに注意を払えばよいかを確認します。それに続き第2回以降で、英語文化の背後にあるイギリス、アメリカの文化を見つめます。しかし、英語が事実上国際共通語の地位にある現在、英語が使われている環境を理解するとともに英米以外の英語圏や私たちがかかわりの深いアジアの国々などについても理解を深めることが不可欠です。こうした点を踏まえて授業のカリキュラムを設計しています。ただし、文化理解は双方向活動ですから、外の文化を学ぶだけでなく、私たちも自分の文化について発信していくことが大切です。そのために、第14回の授業では、これまで学んできたことと対比させながら、日本文化のさまざまな側面を英語で発信する練習をしたいと思います。

【この授業の主な到達目標として、以下の内容を考えています。】

- ①知識：英語圏の社会、文化、歴史を総合的に学び基礎的な知識を身につけている。
- ②思考・判断・表現力：知識を活かして文化や社会に関して総合的な分析判断をすることができる。
- ③自律的行動力：スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。プリントを用意し、授業ごとに配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：文化を読み解くとは
- 第02回 イギリス・アメリカの素顔を知る
- 第03回 マザーグースと児童文学
- 第04回 推理小説の誕生と発達
- 第05回 英国中世演劇からシェイクスピアまで
- 第06回 キリスト教を学ぶ
- 第07回 イスラム教を知る
- 第08回 英米の音楽(1)：アメリカにおけるジャズとロックの誕生
- 第09回 英米の音楽(2)：イギリスで発展したロック
- 第10回 英米の音楽(3)：英米のクラシック音楽事情
- 第11回 20世紀をスピーチで辿る
- 第12回 聖地デイズニールランド
- 第13回 イギリス英語・アメリカ英語・アジア諸国の英語事情
- 第14回 日本文化を英語で発信する
- 第15回 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、平常点20点。

※3回以上無断で欠席をした場合、また試験を受験しなかった場合は、「評価不能(一)」となります。やむを得ず欠席をする場合は、(できるだけ事前に、接種の副反応などは後日で良いので)必ずメール等でご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業は予習を前提に考えてはいませんので、特に何か準備して臨んでいただく必要はありません。ただし、第14回「日本文化を英語で発信する」の回においては、皆さんに事前に作成していただいた内容を授業時に順に発表していただきます。他方、復習はしっかり行なっていただきたいと思います。プリントを読み直すとともに、気になることがあったら調べてみて下さい。最終試験は復習および皆さんの追加リサーチの成果が評価されることとなります。

履修上の注意 /Remarks

この科目は教職課程を履修している人にとっては必修科目となっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語はもはやイギリスやアメリカだけのものではなくなっています。英語はわたしたちの言語でもあります。しかし、英語を育んできた英米両国の文化を学ぶことは、英語の背後にある考え方やものの見方を知るためには不可欠です。積極的な気持ちで学んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

文学、宗教、音楽、国際英語

イギリス劇文化研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持続することができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス劇文化研究

MCC310M

授業の概要 /Course Description

DP に基づく 3 つの到達目標

知識: 演劇・パフォーマンス研究に関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: 演劇・パフォーマンス研究の観点から思考・論理的な分析を行うことができる。

自律的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course will offer an overview of the ways theatre and performance are studied. Course content will focus on performers, spectators, performance spaces, theatre theory, the history of theatre, and analysis of performance itself. A wide range of theatrical genres will be approached including drama, musical theatre and dance.

Each class will consist of a teacher-focused lecture followed by student-focused discussion.

教科書 /Textbooks

Christopher B. Balme, The Cambridge Introduction to Theatre Studies (Cambridge: Cambridge University Press, 2008)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to Theatre and Performance Studies
- 2回 Performers and Actors
- 3回 Spectators and Audiences
- 4回 Spaces and Places
- 5回 Theories of Theatre: Historical Paradigms
- 6回 Theories of Theatre: Systematic and Critical Approaches
- 7回 Theatre Historiography
- 8回 Text and Performance
- 9回 Performance Analysis
- 10回 Music and Dance Theatre
- 11回 Applied Theatre
- 12回 Theatre and Media
- 13回 Henry V: Expanding The Stage
- 14回 Othello: Performing Persuasion
- 15回 Review: The Purpose of Playing

成績評価の方法 /Assessment Method

Short Essay (700-1000 words) - 100%

Please note that if you are absent from more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 2 on, students will be assigned short, manageable texts as preparatory reading on a weekly basis.
Students are advised to reread course content/reading material after each class.

履修上の注意 /Remarks

Please note that this course will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. The first semester of this seminar will focus on basic theories of communication and culture.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led discussions on differences in culture.
- 3回 Workshop and discussion on differences in culture.
- 4回 Instructor-led discussions on differences in communication.
- 5回 Workshop and discussion on differences in communication.
- 6回 Workshop on individual materials for analysis and presentation. 7回 Student presentation A.
- 8回 Student-led discussion and presentation A.
- 9回 Student presentations B.
- 10回 Student-led discussion and presentation B.
- 11回 Student presentations C.
- 12回 Student-led discussion and presentation C.
- 13回 Student presentations D.
- 14回 Student-led discussion and presentation D.
- 15回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能（－）とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能（－）となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings.

After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミA1

SEM411M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar focuses on the concept of gender. What does gender mean? Is gender confined to the binary idea of men and women or is it more fluid and flexible?

In this semester we will explore the fundamental key ideas of the meaning of gender through exploration of gender in our everyday lives. We will also look at how gender is influenced by the media, focusing on representations of gender in music and film.

Each topic will be covered over two or three weeks and students will be expected to actively participate in discussions about gender as well as read materials handed out in advance and write short essays and present as and when required.

教科書 /Textbooks

There is no specific textbook for this course. Materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Specific references will be provided by the instructor but it is always a good idea to browse the library for gender related materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An Introduction to the Seminar
- 2回 What is gender?
- 3回 What does gender fluid mean?
- 4回 Gender and Film I: Action Heroes
- 5回 Gender and Film II: Action Heroes
- 6回 Gender and Film III: The Romcom
- 7回 Gender and Film IV: Disney
- 8回 Gender and Film V: Studio Ghibli
- 9回 Gender and the Music Industry I: J-pop/ K pop
- 10回 Gender and the Music Industry II: Europe/ America
- 11回 The Fashion Industry
- 12回 The Beauty Industry
- 13回 Rethinking Gender
- 14回 Discussion and Review
- 15回 Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

- In class Assignments 50%
- Homework Assignments 25%
- Presentations 25%

授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please come to class fully prepared by reading the relevant materials for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to seeing you in my seminar.

キーワード /Keywords

Gender, Culture, Media

異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. A goal of the second semester will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and return of papers.
- 2回 Paper-related discussions: Organization
- 3回 Paper-related discussions: Content.
- 4回 Paper-related discussions: Research Skills.
- 5回 Instructor-led discussion and workshop A.
- 6回 Instructor-led discussion and workshop B.
- 7回 Instructor-led discussion and workshop C.
- 8回 Presentations and discussion for student A.
- 9回 Presentations and discussion for student B.
- 10回 Presentations and discussion for student C.
- 11回 Presentations and discussion for student D.
- 12回 Presentations and discussion for student E.
- 13回 Presentations and discussion for student F.
- 14回 Presentations and discussion for student G.
- 15回 Final discussion and paper submission.

異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能（－）とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能（－）となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings.

After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

In this semester students will begin to explore gender themes in more detail paying particular attention to the idea of 'Gender Fluid.' We will explore in detail diversity, intersectionality, and inclusion. We will look at attitudes towards gender from a cross cultural perspective and we will explore creative ways in which we can promote gender awareness in our university.

Discussions will be conducted in English and students will be able to increase their knowledge about gender and increase English vocabulary and communication skills in order to be able to discuss various gender related themes with confidence.

教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be provided for by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction
- Week 2: LGBTQ+ :History
- Week 3: LGBTQ+ :PRIDE
- Week 4: Marriage for All
- Week 5: Homophobic Bullying
- Week 6: Inclusion I
- Week 7: Inclusion II
- Week 8: Inclusion III
- Week 9: The Boy in a Dress: Exploring ideas of gendered fashion and beauty
- Week 10: The Boy in a Dress: Dress codes in Japan.
- Week 11: Gender Diversity: Cross cultural perspectives
- Week12: Gender Diversity: Exploring creativity
- Week 13: Presentations I
- Week 14: PresentationsII
- Week 15: Discussion and Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In-Class Assignments 50%
Homework Assignments 25%
Presentations 25%

授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to come fully prepared to class and to have read the relevant materials in preparation for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to seeing everyone.

キーワード /Keywords

Gender, LGBTQ+, Inclusion

通訳ゼミAI【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

いよいよゼミが始まります。通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることを目標としています。しかし通訳訓練をすることにより、英語力を増強することはもちろん、通訳者に要求される背景知識や一般教養などの知見を少しずつ身に付けていくことは、必ずしも通訳者となることを目指さない方にとっても大きな意義のある学びとなるはずです。そういう意味で、できるだけ広い視野にたつてゼミを展開していきたいと考えています。

こうした考え方から、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。こうした訓練は、通訳を目指す人にとって有益なだけでなく、英語を用いてコミュニケーション活動を行なっていこうとするときに必ず役立つはずです。

最初のゼミとなる1学期の「ゼミA-1」では、まずはリスニング力を磨くことを第一の課題として取り組み、あわせて総合的な英語力のブラッシュアップを図ります。もちろん通訳の練習は毎回行ないませんが、まずはその基礎となる英語力をブラッシュアップすることから始め、同時に背景知識を増やしていくことも目指しています。英日の通訳練習がどうしても主体となってしまいますが、日英の通訳練習もおろそかにはできません。できるだけ毎回、日英通訳の訓練をする時間も取っていききたいと思います。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

- ①思考・判断・表現力：グローバルな視点から社会の諸相を分析し、考えを述べることができる。
- ②コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- ③自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

『American Vibes』（金星堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』（イカロス出版）、また、向 謙治郎、丸山 祥夫(著)『中学英語で通訳ができる』（ジャパンタイムズ）などは参考になると思います。その他、必要に応じて授業の中で紹介することがあります。

通訳ゼミAI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ゼミ・オリエンテーション
 第02回 Lesson 1に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第03回 Lesson 2に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第04回 Lesson 3に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第05回 Lesson 4に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第06回 Lesson 5に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第07回 Lesson 6に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第08回 Lesson 7に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第09回 Lesson 8に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第10回 Lesson 9に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第11回 Lesson 10に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第12回 Lesson 11に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第13回 Lesson 12に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第14回 Lesson 13に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 第15回 Lesson 14に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
 ※ご相談の上、皆さんのプレゼンテーション+通訳というセッションをゴールデンウィーク後をめどに持ちたいと思います。それにより、上記スケジュールは若干変動します。ご了承ください。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。
 実技・プレゼンテーション100%
 ※3回以上無断で欠席をした場合は、「評価不能(一)」となります。やむを得ず欠席をする場合は、(できるだけ事前に、接種の副反応などは後日で良いので)必ずメール等でご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleを併用し、通常の練習メニューの提供や、予習箇所の指示を行いません。また、演習科目の常として、復習や振り返りをじゅうぶんになさってください。

履修上の注意 /Remarks

通訳を主体として取り上げるゼミではありますが、上記のように、今学期の主眼は通訳実技を行なっていくのに必要な英語力を身につけてもらうという狙いもあります。ゼミに出席するだけで英語力が向上するわけではありません。平素から英語を聴きながらシャドーイングの練習をするなどの地道な練習が大切だと思います。
 来学期はTED Talksを素材として取り入れたテキストを用いて実践的な通訳練習を展開していきます。よかったら、今のうちからTED Talksのウェブサイトから自分に興味がある話題を扱ったプレゼンテーションを聴いてみたりしませんか。さまざまなトピック、さまざまな癖のある英語に触れることができるので、お勧めです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよゼミが始まります。楽しいゼミになるよう努力します。皆さんも頑張ってください。

キーワード /Keywords

通訳基礎トレーニング、英語力強化

通訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学びたいとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

先学期からゼミが始まりましたが、いかがだったでしょうか。通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることを目標としています。しかし通訳訓練をすることにより、英語力を増強することはもちろん、通訳者に要求される背景知識や一般教養などの知見を少しずつ身に付けていくことは、必ずしも通訳者となることを目指さない方にとっても大きな意義のある学びとなるはずです。そういう意味で、できるだけ広い視野にたってゼミを展開していきたいと考えています。

こうした考えから、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。こうした訓練は、通訳を目指す人にとって有益なだけでなく、英語を用いてコミュニケーション活動を行なっていこうとするときに必ず役立つはずです。

この「通訳ゼミA-2」でも、先学期に引き続きリスニング力を磨くことを第一の課題として取り組み、あわせて総合的な英語力のブラッシュアップを図ります。そのためにTED Talksを題材とした教材を用いて内容理解および英日通訳演習を行ないます。これを通して背景知識を増やしていくことも目指しています。また、日英通訳練習もしっかり取り組んでいきたいと思っておりますので、日本語によるラジオ番組を英語に通訳する練習を取り上げていきたいと思っています。また、ここしばらくコロナ禍のために実施できなかった北九州国際車椅子バスケットボール大会のボランティア通訳奉仕ですが、実施が可能となったらぜひお願いしたいと思っています。良い経験となるはずです。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

- ①思考・判断・表現力：グローバルな視点から社会の諸相を分析し、考えを述べるができる。
- ②コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- ③自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

「TEDTALKS Keynote 3」 (CENGAGE Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』(イカロス出版)、また、向 謙治郎、丸山 祥夫(著)『中学英語で通訳ができる』(ジャパントイムズ)などは参考になると思います。その他、必要に応じて授業の中で紹介することがあります。

通訳ゼミAII 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回	ゼミ・オリエンテーション
第02回	Unit 1に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第03回	Unit 2に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第04回	Unit 3に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第05回	Unit 4に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第06回	ゼミ生のプレゼンテーション+通訳演習
第07回	ゼミ生のプレゼンテーション+通訳演習
第08回	Unit 5に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第09回	Unit 6に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第10回	Unit 7に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第11回	Unit 8に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第12回	Unit 9に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第13回	Unit 10に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第14回	Unit 11に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第15回	Unit 12に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

実技・プレゼンテーション100%

※3回以上無断で欠席をした場合は、「評価不能(一)」となります。やむを得ず欠席をする場合は、(できるだけ事前に、接種の副反応などは後日で良いので)必ずメール等でご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleを併用し、通常の練習メニューの提供や、予習箇所の指示を行ないます。また、演習科目の常として、復習や振り返りをじゅうぶんになさってください。

履修上の注意 /Remarks

主要教材として用いるTED Talksはゼミの中では編集版を用いますが、ノーカット版をウェブサイトで見ることができますので、ゼミの前の準備や、ゼミ後の復習の時に積極的に用いていただきたいと思います。また、TED Talks以外にも優れた教材がありますので、授業の中で紹介したり、トレーニングメニューとして用いたいと思っています。普段から英語に触れる時間を取って、英語に親しむ習慣を持っていただけると嬉しいです。頑張りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの雰囲気にも慣れてこられた頃かと思います。ますます楽しいゼミになっていけるよう、一緒にがんばっていきましょう。

キーワード /Keywords

通訳技術の修練、プレゼンテーション力の向上、背景知識の強化

翻訳ゼミ A I 【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
 自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週までに用意・指示しておく。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。授業内で問題点を指摘し、読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いにより決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 イントロダクション
- 2回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (0:00-5:00)
- 3回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (5:01-10:00)
- 4回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (10:01-15:00)
- 5回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (15:01-20:00)
- 6回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (20:01-25:00)
- 7回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (25:01-30:00)
- 8回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (30:01-35:00)
- 9回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (35:01-40:00)
- 10回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (40:01-45:00)
- 11回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (45:01-50:00)
- 12回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (50:01-55:00)
- 13回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (55:01-1:00:00)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
ディスカッションへの積極的参加 40%
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ AI

SEM411M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。

コミュニケーション力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。

自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar focuses on Japanese to English translation. Students will have the opportunity to translate in a number of different mediums with the source text being one of their own choosing. Additionally, students will translate together as a group to help practice the sharing of ideas. Working together and working on translations that they enjoy will help students grow both in terms of practical translation ability as well as understanding of the issues underlying translation.

教科書 /Textbooks

None.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Discussed in class when appropriate.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Student focused session (1)
- 第3回 Student focused session (2)
- 第4回 Student focused session (3)
- 第5回 Student focused session (4)
- 第6回 Student focused session (5)
- 第7回 Student focused session (6)
- 第8回 Student focused session (7)
- 第9回 Student focused session (8)
- 第10回 Student focused session (9)
- 第11回 Student focused session (10)
- 第12回 Student focused session (11)
- 第13回 Student focused session (12)
- 第14回 Student focused session (13)
- 第15回 Concluding session

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 50%
Report 50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
 自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週までに用意・指示しておく。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。授業内で問題点を指摘し、読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いにより決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 イントロダクション
- 2回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (1:00:01-1:05:00)
- 3回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (1:05:01-1:10:00)
- 4回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (1:10:01-1:15:00)
- 5回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (1:15:01-1:20:00)
- 6回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (1:20:01-1:25:00)
- 7回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (1:25:01-1:30:00)
- 8回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (1:30:01-1:35:00)
- 9回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (1:35:01-1:40:00)
- 10回 【翻訳&発表】 選定した翻訳テキスト (1:40:01-1:45:00)
- 11回 ディスカッション
- 12回 卒業課題報告1
- 13回 卒業課題報告2
- 14回 卒業課題報告3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
ディスカッションへの積極的参加 40%
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。

コミュニケーション力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。

自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar focuses on Japanese to English translation. Students will have the opportunity to translate in a number of different mediums with the source text being one of their own choosing. Additionally, students will translate together as a group to help practice the sharing of ideas. Working together and working on translations that they enjoy will help students grow both in terms of practical translation ability as well as understanding of the issues underlying translation.

教科書 /Textbooks

None.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Discussed in class when appropriate.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Student focused session (1)
- 第3回 Student focused session (2)
- 第4回 Student focused session (3)
- 第5回 Student focused session (4)
- 第6回 Student focused session (5)
- 第7回 Student focused session (6)
- 第8回 Student focused session (7)
- 第9回 Student focused session (8)
- 第10回 Student focused session (9)
- 第11回 Student focused session (10)
- 第12回 Student focused session (11)
- 第13回 Student focused session (12)
- 第14回 Student focused session (13)
- 第15回 Concluding session

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 50%
Report 50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミA1

SEM411M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
 自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

本ゼミナールは、インターネットに代表されるビジネスエコシステムを研究するものです。
 ゼミナールでは経営学全般を扱うため、研究テーマはビジネスに関することなら自由に決めることができます。

3年次の「ゼミA1」においては、ビジネスを英語で理解すること、実際のビジネス動向を把握することを中心に活動を行います。ゼミ内での発表は、出来るだけ多く行いたいと考えています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミの中で、資料を紹介します。

ビジネス英語ゼミ AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 introduction
- 第2回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第3回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第4回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第5回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第6回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第7回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第8回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第9回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第10回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第11回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第12回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第13回 記事・ビデオ・ケーススタディ
- 第14回 発表
- 第15回 発表

(適宜、スケジュール・内容を変更します)

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの貢献 (発言、作業) - 50%

発表・レポート - 50%

・ 担当教員に相談なく授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能 (ー) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:発表・活動などの、準備をします。

事後学習:学期末に発表またはレポート提出を行います。

履修上の注意 /Remarks

事前に経営学の知識が無くても問題ありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく進めましょう。

キーワード /Keywords

経営学、ビジネス、イノベーション、インターネット、リサーチ

ビジネス英語ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

The general course objective is to give students the opportunity to develop knowledge of the Tourism Industry.

The specific objectives of the course are:

- Students will be able to learn the language and specialized terminology required in the Tourism Industry.
- Acquire professional skills required in the service industry.
- Analyze Case Studies.
- Discuss innovating trends

教科書 /Textbooks

Tourism: Principles and Practice (English Edition) 6th Edition, Kindle Edition

Authors: John Fletcher, Alan Fyall, David Gilbert and Stephen Wanhill

Publisher: Pearson

Year: November 2017

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388

*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Introduction of Tourism Management, Tourism Policy I and II.

This course will cover only part 4 of the textbook.

(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Managing Marketing for Tourism.
- 2- Managing Marketing for Tourism.
- 3- Managing Marketing for Tourism.
- 4- Managing Marketing for Tourism.
- 5- Marketing Planning.
- 6- Marketing Planning.
- 7- Marketing Planning.
- 8- Marketing Mix Applications.
- 9- Marketing Mix Applications.
- 10- Marketing Mix Applications.
- 11- Marketing Mix Applications.
- 12- Information Technology in Tourism.
- 13- Information Technology in Tourism.
- 14- Information Technology in Tourism.
- 15- Presentation of Final Paper.

成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing, 25% Final Presentation; 25% Final Paper.

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

or

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

Please buy an electronic version of the textbook online at amazon.co.jp

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥5,388

*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Introduction of Tourism Management, Tourism Policy I and II.

This course will cover only part 4 of the textbook.

(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to seeing you in class!

キーワード /Keywords

Tourism, Management, Destination, Customer, Service, Business.

ビジネス英語ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

This seminar will explore a rising interest in global business – how to successfully lead human resources and organizations in progressively internationalizing operations. We will focus on the cross-cultural management aspect of this topic.

教科書 /Textbooks

Riding the Waves of Culture: Understanding Diversity in Global Business
4th Edition By Fons Trompenaars, Charles Hampden-Turner
(The university bookstore has been requested to stock this textbook)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will designate additional references as needed, especially The Economist and Nikkei Asia.

The course will also rely on films such as Gung-Ho (1986), which is available in the library and American Factory (2019), which can be accessed on Netflix (at cost)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 An Introduction to Culture (based on assigned textbook)
- 2 The One Best Way of Organizing Does Not Exist
- 3 The Meaning of Culture (based on assigned textbook)
- 4 Rules and Exceptions (also discuss semester project)
- 5 Rules and Exceptions
- 6 The Individual and the Group
- 7 The individual and the Group
- 8 Review (also discuss progress on semester project)
- 9 Feelings and Relationships
- 10 Feelings and Relationships
- 11 How far we get involved
- 12 How far we get involved
- 13 How we accord status
- 14 How we accord status
- 15 Presentation of semester project

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be evaluated on their participation in discussions, class presentations and their semester project. The semester project could be a conventional paper, but other ideas such as a video production, poem composition or even a group output can be considered. For the seminar project, I am open to any kind of creativity that could be assessed.

Please discuss your ideas with me within the first four weeks of the start of the semester.

Participation in discussions 30%

Class presentations 30%

Semester project 40%

Note: Students may be assessed as unable-to-evaluate (—) in case of more than one-third deficiency in any assessment criteria, including class participation, assignments and quizzes etc.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Students will be expected to prepare thoroughly for each class through reading the assigned readings, watching the assigned videos and studying the relevant vocabulary.
- Review of the material covered will be needed to prepare assignments.
- Assignments will involve teamwork.

履修上の注意 /Remarks

In line with the philosophy and purpose of The University of Kitakyushu, the seminar will promote a research orientation that connects Kitakyushu to Asia and other parts of the world.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is a global business oriented course that goes beyond the importance of etiquette and local customs.

If the students are interested, there will be opportunity to take the challenge to collaborate and co-publish research on cross-cultural management. However, this is not a requirement.

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

【思考・判断・表現力】ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

【コミュニケーション力】ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

【自律的行動力】専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This first semester course will introduce various topics relevant to international economics. These topics may include international trade dynamics, economic development, and globalization, but also may include several topics from international business. At the end of the semester, each student is expected to choose a specific contemporary issue related to the topics discussed in the course and deliver a presentation.

教科書 /Textbooks

No textbook is required for this course.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will suggest appropriate references as needed.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to international economics
2. Review of international economic concepts
3. Topics in international economics I: Comparative advantage
4. Topics in international economics II: Specialization (Product Space)
5. Topics in international economics III: Trade and economic growth
6. Topics in international economics IV: Capability evolution
7. MS Office: PowerPoint & Excel
8. Student Presentation (papers from Week 3 & 4)
9. Student Presentation (papers from Week 5 & 6)
10. How to write a senior thesis
11. How to write a senior thesis
12. Research question and research hypothesis
13. Research question and research hypothesis
14. Student Presentation (research question & hypothesis)
15. Student Presentation (research question & hypothesis)

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 50%, Presentation 50%

・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Throughout the course please search for and read relevant newspaper or magazine articles to develop familiarity with ongoing economic/business topics.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The seminar is designed to encourage independent study. Learn actively, not passively!

キーワード /Keywords

International Economics, Economic Policy, Economic development, Trade, Specialization

ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

本ゼミナールは、インターネットに代表されるビジネスエコシステムを研究するものです。

ゼミナールでは経営学全般を扱うため、研究テーマはビジネスに関することなら自由に決めることができます。

3年次の「ゼミA2」においては、各自の研究を進めること、研究の方法を理解することを中心に活動を行います。

具体的には、各自のアイデアの発表を中心に、併せて研究の方法、手法、研究ペーパーの書き方などを理解します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミの中で、資料を紹介します。

ビジネス英語ゼミ AII 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 introduction
- 第2回 アイデア発表・ディスカッション
- 第3回 アイデア発表・ディスカッション
- 第4回 研究手法、研究ペーパーなどの理解
- 第5回 研究手法、研究ペーパーなどの理解
- 第6回 アイデア発表・ディスカッション
- 第7回 アイデア発表・ディスカッション
- 第8回 研究手法、研究ペーパーなどの理解
- 第9回 研究手法、研究ペーパーなどの理解
- 第10回 アイデア発表・ディスカッション
- 第11回 アイデア発表・ディスカッション
- 第12回 研究手法、研究ペーパーなどの理解
- 第13回 研究手法、研究ペーパーなどの理解
- 第14回 最終発表
- 第15回 最終発表

(適宜、スケジュール・内容を変更します)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ゼミへの貢献(発言、作業) - 50%
- 発表・レポート - 50%
- ・ 担当教員に相談なく授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：発表・活動などの、準備をします。
- 事後学習：学期末に発表またはレポート提出を行います。

履修上の注意 /Remarks

事前に経営学の知識が無くても問題ありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく進めましょう。

キーワード /Keywords

経営学、リサーチ、研究手法、リサーチペーパー

ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

The general course objective is to give students the opportunity to develop knowledge of the Tourism Industry.

The specific objectives of the course are:

- Students will be able to learn the language and specialized terminology required in the Tourism Industry.
- Acquire professional skills required in the service industry.
- Analyze Case Studies.
- Discuss innovating trends.

教科書 /Textbooks

Tourism: Principles and Practice (English Edition) 6th Edition, Kindle Edition

Authors: John Fletcher, Alan Fyall, David Gilbert and Stephen Wanhill

Publisher: Pearson

Year: November 2017

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388

*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Tourism Policy I and II.

This course will cover only part 4 of the textbook.

(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Managing Marketing for Tourism.
- 2- Literature review.
- 3- Literature review.
- 4- Literature review.
- 5- Marketing Planning.
- 6- Literature review.
- 7- Literature review.
- 8- Literature review.
- 9- Marketing Mix Applications.
- 10- Literature review.
- 11- Literature review.
- 12- Literature review.
- 13- Information Technology in Tourism.
- 14- Literature review.
- 15- Presentation of Final Paper.

成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing, 25% Final Presentation; 25% Final Paper.

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

or

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とします。
If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.
Please buy an electronic version of the textbook online at amazon.co.jp

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388

*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Introduction of Tourism Management, Tourism Policy I and II.

This course will cover only part 4 of the textbook.

(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to seeing you in class!

キーワード /Keywords

Tourism, Management, Destination, Customer, Service, Business.

ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

This seminar will explore a rising interest in global business – how to successfully lead human resources and organizations in progressively internationalizing operations. We will focus on the cross-cultural management aspect of this topic.

教科書 /Textbooks

Riding the Waves of Culture: Understanding Diversity in Global Business 4th Edition By Fons Trompenaars, Charles Hampden-Turner (The university bookstore has been requested to stock this textbook). This textbook continues from the first semester.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will designate additional references as needed, especially The Economist and Nikkei Asia.

The course will also rely on films such as Gung-Ho (1986), which is available in the library and American Factory (2019), which can be accessed on Netflix (at cost)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 How we manage time
- 2 How we manage time
- 3 How We Relate to Nature
- 4 Cross-Cultural Competence (also discuss semester project)
- 5 Cross-Cultural Competence
- 6 Toward International and Transnational Management
- 7 Toward International and Transnational Management
- 8 Review (also discuss progress on semester project)
- 9 National Cultures and Corporate Cultures
- 10 National Cultures and Corporate Cultures
- 11 Managing Change Across Cultures
- 12 Managing Change Across Cultures
- 13 Your Values for the Next Transformation
- 14 Your Values for the Next Transformation
- 15 Presentation of semester project

ビジネス英語ゼミAⅡ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be evaluated on their participation in discussions, class presentations and their semester project. The semester project could be a conventional paper, but other ideas such as a video production, poem composition or even a group output can be considered. For the seminar project, I am open to any kind of creativity that could be assessed.

Please discuss your ideas with me within the first four weeks of the start of the semester.

Participation in discussions 30%

Class presentations 30%

Semester project 40%

Note: Students may be assessed as unable-to-evaluate (—) in case of more than one-third deficiency in any assessment criteria, including class participation, assignments and quizzes etc.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Students will be expected to prepare thoroughly for each class through reading the assigned readings, watching the assigned videos and studying the relevant vocabulary.

- Review of the material covered will be needed to prepare assignments.

- Assignments will involve teamwork.

履修上の注意 /Remarks

In line with the philosophy and purpose of The University of Kitakyushu, the seminar will promote a research orientation that connects Kitakyushu to Asia and other parts of the world.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is a global business oriented course that goes beyond the importance of etiquette and local customs.

If the students are interested, there will be opportunity to take the challenge to collaborate and co-publish research on cross-cultural management. However, this is not a requirement.

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

【思考・判断・表現力】ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

【コミュニケーション力】ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

【自律的行動力】専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar introduces the basic steps of academic research, from choosing a research topic to collecting data and learning analytical methodologies to tackle the research question in play. Throughout the coursework, students will be exposed to various papers on international economics, and get used to the structures and logic of academic papers. At the end of the semester, students are expected to complete individual extended abstracts, which will guide their future studies towards successful graduation thesis completion.

教科書 /Textbooks

No textbook is required for this course.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will suggest appropriate references as needed.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction / Setting up an individual academic plan
2. The structure of an academic paper
3. Research background: Academic and practical
4. How to choose and read key papers
5. Reading key papers
6. Reading key papers
7. Collecting datasets
8. Review & practice of basic statistics
9. Basic Regression
10. Student discussion on key paper, data, and methodology
11. Student discussion on key paper, data, and methodology
12. Sample Extended Abstract
13. Writing extended abstract
14. Writing extended abstract
15. Review of individual extended abstracts

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 50%, Final Paper (Extended Abstract) 50%

・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Throughout the course please search for and read relevant newspaper or magazine articles to develop familiarity with ongoing economic/business topics.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The seminar is designed to encourage independent study. Learn actively, not passively!

キーワード /Keywords

International Economics, Economic Policy, Economic development, Trade, Specialization

メディア英語ゼミAI【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

DP に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

ゼミ A I offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A reading list will be provided at the beginning of the course.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Identifying a Research Topic
- 3回 The Uses of Theory
- 4回 Example Presentation: Performing Hamlet
- 5回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: The Opening Sequence
- 6回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: Semiology
- 7回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: Presenting Gender
- 8回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Empty Space
- 9回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: Introducing Pleasure
- 10回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: Metatheatre
- 11回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Logical Structuring
- 12回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Referencing
- 13回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Objectivity
- 14回 Student-led class (presentation and discussion) + Academic Presentation Skills
- 15回 Review and Final Discussion

メディア英語ゼミAI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

Please note that if you are absent from more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミAII【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミA II

SEM412M

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

DP に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

ゼミA 2 follows on from ゼミA 1. The course offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A reading list will be provided at the beginning of the course.

メディア英語ゼミAll 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Developing a Research Topic
- 3回 Assessing The Use of Theory: New Historicism
- 4回 Example Presentation: Pleasure and the Shakespearean Playhouse
- 5回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: Type and Theory
- 6回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: Gender Depiction
- 7回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: The Hidden Message
- 8回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Joy of Tragedy
- 9回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Joy of Comedy
- 10回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Theatrum Mundi Topos
- 11回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Using a Thesaurus
- 12回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Avoiding Plagiarism
- 13回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Finding a Voice
- 14回 Student-led class (presentation and discussion) + Academic Presentation Skills: Using Powerpoint Effectively
- 15回 Review and Final Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

Please note that if you are absent from more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

We will explore New York City as a cultural epicenter. Materials used will integrate three specific approaches to examining the modern city, specifically: social issues, urban environments, and national identity. The course will be comprised of readings from various texts relating to social issues in New York City; we will also use TED Talks on cultural and social transformations taking place in New York City. Additionally, students will examine various cultural differences between New York City and cities in Japan. The end goal of this class is to help broaden your world perspective and understanding of cosmopolitan life and the American dream by strengthening your ability to discuss various social topics. In doing these tasks, you will learn strategies for listening to others' opinions in order to better formulate your own argument.

In this course, students will:

- Actively engage in the class discussions
- Develop educated opinions on topics and defend your position
- Explore academic discourse on a specific topic and examine what “counts” as evidence in academic presentations
- Integrate outside sources to support your point of view

Major requirements:

- Active class participation, including group work
- Speaking only in English during class period
- Homework assignments (reading assignments and summaries; TED Talk summaries)
- Two in-class poster presentations
- One major research essay (and final presentation)

教科書 /Textbooks

No textbook will be required. I will provide you with a photocopied selection of essays that you are expected to read for each class. Each class will discuss a different theme of urban life within New York City.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

You will need to access the library webpage (on campus) and use the JSTOR and Ebscohost databases.

アメリカ研究ゼミA1【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction and getting to know your classmates
 Class 2: New York City: Building higher: What does it mean to be on an island?;
 Class 3: New York City: Jacob Riis: How the Other Half Lives;
 Class 4: New York City: Spaces in the Big Apple;
 Class 5: New York City: Changes in the City;
 Class 6: New York City: Burying the Unknown in NYC;
 Class 7: New York City: Homelessness in the City;
 Class 8: New York City: The Streets of New York;
 Class 9: New York City: Urban Explorer Movement;
 Class 10: New York City: Humans of New York: Stories;
 Class 11: New York City: Hustling and Crime in the City;
 Class 12: New York City: Art in the Big City;
 Class 13: New York City: Ethnic Identity;
 Class 14: New York City: Rebuilding communities;
 Class 15: Final research paper presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

One major research essay: 35%
 2 Presentations on a specific topic: 20%
 3 Reading summaries: 15%
 Preparedness and participation: 10%
 5 TED Talks and other assignments: 20%

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
 If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any form of plagiarism (i.e. copy and pasting text from the internet) will result in a failing grade (D).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You will be required to read all homework assignments before coming to class.

履修上の注意 /Remarks

Participation is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively engage in discussion. For our class, it is important that you come to class prepared and ready to discuss your opinions—your opinions are important!

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course objectives will include some of the following elements:

- Note-taking.
- Absorb information from audio and be able to listen for key vocabulary.
- Participate in class discussions by asking and responding to questions.
- Give effective oral presentations.
- Express their own ideas about differing value systems around the world and how these differ from Japanese society.
- Increase and diversify vocabulary usage.
- Read a literary work for a thematic meaning.
- Read secondary sources and material and be able to incorporate the themes into research essays.
- Avoid plagiarism and use MLA documentation outlines.

キーワード /Keywords

New York City
 Urbanism
 Urban Culture

アメリカ研究ゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミA1

SEM411M

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の多文化状況を垣間見ることができる文学作品や映像作品を中心に扱う。アメリカ社会に共存する様々な声に耳を傾け、民族、人種、性、言語、宗教、思想など多様な文化的背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指す。文学作品や映像作品以外の題材についてもゼミ生からの積極的な提案を歓迎する。必要に応じてアメリカ合衆国以外の地域に関わる作品も導入する。授業は発表・討論形式で進める。

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

- 《思考・判断・表現力》ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。
- 《コミュニケーション力》ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 《自律的行動力》専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Dolores laGuardia and Hans P. Guth. American Visions. Mayfield Publishing, 1995.
- Neil Campbell and Alasdair Kean. American Cultural Studies. Routledge, 2015.
- Ania Loomba. Colonialism/Postcolonialism. Routledge, 2015.
- アーニャ・ルンバ『ポストコロナ理論入門』
- その他、適宜、授業内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (授業の概要、成績評価方法などの説明)
- 第2回 New World (1)
- 第3回 New Nation (1)
- 第4回 New Nation (2)
- 第5回 Native Americans (1)
- 第6回 Native Americans (2)
- 第7回 Native Americans (3)
- 第8回 American Individualism
- 第9回 Beyond Optimism
- 第10回 Black Identity (1)
- 第11回 Black Identity (2)
- 第12回 Black Identity (3)
- 第13回 Workshop (1): 学生による研究発表
- 第14回 Workshop (2): 学生による研究発表
- 第15回 Workshop (3): 学生による研究発表

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業における活動・小テスト ... 50%
発表 ... 30%
レポート ... 20%

※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備すること。
授業終了後には授業の内容を反復し課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

自分が議題を提案する際には少なくとも2週間前の授業までに資料を用意し、他の受講者に周知・配布すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回で扱う作品は必ず予習した上で授業にのぞみ、議論に積極的に参加してください。

キーワード /Keywords

cultural identity, cultural diversity, American Studies, colonialism, post-colonialism, settler colony

アメリカ研究ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

We will be exploring the idea of the American Dream as it relates to life in New York City and American culture. There will be two parts to our course. The first will look at urban family struggles related to economics and the American Dream. The second part will look at urban family struggles specifically related to race and its part in economics and the American Dream. As with our prior course, we will be looking closely at identity and how urban life affects identity. While not always focusing on New York City, our topics will be directly related to urban living and therefore transferable to New York City and our own urban life in Japan. This course will include the reading of two famous plays: Death of a Salesman and A Raisin in the Sun. We will also watch the movie versions after we finish reading the text (please don't watch beforehand). Additionally, students will examine various cultural differences between New York City and major cities in Japan. The end goal of this class is to help broaden your world perspective and understanding of cosmopolitan life by strengthening your ability to discuss various topics. It is also intended to help you understand the term “the American Dream” and how this phrase affects the culture of America and New York City.

In this course, students will:

- Actively engage in the class discussions
- Develop educated opinions on topics and defend your position
- Explore academic discourse on a specific topic and examine what “counts” as evidence in academic presentations
- Integrate outside sources to support your point of view

Major requirements:

- Speaking only in English during class period
- 2 Reading summaries
- 2 Socratic Seminar questions and answers
- 1 in-class special topic presentations
- 1 major research essay (and final presentation)

教科書 /Textbooks

MILLER Arthur, Death of a Salesman: Text and Study Aids, Klett Ernst /Schulbuch (January 1, 2009)
HANSBERRY Lorraine, A Raisin in the Sun, Modern Classics.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

アメリカ研究ゼミAII【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction to topic and course expectations
 Class 2: The American Dream: history and meaning
 Class 3: The idea of the Wild, Wild West in Modern America
 Class 4: Employment and the American Dream
 Class 5: Career anxiety and Unemployment
 Class 6: Economic Inequality
 Class 7: Levels of Success
 Class 8: Film Day
 Class 9: Race and the American Dream House
 Class 10: The American Family
 Class 11: The Projects in New York City
 Class 12: Pruitt-Igoe Housing Project
 Class 13: White neighborhoods
 Class 14: Film Day
 Class 15: Final paper presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

English participation: 10%
 2 Reading summaries: 20%
 2 Socratic seminar questions and answers: 10%
 1 Presentations (10 minutes minimum): 20%
 One major research essay and final presentation (35+5): 40%

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
 If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any form of plagiarism (i.e. copy and pasting text from the internet) will result in a failing grade (D).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You will be required to have the reading material for the second class.

履修上の注意 /Remarks

Participation is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively participate. For our class, it is important that you come to class prepared and ready to discuss your opinions about what you read.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course objectives will include some of the following elements:

- Note-taking.
- Absorb information from audio and be able to listen for key vocabulary.
- Participate in class discussions by asking and responding to questions.
- Give effective oral presentations.
- Express their own ideas about differing value systems around the world and how these differ from Japanese society.
- Increase and diversify vocabulary usage.
- Read a literary work for a thematic meaning.
- Read secondary sources and material and be able to incorporate the themes into research essays.
- Avoid plagiarism and use MLA documentation outlines.

キーワード /Keywords

American Dream;
 Broadway;
 New York City;
 Race and America.

アメリカ研究ゼミAII【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学びようとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、アメリカ合衆国の多文化状況を垣間見ることができる文学作品や映像作品を扱って活動を進める。アメリカ社会に共存する様々な声に耳を傾け、民族、人種、性、言語、宗教、思想など多様な文化的背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指す。文学作品や映像作品以外の題材についてもゼミ生からの積極的な提案を歓迎する。必要に応じてアメリカ合衆国以外の地域に関わる作品も導入する。授業は発表討論形式で進める。

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

- 《思考・判断・表現力》ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。
- 《コミュニケーション力》ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 《自律的行動力》専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Dolores laGuardia and Hans P. Guth. American Visions. Mayfield Publishing Co., 1995.
- Neil Campbell and Alasdair Kean. American Cultural Studies. Routledge, 2015.
- Ania Loomba. Colonialism/Postcolonialism. Routledge, 2015.
- その他、適宜、授業内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (授業の概要、担当決め)
- 第2回 Cityscapes
- 第3回 Desperate Glory (1)
- 第4回 Desperate Glory (2)
- 第5回 Inner Quest (1)
- 第6回 Inner Quest (2)
- 第7回 Inner Quest (3)
- 第8回 American Mosaic (1)
- 第9回 American Mosaic (2)
- 第10回 American Mosaic (3)
- 第11回 Global Mosaic (1)
- 第12回 Global Mosaic (2)
- 第13回 Workshop (1): 学生による研究発表
- 第14回 Workshop (2): 学生による研究発表
- 第15回 Workshop (3): 学生による研究発表

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業における活動・小テスト ... 50%
発表 ... 30%
レポート ... 20%

※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備すること。
授業終了後には授業の内容を反復し課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

自分が議題を提案する際には少なくとも2週間前の授業までに資料を用意し、他の受講者に周知・配布すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回で扱う作品は必ず予習の上で授業にのぞみ、議論に積極的に参加してください。

キーワード /Keywords

cultural identity, cultural diversity, gender, American Studies, colonialism, post-colonialism

イギリス研究ゼミAI【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。

思考・判断・表現力：正しく英語を理解し、映像を活かして訳文の可能性を探求することができる。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢を有している。

当ゼミでは「イギリス・アイルランドの文化、社会」を研究対象とする。研究対象にはミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス・アイルランド文学の作家やマザーグース（イギリス伝承童謡）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学、あるいは、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ロックやファッションといったサブカルチャーを扱うこともあるが、常に個々の現象の背後にある文化、社会、歴史を深く掘り下げることを心がけたい。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。発表は英語で行い、ディスカッションも英語を原則とするが、内容が複雑になってくると日本語に切り替えて話を進める。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらいの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

イギリス研究ゼミAI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 1)
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 2)
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 1)
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 2)
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 3)
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 4)
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 1)
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 2)
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 3)
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 4)
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 1)
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 2)
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 3)
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 4)
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション (まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 30%、発表 40%、ディスカッションへの参加 30%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能 (ー) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミでは受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

イギリス研究ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学びまわるとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。

思考・判断・表現力：正しく英語を理解し、映像を活かして訳文の可能性を探求することができる。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢を有している。

当ゼミでは「イギリス・アイルランドの文化、社会」を研究対象とする。研究対象にはミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス・アイルランド文学の作家やマザーグース（イギリス伝承童謡）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学、あるいは、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ロックやファッションといったサブカルチャーを扱うこともあるが、常に個々の現象の背後にある文化、社会、歴史を深く掘り下げることを心がけたい。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。発表は英語で行い、ディスカッションも英語を原則とするが、内容が複雑になってくると日本語に切り替えて話を進める。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらいの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 1)
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 1)
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 2)
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 3)
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 4)
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 1)
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 2)
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 3)
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 4)
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション (応用 1)
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション (応用 2)
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション (応用 3)
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション (応用 4)
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション (まとめ 1)
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション (まとめ 2)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート30%、発表40%、ディスカッションへの参加30%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミでは受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

英語学ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

What the heck?! In this zemi we will look at how people learn languages, with a special focus on vocabulary. In the first semester we will focus on looking at students' current vocabulary levels, learning how to learn vocabulary and a language in general, and beginning a collection of slang and course words.

教科書 /Textbooks

No textbook needed. Students will receive readings to do.

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Folse, Keith S. (2004) Vocabulary Myths: Applying second language research to classroom teaching. Ann Arbor: University of Michigan Press.

Nation, I.S.P. (2013) Learning Vocabulary in another language (Second edition). Cambridge University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction; Vocabulary level tests

Week 2: What is slang? What is cursing? An introduction.

Week 3: Beginning vocabulary word list studies; Spaced repetition

Week 4: Resources for slang words; Videos you can't understand

Week 5: Cursing: The 4-letter words in English; cursing substitutes

Week 6: Video: slang; Vocabulary vs. grammar (VMChp1)

Week 7: Video: cursing; Semantic sets (VMChp3)

Week 8: Student presentations; Video: slang; Translations (VMChp4)

Week 9: Student presentations; Video: cursing; Why Anki? Considering vocabulary learning apps

Week 10: Student presentations; Guessing words from context (VMChp5)

Week 11: Student presentations; Covering vocabulary (VMChp8)

Week 12: Student presentations; Counting words and how many do you need to know? (Nation, 2006, How large?)

Week 13: Student presentations; How many do we know? (Brysaert, Stevens et al. 2016)

Week 14: How many do we know? (Brysaert, Stevens et al. 2016)

Week 15: Student presentations; When do you 'know' a word?

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation10%
Video watching grade30%
Presentation grade20%
2 presentations (10% each)
Anki grade30%
6 submissions during the semester
Final summary paper10%

・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare for class by watching at least 30 minutes of videos every week for homework and reporting back on your watching during class. Keep notes on class and at the end of the semester I will ask you to write a final summary paper (3 pages) talking about the issues we have discussed during the semester and applying them toward your learning of vocabulary during the semester.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Your efforts will guide what we explore in this class, so choose things you enjoy!

キーワード /Keywords

zemi, vocabulary, language learning, swear words, slang

英語学ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

In the second semester we will concentrate on dialectal features of English from around the world. Students are encouraged to choose any variety of English they are most interested in (American, British, Australian, Irish, Singaporean, etc.). We will examine vocabulary studies and students will think about which study they would like to replicate for their thesis in the second year.

教科書 /Textbooks

No textbook needed. Students will receive readings to do.

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Folse, Keith S. (2004) Vocabulary Myths: Applying second language research to classroom teaching. Ann Arbor: University of Michigan Press.

Nation, I.S.P. (2013) Learning Vocabulary in another language (Second edition). Cambridge University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Vocabulary pre-tests; Australian English
- Week 2: Canadian English; Reading for replication: Lu, 2008
- Week 3: British English
- Week 4: Indian English; Reading for replication: Stubbe, 2014
- Week 5: Dialects in Africa
- Week 6: Hawaiian Pigeon; Reading for replication: Kaneko, 2014
- Week 7: Student Presentation: Irish English
- Week 8: Student Presentation; Reading for replication: Shin & Nation, 2007
- Week 9: Student Presentation: New Zealand English
- Week 10: Student Presentation; Reading for replication: Sasao & Webb, 2017
- Week 11: Student Presentation: Singaporean English
- Week 12: Student Presentation; Reading for replication: Zou, 2017
- Week 13: Student Presentation: Southern USA dialect
- Week 14: Student Presentation; APA format; Structure of an article
- Week 15: Final choices for replication

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation30%
Video watching 20%
Presentation grade20%
2 presentations (10% each)
Anki grade30%
6 submissions during the semester

・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare for class by watching at least 30 minutes of videos every week for homework and reporting back on your watching during class (they should be about the type of English we studied the previous week). Spend 30 more minutes trying reading academic articles about vocabulary studies so you can discuss them in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

We will explore a number of different types of English this semester so think about what dialects you are most interested in!

キーワード /Keywords

zemi, vocabulary, language learning, dialect

英語教育ゼミ A1 【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、言語学と言語教育の有機的な関係に着目して、外国語（英語）教育の基本的な課題について理解を深め、基礎的な知識を得ることを目標とする。具体的には、外国語習得論、外国語学習者論、外国語指導法、外国語学習評価について英文の教科書や研究論文を読み、それらの内容について理解を深めるとともに教育実践への示唆を考察する。また、次回の授業内容を中心に、毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

初回授業時に知らせる。

第二言語習得に関する洋書を予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 言語教育学の研究
3. 外国語習得論 (概説)
4. 外国語習得論 (発表)
5. 外国語習得論 (発表及びまとめ)
6. 外国語学習者論 (概説)
7. 外国語学習者論 (発表)
8. 外国語学習者論 (発表及びまとめ)
9. 外国語指導法 (概説)
10. 外国語指導法 (発表)
11. 外国語指導法 (発表及びまとめ)
12. 外国語学習評価 (概説)
13. 外国語学習評価 (発表)
14. 外国語学習評価 (発表及びまとめ)
15. 言語教育学の課題

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は（１）授業参加に対する積極性（発言や質問など）30%、（２）レジユメの作成・提出および発表40%、（３）期末レポート30%によって評価する。レジユメの作成方法やレポートの形式は、授業中に説明する。

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 次回の授業で使用する教科書の範囲や論文を読み、発表や議論の準備をする。1時間～1時間半程度必要。

<事後学習> 指定の関連文献を読む。

履修上の注意 /Remarks

発表担当者は、発表前にレジユメの提出と自主練習を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での（相当の）準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

英語教育ゼミ AII 【昼】

担当者名 雪丸 尚美 / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教室における外国語（主に英語）教育の実践と理論研究にかかわる諸問題を広く取り上げながら、受講生が自分の問題意識を鮮明に持つことが出来るようになることを期待して進められる。そのため受講生は、自分が興味関心を持つテーマやトピックについて、各自で関連論文を読む積極的な学習態度が必要である。また、各自の問題意識を第二言語習得論や言語教育学（英語教育学など）における研究テーマへと発展させ、文献研究を中心としたリサーチを行い、APA Style（第7版）に沿った論文を執筆する。論文執筆はプロセスライティングの手法を用い、授業中に学生同士のピアレビューを実施する。これらの活動への積極的な参加を期待する。

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べる事ができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解度や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 言語教育学と研究方法
3. 言語教育学と教材研究 (概説及び発表)
4. 教材研究 (事例収集)
5. 教材研究 (事例発表・議論)
6. 教育言語学と学習・指導法研究 (概説)
7. 学習・指導法研究 (事例収集)
8. 学習・指導法研究 (事例発表・議論)
9. 教育言語学と言語活動研究 (概説)
10. 言語活動研究 (事例収集)
11. 言語活動研究 (事例発表・議論)
12. 教育言語学と評価方法研究 (概説)
13. 評価方法研究 (事例収集)
14. 評価方法研究 (事例発表・議論)
15. 教育言語学の研究課題

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は (1) 授業参加に対する積極性 (発言や質問など) 20%、 (2) レジユメの作成・提出および発表20%、 (3) ゼミ論文60%によって評価する。レジユメの作成方法や論文の形式は授業中に説明する。

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能 (一) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

< 事前学習 > 次回の授業で使用する論文を読み、発表・議論の準備をする。発表担当者は発表前にレジユメを提出し、自主練習を行う。毎回1時間～1時間半必要。

< 事後学習 > 指定の関連文献を読む。ゼミ論文の執筆を進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での (相当の) 準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ AI

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学研究に必要な基本的概念や理論を理解することを目的とします。AIでは言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究を紹介・解説し、変化や変異を引き起こす社会的要因や言語的要因を学びます。また言語調査を行うために必要な方法論の基礎知識を学びます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

【コミュニケーション力】ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

【自律的行動力】専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

○ Miriam Meyerhoff, Erik Schlee and Laurel MacKenzie. (2015) Doing Sociolinguistics: A practical guide to data collection and analysis. Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 社会言語学とは
- 3回 言葉のバリエーション：階級
- 4回 言語データの収集 / 自然談話録音
- 5回 言葉のバリエーション：年齢
- 6回 アンケート / 会話書き起こし
- 7回 言葉のバリエーション：コミュニティオブプラクティス
- 8回 データの整理・コーディング・集計
- 9回 言葉のバリエーション：スタイル
- 10回 フィールドワーク (1) 準備
- 11回 フィールドワーク (2) 実施
- 12回 フィールドワーク (3) データ分析
- 13回 データ分析結果発表
- 14回 調査結果の提示方法；ゼミレポートの書き方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...70%、レポート...30%。
欠席・遅刻はマイナス評価とし、欠席が授業回数の3分の1を超えた場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。単位取得には3分の2以上の出席が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学研究に必要な基本的概念や理論を理解することを目的とします。AIIでは学生が各自テーマを決め言語調査を行います。授業時に先行研究、言語データの収集方法や分析方法、調査結果を発表し、その内容について全員で議論します。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
- 【コミュニケーション力】ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 【自律的行動力】専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 言語調査プロジェクトについて
- 2回 文献検索
- 3回 テーマ発表
- 4回 研究発表の仕方
- 5回 学生による第1回研究発表(先行研究:第1グループ)
- 6回 学生による第1回研究発表(先行研究:第2グループ)
- 7回 学術論文の構成
- 8回 文献検索・発表準備
- 9回 学生による第2回研究発表(方法論:第1グループ)
- 10回 学生による第2回研究発表(方法論:第2グループ)
- 11回 方法論についての議論
- 12回 レポートの書き方・発表準備
- 13回 学生による第3回研究発表(結果:第1グループ)
- 14回 学生による第3回研究発表(結果:第2グループ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。
欠席・遅刻はマイナス評価とし、欠席が授業回数の3分の1を超えた場合は評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。単位取得には3分の2以上の出席が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

In this semester students will mainly focus on women's rights, feminism and equality. Students will look at the history of feminism focusing in the suffragette movement in the UK and the fight for the right to vote. Students will look at key female figures in history see how these women shaped the lives of future generations of women for the better. Students will follow the lives of Emmeline Pankhurst, Rosa Parks, Maya Angelou, Simone de Beauvoir, Coco Chanel, and they will also look at prominent women in the science.

All discussions will be conducted in English and at the end of this semester students will have a greater understanding of feminism and how is can improve the lives of women and men.

教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor each week.

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 The Suffragette Movement and the right to vote in the UK.
- 3回 Suffragette (Film): Women's rights are human rights
- 4回 Suffragette (Film): After the Suffragette Movement in the UK
- 5回 Famous Women I: Emmeline Pankhurst
- 6回 Feminism: Fact and Fiction
- 7回 Famous Women II: Simone de Beauvoir
- 8回 Celebrating diversity and the fight for equality.
- 9回 Famous Women III: Rosa Parks
- 10回 Famous Women IV: Maya Angelou
- 11回 What is the Gender Gap Report? How important is it?
- 12回 The Fight for Equal Pay I: Made in Dagenham
- 13回 Famous Women V: Coco Chanel
- 14回 Presentations
- 15回 Discussion and Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In-Class Assessment 50%

Homework 25%

Final Report 25%

授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are to prepare before each class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Suffrage, Women's Rights, Freedom

異文化間コミュニケーションゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
 コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
 自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

Students will continue to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will continue our weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. Our goal during the second year will be a greater intercultural awareness through student driven activities and research. A greater improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English will remain a primary goal.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led discussions A.
- 3回 Instructor-led discussions B.
- 4回 Instructor-led discussions C.
- 5回 Student-led discussion and outline presentations.
- 6回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7回 Presentations and discussion for student A.
- 8回 Presentations and discussion for student B.
- 9回 Presentations and discussion for student C.
- 10回 Presentations and discussion for student D.
- 11回 Presentations and discussion for student E.
- 12回 Presentations and discussion for student F.
- 13回 Presentations and discussion for student G.
- 14回 Presentations and discussion for student H.
- 15回 Final discussion and paper submission.

異文化間コミュニケーションゼミBI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(－)とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能(－)とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能(－)となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings.

After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

In this semester students will learn about period poverty, relationship poverty, inclusive relationship sex and health education, and human trafficking. Students will look at why these subjects are considered taboo in many societies.

As usual all discussions will be in English and students will learn how to use appropriate language when talking about these sensitive subjects.

教科書 /Textbooks

Material will be provided by the instructor each week

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to go to the library to look up references.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction
- Week 2: Workshop: Assertiveness
- Week 3: The gender data gap I
- Week 4: The gender data gap II
- Week 5: Period Poverty I
- Week 6: Period Poverty II
- Week 7: Relationship Poverty I
- Week 8: Relationship Poverty II
- Week 9: Workshop: Life Coaching
- Week 10: Inclusive Sex, Relationship, and Health Education I
- Week 11: Inclusive Sex, Relationship, and Health Education II
- Week 12: Human Trafficking
- Week 13: Human Trafficking
- Week 14: Presentations
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Homework assignments 25%
Presentations 25%

授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to prepare before each class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Gender, equality, freedom

異文化間コミュニケーションゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

During the second semester of this seminar, students will not only continue to examine their own interests in crossing cultures but they will try to sum up their overall viewpoints based upon a culmination of their own research and presentations. We will continue our weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. Our goal during the second year will be a greater intercultural awareness through student driven activities and research. A greater improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English will remain a primary goal.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and return of papers.
- 2回 Instructor-led discussion and workshop A.
- 3回 Instructor-led discussion and workshop B.
- 4回 Instructor-led discussion and workshop C.
- 5回 Instructor-led discussion and workshop D.
- 6回 Presentations and discussion for student A.
- 7回 Presentations and discussion for student B.
- 8回 Presentations and discussion for student C.
- 9回 Presentations and discussion for student D.
- 10回 Presentations and discussion for student E.
- 11回 Presentations and discussion for student F.
- 12回 Presentations and discussion for student G.
- 13回 Presentations and discussion for student H.
- 14回 Instructor-led discussion and workshop for review.
- 15回 Final discussion and paper submission.

異文化間コミュニケーションゼミBII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(－)とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能(－)とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能(－)となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.

For review students should apply the results of class discussions to their individual research topics. Students should pursue research tasks in relation to their own projects.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

通訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学びようとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

ゼミもいよいよ2年目となります。昨年のゼミは楽しく実践することができましたか。本年度はいよいよ英米学科での最終学年を迎えます。より充実したゼミになるように取り組みたいと思います。

このゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることを目標としています。しかし通訳訓練をすることにより、英語力を増強することはもちろん、通訳者に要求される背景知識や一般教養などの知見を少しずつ身に付けていくことは、必ずしも通訳者となることを目指さない方にとっても大きな意義のある学びとなるはずです。できるだけ広い視野にたってゼミを展開していきたいと考えています。

こうした考え方から、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思って取り組んできています。こうした訓練は、通訳を目指す人にとって有益だけでなく、英語を用いてコミュニケーション活動を行なっていくと必ず役立つはず。このゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミとして取り組んできました。

4年次の「通訳ゼミB-1」でも、さらにリスニング力を強化し、総合的な英語力をブラッシュアップしていきます。今学期も引き続きTED Talksを題材とした教材を用いて内容理解および英日通訳演習を行ない、また、日本語によるラジオ番組を英語に通訳する練習などを通じた日英通訳の訓練も継続していきます。昨年度と同様に、Moodle上にファイルやビデオをアップロードすることで、できるだけ質の高いゼミとしたいと願っています。卒業課題を視野に入れ、総仕上げに入りましょう。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

- ①思考・判断・表現力：グローバルな視点から社会の諸相を分析し、考えを述べることができる。
- ②コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- ③自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

「TEDTALKS Keynote 4」(GENGAGE Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』(イカロス出版)、また、向 謙治郎、丸山 祥夫(著)『中学英語で通訳ができる』(ジャパンタイムズ)などは参考になると思います。その他、必要に応じて授業の中で紹介することがあります。

通訳ゼミBI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回	ゼミ・オリエンテーション
第02回	Unit 1に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第03回	Unit 2に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第04回	Unit 3に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第05回	Unit 4に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第06回	ゼミ生のプレゼンテーション+通訳演習(1)
第07回	ゼミ生のプレゼンテーション+通訳演習(2)
第08回	Unit 5に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第09回	Unit 6に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第10回	Unit 7に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第11回	Unit 8に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第12回	Unit 9に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第13回	Unit 10に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第14回	Unit 11に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
第15回	Unit 12に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

実技・プレゼンテーション100%

※3回以上無断で欠席をした場合は、「評価不能(一)」となります。やむを得ず欠席をする場合は、(できるだけ事前に、接種の副反応などは後日で良いので)必ずメール等でご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleを併用し、通常の練習メニューの提供や、予習箇所の指示を行いません。また、演習科目の常として、復習や振り返りをじゅうぶんになさってください。

履修上の注意 /Remarks

主要教材として用いるTED Talksはゼミの中では編集版を用いますが、ノーカット版をウェブサイトで見ることができますので、ゼミの前の準備や、ゼミ後の復習の時に積極的に用いていただきたいと思います。普段から英語に触れる時間を取って、英語に親しむ習慣を持っていただけると嬉しいです。頑張りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよ最終学年のゼミですね。この1年間は、就活、教育実習等で勉学に集中しにくい1年になるかも知れません。しかし、皆さんにとって、ここでしっかり学んでおくことは、将来への投資になると思います。今年も一緒に楽しく学んでいきましょう。

キーワード /Keywords

通訳技術の修練、プレゼンテーション力の向上、背景知識の強化

通訳ゼミBII【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学びようとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB II

SEM414M

授業の概要 /Course Description

いよいよ最後のゼミが始まります。このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにすることを目標に取り組んできました。こうした訓練は、通訳を目指す人にとって有益なだけでなく、英語を用いてコミュニケーション活動を行なっていくと必ず役立つはずだからです。これまで、語学面のトレーニングと教養や知識の獲得を主柱に取り組んできたゼミの総仕上げとして、4年次2学期は、英語スピーチを教材に英語の論理展開に習熟し、予測しながら聞く、論理的に通訳する、といった課題に重点的に取り組みます。また、日本語によるラジオ番組を英語に通訳する練習などを通じた日英通訳の訓練も継続していきます。卒業課題に向けてラストスパートです。卒業課題のための実技録画会は12月を予定しています。それとともに、そこでの実技の振り返りとなる文章を用意していただくこととなります。最後までどうぞよろしくお願いいたします。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

- ①思考・判断・表現力：グローバルな視点から社会の諸相を分析し、考えを述べることができる。
- ②コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- ③自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

『英語で聴く世界を変えた感動の名スピーチ』(KADOKAWA)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』(イカロス出版)、また、向 鎌治郎、丸山 祥夫(著)『中学英語で通訳ができる』(ジャパンタイムズ)などは参考になると思います。その他、必要に応じて授業の中で紹介することがあります。

通訳ゼミBII【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
 - 第02回 「山中伸弥ノーベル賞受賞記念演説」Part 1
 - 第03回 「山中伸弥ノーベル賞受賞記念演説」Part 2
 - 第04回 「マララ・ユスフザイ国連演説」Part 1
 - 第05回 「マララ・ユスフザイ国連演説」Part 2
 - 第06回 「ネルソン・マンデラ釈放後発の演説」Part 1
 - 第07回 「ネルソン・マンデラ釈放後発の演説」Part 2
 - 第08回 「ミハイル・ゴルバチョフ大統領辞任演説」
 - 第09回 「ヘレン・ケラー米国聴覚障害者言語指導促進協会での演説」
 - 第10回 「ケネディ大統領就任演説」
 - 第11回 卒業課題：通訳発表会のための準備練習
 - 第12回 卒業課題：通訳発表会（録画します）
 - 第13回 クリスマス特別メニュー(オンラインのみ)
 - 第14回 「マーティン・ルーサー・キング牧師ワシントン大行進演説」Part 1
 - 第15回 「マーティン・ルーサー・キング牧師ワシントン大行進演説」Part 2
- ※この予定は暫定的なもので、取り上げるスピーチ、また卒業課題となるスピーチの選定にあたっては、実際にゼミの中で相談して決めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。
 実技・プレゼンテーション100%
 ※3回以上無断で欠席をした場合は、「評価不能(一)」となります。やむを得ず欠席をする場合は、(できるだけ事前に、接種の副反応などは後日
 で良いので)必ずメール等でご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleを併用し、通常の練習メニューの提供や、予習箇所の指示を行ないます。また、演習科目の常として、復習や振り返りをじゅうぶんになさってください。

履修上の注意 /Remarks

卒業課題では、スピーチの通訳をしていただきますので、メモを取りながら聞き、通訳するという手順に習熟していただく必要があります。これまでの3学期間のゼミで磨いてきたスキルを活かして頑張ってくださいと思います。卒業課題の録画会は全員が出席できる日程を調整して行なうため、授業計画とずれることが予想されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最後の学期を迎えました。ここまでご苦労様でした。卒業課題のための発表会は、12月中旬を予定しています。2年間のゼミ、4年間の学びの集大成です。もう一頑張りですね。

キーワード /Keywords

通訳技術の修練、プレゼンテーション力の向上、背景知識の強化

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
 自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週までに用意・指示しておく。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。授業内で問題点を指摘し、読むべき文献を適宜指導する。
 ※ 翻訳対象は学生との話し合いにより決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 イントロダクション
- 2回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (0:00-5:00)
- 3回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (5:01-10:00)
- 4回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (10:01-15:00)
- 5回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (15:01-20:00)
- 6回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (20:01-25:00)
- 7回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (25:01-30:00)
- 8回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (30:01-35:00)
- 9回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (35:01-40:00)
- 10回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (40:01-45:00)
- 11回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (45:01-50:00)
- 12回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (50:01-55:00)
- 13回 【翻訳&発表】'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (55:01-1:00:00)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
ディスカッションへの積極的参加 40%
5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

P (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。

コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

As we continue to look at Japanese to English translation in a range of different mediums, we will start to interlace the theoretical aspects of Translation Studies into class to provide an academic perspective on the nature of translation. Students will be encouraged to focus on the aspects that they find the most interesting, both in terms of materials for translation and in terms of the theoretical aspects to contemplate.

教科書 /Textbooks

None.

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Discussed in class when appropriate.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Student focused session (1)
- 第3回 Student focused session (2)
- 第4回 Student focused session (3)
- 第5回 Student focused session (4)
- 第6回 Student focused session (5)
- 第7回 Student focused session (6)
- 第8回 Student focused session (7)
- 第9回 Student focused session (8)
- 第10回 Student focused session (9)
- 第11回 Student focused session (10)
- 第12回 Student focused session (11)
- 第13回 Student focused session (12)
- 第14回 Student focused session (13)
- 第15回 Concluding session

翻訳ゼミBI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 50%
Report 50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
 自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週までに用意・指示しておく。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。授業内で問題点を指摘し、読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いにより決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 イントロダクション
- 2回 【翻訳&発表】 'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (1:00:01-1:05:00)
- 3回 【翻訳&発表】 'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (1:05:01-1:10:00)
- 4回 【翻訳&発表】 'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (1:10:01-1:15:00)
- 5回 【翻訳&発表】 'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (1:15:01-1:20:00)
- 6回 【翻訳&発表】 'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (1:20:01-1:25:00)
- 7回 【翻訳&発表】 'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (1:25:01-1:30:00)
- 8回 【翻訳&発表】 'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (1:30:01-1:35:00)
- 9回 【翻訳&発表】 'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (1:35:01-1:40:00)
- 10回 【翻訳&発表】 'St. Trinians 2: The Legend of Fritton's Gold' (1:40:01-1:45:00)
- 11回 ディスカッション
- 12回 卒業課題報告1
- 13回 卒業課題報告2
- 14回 卒業課題報告3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
ディスカッションへの積極的参加 40%
5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This semester our focus will be on ensuring that you all receive the support and input needed to complete your 卒業課題 to a level that leaves us all satisfied with the end results. As such, the focus will be on drawing together the aspects of translation theory and the experiences of translation you have thus far so that you can finish your time at university with a feeling of accomplishment.

教科書 /Textbooks

None.

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Discussed in class when appropriate.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Student focused session (1)
- 第3回 Student focused session (2)
- 第4回 Student focused session (3)
- 第5回 Student focused session (4)
- 第6回 Student focused session (5)
- 第7回 Student focused session (6)
- 第8回 Student focused session (7)
- 第9回 Student focused session (8)
- 第10回 Student focused session (9)
- 第11回 Student focused session (10)
- 第12回 Student focused session (11)
- 第13回 Student focused session (12)
- 第14回 Student focused session (13)
- 第15回 Concluding session

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 50%
In-class work 50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミB1【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB I

SEM413M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。

コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

本ゼミナールは、インターネットに代表されるビジネスエコシステムを研究するものです。

ゼミナールでは経営学全般を扱うため、研究テーマはビジネスに関することなら自由に決めることができます。

4年次の「ゼミB1」においては、研究のやり方、手法、研究論文の構成などを習得することを目標とします。

また、ビジネスや研究についての必要文献の発表を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミの中で、資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 introduction
第2回 研究手法 / 論文作成手法
第3回 研究手法 / 論文作成手法
第4回 研究手法 / 論文作成手法
第5回 研究手法 / 論文作成手法
第6回 研究手法 / 論文作成手法
第7回 研究手法 / 論文作成手法
第8回 Mid term review
第9回 研究手法 / 論文作成手法
第10回 研究手法 / 論文作成手法
第11回 研究手法 / 論文作成手法
第12回 研究手法 / 論文作成手法
第13回 研究手法 / 論文作成手法
第14回 研究手法 / 論文作成手法
第15回 Wrap-up

(適宜、スケジュール・内容を変更します)

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの貢献(発言、作業) - 50%
発表・レポート - 50%
・ 担当教員に相談なく授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:発表・活動などの、準備をします。
事後学習:発表を元に、卒業研究をまとめます。

履修上の注意 /Remarks

年末に、卒業論文を提出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく進めましょう。

キーワード /Keywords

経営学、ビジネス、イノベーション、インターネット、リサーチ

ビジネス英語ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

The general course objective is to give students the opportunity to develop knowledge of the Tourism Industry.

The specific objectives of the course are:

- Students will be able to learn the language and specialized terminology required in the Tourism Industry.
- Acquire professional skills required in the service industry.
- Analyze Case Studies.
- Discuss innovating trends

教科書 /Textbooks

Tourism: Principles and Practice (English Edition) 6th Edition, Kindle Edition

Authors: John Fletcher, Alan Fyall, David Gilbert and Stephen Wanhill

Publisher: Pearson

Year: November 2017

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388

*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Introduction of Tourism Management, Tourism Policy I and II.

This course will cover only part 4 of the textbook.

(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Managing Marketing for Tourism.
- 2- Managing Marketing for Tourism.
- 3- Managing Marketing for Tourism.
- 4- Managing Marketing for Tourism.
- 5- Marketing Planning.
- 6- Marketing Planning.
- 7- Marketing Planning.
- 8- Marketing Mix Applications.
- 9- Marketing Mix Applications.
- 10- Marketing Mix Applications.
- 11- Marketing Mix Applications.
- 12- Information Technology in Tourism.
- 13- Information Technology in Tourism.
- 14- Information Technology in Tourism.
- 15- Presentation of Final Paper.

成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing, 25% Final Presentation; 25% Final Paper.

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

or

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

Please buy an electronic version of the textbook online at amazon.co.jp

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388

*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Introduction of Tourism Management, Tourism Policy I and II.

This course will cover only part 4 of the textbook.

(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to seeing you in class!

キーワード /Keywords

Tourism, Management, Destination, Customer, Service, Business.

ビジネス英語ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。

コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

The focus of this seminar is to learn about topics in the broad field of finance. It will extend on the topics looked at in the previous year to deepen students knowledge about finance. The main goal of this seminar is to gain a deeper understanding about topics in finance which the students are interested in. The second goal is to utilize the academic writing techniques studied last year, and produce high quality written reports on topics of interest. At the end of the year, students are expected to submit a graduation thesis in English, using the knowledge and techniques learned over the two years in the finance seminar.

教科書 /Textbooks

No set textbook.

Relevant materials will be distributed in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional references may be recommended during class.

ビジネス英語ゼミBI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Overview of the seminar
2. Review of academic writing
3. Finance topic 1
4. Finance topic 2
5. Finance topic 3
6. Finance topic 4
7. Finance topic 5
8. Finance topic 6
9. Academic writing
10. Finance topic 7
11. Finance topic 8
12. Student presentations 1
13. Student presentations 2
14. Student presentations 3
15. Review

The topics will be chosen based on the students interests.

(Note: Class schedule could be changed)

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	30%
Homework	30%
Presentation & report	40%

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一). 5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Do the homework activities which are set.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Finance, academic writing.

ビジネス英語ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

This seminar will explore a rising interest in global business – how to successfully lead human resources and organizations in progressively internationalizing operations. We will focus on the cross-cultural management aspect of this topic.

教科書 /Textbooks

Riding the Waves of Culture: Understanding Diversity in Global Business 4th Edition By Fons Trompenaars, Charles Hampden-Turner
(The university bookstore has been requested to stock this textbook)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be explained

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1, 2 Toward international management
- 3 Cross-cultural boundary spanning
- 4 Discussing students' focal study themes
- 5, 6 National cultures and corporate culture
- 7, 8 Managing change across cultures
- 9 Review
- 10 Reconciling cultural dilemma
- 11 Cultural integration during mergers and acquisitions
- 12 Creating a culture of innovation
- 13 Review of understanding
- 14 Explaining to others (what have you learned)
- 15 Final presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be evaluated on their participation in discussions, class presentations and their semester project. The semester project could be a conventional paper, but other ideas such as a video production, poem composition or even a group output can be considered. For the seminar project, I am open to any kind of creativity that could be assessed. Please discuss your ideas with me within the first four weeks of the start of the semester.

Note: Students may be assessed as unable-to-evaluate (—) in case of more than one-third deficiency in any assessment criteria, including class participation, assignments and quizzes etc.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Students will be expected to prepare thoroughly for each class through reading the assigned readings and watching the assigned videos and studying the relevant vocabulary.
- Review of the material covered will be needed to prepare assignments.
- Assignments will involve teamwork.

履修上の注意 /Remarks

In line with the philosophy and purpose of The University of Kitakyushu, the seminar will promote a research orientation that connects Kitakyushu to Asia and other parts of the world.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is a global business oriented course that goes beyond the importance of etiquette and local customs.

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
 自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

本ゼミナールは、インターネットに代表されるビジネスエコシステムを研究するものです。
 ゼミナールでは経営学全般を扱うため、研究テーマはビジネスに関することなら自由に決めることができます。

4年次の「ゼミB2」においては、研究を論文にまとめることを目標とします。
 また機会があれば、学内外で発表することも目指します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミの中で、資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 introduction
- 第2回 卒業研究
- 第3回 卒業研究
- 第4回 卒業研究
- 第5回 卒業研究
- 第6回 卒業研究
- 第7回 卒業研究
- 第8回 卒業研究
- 第9回 卒業研究
- 第10回 卒業研究
- 第11回 卒業研究
- 第12回 卒業論文仮完成
- 第13回 卒業論文仮完成
- 第14回 卒業論文集調整
- 第15回 卒業論文発表会

(適宜、スケジュール・内容を変更します)

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの貢献(発言、作業) - 50%
卒業研究 - 50%
・ 担当教員に相談なく授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:卒業研究発表の準備をします。
事後学習:卒業研究をまとめます。

履修上の注意 /Remarks

年末に、卒業論文を提出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく進めましょう。

キーワード /Keywords

経営学、ビジネス、イノベーション、インターネット、リサーチ

ビジネス英語ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

The general course objective is to give students the opportunity to develop knowledge of the Tourism Industry.
The specific objectives of the course are:
-Students will be able to learn the language and specialized terminology required in the Tourism Industry.
-Acquire professional skills required in the service industry.
-Analyze Case Studies.
-Discuss innovating trends

教科書 /Textbooks

Tourism: Principles and Practice (English Edition) 6th Edition, Kindle Edition
Authors: John Fletcher, Alan Fyall, David Gilbert and Stephen Wanhill
Publisher: Pearson
Year: November 2017
Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388
*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Introduction of Tourism Management, Tourism Policy I and II.
This course will cover only part 4 of the textbook.
(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Managing Marketing for Tourism.
- 2- Managing Marketing for Tourism.
- 3- Managing Marketing for Tourism.
- 4- Managing Marketing for Tourism.
- 5- Marketing Planning.
- 6- Marketing Planning.
- 7- Marketing Planning.
- 8- Marketing Mix Applications.
- 9- Marketing Mix Applications.
- 10- Marketing Mix Applications.
- 11- Marketing Mix Applications.
- 12- Information Technology in Tourism.
- 13- Information Technology in Tourism.
- 14- Information Technology in Tourism.
- 15- Presentation of Final Paper.

成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing, 25% Final Presentation; 25% Final Paper.

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

or

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

Please buy an electronic version of the textbook online at amazon.co.jp

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥5,388

*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Introduction of Tourism Management, Tourism Policy I and II.

This course will cover only part 4 of the textbook.

(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to seeing you in class!

キーワード /Keywords

Tourism, Management, Destination, Customer, Service, Business.

ビジネス英語ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

The focus of this seminar is to learn about topics in the broad field of finance. It will extend on the topics looked at in the previous year to deepen students knowledge about finance. The main goal of this seminar is to gain a deeper understanding about topics in finance which the students are interested in. The second goal is to utilize the academic writing techniques studied last year, and produce high quality written reports on topics of interest. At the end of the year, students are expected to submit a graduation thesis in English, using the knowledge and techniques learned over the two years in the finance seminar.

教科書 /Textbooks

No set textbook.

Relevant materials will be distributed in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional references may be recommended during class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Overview of the seminar
2. Presentation skills
3. Research update presentations 1
4. Research update presentations 2
5. Finance topic 1
6. Research update presentations 3
7. Research update presentations 4
8. Finance topic 2
9. Research update presentations 5
10. Research update presentations 6
11. Finance topic 3
12. Graduation thesis presentations 1
13. Graduation thesis presentations 2
14. Graduation thesis presentations 3
15. Review

The topics will be chosen based on the students interests.

(Note: Class schedule could be changed)

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	30%
Presentation	20%
Final report	50%

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (－). 5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Do the homework activities which are set.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Finance, academic writing.

ビジネス英語ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

This seminar will explore a rising interest in global business – how to successfully lead human resources and organizations in progressively internationalizing operations. We will focus on the cross-cultural management aspect of this topic.

教科書 /Textbooks

Riding the Waves of Culture: Understanding Diversity in Global Business 4th Edition By Fons Trompenaars, Charles Hampden-Turner
(The university bookstore has been requested to stock this textbook)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will designate additional references as needed, especially The Economist and Nikkei Asia.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Developing digital leaders
- 2 Ethics across cultures
- 3 Cross-cultural boundary spanning
- 4 Discussing students' focal study themes
- 5 Gender and gender roles
- 6 Advanced readings in cross-cultural management
- 7 Advanced readings in cross-cultural management
- 8 Advanced readings in cross-cultural management
- 9 Review
- 10, 11 Discussing students' focal study themes
- 12 Advanced readings
- 13 Advanced readings
- 14 Final presentations
- 15 Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be evaluated on their participation in discussions, class presentations and their semester project. The semester project could be a conventional paper, but other ideas such as a video production, poem composition or even a group output can be considered. For the seminar project, I am open to any kind of creativity that could be assessed. Please discuss your ideas with me within the first four weeks of the start of the semester.

Note: Students may be assessed as unable-to-evaluate (—) in case of more than one-third deficiency in any assessment criteria, including class participation, assignments and quizzes etc.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Students will be expected to prepare thoroughly for each class through reading the assigned readings and watching the assigned videos and studying the relevant vocabulary.
- Review of the material covered will be needed to prepare assignments.
- Assignments will involve teamwork.

履修上の注意 /Remarks

In line with the philosophy and purpose of The University of Kitakyushu, the seminar will promote a research orientation that connects Kitakyushu to Asia and other parts of the world.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is a global business oriented course that goes beyond the importance of etiquette and local customs.

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミB1【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB I

SEM413M

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

DP に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

メディア英語ゼミ B 1 offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led class 1: Theory and Logic
- 3回 Instructor-led class 2: Supporting Arguments
- 4回 Instructor-led class 3: Presentation Skills
- 5回 Student-led class A (presentation + discussion)
- 6回 Student-led class B (presentation + discussion)
- 7回 Student-led class C (presentation + discussion)
- 8回 Student-led class D (presentation + discussion)
- 9回 Student-led class E (presentation + discussion)
- 10回 Student-led class F (presentation + discussion)
- 11回 Student-led class G (presentation + discussion)
- 12回 Student-led class H (presentation + discussion)
- 13回 Student-led class I (presentation + discussion)
- 14回 Student-led class J (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

メディア英語ゼミBI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of research-based presentation and literature review ... 100%

Please note that if you are absent from more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare comments and questions to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBII 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB II

SEM414M

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

DP に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

メディア英語ゼミB 2 offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Developing research skills
- 2回 Instructor-led class 1: Redefining 'Media & Culture'
- 3回 Instructor-led class 2: Source Material Selection
- 4回 Instructor-led class 3: The Uses of Theory
- 5回 Student-led class A (presentation + discussion)
- 6回 Student-led class B (presentation + discussion)
- 7回 Student-led class C (presentation + discussion)
- 8回 Student-led class D (presentation + discussion)
- 9回 Student-led class E (presentation + discussion)
- 10回 Student-led class F (presentation + discussion)
- 11回 Student-led class G (presentation + discussion)
- 12回 Student-led class H (presentation + discussion)
- 13回 Student-led class I (presentation + discussion)
- 14回 Student-led class J (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of research presentation and research-related report ... 100%

Please note that if you are absent from more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This course will have three main parts. First: we will focus on the history and significance of several famous neighborhoods in Manhattan. The objective of this course will be for you to learn more about NYC on a “local level” and gain a historical perspective of Manhattan’s architecture and culture by researching neighborhoods and presenting information about the history of these specific areas. Each week, we will learn about two famous neighborhoods in Manhattan. You will be given several names of neighborhoods to research. You will need to find 3 Internet sites that deal with that address and take notes about the neighborhood: any famous people who lived there, what specific architecture is important (you cannot talk about all of them, so choose a few specific places), what famous events occurred in the neighborhood? Some of the locations no longer exist because of changes to the city. You will be expected to be able to explain about the neighborhood you researched.

Second: each week you must also find a news article that in some way deals with the American Dream (in your opinion). It can be on any type of news in the United States (it does not always have to be “new” news). You will be expected to talk about the news article in class. You need to ○1 summarize the news article, ○2 explain why you chose the news story, ○3 explain how you think it relates to the American Dream (in some way—doesn’t have to be overly obvious), and then ○4 ask a question about the news article. Each week, you need to post a link to the news article on Moodle no later than Thursday morning. That way, I have a chance to read the article before class. I look forward to seeing the interesting news you find and hearing your thoughts about how it relates to the American Dream.

Third: we will be reading short sections of literature each week and discussing the author’s life. You will be required to do the reading for this material before class and come to class with some type of question about the reading.

教科書 /Textbooks

LEVITHAN David, Love is the Higher Law, Knopf Books for Young Readers; (August 25, 2009)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

You will need to do a book review on a book about NYC.

I will provide you an extensive list of interesting books; from this list, you must choose one book to write a two-page book review.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course overview and thematic elements of the semester;
2. Novel reading, Essay revision requirements
3. novel reading, Topic: Walt Whitman
4. novel reading, Topic: Edith Wharton
5. novel reading, Topic: Langston Hughes
6. novel reading, Topic: Kenneth Fearing
7. novel reading, Topic: F. Scott Fitzgerald
8. novel reading, Topic: Henry Miller
9. novel reading, Topic: E. B. White
10. novel reading, Topic: Jack Kerouac
11. novel reading, Topic: Allen Ginsberg
12. Finish the novel reading, Topic: Don DeLillo
13. Reading Topic: Paul Auster
14. Essay Workshop
15. Final presentations, final essay due.

成績評価の方法 /Assessment Method

Research essays revisions and Introduction draft: 25%
 Book review: 20%
 Topic Presentations: 15%
 3 Reading summaries, 3 character analyses: 20%
 Weekly news article submission and discussion: 10%
 Manhattan Neighborhood assignments: 10%

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
 If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any form of plagiarism (i.e. copy and pasting text from the internet) will result in a failing grade (D).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You are required to purchase the novel by the second class.

履修上の注意 /Remarks

Active participation and coming to class prepared will be expected.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Historic locations in Manhattan
 Famous writers
 New York City
 Reading about New York
 Character analysis

アメリカ研究ゼミBI【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

3年次のゼミを通じて得たアメリカ研究や英語圏文学に関わる基礎的知識を踏まえて卒業課題の研究を推進する。リサーチ方法を身につけるとともに、先行研究の調査を進めて研究テーマを絞り込む。研究の進捗状況に即して段階的にゼミ生間で意見交換の機会を持つことで研究を加速させる。並行してMark TwainのAdventures of Huckleberry Finnの輪読を行い、研究方法の理解や専門的知識を深めていく。

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

- 《思考・判断・表現力》ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。
- 《コミュニケーション力》ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 《自律的行動力》専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn (Mark Twain) 第4版, W. W. Norton, 2021. (ISBN: 978-0393284164)
※事前にアマゾンや生協で発注して購入し、読み進めておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Neil Campbell and Alasdair Kean. American Cultural Studies. Routledge, 2015.
Ania Loomba. Colonialism/Postcolonialism. Routledge, 2015.
○マーク・トウェイン著、柴田元幸訳『ハックルベリー・フィンの冒げん』研究社、2017年。
その他、適宜、授業内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、研究テーマと研究計画の確認
- 2回 リサーチ方法の確認：図書館の活用、Huckleberry Finn I～IV.
- 3回 リサーチ方法の確認：インターネット資料の活用、Huckleberry Finn V～VIII
- 4回 文献リストの作成、研究計画の確定、Huckleberry Finn IX～XII
- 5回 Work-in-progress presentation (先行研究の報告と評価 1) Huckleberry Finn XIII～XVI
- 6回 Work-in-progress presentation (先行研究の報告と評価 2) Huckleberry Finn XVII～XX
- 7回 Work-in-progress presentation (先行研究の報告と評価 3) Huckleberry Finn XXI～XXIV
- 8回 Work-in-progress presentation (先行研究の報告と評価 4) Huckleberry Finn XXV～XXVIII
- 9回 Work-in-progress presentation (中間報告 1) Huckleberry Finn XXIX～XXXII
- 10回 Work-in-progress presentation (中間報告 2) Huckleberry Finn XXXIII～XXXVI
- 11回 Work-in-progress presentation (中間報告 3) Huckleberry Finn XXXVII～XL
- 12回 アウトラインの作成、Huckleberry Finn XLI～The Last
- 13回 Work-in-progress presentation (アウトラインの提出・ディスカッション 1)
- 14回 Work-in-progress presentation (アウトラインの提出・ディスカッション 2)
- 15回 卒業論文の構想の発表

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業における活動... 50%
課題（小論文等）... 50%

※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に向けて課題の準備を行うとともに、授業後は授業内容を整理して、自分の卒業課題研究に生かすこと。
指定された文献等がある場合は、確実に指定範囲の予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

卒業課題に計画的に取り組み、確実に状況報告を行うこと。
オンラインのアーカイブ図書館を適宜参照するため、インターネットにアクセスできる環境を整えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に議論に参加してください。

キーワード /Keywords

cultural identity, cultural diversity, postcolonial theory, thesis writing

アメリカ研究ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This final semester will focus on three important areas: revising, writing and analysis. You will be responsible for revising your two prior essays and the book review in order to prepare a solid senior thesis for The University of Kitakyushu graduation essay library. In addition to revising the prior essays, you will be required to write a seven-page general introduction to your themes and topics. This introduction can include some of the themes that we discussed throughout the last three semesters. I recommend you look back at the prior syllabi to recall the themes we discussed in order to utilize specific topics that fit with your essays. Also, you should include in the introduction some reference to the texts that we read during the last three semesters. There are many ways in which those texts fit in with your essays. Finally, we will be watching several films this semester, all set within New York City. You may include any of these films in your introduction. For each film, you must write a one page, two-paragraph analysis of the film. If you miss one class, you will be responsible for locating the film and watching it on your own time.

教科書 /Textbooks

No textbooks required.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references required.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Class overview, thematic content of the movies and course
2. Movie 1, part 1
3. Movie 1, part 2; Paper overview, review.
4. Movie #1 Summary due; Movie 2, part 1
5. Movie 2, part 2; paper review
6. Movie #2 Summary due; Movie 3, part 1
7. Movie 3, part 2; paper review
8. Movie #3 Summary due; Movie 4, part 1
9. Movie 4, part 2; paper review
10. Movie #4 Summary due; Movie 5, part 1
11. Movie 6, part 2; paper review
12. Movie #5 Summary due; Movie 6, part 1
13. Movie 6, part 2; paper review; Senior Thesis DUE
14. Movie #6 Summary due; Movie 7, part 1
15. Final Presentation; Movie 7, part 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: (20%);
6 Movie analyses: (20%);
Two essay and book review revisions/Visit international student tutors (paused due to Covid): 25%;
Final senior project thesis (35%).

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any form of plagiarism (i.e. copy and pasting text from the internet) will result in a failing grade (D).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Attendance is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively participate. For our small class, it is important that you come to class prepared and ready to discuss your opinions.

履修上の注意 /Remarks

If you miss a class, it will be your responsibility to finish watching the movie (start watching) and complete the movie analysis on-time.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

In this course, students will:

- Intellectually engage in watching and discussing New York City based movies
- Analyze films for content related to New York City culture
- Pay strict attention to the music, setting, themes, topics and dialogue of the films set in New York City

Major requirements:

- Speaking only in English during class period
- Write one movie analysis per film watched
- Revise all both previous essays and book review, making sure to include correct MLA format
- One 6-page introduction to the research essays (and final presentation)

キーワード /Keywords

Film analysis
New York City
Film studies
Cultural analysis
Film analysis writing

アメリカ研究ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

卒業課題の研究を推進する。授業では各ゼミ生は研究の進捗状況に即して段階的に研究報告を行う。先行研究や資料収集、研究調査や分析を進めながら、学術論文のスタイルに即した論文を執筆する。

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

- 《思考・判断・表現力》ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。
- 《コミュニケーション力》ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 《自律的行動力》専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、卒業課題研究の進捗状況の報告、研究計画の確認
- 2回 Work-in-progress presentation (第一稿に基づく意見交換 1)
- 3回 Work-in-progress presentation (第一稿に基づく意見交換 2)
- 4回 Work-in-progress presentation (第一稿に基づく意見交換 3)
- 5回 Work-in-progress presentation (推敲 1)
- 6回 Work-in-progress presentation (推敲 2)
- 7回 Work-in-progress presentation (推敲 3)
- 8回 Work-in-progress presentation (第二稿に基づく意見交換 1) ・ 英文校正 1
- 9回 Work-in-progress presentation (第二稿に基づく意見交換 2) ・ 英文校正 2
- 10回 Work-in-progress presentation (第二稿に基づく意見交換 2) ・ 英文校正 3
- 11回 Work-in-progress presentation (推敲 4)
- 12回 Work-in-progress presentation (推敲 5)
- 13回 Work-in-progress presentation (推敲 6)
- 14回 卒業課題の研究発表 1
- 15回 卒業課題の研究発表 2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業における活動 ... 50%
課題 (小論文等) ... 50%

※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能 (-) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予め報告準備を行うとともに、報告後はフィードバックを整理し、自分の研究に生かすこと。
指定された文献等がある場合は、確実に指定範囲の予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

卒業課題研究に計画的に取り組み、確実に状況報告を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に議論に参加してください。

キーワード /Keywords

cultural identity, cultural diversity, postcolonial theory, thesis writing

イギリス研究ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。

思考・判断・表現力：正しく英語を理解し、映像を活かして訳文の可能性を探求することができる。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢を有している。

当ゼミでは「イギリス・アイルランドの文化、社会」を研究対象とする。研究対象にはミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス・アイルランド文学の作家やマザーグース（イギリス伝承童謡）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学、あるいは、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ロックやファッションといったサブカルチャーを扱うこともあるが、常に個々の現象の背後にある文化、社会、歴史を深く掘り下げることを心がけたい。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。発表は英語で行い、ディスカッションも英語を原則とするが、内容が複雑になってくると日本語に切り替えて話を進める。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらいの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

イギリス研究ゼミBI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 1)
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 2)
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 1)
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 2)
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 3)
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 4)
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 1)
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 2)
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 3)
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 4)
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 1)
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 2)
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 3)
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 4)
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション (まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 30%、発表 40%、ディスカッションへの参加 30%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能 (一) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

ゼミでは受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

キーワード /Keywords

イギリス研究ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB II

SEM414M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。

思考・判断・表現力：正しく英語を理解し、映像を活かして訳文の可能性を探求することができる。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢を有している。

当ゼミでは「イギリス・アイルランドの文化、社会」を研究対象とする。研究対象にはミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス・アイルランド文学の作家やマザーグース（イギリス伝承童謡）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学、あるいは、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ロックやファッションといったサブカルチャーを扱うこともあるが、常に個々の現象の背後にある文化、社会、歴史を深く掘り下げることを心がけたい。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。発表は英語で行い、ディスカッションも英語を原則とするが、内容が複雑になってくると日本語に切り替えて話を進める。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらいの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

イギリス研究ゼミBII 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 1)
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 2)
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 1)
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 2)
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 3)
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 4)
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 1)
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 2)
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 3)
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 4)
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 1)
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 2)
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 3)
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 4)
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション (まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 30%、発表 40%、ディスカッションへの参加 30%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能 (ー) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

ゼミでは受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

英語学ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

In this course we begin work on your graduate thesis. We will work together this semester on a project where we will read literature in order to write up a literature review, plan an experiment that we can administer to participants and practice writing up the experimental protocol, gather results and analyze them for the results section of an experimental paper, and then write up the conclusions from the paper. It will in fact be a group research project that everyone will have a hand in designing and carrying out, and every student will write their own paper. In this way, all students will be prepared to conduct their senior thesis.

教科書 /Textbooks

We will be reading academic articles that will be provided so no textbook is needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Porte, Graeme (2010). Appraising research in second language learning: a practical approach to critical analysis of quantitative research.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Brainstorming ideas to test
- Week 2: Article #1: Writing an introduction
- Week 3: Article #2: Summarizing info from articles
- Week 4: Planning the experiment, details of experiment
- Week 5: Article #3: More practice summarizing studies
- Week 6: Firm up details of experiment, begin writing experimental protocol
- Week 7: Begin testing; continue writing experimental protocol
- Week 8: Finish testing, creating results file
- Week 9: Analyzing results statistically
- Week 10: Writing results
- Week 11: Graphics for results
- Week 12: Understanding statistics
- Week 13: Writing a conclusion
- Week 14: Bibliography, putting the paper together
- Week 15: Presentation of paper

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework (coming to class prepared with first draft of parts of article): 40%
Participation in class: 10%
Final paper: 50%

・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

The preparation for this class will sometimes consist of reading articles and writing up some part of a paper; Sometimes the preparation will involve testing participants; Sometimes the preparation will consist of practice with reading certain sections of academic articles and trying to understand them (statistics) or making graphics.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

second language acquisition; thesis; mini-project

英語学ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

- Learn principles of Second Language Acquisition so that you could talk about them and explain them to other people (including issues of how age affects language learning, what kinds of input are best for language learners, how to correct grammar, how personality or anxiety affects language learning, etc.)
- Learn vocabulary in order to read academic articles more quickly and accurately
- Learn the parts of an experimental research paper to prepare for writing your own paper

教科書 /Textbooks

Brown & Larson-Hall (2012). Second Language Acquisition Myths, Michigan Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Skehan & Arnold (1989). Individual differences in second-language learning. ○
Ritchie & Bhatia (Eds.) (2009). The new handbook of second language acquisition. ○
Ellis. (1997). Second Language Acquisition.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction, the role of Age in language learning (LL)
Week 2: Teaching methods
Week 3: Bilingualism
Week 4: Input
Week 5: Interaction
Week 6: Output
Week 7: Attention
Week 8: Noticing
Week 9: Explicit vs. Implicit learning
Week 10: Developmental sequences
Week 11: Correction
Week 12: Individual differences
Week 13: Vocabulary acquisition
Week 14: Pragmatics
Week 15: Beliefs questionnaire revisited; Create a plan for someone studying a language; Idea papers topics

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation20%
Reading Reports 50%
Idea paper30%

- ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。
- ・ Idea Paperを提出しなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Every week spend 1 hour reading chapters from the Brown and Larson-Hall book. Then write up a reading report. In your first paragraph, summarize some of the main points that stood out for you in the reading. In the second paragraph, talk about what connections you can see between this information and what we are talking about. In other words, try to make the research practical and applicable to real-world problems. There are 10 reading reports in all.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

second language acquisition, language learning, principles

英語教育ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教育言語学の諸分野について基礎的な研究を実施するために必要な能力を養うことを目標とする。そのため、この授業では受講生が各自の研究関心に従い教育言語学の研究論文を収集し、収集した論文の研究内容について発表し理解を深めるとともに、卒業論文の執筆に向けた研究の進め方や研究成果の整理の仕方についても学習する。そのため、毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指定する。外国語教育に関する原著の予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 研究論文の構成
3. 言語教育学と理論研究
4. 言語教育学と理論研究の研究論文 (理論研究・概要把握)
5. 言語教育学と理論研究の研究論文 (理論研究・発表)
6. 言語教育学と理論研究の研究論文 (理論研究・まとめ)
7. 言語教育学と実験・調査研究
8. 言語教育学と実験・調査研究の研究論文 (実験調査研究・概要把握)
9. 言語教育学と実験・調査研究の研究論文 (実験調査研究・発表)
10. 言語教育学と実験・調査研究の研究論文 (実験調査研究・まとめ)
11. 言語教育学と実践研究
12. 言語教育学と実践研究の研究論文 (実践研究・概要把握)
13. 言語教育学と実践研究の研究論文 (実践研究・発表)
14. 言語教育学と実践研究の研究論文 (実践研究・まとめ)
15. 課題整理

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は（１）授業参加に対する積極性（発言や質問など）30%、（２）レジユメの作成・提出および発表40%、（３）期末レポート30%によって評価する。レジユメの作成方法やレポートの形式は授業中に説明する。

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 授業で扱う教科書の範囲または論文を読み、発表や討論の準備をする。発表担当者は発表前にレジユメを提出し、自主練習を行っておく。毎回1時間～1時間半程度が必要。

<事後学習> 指定された関連文献を読む。各自卒論に向けて文献渉猟をする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での（相当の）準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

英語教育ゼミBII【昼】

担当者名 雪丸 尚美 / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB II

SEM414M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教育言語学の諸分野について基礎的な研究を実施するために必要な能力を養うことを目標とする。そのため、この授業では受講生が各自の研究課題を見出し、基礎的な研究を行い、研究方法について理解を深めるとともに、研究の進め方や研究成果の整理及び考察の仕方についても学習する。最後に、研究結果を整理し、卒業論文を執筆する。

また、本ゼミでは論文執筆を含め毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。論文執筆においてはプロセスライティングの手法を用い、授業中には学生同士のピアレビューを行う。これらの活動への積極的かつ友好的な参加を求める。

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じてないようを調整する。

1. ガイダンス
2. 研究方法 (理論・実験・実践)
3. 研究課題 (関連文献の渉猟と整理)
4. 研究課題 (関連文献について口頭発表)
5. 研究課題 (関連文献について文章でのまとめ)
6. 研究内容 (卒業論文で扱う研究内容について整理)
7. 研究課題 (研究課題について口頭発表)
8. 研究課題 (研究課題について文章でのまとめ)
9. 研究報告書 (作成)
10. 研究報告書 (検討)
11. 研究報告書 (まとめ)
12. 研究発表 (準備)
13. 研究発表 (発表)
14. 研究発表 (まとめ)
15. 課題整理

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は (1) 授業参加に対する積極性20% , (2) 発表20%、 (3) 論文への取り組み60%によって評価する。

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能 (一) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

< 事前学習 > 授業で扱う教科書の範囲または論文を読み、発表・ 討論の準備をする。発表担当者は発表前に自主練習を行っておく。毎回1時間～1時間半程度が必要。

< 事後学習 > 授業で議論された内容を各自の論文にどのように生かすことができるか検討する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での (相当の) 準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		ゼミBI	SEM413M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析・発表する力を身につけることを目的とします。社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行い、授業時に先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行います。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
- 【コミュニケーション力】ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 【自律的行動力】専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業研究について
- 2回 研究テーマ発表
- 3回 文献収集講習
- 4回 学生による第1回研究発表(先行研究(1):第1グループ)
- 5回 学生による第1回研究発表(先行研究(1):第2グループ)
- 6回 Excel/PowerPoint講習
- 7回 ゼミ論文執筆について・発表準備
- 8回 学生による第2回研究発表(先行研究(2):第1グループ)
- 9回 学生による第2回研究発表(先行研究(2):第2グループ)
- 10回 方法論ディスカッション(1)・発表準備
- 11回 ゼミ論文注意点・発表準備
- 12回 学生による第3回研究発表(方法論:第1グループ)
- 13回 学生による第3回研究発表(方法論:第2グループ)
- 14回 方法論ディスカッション(2)・個別指導
- 15回 卒業論文執筆について・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、ゼミ論文...50%。
欠席・遅刻はマイナス評価とし、欠席が授業回数数の3分の1を超えた場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。単位取得には3分の2以上の出席が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		ゼミBII	SEM414M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析・発表する力を身につけることを目的とします。社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行い、授業時に先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行います。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
- 【コミュニケーション力】ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 【自律的行動力】専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業研究の進捗状況確認
- 2回 研究・論文指導(1)【方法論】
- 3回 学生による第4回研究発表(分析経過報告:第1グループ)
- 4回 学生による第4回研究発表(分析経過報告:第2グループ)
- 5回 ディスカッション(1)【分析】
- 6回 研究・論文指導(2)【分析】
- 7回 学生による第5回研究発表(結果:第1グループ)
- 8回 学生による第5回研究発表(結果:第2グループ)
- 9回 ディスカッション(2)【結果】
- 10回 研究・論文指導(3)【結果】
- 11回 ディスカッション(3)【全体】
- 12回 研究・論文指導(4)【全体】
- 13回 学生による第6回研究発表(考察:第1グループ)
- 14回 学生による第6回研究発表(考察:第2グループ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、ゼミ論文...50%。
欠席・遅刻はマイナス評価とし、欠席が授業回数数の3分の1を超えた場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。単位取得には3分の2以上の出席が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1-1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

授業の概要 /Course Description

この科目は、皆さんの音声面のスキルを強化する目的で開講されているものです。個々の発音やまとまったフレーズや文の発音、イントネーションなどに関して皆さんのスキルを伸ばすお手伝いをしたいと思います。皆さんはこれまで、このような科目を受講された経験はお持ちではないかもしれませんが、言語の基本は音声です。音声をうまく使いこなせないのでは、せっかく読んだり書いたりするスキルが優れていても、その言語を駆使する楽しみは半減します。ぜひ今のうちにそうしたスキルを伸ばしていこうという強い意志を持ってください。一緒に頑張っていきましょう。

【この授業では、次のような到達目標を考えています。】

- ①技能：英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。
- ②思考・判断・表現力：正しい英語発音で表現することができる。
- ③コミュニケーション力：効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

教科書 /Textbooks

English Pronunciation in Use Intermediate : Book with Answers and Downloadable Audio 2nd ed. (Cambridge U. P.)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：授業の進め方について、開講に当たって
- 第02回 Lessons 1, 2, 27
- 第03回 Lessons 3, 4, 28
- 第04回 Lessons 5, 6, 29
- 第05回 Lessons 7, 8, 30, 31
- 第06回 Lessons 9, 10, 32, 33
- 第07回 Lessons 11, 12, 34, 35
- 第08回 Lessons 13, 14, 36
- 第09回 Lessons 15, 16, 39, 40
- 第10回 Lessons 17, 18, 41, 42
- 第11回 Lessons 19, 20, 43, 44
- 第12回 Lessons 21, 22, 48, 49
- 第13回 Lessons 23, 24, 56, 57
- 第14回 Lessons 25, 26, 58, 59
- 第15回 授業のまとめと振り返り（最終週の前後に口頭試験を予定しています）

基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(口頭試験)：80%、平常の学習状況：20%

※3回以上無断で欠席をした場合、また試験を受験しなかった場合は、「評価不能(一)」となります。やむを得ず欠席をする場合は、(できるだけ事前に、接種の副反応などは後日で良いので)必ずメール等でご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

このテキストにはダウンロードできる音声素材が付属されていますので、それを用いて予習復習をお願いします。音声の練習は時間をかけることが大切です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんご入学おめでとうございます。初めての学期をご一緒できることをうれしく思います。この授業は「発音クリニック」という位置づけのもと導入された科目です。Academic EnglishはIからIVまでありますが、それぞれが特色のある科目として異なる内容を扱います。楽しく学んでいきましょう。よろしくお願いします。

キーワード /Keywords

発音、リスニング、スピーキング

基礎演習I【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1-2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

《技能》英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。

《思考・判断・表現力》正しい英語発音で表現することができる。

《コミュニケーション力》効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). English Pronunciation in Use: Intermediate. 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The class instructor will designate additional references as needed.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Lessons 1, 2 (/ei/, /æ/), 27(introducing word stress) & 46
- Week 3 Lessons 3 (/b/, /p/), 4 (/s/, /z/), 28 (stress in two-syllable words) & 47
- Week 4 Lessons 5 (/d/, /t/), 6 (/i:/, /e/), 29 (stress in compound words) & 48
- Week 5 Lessons 7 (/ə/, /ɪ/), 8 (/f/, /v/), 30 (stress in longer words 1) & 49
- Week 6 Library tour (subject to change)
- Week 7 Lessons 9 (/g/, /k/), 10 (/h/, /w/, /j/), 31 (stress in longer words 1) & 50
- Week 8 Lessons 11 (/aɪ/, /ɪ/), 12 (/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32 (introducing stress patterns) & 51
- Week 9 Lessons 13 (/l/, /r/), 14 (/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- Week 10 Lessons 15 (/m/, /n/, /ŋ/), 16 (/əʊ/, /ɒ/), 34 (the verb “to be” in stress patterns) & 53
- Week 11 Lessons 17 (/θ/, /ð/), 18 (/ʌ/, /ʊ/, /u:/), 35 (auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- Week 12 Lessons 19 (/ɜ:(r)/, /ɔ:(r)/), 20 (/ɔɪ/, /aʊ/), 36 (pronouncing short words) & 55
- Week 13 Lessons 21 (consonant groups), 22 (consonant groups), 37 (dividing messages into speech units) & 56
- Week 14 Lessons 23 (-s endings), 24 (-ed endings), 38 (speech units and grammar) & 57
- Week 15 Review & Oral exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Term exam ... 70% Oral exam and classroom participation ... 30%

※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とする。

基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare for each class by working on assigned sections of the textbook or other given materials.
Review what you learned in each week.

履修上の注意 /Remarks

Bring a hand mirror that enables you to see your mouth in pronunciation practice.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1-3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

《技能》英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。

《思考・判断・表現力》正しい英語発音で表現することができる。

《コミュニケーション力》効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). English Pronunciation in Use: Intermediate. 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The class instructor will designate additional references as needed.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Lessons 1, 2 (/ei/, /æ/), 27(introducing word stress) & 46
- Week 3 Lessons 3 (/b/, /p/), 4 (/s/, /z/), 28 (stress in two-syllable words) & 47
- Week 4 Lessons 5 (/d/, /t/), 6 (/i:/, /e/), 29 (stress in compound words) & 48
- Week 5 Lessons 7 (/ə/, /ɪ/), 8 (/f/, /v/), 30 (stress in longer words 1) & 49
- Week 6 Library tour (subject to change)
- Week 7 Lessons 9 (/g/, /k/), 10 (/h/, /w/, /j/), 31 (stress in longer words 1) & 50
- Week 8 Lessons 11 (/aɪ/, /ɪ/), 12 (/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32 (introducing stress patterns) & 51
- Week 9 Lessons 13 (/l/, /r/), 14 (/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- Week 10 Lessons 15 (/m/, /n/, /ŋ/), 16 (/əʊ/, /ɒ/), 34 (the verb “to be” in stress patterns) & 53
- Week 11 Lessons 17 (/θ/, /ð/), 18 (/ʌ/, /ʊ/, /u:/), 35 (auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- Week 12 Lessons 19 (/ɜ:(r)/, /ɔ:(r)/), 20 (/ɔɪ/, /aʊ/), 36 (pronouncing short words) & 55
- Week 13 Lessons 21 (consonant groups), 22 (consonant groups), 37 (dividing messages into speech units) & 56
- Week 14 Lessons 23 (-s endings), 24 (-ed endings), 38 (speech units and grammar) & 57
- Week 15 Review & Oral exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Term exam ... 70% Oral exam and classroom participation ... 30%

※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とする。

基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare for each class by working on assigned sections of the textbook or other given materials.
Review what you learned in each week.

履修上の注意 /Remarks

Bring a hand mirror that enables you to see your mouth in pronunciation practice.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1-4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能：英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。

思考・判断・表現力：正しい英語発音で表現することができる。

コミュニケーション力：効果的に活動できるコミュニケーション力を有してい

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ/), 27(introducing word stress) & 46
- 3 回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4 回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5 回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6 回 図書館探索ツアー (予定)
- 7 回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 8 回 Lessons 11(/aɪ/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 9 回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 10 回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb “to be” in stress patterns) & 53
- 11 回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ʌ/, /ʊ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 12 回 Lessons 19(/ɜ:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aɪ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 13 回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 14 回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 15 回 Review & 口頭試験

基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(必須)...70%、口頭試験あるいは録音データの提出・平常の学習状況...30%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 1-1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENG110M

授業の概要 /Course Description

Students will improve their academic writing skills through an exploration of the components of a good paragraph and essay. Students will be expected to write their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. Students will complete several writing assignments to demonstrate acquired skills.

教科書 /Textbooks

From Paragraph to Essay, (2nd ed.), Elwood, & Yoffe, Nan'un-do, ISBN: 978-4-523-17727-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Introduction to Paragraph Writing
- 3回 Opinion Paragraphs
- 4回 Problem-Solution Paragraphs
- 5回 Cause and Effect Paragraphs
- 6回 Essay Writing
- 7回 Outlines
- 8回 Descriptive Essays I
- 9回 Descriptive Essays II
- 10回 Persuasive Essays I
- 11回 Persuasive Essays II
- 12回 Comparison Essays I
- 13回 Comparison Essays II
- 14回 Classification Essays I
- 15回 Classification Essays II

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 35%, Participation 15%, Writing Assignments 30%,
Final Exam 20%

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

試験を受験しない場合は、評価不能(一)とします。

Plagiarism is a serious breach of academic integrity and may result in a failing grade.

基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build writing skills. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1-2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENG110M

授業の概要 /Course Description

Students will improve their academic writing skills through an exploration of the components of a good paragraph and essay. Students will be expected to write their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. Students will complete several writing assignments to demonstrate acquired skills.

教科書 /Textbooks

From Paragraph to Essay, (2nd ed.), Elwood, & Yoffe, Nan'un-do, ISBN: 978-4-523-17727-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Introduction to Paragraph Writing
- 3回 Opinion Paragraphs
- 4回 Problem-Solution Paragraphs
- 5回 Cause and Effect Paragraphs
- 6回 Essay Writing
- 7回 Outlines
- 8回 Descriptive Essays I
- 9回 Descriptive Essays II
- 10回 Persuasive Essays I
- 11回 Persuasive Essays II
- 12回 Comparison Essays I
- 13回 Comparison Essays II
- 14回 Classification Essays I
- 15回 Classification Essays II

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 35%, Participation 15%, Writing Assignments 30%,
Final Exam 20%

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

試験を受験しない場合は、評価不能(一)とします。

Plagiarism is a serious breach of academic integrity and may result in a failing grade.

基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build writing skills. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1-3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENGI10M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。
正しい英語発音で表現することができる。
効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

This course is designed to enable students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Course Introduction and Biographical Writing
Lesson 2: Storytelling, a narrative.
Lesson 3: Folktale
Lesson 4: Fable
Lesson 5: Short personal story #1
Lesson 6: Short personal story #2
Lesson 7: Short personal story #3
Lesson 8: Short personal story #4
Lesson 9: The Monroe method
Lesson 10: Newspaper article
Lesson 11: Academic paper
Lesson 12: Academic paper
Lesson 13: Academic paper
Lesson 14: Academic paper
Lesson 15: Submission

基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments 50% Academic Paper 30% Vocabulary word test 20%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class.

履修上の注意 /Remarks

I anticipate that this class will be conducted in a computer room.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Looking forward to helping you develop your writing skills.

キーワード /Keywords

基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1-4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENG110M

授業の概要 /Course Description

This course is designed to enable students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

(到達目標)

[技能] 英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。

[思考・判断・表現力] 正しい英語発音で表現することができる。

[コミュニケーション力] 効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

教科書 /Textbooks

Ready to Write 3: From Paragraph to Essay. Fourth Edition
K. Blanchard & C. Root
Pearson, 2017
ISBN: 978-0-13-439933-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Instructor will provide additional references when needed.
Dictionary should be brought to class.

基礎演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Introduction; Chapter 1 Getting Ready to Write (1)
2. Chapter 1 Getting Ready to Write (2)
3. Chapter 2 Writing Paragraphs (1): Logic of an English paragraph
4. Chapter 2 Writing Paragraphs (2): Supporting Sentences; Develop Unity
5. Chapter 2 Writing Paragraphs (3): Create Coherence; Transitions; Tips for a Concluding Sentence
6. Chapter 3: Revising and Editing; Titles; Writing Assignment I
7. Chapter 4 Writing Essays (1): Parts of an Essay; Introduction Paragraph(1)
8. Chapter 4 Writing Essays (2): Learn How to Write an Introduction Paragraph(2); Thesis Statement
9. Chapter 4 Writing Essays (3): Learn How to Organize Body Paragraphs
10. Chapter 4 Writing Essays (4): Learn Tips to Write a Conclusion Paragraph; Preparation for Essay 1
11. Chapter 4 Writing Essays (5): Revise and Edit Your Essay; Peer Revising
12. Chapter 8 Comparison and Contrast Essays (1): Analyzing an Essay of Comparison/Contrast
13. Chapter 8 Comparison and Contrast Essays (2): Learning the Block Method
14. Chapter 8 Comparison and Contrast Essays (3): Learning the Point-by-point Method
15. Other Types of Essays(Chapter 5/6/7/9): Preparation for a Major Assignment: Essay 2

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Participation/Writing Tasks --- 40%
Major Take-home Assignments --- 40%
Final Essay --- 20%

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).
(授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(-)とします)
Failure to submit a major assignment will result in a failing grade (-).
(主要課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)となります)
Failure to take an exam will also result in a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to complete several major take-home assignments by organizing them with the skills and strategies they have learned in class. They are required to spend approximately 120 to 180 minutes each week reviewing class notes, planning and writing a draft of the assignment, and revising it.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Writing is thinking. You are to think well, plan well, collect necessary information, analyze the information, organize your ideas, and enjoy writing.

キーワード /Keywords

understanding organization of a paragraph and an essay, process writing, organization, unity, coherence, transitions, writing essays

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・ 実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うこと。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進できる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習 A

ENG251M

授業の概要 /Course Description

This course uses high-interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading, and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication. The course covers contemporary, real world topics that are relevant to students' lives. Students have background knowledge and experience with these topics, so they can share opinions and information productively.

(到達目標)

【知識】英会話に必要な基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】英会話を通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。

【自律的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

Interchange 3 5th edition Cambridge University Press J.C Richards

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should have a dictionary available

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Describing personalities. expressing likes and dislikes
- 2回 Relative pronouns as subjects and objects- linked sounds
- 3回 Talking about unusual careers, describing jobs pros and cons
- 4回 Stress with compound nouns-gerunds with modals and if
- 5回 Making unusual requests and making indirect requests
- 6回 Unreleased consonants and writing an informal mails
- 7回 Narrating a story-part continuous vs simple past, past perfect
- 8回 Intonation in complex sentences, listening to news broadcasts
- 9回 Talking about moving abroad, describing cultural expectations
- 10回 Word stress in sentences and listening for information
- 11回 Describing problems and making complaints
- 12回 Contrasting stress listening to people exchanging information
- 13回 Identifying problems and coming up with solutions
- 14回 Reduction auxiliary verbs listening to environmental problems
- 15回 Review

英会話演習 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

80% Exam 20% Peer journal

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to do a weekly peer journal and exchange it with fellow students and respond to them.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・ 実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うこと。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進できる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習 A

ENG251M

授業の概要 /Course Description

This course uses high-interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading, and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication. The course covers contemporary, real world topics that are relevant to students' lives. Students have background knowledge and experience with these topics, so they can share opinions and information productively.

(到達目標)

【知識】英会話に必要な基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】英会話を通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。

【自律的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

Interchange 3 5th edition Cambridge University Press J.C Richards

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should have a dictionary available

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Describing personalities. expressing likes and dislikes
- 2回 Relative pronouns as subjects and objects- linked sounds
- 3回 Talking about unusual careers, describing jobs pros and cons
- 4回 Stress with compound nouns-gerunds with modals and if
- 5回 Making unusual requests and making indirect requests
- 6回 Unreleased consonants and writing an informal mails
- 7回 Narrating a story-part continuous vs simple past, past perfect
- 8回 Intonation in complex sentences, listening to news broadcasts
- 9回 Talking about moving abroad, describing cultural expectations
- 10回 Word stress in sentences and listening for information
- 11回 Describing problems and making complaints
- 12回 Contrasting stress listening to people exchanging information
- 13回 Identifying problems and coming up with solutions
- 14回 Reduction auxiliary verbs listening to environmental problems
- 15回 Review

英会話演習 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

80% Exam 20% Peer journal

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to do a weekly peer journal and exchange it with fellow students and respond to them.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・ 実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うこと。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進できる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習 A

ENG251M

授業の概要 /Course Description

This course uses high-interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading, and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication. The course covers contemporary, real world topics that are relevant to students' lives. Students have background knowledge and experience with these topics, so they can share opinions and information productively.

(到達目標)

【知識】英会話に必要な基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】英会話を通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。

【自律的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

Interchange 3 5th edition Cambridge University Press J.C Richards

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should have a dictionary available

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Describing personalities. expressing likes and dislikes
- 2回 Relative pronouns as subjects and objects- linked sounds
- 3回 Talking about unusual careers, describing jobs pros and cons
- 4回 Stress with compound nouns-gerunds with modals and if
- 5回 Making unusual requests and making indirect requests
- 6回 Unreleased consonants and writing an informal mails
- 7回 Narrating a story-part continuous vs simple past, past perfect
- 8回 Intonation in complex sentences, listening to news broadcasts
- 9回 Talking about moving abroad, describing cultural expectations
- 10回 Word stress in sentences and listening for information
- 11回 Describing problems and making complaints
- 12回 Contrasting stress listening to people exchanging information
- 13回 Identifying problems and coming up with solutions
- 14回 Reduction auxiliary verbs listening to environmental problems
- 15回 Review

英会話演習 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

80% Exam 20% Peer journal

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to do a weekly peer journal and exchange it with fellow students and respond to them.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習 A

ENG255M

授業の概要 /Course Description

本授業は英語のリスニングスキルの上達を目的とします。オーディオ教材を利用して、語彙・表現・聴き取り等の練習をします。情報を正確に聴き取るために必要なリスニング力を強化することで、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

(到達目標)

【知識】リスニングに必要な基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】リスニングで得た知識や自分の意見を適切に表現することができる。

【自律的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

Paul Dummett 他. 『Keynote 3A』 Cengage Learning. 2017年.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Making a Difference: Lessons A & B
- 3回 Unit 1 Making a Difference: Lessons C & D
- 4回 Unit 2 Trends: Lessons A & B
- 5回 Unit 2 Trends: Lessons C & D
- 6回 Unit 3 Improving Lives: Lessons A & B
- 7回 Unit 3 Improving Lives: Lessons C & D
- 8回 Review and Test: Units 1, 2 & 3
- 9回 Unit 4 Designing the Web: Lessons A & B
- 10回 Unit 4 Designing the Web: Lessons C & D
- 11回 Unit 5 Community Builders: Lessons A & B
- 12回 Unit 5 Community Builders: Lessons C & D
- 13回 Unit 6 Clear Communication: Lessons A & B
- 14回 Unit 6 Clear Communication: Lessons C & D
- 15回 Review and Test: Units 4, 5 & 6

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回) ...50%、課題(毎回) ... 40%、平常の学習状況 ... 10%

欠席・遅刻はマイナス評価とし、欠席が授業回数の3分の1を超えた場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

英語リスニング演習 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。単位取得には3分の2以上の出席が必要です。必ず教科書と辞書を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習 A	ENG255M
-------------	---------

授業の概要 /Course Description

本授業は英語のリスニングスキルの上達を目的とします。オーディオ教材を利用して、語彙・表現・聴き取り等の練習をします。情報を正確に聴き取るために必要なリスニング力を強化することで、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

(到達目標)

【知識】リスニングに必要な基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】リスニングで得た知識や自分の意見を適切に表現することができる。

【自律的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

Paul Dummett 他. 『Keynote 3A』 Cengage Learning. 2017年.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Making a Difference: Lessons A & B
- 3回 Unit 1 Making a Difference: Lessons C & D
- 4回 Unit 2 Trends: Lessons A & B
- 5回 Unit 2 Trends: Lessons C & D
- 6回 Unit 3 Improving Lives: Lessons A & B
- 7回 Unit 3 Improving Lives: Lessons C & D
- 8回 Review and Test: Units 1, 2 & 3
- 9回 Unit 4 Designing the Web: Lessons A & B
- 10回 Unit 4 Designing the Web: Lessons C & D
- 11回 Unit 5 Community Builders: Lessons A & B
- 12回 Unit 5 Community Builders: Lessons C & D
- 13回 Unit 6 Clear Communication: Lessons A & B
- 14回 Unit 6 Clear Communication: Lessons C & D
- 15回 Review and Test: Units 4, 5 & 6

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回) ...50%、課題(毎回) ... 40%、平常の学習状況 ... 10%
欠席・遅刻はマイナス評価とし、欠席が授業回数の3分の1を超えた場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

英語リスニング演習 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。単位取得には3分の2以上の出席が必要です。必ず教科書と辞書を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習 A

ENG255M

授業の概要 /Course Description

この授業では、ニュース映像のリスニングを用いて、リスニング力の向上や語彙力の向上をめざします。またニュースで扱われた題材の内容を解説し、そこで提示された問題などに関して、みんなで考えていきたいと思えます。授業では1つのstoryを原則1回で進んでいく予定ですが、学習者の関心や授業形態により、学習内容や授業ペースを適宜変更する可能性があります。

英語リスニング演習 ◎△ リスニングに必要な基礎的な知識を身につけている。リスニングで得た知識や自分の意見を適切に表現することができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

『Broadcast: ABC WORLD NEWS TONIGHT 3』(山根 繁, Kathleen Yamane著) 金星堂 2021年 2,700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概説、News Story 1 New Company
- 2回 News Story 1 の続き
- 3回 News Story 2 E-Cigarette: Partial Ban Backlash
- 4回 News Story 3 The Veteran and His Homemade Toys
- 5回 News Story 4 To the Moon
- 6回 News Story 5 Flooding in Venice
- 7回 News Story 6 Security from Above
- 8回 News Story 7 No Limits Cafe
- 9回 News Story 8 Paralyzed Man Walks Again
- 10回 News Story 9 Ending the War?
- 11回 News Story 10 Amazon on the Brink
- 12回 News Story 11 Emergency Business Aid
- 13回 News Story 12 Classic American Cowboy Hat
- 14回 News Story 13 Anger Across America
- 15回 今学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、日頃の授業への取り組み...20% 課題等提出物...30% 定期試験...50%で評価する予定ですが、授業形態により変更する可能性があります。なお、無届けによる欠席が5回以上となった場合や定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

英語リスニング演習 A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習予定箇所に必ず目を通し、知らない語句などを調べておくこと。復習としては、授業で扱った映像を再度見たり、テキストを読み返して、内容の理解に努めること。(必要な学習時間の目安は予習60分以上、復習60分以上)

履修上の注意 /Remarks

授業時に必ず辞書(紙または電子)を持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。また、提出物は必ず期限内に出すこと。正当な理由がない限り、期限後の提出はできません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

current English, international affairs

英会話演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・ 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	正確に発音でき、英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習B

ENG252M

授業の概要 /Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

教科書 /Textbooks

World English 3 3rd edition 'Real people, Real places, Real language' by Christien Lee National Geographic Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good Bilingual dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1st week- Orientation
- 2nd week- Where we live and why people move
- 3rd week- Indefinite pronouns and usage, talking about rules and expectations
- 4th week- Improving communities and places to live
- 5th week- adjective clauses and making suggestions
- 6th week- The mind's eye expressing degrees of liking
- 7th week- Adjectives with too, enough and not enough and asking for reasons
- 8th week- Discussion of pollution and its causes
- 9th week- Tuning out distractions, taking notes during a documentary
- 10th week-Considering effects of climate change
- 11th week- Talking about historical events, causes and effects
- 12th week- Talking about things you value and events
- 13th week- Using as.....as, Indirect questions
- 14th week- Review
- 15th week- Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

4 Unit mini tests (80%) and peer journal (20%)

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to write a peer journal about what they have done over the last week. In the class they exchange their peer journal with a partner and respond to the partner's journal.

英会話演習B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習B

ENG256M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標
リスニングに必要な基礎的な知識を身につけている。
リスニングで得た知識や自分の意見を適切に表現することができる。
スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will complete weekly assignments to improve listening skills. Students will also improve their discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Skillful 2: Listening & Speaking (2nd ed.), Bohlke & Lockwood, MacMillan Education, ISBN 978-1-380-01058-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 4回 Topic 2 – Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 6回 Topic 3 – Listening & Discussion
- 7回 Topic 3 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 8回 Topic 4 – Listening & Discussion
- 9回 Topic 4 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 10回 Topic 5 – Listening & Discussion
- 11回 Topic 5 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 12回 Topic 6 – Listening & Discussion
- 13回 Topic 6 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 14回 Topic 6 – Expansion & Review
- 15回 Review and Final Exam Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 35%, Participation 30%, Homework 15%, Final Exam 20%

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (－) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (－) とします。

Plagiarism is a serious breach of academic integrity and may result in a failing grade.

英語リスニング演習B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete weekly listening assignments to improve listening skills. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

授業の概要 /Course Description

The main focus of this class will be improving Reading Speed and skills alongside Discussion Skills.

On the Reading side emphasis will be placed first on improving Reading Speed, followed by Comprehension. Students will be expected to improve their Reading Speed significantly in this course. A doubling of student Reading Speed is a realistic goal. Other Reading skills such as Scanning, Skimming, Predicting, and Guessing will also be covered in the course.

On the Discussion side students will be expected to gain the ability to carry on longer discussions without any silent periods of 3 seconds or more. Communication will be the main goal, even if grammar is not always perfect. The goal is perfect communication, not perfect grammar. That being said, grammar will be taught when necessary during the course.

Vocabulary expansion will be a third goal of the course. Every lesson will have a vocabulary component to it. The focus will be on learning the root words and how to expand them for wider use.

Students who do not attend the final exam will be awarded a grade without the the final exam score. They may be able to do a makeup exam later if the absence is excused.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 (ISBN - 9780357123683
National Geographic Learning / Cengage

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Reading and Discussion I 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation - Introductions, Textbook, Homework, Class Rules, Course Goals
2. Sports and Fitness
Analyzing Infographics 1, Scanning for Specific Information
3. Skin Deep
Analyzing a Writer's Claim, Summarizing the Main Ideas of Paragraphs
4. Animals in Danger
Determining the Meaning of Unfamiliar Words
5. Violent Earth
Summarizing a Text, Analyzing Infographics 2
6. Islands and Beaches
Summarizing Details on a Map, Identifying a Writer's Point of View
7. Revision Class
Reading Speed Check
8. Global Addictions
Identifying Pros and Cons 1, Understanding Transitions
9. Epic Engineering
Understanding Vocabulary: Compound Words, Inferring Information
10. High - Tech Solutions
Applying Information from a Text, recognizing Text Coherence
11. All in the Mind
Identifying Text Organization, Recognizing Lexical Cohesion 1
12. Visual Pioneers
Inferring Information 2, Recognizing Lexical Cohesion 2
13. Far Out
Understanding Vocabulary: Phrasal Verbs, Understanding Appositives
14. Graded Speaking Challenge 1
15. Graded Speaking Challenge 2

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - In Class Performance

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will need to do a significant amount of preparation outside of class. This will consist of mostly reading, but will also include other assignments from time to time.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. You can't be shy in this class as most of our class time will be spent on speaking exercises. Don't worry about mistakes! Perfect communication is our first goal!

キーワード /Keywords

Reading, Reading Speed, Comprehension, Vocabulary

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

授業の概要 /Course Description

The main focus of this class will be improving Reading Speed and skills alongside Discussion Skills.

On the Reading side emphasis will be placed first on improving Reading Speed, followed by Comprehension. Students will be expected to improve their Reading Speed significantly in this course. A doubling of student Reading Speed is a realistic goal. Other Reading skills such as Scanning, Skimming, Predicting, and Guessing will also be covered in the course.

On the Discussion side students will be expected to gain the ability to carry on longer discussions without any silent periods of 3 seconds or more. Communication will be the main goal, even if grammar is not always perfect. The goal is perfect communication, not perfect grammar. That being said, grammar will be taught when necessary during the course.

Vocabulary expansion will be a third goal of the course. Every lesson will have a vocabulary component to it. The focus will be on learning the root words and how to expand them for wider use.

Students who do not attend the final exam will be awarded a grade without the the final exam score. They may be able to do a makeup exam later if the absence is excused.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 (ISBN - 9780357123683
National Geographic Learning / Cengage

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Reading and Discussion I 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation - Introductions, Textbook, Homework, Class Rules, Course Goals
2. Sports and Fitness
Analyzing Infographics 1, Scanning for Specific Information
3. Skin Deep
Analyzing a Writer's Claim, Summarizing the Main Ideas of Paragraphs
4. Animals in Danger
Determining the Meaning of Unfamiliar Words
5. Violent Earth
Summarizing a Text, Analyzing Infographics 2
6. Islands and Beaches
Summarizing Details on a Map, Identifying a Writer's Point of View
7. Revision Class
Reading Speed Check
8. Global Addictions
Identifying Pros and Cons 1, Understanding Transitions
9. Epic Engineering
Understanding Vocabulary: Compound Words, Inferring Information
10. High - Tech Solutions
Applying Information from a Text, recognizing Text Coherence
11. All in the Mind
Identifying Text Organization, Recognizing Lexical Cohesion 1
12. Visual Pioneers
Inferring Information 2, Recognizing Lexical Cohesion 2
13. Far Out
Understanding Vocabulary: Phrasal Verbs, Understanding Appositives
14. Graded Speaking Challenge 1
15. Graded Speaking Challenge 2

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - In Class Performance

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will need to do a significant amount of preparation outside of class. This will consist of mostly reading, but will also include other assignments from time to time.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. You can't be shy in this class as most of our class time will be spent on speaking exercises. Don't worry about mistakes! Perfect communication is our first goal!

キーワード /Keywords

Reading, Reading Speed, Comprehension, Vocabulary

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

授業の概要 /Course Description

The main focus of this class will be improving Reading Speed and skills alongside Discussion Skills.

On the Reading side emphasis will be placed first on improving Reading Speed, followed by Comprehension. Students will be expected to improve their Reading Speed significantly in this course. A doubling of student Reading Speed is a realistic goal. Other Reading skills such as Scanning, Skimming, Predicting, and Guessing will also be covered in the course.

On the Discussion side students will be expected to gain the ability to carry on longer discussions without any silent periods of 3 seconds or more. Communication will be the main goal, even if grammar is not always perfect. The goal is perfect communication, not perfect grammar. That being said, grammar will be taught when necessary during the course.

Vocabulary expansion will be a third goal of the course. Every lesson will have a vocabulary component to it. The focus will be on learning the root words and how to expand them for wider use.

Students who do not attend the final exam will be awarded a grade without the the final exam score. They may be able to do a makeup exam later if the absence is excused.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 (ISBN - 9780357123683
National Geographic Learning / Cengage

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Reading and Discussion I 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation - Introductions, Textbook, Homework, Class Rules, Course Goals
2. Sports and Fitness
Analyzing Infographics 1, Scanning for Specific Information
3. Skin Deep
Analyzing a Writer's Claim, Summarizing the Main Ideas of Paragraphs
4. Animals in Danger
Determining the Meaning of Unfamiliar Words
5. Violent Earth
Summarizing a Text, Analyzing Infographics 2
6. Islands and Beaches
Summarizing Details on a Map, Identifying a Writer's Point of View
7. Revision Class
Reading Speed Check
8. Global Addictions
Identifying Pros and Cons 1, Understanding Transitions
9. Epic Engineering
Understanding Vocabulary: Compound Words, Inferring Information
10. High - Tech Solutions
Applying Information from a Text, recognizing Text Coherence
11. All in the Mind
Identifying Text Organization, Recognizing Lexical Cohesion 1
12. Visual Pioneers
Inferring Information 2, Recognizing Lexical Cohesion 2
13. Far Out
Understanding Vocabulary: Phrasal Verbs, Understanding Appositives
14. Graded Speaking Challenge 1
15. Graded Speaking Challenge 2

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - In Class Performance

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will need to do a significant amount of preparation outside of class. This will consist of mostly reading, but will also include other assignments from time to time.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. You can't be shy in this class as most of our class time will be spent on speaking exercises. Don't worry about mistakes! Perfect communication is our first goal!

キーワード /Keywords

Reading, Reading Speed, Comprehension, Vocabulary

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

授業の概要 /Course Description

Course seeks to develop students' ability to read and comprehend longer texts focused on travel, journeys and various ways of thinking about journeys from ancient myth to modern tourism..Newspaper articles, essays, and short fiction will be used to improve reading speed, expand vocabulary, and help students identify and discuss key points. Readings, along with comprehension and speaking exercises, are conducted on individual basis, as well as in pair and group format.

In course of the semester, students will be expected to prepare sample texts and study guides.

Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized proficiency tests (TOEIC, TOEFL, IELTS).

教科書 /Textbooks

Texts and Study Guides provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Journeys in myth and story
- 2 回 The journey and danger – Charles Perrault and the Grimm Brothers, “Little Red Riding Hood”
- 3 回 The journey into the forest – Nathaniel Hawthorne “Young Goodman Brown”
- 4 回 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” (Part 2)
- 5 回 Life as journey: E. M. Forster, “The Other Side of the Hedge”
- 6 回 Bruce Chatwin, “The Nomadic Alternative”
- 7 回 Richard Grant, “American Nomads: The Call of the Road” (Part 1)
- 8 回 Richard Grant, “American Nomads: The Call of the Road” (Part 2)
- 9 回 Mid-term test
- 10 回 Pico Iyer: “Why We Travel”
- 11 回 Imagining the Journey: James Joyce, “Eveline”
- 12 回 Sacred Journeys: Alfred Vargas, “My Camino”de Santiago Journey”
- 13 回 Shikoku Pilgrimage: Diogo Tellechea, “A Life-Changing Journey”
- 14 回 Special Places: Ingrid K. Williams, “Ishigaki: a Japanese Natural Wonder”
- 15 回 The Future of Travel

成績評価の方法 /Assessment Method

- 25% -- In-class reading and discussion
- 25% -- Comprehension exercises
- 25% -- Mid-term test
- 25% -- Final test

Please note that credit will not be awarded in event of four or more absences.

Reading and Discussion II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to review previous class materials. Follow up: Students are expected to re-read texts discussed in class, and complete and submit comprehension exercises according to instructions when assigned.

履修上の注意 /Remarks

This class offers students maximum opportunity to read, speak and discuss in English

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Where would you like to travel? Do you have a favorite place you would like to tell others about?

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、教育、科学技術、環境など、国内又は国際的に議論される問題に関わる英語資料を読み、必要に応じ、関連する情報を収集し、その情報に基づいて多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとする。リーディング力に加えて、英語によるディスカッションやプレゼンテーションを行う技術を磨くことを目指す。

(到達目標)

[知識] リーディングとディスカッションに必要な基本的な知識を身につけている。

[思考・判断・表現力] リーディングで得た知識や自分の考えをディスカッションを通して適切に表現することが出来る。[自律的行動力] スパシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

Taka a Stance.
Discussing Today's Controversial Issues 2
Cengage Learning, 2018
ISBN: 978-4-86312-333-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Instructor will provide additional references as needed.
Dictionary should be brought to class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course introduction and Introductory task
2. Unit 1 Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks?(1): Understanding the issue
3. Unit 1 Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks?(2): Discussing the issue
4. Unit 2 Women's Protection or Gender Equality?(1): Understanding the issue
5. Unit 2 Women's Protection or Gender Equality?(2): Discussing the issue
6. Unit 10 A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting?(1): Understanding the issue
7. Unit 10 A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting?(2): Discussing the issue
8. Review Test/Activity (1)
9. Unit 9 Humans or AI?(1): Understanding the issue
10. Unit 9 Humans or AI?(2): Discussing the issue
11. Unit 5 Eco or Ego?(1): Understanding the issue
12. Unit 5 Eco or Ego?(2): Discussing the issue
13. Unit 8 Pros and Cons of Globalization: Discussing the issue
14. Unit 7 Severe Punishment or Rehabilitation?: Discuss the issue
15. Review Test/Activity (2): Giving a Presentation on an Issue

Reading and Discussion II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Participation/Activities/Tasks --- 30%
Midterm Test/Activity --- 20%
Presentation --- 20%
Take-home Assignments/Writing ---30 %

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).
(授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(-)とします)
Failure to take a final exam will result in a failing grade (-).
(期末試験を受験しない場合は、評価不能(-)とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the passages in the designated unit, collect information when necessary, and prepare for (1) class; Listen to model opinions and organize own thoughts before (2) class; Review the materials closely after every class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be interested in various issues relevant to contemporary society around you, think well(critically or logically), and show your ideas, which is one of the most important(and challenging) things in language learning.

キーワード /Keywords

reading fluency, understanding the issue, critical/logical thinking, accountability, discussion, presenting opinions

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、教育、科学技術、環境など、国内又は国際的に議論される問題に関わる英語資料を読み、必要に応じ、関連する情報を収集し、その情報に基づいて多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとする。リーディング力に加えて、英語によるディスカッションやプレゼンテーションを行う技術を磨くことを目指す。

(到達目標)

[知識] リーディングとディスカッションに必要な基本的な知識を身につけている。

[思考・判断・表現力] リーディングで得た知識や自分の考えをディスカッションを通して適切に表現することが出来る。[自律的行動力] スピーシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

Taka a Stance.
Discussing Today's Controversial Issues 2
Cengage Learning, 2018
ISBN: 978-4-86312-333-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Instructor will provide additional references as needed.
Dictionary should be brought to class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course introduction and Introductory task
2. Unit 1 Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks?(1): Understanding the issue
3. Unit 1 Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks?(2): Discussing the issue
4. Unit 2 Women's Protection or Gender Equality?(1): Understanding the issue
5. Unit 2 Women's Protection or Gender Equality?(2): Discussing the issue
6. Unit 10 A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting?(1): Understanding the issue
7. Unit 10 A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting?(2): Discussing the issue
8. Review Test/Activity (1)
9. Unit 9 Humans or AI?(1): Understanding the issue
10. Unit 9 Humans or AI?(2): Discussing the issue
11. Unit 5 Eco or Ego?(1): Understanding the issue
12. Unit 5 Eco or Ego?(2): Discussing the issue
13. Unit 8 Pros and Cons of Globalization: Discussing the issue
14. Unit 7 Severe Punishment or Rehabilitation?: Discuss the issue
15. Review Test/Activity (2): Giving a Presentation on an Issue

Reading and Discussion II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Participation/Activities/Tasks --- 30%
Midterm Test/Activity --- 20%
Presentation --- 20%
Take-home Assignments/Writing ---30 %

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).
(授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(-)とします)
Failure to take a final exam will result in a failing grade (-).
(期末試験を受験しない場合は、評価不能(-)とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the passages in the designated unit, collect information when necessary, and prepare for (1) class; Listen to model opinions and organize own thoughts before (2) class; Review the materials closely after every class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be interested in various issues relevant to contemporary society around you, think well(critically or logically), and show your ideas, which is one of the most important(and challenging) things in language learning.

キーワード /Keywords

reading fluency, understanding the issue, critical/logical thinking, accountability, discussion, presenting opinions

日英翻訳演習 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
試験(Week 16 Presentation 2)を受験しない場合は、評価不能(一)とします。
Plagiarism is a serious breach of academic integrity and may result in a failing grade.

Presentation and Writing A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
試験(Week 16 Presentation 2)を受験しない場合は、評価不能(一)とします。
Plagiarism is a serious breach of academic integrity and may result in a failing grade.

Presentation and Writing A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
試験(Week 16 Presentation 2)を受験しない場合は、評価不能(一)とします。
Plagiarism is a serious breach of academic integrity and may result in a failing grade.

Presentation and Writing A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 3年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義・実習
 クラス /Class: 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B

ENG350M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

プレゼンテーションとライティングに必要な基本的な知識を身につけている。

プレゼンテーションやライティングを通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。

スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment.

During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue.

We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations.

We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations (2019 Cengage Learning) ISBN 978-4-86312-351-9 Herman Bartelen, Malcom Kostiuik

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Presentation and Writing B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
2. Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
3. Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
4. Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
5. Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
6. Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
7. Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
8. Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
9. Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
10. Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
11. Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
12. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
13. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
14. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
15. Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (－).

Failure to submit a report or do a presentation by the due date will result in no grade being recorded for that activity.

期日までに報告書を提出しなかったり、プレゼンテーションを行わなかったりすると、その活動の成績は記録されません。

Students who plagiarize or otherwise engage in academic dishonesty face serious consequences. Sanctions may include, but are not limited to, failure on an assignment, grade reduction or course failure.

盗用したり、学業不正に従事したりする学生は、深刻な結果に直面します。制裁には、課題の失敗、成績の低下、またはコースの失敗が含まれますが、これらに限定されません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive speech in English after this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, PowerPoint, English, Confidence

Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 3年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義・実習
 クラス /Class: 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B

ENG350M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

プレゼンテーションとライティングに必要な基本的な知識を身につけている。

プレゼンテーションやライティングを通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。

スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment.

During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue.

We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations.

We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations (2019 Cengage Learning) ISBN 978-4-86312-351-9 Herman Bartelen, Malcom Kostiuik

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Presentation and Writing B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
2. Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
3. Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
4. Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
5. Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
6. Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
7. Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
8. Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
9. Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
10. Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
11. Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
12. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
13. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
14. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
15. Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (－).

Failure to submit a report or do a presentation by the due date will result in no grade being recorded for that activity.

期日までに報告書を提出しなかったり、プレゼンテーションを行わなかったりすると、その活動の成績は記録されません。

Students who plagiarize or otherwise engage in academic dishonesty face serious consequences. Sanctions may include, but are not limited to, failure on an assignment, grade reduction or course failure.

盗用したり、学業不正に従事したりする学生は、深刻な結果に直面します。制裁には、課題の失敗、成績の低下、またはコースの失敗が含まれますが、これらに限定されません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive speech in English after this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, PowerPoint, English, Confidence

Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B

ENG350M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

プレゼンテーションとライティングに必要な基本的な知識を身につけている。

プレゼンテーションやライティングを通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。

スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

Jigsaw is a new reading and writing text designed to achieve this for high beginning to intermediate learners. In each unit, learners read an article written in a specific rhetorical mode as a model for their paragraph writing. They then work through developmental, guided activities to produce their own passage.

本書ではユニット毎に英語のパラグラフの構成例（型）を1つ取り上げ、リーディングでそれを用いて書かれた本文（約300語）を読んだ後、ライティングでその型に特有の表現を学習して、パラグラフ・レベルの英文を書けるようにします。リーディングとライティングが一体となり、読解力と表現力がパラレルにアップする構成で、効率的な学習を促進します。

教科書 /Textbooks

Jigsaw

by R. Hickling and J. Yashima (Cengage Learning)

ISBN: 978-4-86312-369-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

Presentation and Writing B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course explanation, aims, grading explanation, all requirements to fulfil the needs of the course.
Week 2: Unit 1: Things happen for a reason. Writing purposes: cause and effect
Week 3: Unit 2: Same or different? Writing purposes: Compare and contrast
Week 4: Unit 3: Here's what I think! Writing purposes: Giving an opinion
Week 5: Unit 4: Sorting things out. Writing purposes: Classification writing
Week 6: Group presentations and feedback. (4/5 groups) (Graded)
Week 7: Group presentations and feedback. (second 4/5 groups) (Graded)
Week 8: Mid-term exam based on units 1-4. 中間テスト (Graded)
Week 9: Unit 5: Step by step. Writing purpose: Describing a process
Week 10: Unit 6: Feeling through your senses. Writing purpose: Descriptive writing
Week 11: Unit 7: Don't you agree? Writing purpose: Persuasive writing
Week 12: Unit 8: You be the judge. Writing purpose: Writing to evaluate.
Week 13: Group presentations and feedback. (4/5 groups) (Graded)
Week 14: Group presentations and feedback. (second 4/5 groups) (Graded)
Week 15: まとめ - Final exam will be based on units 5-8. Exam explanation, and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 20% each (2 x 20% = 40%)
Mid-term exam: 30%
Final exam: 30%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	●	英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習 I

ENG351M

授業の概要 /Course Description

This course will deal with literary works in English as well as related artifacts in other forms, including films, TV dramas and stage plays when appropriate. You will try to understand and appreciate some of the unique features in these works as well as to look at these works from multiple perspectives by employing your ability in critical thinking.

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

《知識》英語で書かれた文学作品に関する基礎的な知識を身につけている。

《思考・判断・表現力》英語で書かれた文学作品について、学際的・複眼的に思考して自分の考えを論理的に表現することができる。

《自律的行動力》英語で書かれた文学作品を通じて、グローバル社会への関心を深め、国際問題に対して主体的に考え、行動できる。

教科書 /Textbooks

The course instructor will designate the required materials in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dolores laGuardia and Hans P. Guth. American Visions. Mayfield Publishing, 1995.

Neil Campbell and Alasdair Kean. American Cultural Studies. Routledge, 2015.

Ania Loomba. Colonialism/Postcolonialism. Routledge, 2015.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Multicultural America: Colonial Settlers
- Week 3 Multicultural America: Native Americans
- Week 4 Multicultural America: American Realism (1)
- Week 5 Multicultural America: American Realism (2)
- Week 6 Multicultural America: American Women Writers (1)
- Week 7 Multicultural America: American Women Writers (2)
- Week 8 Multicultural Britain: Fireflies and Snow at the Window
- Week 9 Multicultural Britain: British Women Writers (1)
- Week 10 Multicultural Britain: British Women Writers (2)
- Week 11 Multicultural Britain: "British" Women Writers
- Week 12 Identity and Hybridity: Film adaptations (1)
- Week 13 Identity and Hybridity: Film adaptations (2)
- Week 14 Identity and Hybridity: Plays and Musicals
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation, Quizzes, Writing Assignment ... 60% In-class exams ... 40%

※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とする。

英語リーディング演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to prepare for each class by working on assigned materials and to review what they learned in each week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

When only fragments from literary works are introduced in the class, students are advised to read through or watch through the literary works and other materials that are focused on by themselves.

キーワード /Keywords

cultural identity, cultural diversity, hybridity, postcolonialism

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	●	英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習II

ENG352M

授業の概要 /Course Description

授業では時事英語を読んで、異文化理解を深める。英文副読本ではAnthony TrollopeのThe Way We Live Nowを読んで、テキストの意味を正しく理解する能力を身につける。

教科書 /Textbooks

“News Gallery 2022”（開文社出版）

副読本はThe Way We Live Now のテキストから英文コピーをプリントして配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 Biden win confirmed after pro-Trump mob storms US Capitol
- 3回 What's behind Demon Slayer anime's monster success at Japan box office?
- 4回 U.K. and EU reach post-Brexit trade agreement
- 5回 Asia-Pacific nations sign world's biggest trade deal
- 6回 Japan, U.S. showcase alliance, resolve in dealing with China
- 7回 Hideki Matsuyama becomes first Japanese in Masters green jacket
- 8回 Military stages coup in Myanmar, detains Aung San Suu Kyi
- 9回 Japan gov't must try all options to prevent medical system's collapse
- 10回 Japan's new shogi 'saint' Fujii keeps composure after phenomenal title win
- 11回 Minneapolis police station torched amid George Floyd protest
- 12回 China enacts national security legislation for Hong Kong
- 13回 Thai protesters hold ambitious rally for democratic reforms
- 14回 Takuma Sato content after winning 2nd Indy 500 under caution
- 15回 1st 'Quad' summit to focus on Covid-19 vaccines with eye on China

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度や受講態度50%。期末テスト結果50%。

5回以上欠席した場合や試験を受験しなかった場合、評価不能(一)となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストの授業範囲を読んで、不明部分をチェックし、単語の意味を調べておくこと。授業後に必ず復習を行い、知識の定着を図ること。副読本については毎回4人が次の授業の時間までに当てられた頁の翻訳を所定の提出ファイルに打ち込んでMoodleの提出先に提出すること。

履修上の注意 /Remarks

英語リーディング演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネスコミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネスコミュニケーション演習

ENG330M

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to develop business speaking ability through active student participation in topic focused conversations / discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional conversations. In the middle and end of the semester, students will be expected to prepare and give business presentations analyzing two different companies in English.

教科書 /Textbooks

Business Advantage Intermediate. Authors: Almut Koester, Angela Pitt, Michael Handford, Martin Lisboa.
Cambridge, ISBN: 978-0-521-13220-6.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Appropriate web-based resources will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Beginning Business Relationships
2. Briefing
3. Meetings 1
4. Meetings 2
5. Presentation Skills 1
6. Presentation Skills 2
7. Company Analysis Group Presentations
8. Negotiation 1
9. Negotiation 2
10. Problem-Solving
11. Feedback and Performance Reviews
12. Job Interviews
13. Company Analysis Individual Presentations
14. Company Analysis Individual Presentations
15. Company Analysis Individual Presentations

ビジネスコミュニケーション演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 10%
Homework assignments and presentations 40%
Final paper and presentation 50%

5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。
If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (－).

or

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(－)とします。
If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (－).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to seeing you in class!

キーワード /Keywords

Business, Communication, Meetings, Negotiations, Presentations.

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The course gives students an opportunity to read about and discuss a variety of businesses, as well as other types of organizations such as NGOs. We will look at businesses operating around the world (such as Disney and Toyota), consider different corporate cultures, and read about styles of business leadership, as well as different approaches to design, branding, innovation, marketing, and customer service. The latter part of the course gives students a chance to think about planning and creating a small business. Most course work—reading, discussion, written exercises—will be conducted in class. Readings will be supplemented by videos on selected topics.

教科書 /Textbooks

Texts provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Erin Meyer. The Culture Map. Decoding How People Think, Lead and Get Things Done Across Cultures. Public Affairs. 2016.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – The changing business environment
- 2 回 Tradition and Adaptation – Toyota
- 3 回 Innovation – Dyson
- 4 回 Customer service – Singapore Airlines
- 5 回 Affordability and style – Uniqlo
- 6 回 Design and the Apple philosophy
- 7 回 Marketing – Shiseido
- 8 回 Leisure and gaming – The Nintendo story
- 9 回 Work environment: The happy employee - Google
- 10 回 Business visionaries – Walt Disney
- 11 回 Global Contexts: Doing business in China
- 12 回 How to start a business: creating a store.
- 13 回 Setting up an NGO
- 14 回 The future of business: EV, VR, SDGs, OC, Clouds
- 15 回 Review

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 25%
Writing Assignments 25%
Report 25%
Final test 25%

Please note that credit will not be awarded in event of four or more absences.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should review and be familiar with previous week's material

履修上の注意 /Remarks

The class offers students maximum opportunity to read and talk about various topics related to world of business and the international contexts in which business is conducted today.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and related exercises will be done mostly in class. Weekly attendance is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor リーサ ハンズバーガー / Lisa M. Hunsberger / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

This course will focus primarily on presentations and public speaking in a professional setting. Effective presentation design begins with an understanding of the purpose of the presentation, the audience to whom it will be delivered, and the context under which it will be delivered. In this course, you will learn the steps towards creating and delivering an effective professional presentation using a range of features available in most desktop presentation software. You will also work on sharpening your public speaking skills –eye contact, use of gestures, managing nervousness, etc– through mini exercises throughout the course.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 – Introduction
- Week 2 – Show & Tell
- Week 3 – The art of public speaking
- Week 4 – Presentation design ABCs
- Week 5 – Design features of presentation software
- Week 6 – Practice activity 1
- Week 7 – Revisiting public speaking
- Week 8 – English in professional contexts
- Week 9 – Presenting in professional contexts
- Week 10 – Preparation for practice activity 2
- Week 11 – Practice activity 2
- Week 12 – Putting it all together
- Week 13 – Preparation for final project
- Week 14 – Day 1 of final project
- Week 15 – Day 2 of final project

(This schedule and its contents are subject to change.)

Advanced English II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

Class participation & in-class assignments: 20%

Practice activities: 40% (2 x 20%)

Final Project: 40%

In conjunction with Kitakyushu University guidelines, please note the following:

1. If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (—).
5回以上欠席した場合は、評価不能(—)とします。
2. If you do not complete your work yourself or if you plagiarise any part of your work, you will receive a failing grade (—).
自分で課題を完成させない場合、または課題の一部を剽窃した場合は、評価不能(—)とします。
3. If you do not complete more than 75% of your assignments, you will receive a failing grade (—).
課題の75%以上を完了できなかった場合、不合格となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Taking notes during class is mandatory, and students are required to keep a vocabulary notebook in which they will write new words for to study and practice throughout the course.
- Students must review their notes and complete all assignments before each class.
- Key to becoming an effective public speaker and presenter is working avidly on self-improvement. Consequently, some activities may be recorded for students to use to track their own progress throughout the course.

履修上の注意 /Remarks

Laptops and desktop computers are preferred for use in this course, and though it isn't mandatory, students with laptops are invited to bring them to class. Students may use either PowerPoint or Apple's Keynote to do their presentations, but they must choose the desktop presentation software with which they are most familiar.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you!

キーワード /Keywords

Presentation, Public Speaking, Professional, English

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提にして進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 2回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 3回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 4回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 5回 教育思想②：日本の教育思想
- 6回 教育史①：西洋の教育史
- 7回 教育史②：日本の教育史
- 8回 学ぶ意欲と教育指導
- 9回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 10回 学校の制度：学校体系
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小課題等) 40%

最終課題(試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

教育原理 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

到達目標

- (知識・理解) 教育制度についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身に付けている。
- (思考・判断・表現) 教育制度に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
- (生涯学習力) 教育制度に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、義務教育
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 中等教育、学校体系
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 就学・懲戒
- 6回 教科書に関する制度
- 7回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制
- 8回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 9回 教員制度の基本的事項(3) 公務員としての教師、教員の待遇
- 10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 12回 学校関係者による協力支援の制度
- 13回 地域社会の変容と学校
- 14回 教育制度改革の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%
- * 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格
 - * 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 教育について興味・関心をもって臨むこと。
- 配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
- 発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小課題等) 40%

最終課題 (試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題 (試験) 受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題 (試験) を受験しなかった場合は原則評価不能 (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語科教員になるための基礎的な知識と技能を身につける。特に、中学校の英語教育に中心をおき、学習指導案の書き方および基本的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を有している。
- ・ 新学習指導要領の特徴や課題を理解している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題についての意見を述べることができる。
- ・ 英語科教育実践の諸問題を意欲的に考察し、改善を図ろうとする態度を養う。

教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 英語教育の目的
3. 英語の指導法(1) コミュニカティブ・アプローチ以前
4. 英語の指導法(2) コミュニカティブ・アプローチとその後
5. より良い指導のために(1) 音声指導
6. より良い指導のために(2) コミュニケーションにつながる文法指導の基本
7. より良い指導のために(3) コミュニケーションにつながる文法指導(コミュニケーション活動)
8. 評価の方法と学習指導案の書き方
9. 学習指導案の書き方(1)
10. 学習指導案の書き方(2)
 11. 模擬授業の準備
 12. 模擬授業(中学校1年生)
 13. 模擬授業(中学校2年生)
 14. 模擬授業(中学校3年生)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、提出物20%、模擬授業20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定ページを読んでくる。

事後学習 課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語科教育法 A 【昼】

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語教員になるための、基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。特に高等学校の英語教育を中心に、学習指導案の書き方と基礎的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を踏まえて、授業を行う際に留意すべき事柄に関する知識を有している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題について、多角的な観点から意見を述べることができる。
- ・ 学習材を基に学習指導案を作成し、意欲的に授業を設計することができる。
- ・ 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指に生かすことができる。

教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 2012年、630円

NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社

南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円

Onstage English Course I・II 池田書店

EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂

田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II 東京書籍、2012年、630円

山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円

Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂

田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II 啓林館 2013年、650円

Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社

市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II" 文英堂

Genius English Course Revised I・II 大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II 三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および評価について
2. 第二言語習得と英語教育
3. 4技能統合の理念とタスクの意義 (PCPPモデル)
4. リーディングの理論と実践
5. ライティングの理論と実践
6. 4技能統合の実践方法
7. 「英語コミュニケーションI,II」指導案の考え方
8. 「英語コミュニケーションI,II」指導案の書き方
9. 「英語コミュニケーションI,III」指導案の書き方
10. モデル授業準備
11. モデル授業準備
12. モデル授業 (1)
13. モデル授業 (2)
14. モデル授業 (3)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験60%、提出物20%、模擬授業20% 「

英語科教育法B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定箇所を読んでくる。
事後学習 学習課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、それをもとに、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)
(6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

教育相談【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。

事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校教育をめぐる教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐる社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐる近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐる近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐる社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他人の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。「到達目標」は豊かな知識を得ることである。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通じた人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 性と人権 「性的いじめ」「子どもの性被害と性加害」
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 14回 コロナ禍中での人権 「エッセンシャルワーカー」「トリアージ」
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

課題、テストなど総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(70%)、課題(20%)、授業への参加度(10%)

遠隔授業に変更になった場合は評価の方法や割合が変わる(テストから課題に)可能性もあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Teamsでの授業の場合は、moodleに示された資料、特にワークシート等は印刷しておいてください。

オンデマンドの授業では、事後学習として課題提出があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、対面ではなく、オンデマンド、Teamsなど授業形態が変わります。Moodleでお知らせします。

キーワード /Keywords

人権教育、子どもの人権 人権課題

英語科教育法C【昼】

担当者名 雪丸 尚美 / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として、実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には、それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように、(1) 英語教育の施策に関する知識の習得、(2) 各言語技能の指導技術やICT教材の使用を含む教室運営の基礎知識、(3) 今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また、実際に模擬授業(中学校)を行い相互に評価・批判しあうことで、授業実践の力をつけさせる。模擬授業は一人1~2回を予定しているが、他の受講生の発表も真摯に聞き、自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお、森千鶴先生担当の「英語科教育法I」(1学期)は主に2年生を対象としており、授業内容が異なる。そのため、3年生以上は原則として「英語科教育法III」を受講することを強く勧める。

また、「Second Language Acquisition」(1学期)や「Language Teaching」(2学期)では、言語習得や教授法、ワークシートや定期テストの作成に関する内容を扱う。これらの内容は英語教育に携わるうえで必須の知識となるため、それらの科目も併せて受講することを推奨する。(他学科生の聴講も歓迎)

< 授業の到達目標 >

- ・ 小中高の英語科における様々な指導法、教材分析法、今日の課題について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。
- ・ 小中高の英語科における様々な指導法、教科の背景となる学問領域と関係付けた教材分析法、授業を設計する際の留意点等について説明することができる。
- ・ 開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。
- ・ 様々な視点から英語科教育について考察を加えることができ、グループ活動、自由討議等に参加することができる。

◎この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- (1) 『Here We Go! ENGLISH COURSE 1』(中学検定教科書)(光村図書)328円 ※大学の近隣書店で購入
- (2) 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』(文部科学省HPよりダウンロード)
- (3) 『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著,2018年)(大修館)2640円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『英語教育』(大修館、月刊雑誌)

その他の文献は授業で紹介する。また、各出版社の検定教科書は教職資料室(本館12階)で閲覧することができる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション
2. 日本における英語教育政策、英語教育の目的、英語教育課程
3. 多様な学習者・学びのユニバーサルデザイン
4. 言語習得と教授法、デジタル教科書や電子黒板を活用した指導
5. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
6. 中学学習指導要領の解説及び指導案作成法(略案・細案の書き方)
7. 模擬授業(中学校、導入の実践 Unit1, 3, 5)
8. 模擬授業(中学校、会話文指導の実践①教科書Unit1,2,3)
9. 模擬授業(中学校、会話文指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
10. 模擬授業(中学校、リーディング指導の実践①教科書Unit1,2,3)
11. 模擬授業(中学校、リーディング指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
12. 模擬授業(中学校、文法指導の実践①教科書Unit1, 2, 3)
13. 模擬授業(中学校、文法指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
14. 模擬授業(中学校、タスク指導の実践)
15. まとめ(英語科教員としての責任と課題、質疑応答)

英語科教育法C 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 授業参加の積極性15%
- (2) 予習・復習課題の提出 (Moodle) 10%
- (3) 指導案作成 20%
- (2) 模擬授業 25%
- (3) 模擬授業の振り返り報告書 (Moodle) 10%
- (4) 学び報告書 (Moodle) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業担当者は指導案の添削を受け、模擬授業の準備をする。
<事後学習> 授業内容の復習を行う。また、模擬授業担当者は、授業の様子を録画した映像を視聴し「振り返り報告書」をMoodleで提出する。模擬授業を担当していない者は、模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめ、Moodleで提出する。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 教員免許状を取得し、将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き、無断欠席は履修放棄とみなす。また、4回以上欠席した者は、成績評価の対象外とする。
- (2) 模擬授業を行う際は、服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う (発表者はスーツ着用) 。
- (3) 模擬授業のスケジュール等、詳細については初回授業で説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 検定教科書は生協で購入することができないため、大学近隣の書店で購入する。購入方法については、初回授業で説明する。
- 留学等の理由で所属学部開講の「英語科教育法III」が履修できない場合には、授業担当者 (雪丸) にメールをください。

キーワード /Keywords

英語科教育法D【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として、実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には、それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように、(1)英語教育の施策に関する知識の習得、(2)各言語技能の指導技術やICT活用を含む授業運営の基礎知識、(3)今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また、実際に模擬授業(高等学校英語)を行い相互に評価・批判しあうことで、授業実践の力をつけさせる。一人につき最低1回の模擬授業を課す。他の受講生の発表も真摯に聞き、自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお、森千鶴先生担当の「英語科教育法II」(2学期)は2年生を対象としており、授業内容が異なる。そのため、3年生以上は原則として「英語科教育法IV」を受講することを強く勧める。

また、「Second Language Acquisition」(1学期)や「Language Teaching」(2学期)では、言語習得や教授法、教材やテストの作成に関する内容を扱う。これらの内容は英語教育に携わるうえで必須の知識となるため、それらの科目も併せて受講することを推奨する。(他学科生の聴講も歓迎)

< 授業の到達目標 >

- ・小中高の英語科の教科目標、様々な指導法、授業を設計する際の留意点等について説明することができる。
- ・小中高の英語科の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての的確に意見を述べることができる。
- ・自ら問題意識を持って自主的に英語科の授業を設計し、実践することができる。
- ・開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。
- ・様々な視点から英語科教育について考察を加えることができ、グループ活動、自由討議等に参加することができる。

◎この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される。

教科書 /Textbooks

- (1) 『令和4年度版 CROWN English Communication I』(高校検定教科書)(三省堂) ※購入方法は初回授業で説明する
- (2) 『高等学校学習指導要領解説(外国語編・英語編)』(文部科学省HPよりダウンロード)
- (3) 『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(大修館)2600円 ※1学期に購入した場合は不要

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『英語教育』(大修館、月刊雑誌)

その他の文献は授業で紹介する。また、各出版社の検定教科書は教職資料室(本館12階)で閲覧することができる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション
2. 英語教育におけるユニバーサルデザイン、ICTの活用
3. 測定と診断
4. 高等学校学習指導要領の解説及び指導案作成法(細案の書き方)
5. 模擬授業(高校、導入指導の実践① Lesson 1,2)
6. 模擬授業(高校、導入指導の実践② Lesson 3,4)
7. 模擬授業(高校、導入指導の実践③ Lesson 5,6)
8. 模擬授業(高校、リーディング指導の実践①教科書 Lesson 1,2)
9. 模擬授業(高校、リーディング指導の実践②教科書 Lesson 3,4)
10. 模擬授業(高校、リーディング指導の実践③教科書 Lesson 5,6)
11. 模擬授業(高校、文法指導の実践②教科書 Lesson 1,2)
12. 模擬授業(高校、文法指導の実践②教科書 Lesson 3,4)
13. 模擬授業(高校、文法指導の実践②教科書 Lesson 5,6)
14. 模擬授業(高校、タスク指導の実践)
15. まとめ(英語科教員としての成長、質疑応答)

英語科教育法D 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 授業参加の積極性15%
- (2) 予習・復習課題の提出 (Moodle) 10%
- (3) 指導案作成 20%
- (2) 模擬授業 25%
- (3) 模擬授業の振り返り報告書 (Moodle) 10%
- (4) 学び報告書 (Moodle) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業の担当者は指導案の添削を受け、模擬授業の準備をする。
<事後学習> 模擬授業の担当者は、授業の様子を録画した動画を視聴し「振り返り報告書」を作成し、Moodleで提出する。模擬授業を担当していない者は、模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめ、Moodleで提出する。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 教員免許状を取得し、将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き、無断欠席は履修放棄とみなす。4回以上欠席した者は、成績評価の対象外とする。
- (2) 模擬授業を行う際は、服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う (発表者はスーツ着用) 。
- (3) 模擬授業等の詳細については、初回授業で説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 検定教科書は生協で購入することができないため、初回授業で購入方法を案内する。
- 留学等の理由で所属学部開講の「英語科教育法IV」を受講できない場合は、授業担当者 (雪丸) にメールをください。

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こちらは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・パトラー』, 育土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：(プラトン、アリストテレス)
- 第3回 【古代】共同体って何？①：(プラトン、アリストテレス)
- 第4回 【中世】人間って何？②：(アウグスティヌス)
- 第5回 【中世】共同体って何？②：(アウグスティヌス)
- 第6回 【近代】共同体って何？③：(ホッブス、ロック、ルソー)
- 第7回 【近代】人間って何？③：(カント)
- 第8回 【近代】資本主義って何？(マルクス)
- 第9回 【現代】公共性って何？(ハーバーマス)
- 第10回 【現代】正義って何？(ロールズ)
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

* () の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能(-)となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています!

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

日本の防衛【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

生命と環境【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス(日高・中尾)	
2回	自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾)	【物質の単位】【自然科学】
3回	自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾)	【元素】【原子】【超新星爆発】
4回	自然科学の基礎(3)生命と分子(日高)	【DNA】【タンパク質】
5回	生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高)	【種】【学名】【系統樹】
6回	生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高)	【ウイルス】
7回	生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高)	【細胞膜】【共生説】
8回	生物の多様性(4)生態系と進化(日高)	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
9回	生物の多様性(5)多様な生命(日高)	【生物多様性】
10回	遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高)	【突然変異】【遺伝学】
11回	遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高)	【有性生殖】【減数分裂】
12回	科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾)	【血液型】【星座】
13回	科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾)	【太陽活動】【地球温暖化問題】
14回	科学的な方法とは(3)人類の起源(日高)	【ミトコンドリア】
15回	質疑応答とまとめ(日高)	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高(生物担当)および中尾(物理担当)による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	INF100F

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナースhip

戦争論 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

戦争論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			自然史へのいざない	BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- 【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

本講義はほぼ遠隔授業（ライブもしくはオンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。なお、ライブ授業の回であっても、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

自然史へのいざない【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。

[ラ] ライブ授業、[オ] オンデマンド配信授業、[対] 対面授業、()内は担当者、【 】はキーワード

- 1回 [ラ] ガイダンス (日高)
- 2回 [ラ] 生命の起源を探る (柳川) 【極限環境】 【微生物】
- 3回 [オ] 植物を鍵とした生物間相互作用 (真鍋) 【共生】 【食物連鎖】
- 4回 [オ] 北九州市周辺の地質と化石の多様性について (太田) 【化石】 【ジオパーク】
- 5回 [オ] 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化 (大橋) 【恐竜】 【脊椎動物】
- 6回 [オ] 鳥類の生態と進化 (中原) 【適応放散】 【進化的軍拡競走】
- 7回 [オ] 海産無脊椎動物の行動生態学 (竹下) 【無脊椎動物】
- 8回 [オ] 多様性生物学と進化 (養島) 【進化】 【生物多様性】
- 9回 [オ] アンモナイトの古生物学 (御前) 【古生態学】 【異常巻アンモナイト】
- 10回 [オ] 水辺の隣人、両生類の多様性と保全 (江頭) 【絶滅危惧】 【ホットスポット】
- 11回 [対] 博物館見学 (日高)
- 12回 [ラ] 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【人新世】 【科学史】
- 13回 [ラ] 北九州の近代史 (藤田) 【軍都】 【SDGs未来都市】
- 14回 [ラ] 課題研究・ぼけっとミュージアム (日高)
- 15回 [ラ] まとめ (日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 60%
- ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
- ・ 博物館見学レポート 10%
- ・ まとめレポート 10%

上記の提出が全くない場合は、評価不能 (一) です。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第11回は12月3日 (土) 午後3限または4限に博物館にて見学の予定。
 - ・ 博物館までの交通費は自己負担。保険加入 (学研災など) の状況を確認しておくこと。
 - ・ 第14回はグループワークを行うのでできるだけライブで参加すること。
- 第1回に詳細について説明するので必ず参加 (視聴) すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。	
	コミュニケーション力			
			現代人のこころ	PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。

「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」までがわかるわけではありません。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察する対象は、行動だけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面からどうすれば「こころ」のしくみが明らかになるか実験や研究を続けています。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のテーブルに置かれたリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるものではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支援していこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

遠隔授業が必要になった場合は、インターネットで北九大Moodleに接続し、そこにある授業資料をよみ、授業動画を視聴した後、授業に対する所定のコメントを翌日まで提出することが求められます。授業動画については、資料内に記載されたウェブサイト (URL) をクリックすることで視聴できます。

教科書 /Textbooks

教科書はとくに指定しませんが、レポートを書くには下記の参考書を読むことで理解が深まります。

現代人のこころ【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 行場次朗・箱田裕司(2014)新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 福田恭介(2018)ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きっとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 神奈川LD協会編(2006)ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 丸野俊一・子安増生(1998)子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博(2018)なるほど!心理学観察法 北大路書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編(2006)ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。 ミネルヴァ書房
- やまだようこ(1987)ことばの前のことば 新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 序論：心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：先天性盲人の開眼手術後の知覚世界
- 6: 目1：目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: 目2：まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 記憶1：数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 記憶2：昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント(15回)：30点
 レポート(1回)：30点
 期末試験：40点

6回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：Moodleにあげた資料を読み、資料内のURLをクリックして動画を視聴してください。
 事後：授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート：指定した参考書の中からもっとも関心のある領域を読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。図書館には1冊しか配架していないので生協で購入してください。レポートを書くのは前期で1回限りです。書式やメ切については最初の授業で紹介いたします。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書けてもらいます(事後学習)。
2. 次の授業時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介いたしますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚, 目の動き(眼球運動, 瞳孔運動, 瞬目), 選択的注意, 注意の見落とし, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリ, 心の発達, 発達障害

人間と生命【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているのか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

人間と生命【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ	【RNA】【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】【遺伝病】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
8回	細胞の社会(1)そのとき染色体は	【細胞周期】【染色体異常】
9回	細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	関連ビデオ鑑賞	
12回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【早老症】【テロメア】
13回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
14回	体を守るしくみ(3)私たちと微生物	【腸内細菌】
15回	質疑応答・まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
 遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
 3. すべての人に健康と福祉を

現代正義論【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

市民活動論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

※最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

グローバル化する経済【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン - グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学(2)【文化と感情】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。
学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

【到達目標】

- 【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょう。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* () の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルス I	PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めどう行動するかを皆で考える授業である。

(到達目標) [自律的行動力] 自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

メンタル・ヘルスI【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりがえり

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験もしくは期末課題レポート(60%)
(注意:「評価不能」について。認められた事由のない欠席回数が総授業回数の過半数を超える場合と期末定期試験を認められた事由なしに受験しなかった場合は「評価不能」とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】【複合グラフ】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

データ処理【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題への取り組み ... 50%
積極的な授業への参加（タイピング、振り返りレポートなどを含む） ... 50%
課題やタイピング、振り返りレポートなどの提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをまとめて、課題や振り返りレポートなどを提出条件に従って締め切りまでに間に合うように提出すること。タイピングや表計算ソフトExcelなどのコンピュータ操作については、自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。それらの場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

国際経済論I【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、地域貿易協定締結の経済的影響について理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易の利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 貿易政策の分析（1）【輸入関税】
- 10回 貿易政策の分析（2）【輸入数量制限】
- 11回 貿易政策の分析（3）【輸出補助金】【輸出自主規制】
- 12回 貿易政策の分析（4）【有効保護】
- 13回 地域貿易協定（1）【自由貿易協定】【関税同盟】
- 14回 地域貿易協定（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30 % 期末試験 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論特講」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

国際経済論II 【夜】

専門教育科目
選択科目
中国ビジネス科目群

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、貿易政策（主に大国のケース）の経済効果を学ぶ。
- 2、国際労働移動、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）
大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 貿易政策の分析基礎(1) 【消費者余剰】 【生産者余剰】
- 3回 貿易政策の分析基礎(2) 【貿易の利益】
- 4回 貿易政策の経済分析(1) 【輸入関税政策】
- 5回 貿易政策の経済分析(2) 【最適関税】 【近隣窮乏化】
- 6回 貿易政策の経済分析(3) 【輸入数量制限】
- 7回 貿易政策の経済分析(4) 【輸出補助金】
- 8回 生産要素の国際移動(1) 【限界生産物】 【労働所得】 【資本所得】
- 9回 生産要素の国際移動(2) 【海外直接投資】
- 10回 生産要素の国際移動(3) 【国際労働移動】
- 11回 貿易と環境(1) 【貿易政策から環境への影響】
- 12回 貿易と環境(2) 【排出権取引】
- 13回 貿易と環境(3) 【環境政策から貿易への影響】
- 14回 貿易と環境(4) 【外部不経済】 【ピグー税】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30 % 期末試験 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論Iをすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論Iの履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

貿易政策、最適関税、国際労働移動、海外直接投資、貿易と環境

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論【夜】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提にして進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 2回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 3回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 4回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 5回 教育思想②：日本の教育思想
- 6回 教育史①：西洋の教育史
- 7回 教育史②：日本の教育史
- 8回 学ぶ意欲と教育指導
- 9回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 10回 学校の制度：学校体系
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小課題等) 40%

最終課題(試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育原理【夜】

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小課題等) 40%

最終課題 (試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題 (試験) 受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題 (試験) を受験しなかった場合は原則評価不能 (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【夜】

担当者名 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語科教員になるための基礎的な知識と技能を身につける。特に、中学校の英語教育に中心をおき、学習指導案の書き方および基本的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を有している。
- ・ 新学習指導要領の特徴や課題を理解している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題についての意見を述べることができる。
- ・ 英語科教育実践の諸問題を意欲的に考察し、改善を図ろうとする態度を養う。

教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 英語教育の目的
3. 英語の指導法(1) コミュニカティブ・アプローチ以前
4. 英語の指導法(2) コミュニカティブ・アプローチとその後
5. より良い指導のために(1) 音声指導
6. より良い指導のために(2) コミュニケーションにつながる文法指導の基本
7. より良い指導のために(3) コミュニケーションにつながる文法指導(コミュニケーション活動)
8. 評価の方法と学習指導案の書き方
9. 学習指導案の書き方(1)
10. 学習指導案の書き方(2)
 11. 模擬授業の準備
 12. 模擬授業(中学校1年生)
 13. 模擬授業(中学校2年生)
 14. 模擬授業(中学校3年生)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、提出物20%、模擬授業20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定ページを読んでくる。

事後学習 課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【夜】

担当者名 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語教員になるための、基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。特に高等学校の英語教育を中心に、学習指導案の書き方と基礎的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を踏まえて、授業を行う際に留意すべき事柄に関する知識を有している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題について、多角的な観点から意見を述べることができる。
- ・ 学習材を基に学習指導案を作成し、意欲的に授業を設計することができる。
- ・ 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指に生かすことができる。

教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 2012年、630円

NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社

南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円

Onstage English Course I・II 池田書店

EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂

田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II 東京書籍、2012年、630円

山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円

Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂

田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II 啓林館 2013年、650円

Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社

市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II" 文英堂

Genius English Course Revised I・II 大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II 三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および評価について
2. 第二言語習得と英語教育
3. 4技能統合の理念とタスクの意義 (PCPPモデル)
4. リーディングの理論と実践
5. ライティングの理論と実践
6. 4技能統合の実践方法
7. 「英語コミュニケーションI,II」指導案の考え方
8. 「英語コミュニケーションI,II」指導案の書き方
9. 「英語コミュニケーションI,III」指導案の書き方
10. モデル授業準備
11. モデル授業準備
12. モデル授業 (1)
13. モデル授業 (2)
14. モデル授業 (3)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験60%、提出物20%、模擬授業20% 「

英語科教育法B 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定箇所を読んでくる。
事後学習 学習課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、それをもとに、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)といった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

到達目標

【知識】教育方法に関する基本的知識を身につけている

【技能】授業実践を行うための生徒観・教材観・指導観を向上させるための技能および問題解決能力を身につけている

【思考・判断】現代教育のなかで生じるさまざまな課題に対し、批判的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法(有斐閣) 2019 田中 耕治(著), 鶴田 清司(著), 橋本 美保(著), 藤村 宣之(著)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
- 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
- 第4回：現代教育方法学の論点と課題
- 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
- 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
- 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
- 第10回：教科外活動を構想する
- 第11回：授業の研究1・学習指導案
- 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
- 第13回：授業の研究3・授業研究
- 第14回：教師の専門性・専門職性
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力についてテキストを中心に論じる。11~14回は実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
発表・レジュメ作成・・・20%
最終試験・課題レポート・・・50%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料(レジュメ)を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

教育方法学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていきましょう

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標は、「生徒指導に必要な基本的な知見を身につけている」である。
本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第1部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)
(6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

教育相談【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

到達目標

- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な知識を身につけている。
- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な技能を身につけている。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学級づくりと学級経営案(合同授業)
- 6回 特別活動の模擬授業について(4年生の実演)
- 7回 教科教育の模擬授業について(4年生の実演)
- 8回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の講演)
- 9回 教科の模擬授業(合同授業)
- 10回 特別活動の模擬授業 その1
- 11回 特別活動の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 教科に関するフィールドワーク(合同授業)
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。
新型コロナウイルス感染症の拡大にによる授業方法の変更などがある場合はアナウンスするのでよく掲示を見ておくこと。

教育実習 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III-4」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III類-4」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

本科目の到達目標は以下の通りである。

- ① 教師に求められる使命感、責任感、コンプライアンスの能力を身につけている。
- ② 教職員や保護者と連携、協同していくために必要な対人関係能力を身につけている。
- ③生徒指導と学級経営に必要な知識と指導力に身につけている。
- ④専門教科及び道徳に関する授業をしていくための基礎的な知識と指導力に身につけている。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
- 2回 教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
- 4回 教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
- 5回 地域・保護者との連携に関するグループワーク
- 6回 教科の模擬授業 その1 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(中学校)
- 7回 教科の模擬授業 その2 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(高等学校)
- 8回 教科の模擬授業 その3 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 9回 学級経営案の報告と検討(教育実習1との合併授業)
- 10回 生徒指導に関するケーススタディ(グループ討論)
- 11回 保護者理解に関するグループワーク その1
- 12回 保護者理解に関するグループワーク その2
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に) 教育実習1との合併授業
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 学校現場でのフィールドワークの報告 その3(特別ニーズ教育を中心に)
全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学級経営案 20% フィールドワークレポート 20%
毎回のノートと期末レポート 60% で評価する。
なお、授業を欠席し、補講を受けていない回があれば、10%の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

教職実践演習 (中・高) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
。 毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意義受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。

事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達における障害とその支援に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 知覚障害の理解と支援
- 第8回 まとめ・レポート課題1
- 第9回 姿勢・運動の障害について
- 第10回 知的障害について
- 第11回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第12回 発達障害について①【自閉スペクトラム症】
- 第13回 発達障害について②【注意欠如多動症・限局性学習症】
- 第14回 家族支援・地域支援について
- 第15回 まとめ・レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポート含む) ... 20% レポート課題 ... 80%
6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

生涯学習に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

生涯学習学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords